

平成 30 (2018) 年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

F D 活動報告書



大妻女子大学人間関係学部 F D 委員会

平成 30(2018)年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

F D 活動報告書



大妻女子大学人間関係学部F D委員会

平成 30 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって

平成 30 年度は、伊藤正直理事長・学長による方針の下、私立大学等改革総合支援事業タイプ 1「教育の質的転換」の採択を目指し、教育の質に関わる取り組みを見直し、それらを改善する様々な取り組みが行われた。本学部においては、既に学部 FD が活発に行われ日常的に様々な改善が進められており、全体としては通常行っていることを、私立大学等改革総合支援事業の基準に沿って確認する作業が中心となった。普段の仕事を振り返り、それらを外的基準に照らして評価、再点検する良い機会になったと思う。そうした中、今年度からの新たな取り組みとして、平成 31 年 1 月 11 日の昼休み、学部 FD 委員会に学友会代表を招いて学生の視点から授業の改善すべき点、その他学生生活に関する意見などの聞き取りを行った。参加した学生は、当初は緊張していたものの趣旨を理解して積極的に発言し、「授業評価はどのように生かされているのか」など、教職員が真摯に取り組むべき課題を多く指摘してくれた。学生や保護者とのコミュニケーションを積極的に行いつつ、そこで示唆された課題をどのように実行に移すか等、引き続き学部 FD として検討していくことが必要である。

また、12 月 7 日に開催された学部 FD 研修会においては、「シラバスの書き方」という私立大学等改革総合支援事業に関連した実務的研修に加え、障害学生支援委員会との連携で障害学生支援に関する意見交換が行われた。大学全体としては、2019 年度から障害学生支援室が立ち上がり、障害学生支援の体制整備が進められていくところである。一方、本学部では視覚障害のある学生が入学したことを契機に、2013 年度に障害学生支援委員会が立ち上がり、2018 年度より学生からの申し出に基づいて、本人、学生相談室、教育・学事支援グループ、教員等の協議により、授業等における合理的配慮に関わる合意書を作成する仕組みが動いている。しかし、高等教育機関としての教育及び評価の本質を維持しながら障害学生に対する合理的配慮の範囲を定めることは容易ではなく、更に事例の積み重ね、ノウハウを蓄積することが必要である。本学部は共生社会の実現を教育、研究の目的に掲げ、障害学生支援にも一早く取り組んでいることから、障害学生支援についても引き続き先駆的役割を担っていければと思う。

人間関係学部長 小川 浩

平成 30 年度 FD 活動報告書 目次および執筆担当

平成 30 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって（学部長）

I	平成 30 年度人間関係学部の FD 活動について（学部 FD 委員長）	1
II-1	授業に関するアンケート（社会・臨床心理学専攻 FD 委員）	3
II-2	授業アンケートへの対応（社会学専攻 FD 委員）	51
1	前期授業アンケートへの教員の主な回答	51
2	後期授業アンケートへの教員の主な回答	54
III	学科・専攻における平成 30 年度 FD 活動への取り組み	61
1	人間関係学科	61
	（1）社会学専攻における FD 活動に関する取り組み（社会学専攻 FD 委員）	61
	（2）社会・臨床心理学専攻における FD 活動に関する取り組み （社会・臨床心理学専攻 FD 委員）	66
2	人間福祉学科	81
	（1）人間福祉学科における FD 活動に関する取り組み（人間福祉学科 FD 委員）	92
IV	保護者懇談会（人間福祉学科 FD 委員）	113
V	オフィスアワー（人間福祉学科長）	119
VI	クラス指導について（人間関係学科長）	125
VII-1	人間関係学部 FD 研修会について（学部 FD 委員長）	131
VII-2	人間関係学部授業改善 FD について（学部 FD 委員長）	135
VIII	非常勤講師との教育懇談会（人間福祉学科 FD 委員）	137
IX	人間関係学部における FD 活動の課題（学部 FD 委員長）	141
資 料		143

I 平成30年度人間関係学部のFD活動について

1. 人間関係学部におけるFD活動の取り組み

平成30年度においても、昨年度と同じく教育内容の向上のために下記のような取り組みを行った。

1) 学部FD研修会の実施

障害学生支援委員会との連携により、「多摩の教育をよりよくするためには」という研修を実施した（平成30年12月7日（金））。研修会の内容と参加者の意見については、本報告書の中で詳しく紹介されている。

2) 学生による授業評価

平成30年度においても、前期・後期の年2回、学生による授業アンケートを実施した。今年度より、授業外学習についてたずねる項目の文言を修正した。アンケートの結果に対しては、全教員が改善に向けたコメントを付してその内容を公表している。なお、今年度より、学生の出席状況を問う項目とのクロス集計を5つの項目で実施し、より詳細な分析結果を教員にフィードバックした。

3) 授業改善を図る制度的取組としての学生代表者との意見交換

教育の質の更なる向上に向けて、今年度初めての試みとして、授業改善について学生代表者との意見交換を行った（平成31年1月11日（金））。

4) 保護者懇談会の実施と参加者のアンケート

平成30年度においても、前期（6月2日（土）：千代田キャンパス）・後期（10月20日（土）：多摩キャンパス）の年2回、父母懇談会を実施した。懇談会の実施後には保護者から出された質問、意見、そしてそれに対する大学の改善策を集約して、教員全員が共有できるように工夫しており、またそれらの内容を本報告書の中でも公開している。

5) オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のホームページ等でこれを公開している。本報告書の中でも、今年度のオフィスアワーを振り返った各教員の所感と今後の取り組みの内容が掲載されている。

6) 各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためにはFD委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を

参考にしながら、FD 活動の一層の充実を図っている。

7) 各学科・専攻における FD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。また、本報告書の中でも各学科における FD 活動の内容を具体的に紹介しているが、そこで述べられた内容を各教員が参考にしながら、今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

8) クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたり、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。本報告書の中でも各教員が 1 年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

Ⅱ－１ 授業に関するアンケート（前期・後期）

１．はじめに

学部授業の質の向上を目的に、本学部では平成 16 年度から、専任教員および非常勤講師が担当する授業について「学生による授業評価」（以下、授業アンケート）を実施している。特に、専任教員は全担当科目（卒業論文指導とゼミナールは原則として除く）の授業アンケートを 2 ヶ年にわたって実施するため、毎年度、担当科目の 2 分の 1 以上の授業アンケートを実施している。ただし、やむを得ない事由により実施対象から除外すべきと思われる科目の場合は FD 委員会において審議を行った上で、判断している（人間関係学部「授業に関するアンケート」の実施要綱）。なお、現状は毎年度担当科目のほぼ全科目を対象に授業アンケートを行い、授業改善に努めている。

調査後、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善等（①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください）について回答を求め、それらは本報告書並びにホームページにて公開している。ただし、各専任教員・非常勤講師は、書面により、アンケートの実施および評価結果ならびに意見・改善策等の掲載等を拒否することができる。

２．調査目的

授業に関するアンケートは、教員の学生に対する教育サービスの質と量の向上を図るとともに、よりよい教授法のあり方を考える基礎資料を得るための組織的活動である。

３．調査概要

（１）実施時期および手続き

前期は、平成 30 年 7 月 2 日（月）～7 月 21 日（土）の 3 週間に実施し、後期は、平成 30 年 11 月 26 日（月）～12 月 15 日（土）の 3 週間に実施した。また、授業アンケートの実施にあたり、例年同様、書面およびホームページ等を用いて、学生と各教員への周知と調査への協力を依頼した。さらに、平成 24 年度からは大学行事予定表に授業アンケート実施時期を掲載し、4 月の段階から広く周知するようになっている。

また、学生が率直に記入し、提出しやすいように無記名式で回答を行い、回収と提出は授業参加学生の有志に依頼する形式をとっている。そして、「授業内容や授業方法の改善を図るために実施するものであり、調査結果は統計的に処理され、個人が特定されるものではないこと、さらに成績に影響することは全くないこと」を書面と口頭により、繰り返し説明してから実施している。

（２）調査対象と回答率

前期の調査は、総科目数 225 のうち 212 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 8,758 名であった。有効回答者は 6,778 名であり、回答率は 77.4%であった。

後期の調査は、総科目数 206 のうち 198 科目で実施した。調査対象者は、調査対象科目の履修者 8,230 名であった。有効回答者は 6,016 名であり、回答率は 73.1%であった。

前期・後期合わせて、総科目数 431 のうち 410 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 17,439 名であった。有効回答者は 12,794 名であり、回収率は 75.3%(昨年度 75.2%)であった。

(3) 調査項目

授業アンケートの表面には、以下の 5 カテゴリー、21 項目があり、「5. そう思う」、「4. ややそう思う」、「3. どちらともいえない」、「2. あまりそう思わない」、「1. そう思わない」の 5 段階評価によって回答を求める形式であった。なお、No.14 (この授業にどの程度出席しましたか) の回答ラベルは「5. 100%」、「4. 90%以上」、「3. 80%以上」、「2. 70%以上」、「1. 70%未満」とした。本年度より、当該項目と No.1 (教員の話し方は明瞭で聞きやすかった)、No.8 (授業は、学習の目標がはっきり示された)、No.9 (授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた)、No.10 (授業の内容は興味深いものだった)、No.11 (授業の内容はよく理解できるものであった) の 5 項目について、クロス集計を新たにを行い、各教員へフィードバックすることとした。また、No.15 について、昨年度までの「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」という文章を「この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか」と変更した。なお、回答ラベルは「5. 3 時間以上」、「4. 2 時間以上」、「3. 1 時間以上」、「2. 1 時間未満」、「1. していない」とした。その他、裏面に自由記入欄を設けた。本調査のアンケート用紙を次ページ以降に示した。

調査カテゴリーと項目

- ① 教員の授業の進め方について (7 項目)
- ② 授業の内容について (6 項目)
- ③ 学生自身の授業への取り組みとその成果について (5 項目)
- ④ 総合的な印象 (1 項目)
- ⑤ 自由設定＝学部独自：担当教員がその場で設定する質問 (2 項目)

自由記入欄

- ① 良かったと思う点
- ② 改善した方が良いと思う点
- ③ その他の意見や要望など

(4) 授業アンケート結果の活用ならびに情報公開と情報保護

- ① 各教員の担当科目ごとの調査結果 (授業科目別集計) は、年度内に各教員に個別に通知する。今年度より、上述の通り、出席とのクロス集計の結果 (5 項目) を追加で作成し、フィードバックする。
- ② 教員は、授業アンケートの結果に対して、意見や改善策等を FD 委員会に提出する。
- ③ ②の意見や改善策等は、FD 報告書ならびに学部ホームページ上に掲載し、一般公開する。

ただし、各教員は、書面により掲載等を拒否することができる。

- ④ 調査データの処理は外部業者に委託し、集計結果の分析およびデータ保管は、FD 委員会の責任において行った。また、自由記入欄の内容は、FD 委員会の責任により、学生の筆跡の特定ができないようにタイピングし直した文章を各授業担当教員に配布した。なお、教員への配布物は、各教員が自己責任において管理・廃棄等を行うこととした。

大妻女子大学 「授業に関するアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。また、裏面の「自由記入欄」には授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

1. 科目名・教員名

科目名

教員名

1. HBの黒鉛筆のみ可。
注 2. 折り曲げ厳禁。
意 ※右側のようなマークは、読みとることができません。(悪い例)

良いマーク⇒
○ (正しい) ○ (正しい) ○ (正しい) ○ (正しい)
○ (正しい) ○ (正しい) ○ (正しい) ○ (正しい)

2. 所属学科 (学科専攻・学年・組にマークしてください)

学	部	学科	専攻	学年	組
学	部	被服学科	⑦	英文学科	⑦
		食物学科	⑧	コミュニケーション文化学科	⑧
		管理栄養士専攻	⑨	社会情報学科	⑨
		児童学科	⑩	環境情報学専攻	⑩
部	部	児童教育専攻	⑪	比較文化学科	⑪
		ライフデザイン学科	⑫	アジア文化コース	⑫
		日本文学科	⑬	アメリカ文化コース	⑬
				ヨーロッパ文化コース	⑭

家政科	家政専攻	⑮	国文科	⑯
生活総合ビジネス専攻	⑰	英文科	⑱	
食物栄養専攻	⑲			

3. 次の質問に対してあなたがどう思うか該当する数字の○にマークしてください

① この授業の進め方について

1 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった

2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った

3 私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした

※(授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5「そう思う」をマーク)

4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた

5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した

6 教員の学生に対する接し方は公平だった

7 授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた

② この授業の内容について

8 授業は学習の目標がはっきり示された

9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた

10 授業の内容は興味深いものだった

11 授業の内容はよく理解できるものであった

12 授業は自分の将来にとって意味があると思う

13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった

③ この授業への取り組みとその成果について

14 この授業にどの程度出席しましたか

15 この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか

16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した

17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った

18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった

④ 総合的な印象

19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う

⑤ 自由設定欄 (学部独自: ex. 担当教員がその場で設定する質問)

20

21

そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

自由記入欄は裏面にあります

K13775T 110kg

【自由記入欄】

【自由記入欄】には授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

①良かったと思う点

②改善した方が良くと思う点

③その他の意見や要望など

ご協力ありがとうございました

4. 調査結果の分析

以下に、人間関係学部全体のアンケート集計結果の概要について報告する。具体的には、はじめに「授業の総合的な印象」に関する評価平均点（5 点満点）について、今年度の結果と過年度を比較しながら分析する。ついで、「教員の授業の進め方」、「授業の内容」、「学生自身の授業への取り組み」の各項目について、今年度の結果と過年度の結果を比較しながら分析する。

① 「授業の総合的な印象」の評価

今年度前期授業アンケートにおける学生による「授業の総合的な印象」の評価平均値（5 点満点）は 4.27（前年度 4.18）であり、後期は 4.29（前年度 4.20）であった。前期後期共に前年度よりも高く、「総合的に見て、授業を受けて良かった」と肯定的に評価していることが示されている。

過年度と比較すると、前期は 2013 年度、2014 年度の評価平均値が 4.27、2015 年度は 4.20、2016 年度は 4.22、2017 年度は 4.18 であり、おおむねこれまでと大きく変化は見られない。後期は 2013 年度の評価平均値が 4.31、2014 年度は 4.28、2015 年度は 4.23、2016 年度は 4.23、2017 年度は 4.20 であり、こちらもそこまで大きな変化は見られない。十分に高い水準で安定して推移していることから、これまでの継続的な FD 活動の成果が示されているといえるだろう。

② 「教員の授業の進め方」の評価

今年度の授業アンケートにおける学生による「教員の授業の進め方」の 7 項目の評価平均値（5 点満点）は、前期が 4.34（前年度 4.27）であり、後期は 4.39（前年度 4.29）であった。前後期共に前年度も高い数値となっており、「教員の授業の進め方」について着実に改善されていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2013 年度が 4.26、2014 年度は 4.29、2015 年度は 4.22、2016 年度は 4.27、2017 年度は 4.27 であり、今年度初めて 4.3 以上の数値となった。後期については、2013 年度が 4.33、2014 年度は 4.30、2015 年度は 4.28、2016 年度は 4.30、2017 年度は 4.29 であり、こちらも今年度が最も高い数値となった。

「教員の授業の進め方」を構成する 7 項目の中で、今年度最も評価平均点の高かった項目は、前期が「教員の学生に対する接し方は公平だった（4.49）」であり、後期は「教員の学生に対する接し方は公平だった（4.52）」とどちらも同じであった。これは、前年度とほぼ同じ結果であった。そして、前期・後期ともに 2 番目に評価平均点の高かった項目は「授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた（4.47、4.50）」であった。昨年度は、「私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした」であったが、今年度は教員の授業に対する熱意について高い評価が得られていた。教員の熱意は、学生に伝わりやすく、それが授業に対する動機づけを高め、高い学習効果に繋がるものと考えられる。教育に熱心な先生方の努力が数値としても現れたのであろう。本学教員の教育の質の高さは大変貴重なものであり、これを継続していくことが重要だと考えられる。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、過年度と同様に前期後期共に「質問や意見

を引き出し、学生の積極的な参加を促した」であり、前期が 4.13、後期が 4.21 であった。ただ、低いとはいえ 5 点満点中 4 点以上であること、そして、昨年度は前期が 4.05、後期が 4.09 であったことを踏まえると、着実に改善されており、学生からも評価されていると判断できるのではないだろうか。

③ 「授業の内容」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「授業の内容」の 6 項目の評価平均値（5 点満点）は 4.26（前年度 4.17）であり、後期は 4.29（前年度 4.19）であった。前期後期共に昨年度を上回り、「授業の内容」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2013 年度が 4.15、2014 年度は 4.20、2015 年度は 4.15、2016 年度は 4.19、2017 年度は 4.17 であり、これまでで最も高い数値となっている。後期に関して、2013 年度が 4.22、2014 年度は 4.21、2015 年度、2016 年度は 4.20、2017 年度は 4.19 であり、こちらも前期と同様、これまでで最も高い数値となっている。これまで以上に教育内容のレベルが高まってきていることを示しているものと考えられる。

「授業の内容」を構成する 6 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期共に「授業は、学習の目標がはっきり示された」であり、前期は 4.35、後期は 4.39 であり、過年度においても、毎年、最も評価平均点が高い項目となっている。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった」であり、前期が 4.17、後期が 4.18 であった。なお、この項目は、過去 3 年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていた。シラバス内容の改善が必要であると考えられるが、こちらも昨年度の数値よりも高くなっており、良い方向に授業改善が進んでいると判断できる。

④ 「学生自身の授業への取り組み」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「学生自身の授業への取り組み」の 5 項目の評価平均値（5 点満点）は 3.44（前年度 3.29）であり、後期は 3.49（前年度 3.34）であった。前期後期共に 4 点以下であり、他の調査カテゴリーと比較すると、「学生自身の授業への取り組み」には課題が残っていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2013 年度が 3.33、2014 年度は 3.31、2015 年度は 3.29、2016 年度は 3.33、2017 年度は 3.29 であり、過去 5 年と比べると増加している。後期に関して、2013 年度が 3.35、2014 年度は 3.29、2015 年度は 3.32、2016 年度は 3.35、2017 年度は 3.34 であり、こちらも過去 5 年とくらべると増加している。

「学生自身の授業への取り組み」を構成する 5 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期共に「この授業にどの程度出席しましたか」であり、前期が 4.23（前年度 4.30）、後期が 4.19（前年度 4.27）であり、昨年度よりも数値が低下している。学生の授業出席に少し変化が見られるのかもしれない。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか」であり、前期が 2.08

(前年度 1.67)、後期が 2.13 (前年度 1.76) であった。なお、この項目はこれまでに項目の改善要望が多く出されており、今年度より、昨年度とは項目の表現をより実態に即したものに變更している。その結果、数値としてはまだまだ低いが、過年度と比較すると 0.4 点近く上昇している。学生の授業時間外学習については、例年実施している学部主催の FD 研修会での取り組みでも取り上げられることが多く、教員の問題意識も強い。今後も継続して取り組んでいくことで、更なる向上が見られるのではないだろうか。

5. 授業アンケート調査結果の活用

今年度も、授業アンケート調査結果を今後の授業改善に活用することを目的とし、調査後に、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等(①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善するべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください) について自由記述による回答を求めた。この自由記述データの分析結果については、Ⅱ－2 において報告する。

2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体		履修者数	8,230
		回答者数	6,016

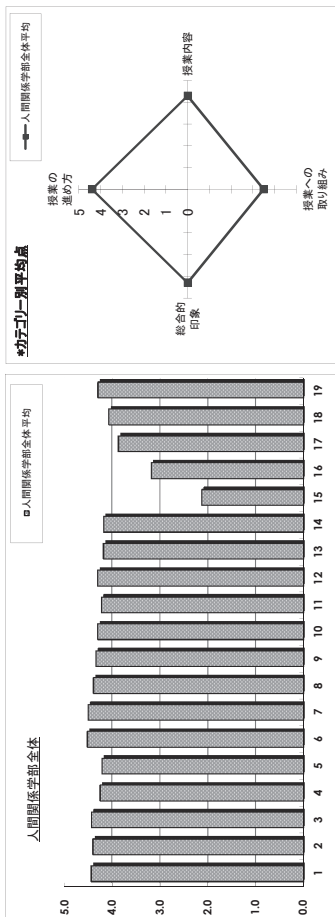
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.40
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.44	59.7	29.0	7.8	2.8	0.8	6,002	14	0.81	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.41	57.8	29.4	9.3	2.5	1.0	5,999	17	0.83	
3	※私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.44	60.5	26.2	10.3	2.4	0.7	5,994	22	0.82	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.26	50.0	31.7	13.3	3.9	1.1	5,993	23	0.91	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.22	49.9	29.0	15.5	4.2	1.4	5,988	28	0.95	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.52	64.3	25.7	8.2	1.3	0.5	5,990	26	0.74	
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	62.4	28.0	7.7	1.3	0.6	5,982	34	0.74	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.29
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.39	56.2	30.6	10.4	2.1	0.8	5,995	21	0.81	
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.34	54.9	29.8	11.3	3.0	1.1	5,988	28	0.87	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.30	53.1	30.3	11.8	3.6	1.3	5,989	27	0.90	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.23	48.9	32.2	13.4	3.9	1.6	5,987	29	0.93	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.30	53.1	29.9	12.6	3.2	1.3	5,979	37	0.90	
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.19	46.8	30.3	19.0	2.9	1.1	5,953	63	0.91	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.49
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	50.4	27.5	13.9	6.7	1.6	5,970	46	1.01	
15	この授業のために毎回平均で学習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.13	8.2	7.6	16.0	25.6	42.5	5,970	46	1.27	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.19	23.9	20.4	25.9	10.1	19.8	5,931	85	1.42	
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.87	35.4	30.9	23.1	6.6	3.9	5,975	41	1.09	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.07	42.6	31.6	18.6	4.7	2.4	5,961	55	1.01	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.30
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.30	53.4	29.1	12.9	3.2	1.4	5,767	249	0.91	

Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体		履修者数	8,758
		回答者数	6,778

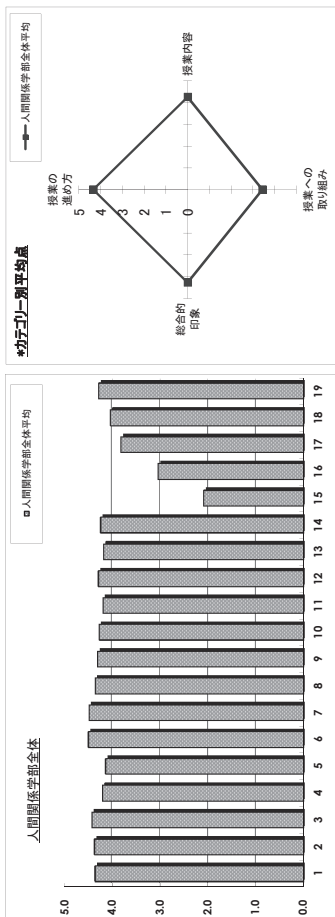
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.34
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.35	56.1	29.1	9.6	3.8	1.4	6,765	13	0.90	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	55.3	30.3	10.8	2.6	1.0	6,758	20	0.85	
3	※私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.42	59.2	26.5	11.7	2.0	0.7	6,756	22	0.82	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.19	48.1	30.4	15.4	4.6	1.5	6,759	19	0.96	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.13	47.0	28.0	18.0	4.7	2.2	6,749	29	1.01	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.49	62.7	26.1	9.1	1.3	0.7	6,743	35	0.78	
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	61.0	28.1	8.8	1.5	0.6	6,740	38	0.77	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.26
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.35	53.8	31.2	11.5	2.6	0.9	6,756	22	0.85	
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.29	52.1	30.9	12.3	3.4	1.3	6,746	32	0.90	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.27	51.3	30.6	13.1	3.5	1.6	6,751	27	0.92	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	47.1	32.2	14.4	4.4	1.8	6,744	34	0.96	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	52.4	29.6	13.4	3.2	1.5	6,743	35	0.92	
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.17	45.7	31.2	18.7	3.1	1.3	6,720	58	0.93	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.44
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	53.8	24.9	13.7	5.9	1.6	6,724	54	1.00	
15	この授業のために毎回平均で学習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.08	7.4	6.7	14.9	29.0	42.1	6,730	48	1.22	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.03	20.4	19.0	26.3	12.0	22.3	6,694	84	1.42	
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.81	33.7	30.0	24.2	7.6	4.5	6,731	47	1.12	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.03	41.0	31.9	19.0	5.2	2.9	6,719	59	1.03	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.27
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	52.4	28.6	14.2	3.2	1.6	6,535	243	0.93	

Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科	社会学専攻
履修者数		—
回答者数		1,681

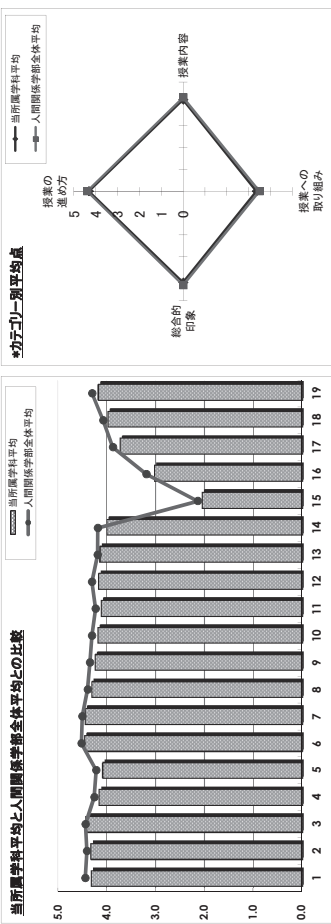
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.32
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.32	53.8	30.9	10.1	4.5	0.8	1,681	0	0.89		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	53.1	30.7	12.7	2.6	0.8	1,679	2	0.85		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.43	59.3	27.4	10.7	2.0	0.5	1,676	5	0.80		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	43.7	34.8	15.6	5.2	0.7	1,677	4	0.92		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	44.3	29.4	18.8	5.5	2.0	1,677	4	1.01		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.46	59.9	27.8	10.6	1.3	0.4	1,675	6	0.76		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	58.2	30.4	9.6	1.4	0.4	1,675	6	0.76		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.19
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.31	50.6	33.3	13.1	2.6	0.5	1,681	0	0.83		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.24	48.7	32.0	14.5	4.0	0.8	1,676	5	0.90		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.18	46.0	33.2	15.1	4.7	1.1	1,675	6	0.93		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12	42.8	33.3	17.8	5.0	1.1	1,674	7	0.94		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.17	45.2	33.5	15.4	4.7	1.3	1,670	11	0.94		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.14	43.7	31.4	21.1	3.2	0.6	1,666	15	0.90		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.36
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.00	41.0	30.9	17.6	8.4	2.1	1,672	9	1.05		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.05	7.4	7.4	14.2	25.5	45.6	1,669	12	1.25		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.03	19.9	19.3	27.4	10.8	22.6	1,654	27	1.41		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.73	29.2	31.4	26.9	8.3	4.2	1,671	10	1.10		
18	この授業によって、新しいものの方ができるようになった	3.98	37.1	33.9	21.0	5.9	2.1	1,668	13	1.00		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.18
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	46.4	32.0	15.7	4.5	1.4	1,608	73	0.95		

Q1-Q18の当区分平均値	4.02
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科	社会学専攻
履修者数		—
回答者数		2,215

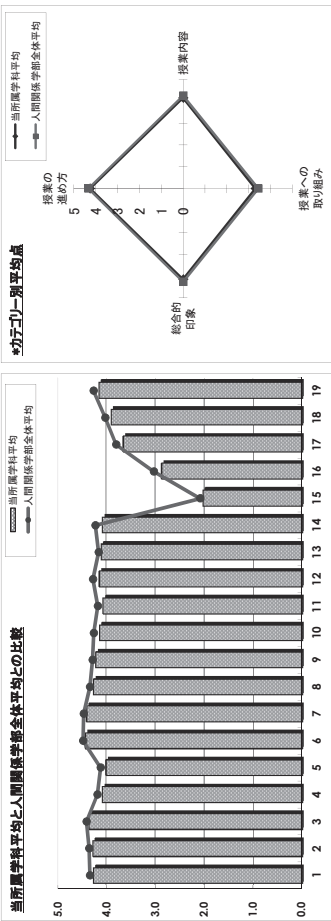
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.26
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.26	51.1	31.8	11.1	4.2	1.9	2,213	2	0.94		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.27	50.3	32.6	12.7	3.0	1.4	2,210	5	0.90		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.35	56.1	26.8	14.1	1.9	1.0	2,211	4	0.87		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.08	42.2	32.2	18.7	4.7	2.0	2,211	4	0.99		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.01	42.1	28.4	21.0	5.2	3.4	2,207	8	1.07		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	59.7	26.9	10.9	1.2	1.3	2,207	8	0.83		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	56.6	30.3	10.9	1.2	1.0	2,205	10	0.80		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.15
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.26	48.6	33.5	13.9	3.1	0.9	2,212	3	0.87		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.21	46.4	34.6	14.3	3.3	1.4	2,208	7	0.90		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.14	44.0	34.2	15.7	4.1	2.0	2,207	8	0.96		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.07	41.0	34.5	17.0	5.0	2.5	2,206	9	1.00		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.15	44.4	33.1	17.3	3.4	1.9	2,205	10	0.95		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.10	41.0	34.1	20.6	2.9	1.5	2,199	16	0.92		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.31
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.08	47.0	26.3	16.8	7.3	2.6	2,204	11	1.08		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.03	6.6	6.1	15.4	27.5	44.3	2,203	12	1.20		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.88	16.5	18.7	27.1	11.1	26.6	2,191	24	1.42		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.65	27.9	30.0	27.5	8.9	5.7	2,203	12	1.14		
18	この授業によって、新しいものの方ができるようになった	3.91	35.7	32.4	22.2	6.0	3.6	2,196	19	1.07		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.15
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.15	45.7	31.6	16.7	3.8	2.2	2,151	64	0.97		

Q1-Q18の当区分平均値	3.97
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	履修者数	1,889
履修者数		1,889	

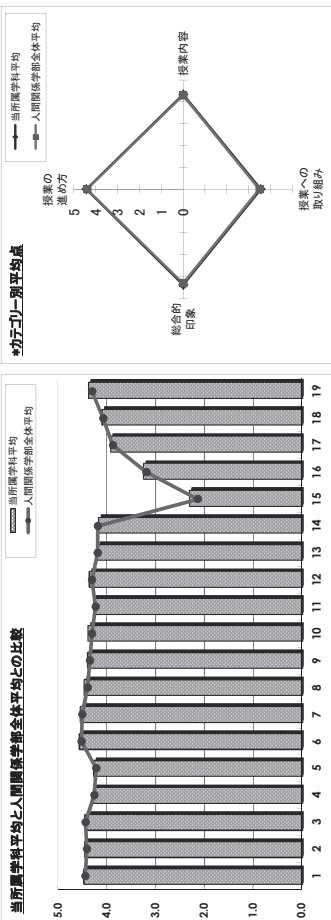
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.43
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.47	60.0	30.0	7.5	2.1	0.4	1,886	3	0.76		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.46	59.7	30.0	7.6	2.2	0.6	1,886	3	0.78		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.45	61.4	25.6	10.2	2.4	0.5	1,886	3	0.81		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.27	50.0	32.4	13.2	3.4	0.9	1,885	4	0.88		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.27	50.5	31.5	13.5	3.4	1.0	1,884	5	0.89		
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.56	65.7	26.1	7.2	0.7	0.3	1,886	3	0.69		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	64.1	27.6	6.8	1.2	0.3	1,881	8	0.70		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.34
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.46	58.9	31.0	8.0	1.7	0.4	1,886	3	0.75		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.39	56.2	30.6	10.0	2.5	0.7	1,886	3	0.82		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.39	55.6	31.6	9.0	3.0	0.7	1,885	4	0.83		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.28	48.8	35.4	11.5	3.1	1.2	1,884	5	0.87		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.36	54.5	31.1	11.0	2.7	0.7	1,885	4	0.84		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.19	46.4	30.9	18.8	3.1	0.7	1,875	14	0.90		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.55
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	49.3	28.3	13.6	7.3	1.4	1,879	10	1.01		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.31	9.3	9.8	18.9	27.0	35.0	1,884	5	1.29		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.25	22.3	24.2	27.0	9.3	17.2	1,870	19	1.36		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.92	34.6	34.8	22.1	5.5	3.0	1,885	4	1.03		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.10	41.9	34.9	16.9	3.9	2.4	1,880	9	0.98		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.37
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.37	55.8	29.9	11.0	2.4	0.9	1,822	67	0.84		

Q1-Q19の当区分平均値	4.17
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	履修者数	1,696
履修者数		1,696	

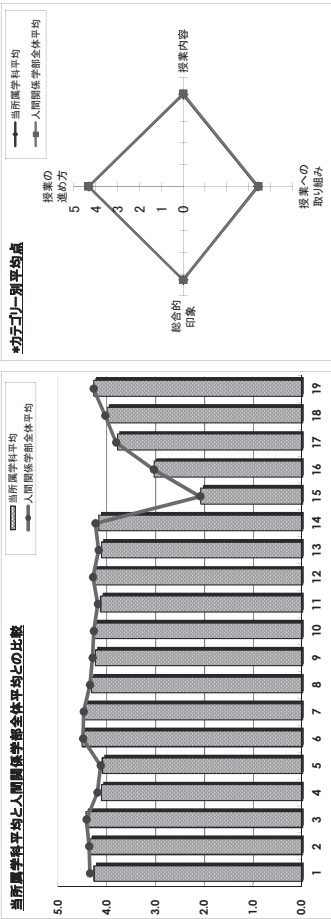
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.32
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.27	53.6	28.4	10.9	5.5	1.6	1,695	1	0.97		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	53.9	32.3	10.0	3.1	0.7	1,691	5	0.84		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.44	60.7	25.8	10.5	2.2	0.7	1,693	3	0.82		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	45.5	30.3	16.2	6.4	1.5	1,694	2	1.00		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.10	45.2	28.9	18.2	5.9	1.8	1,691	5	1.01		
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.51	63.4	26.4	8.4	1.5	0.4	1,687	9	0.74		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	60.2	29.1	8.0	2.4	0.3	1,688	8	0.77		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.23
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.32	51.4	33.7	11.4	2.7	0.8	1,692	4	0.84		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.24	49.4	32.3	12.6	4.6	1.2	1,691	5	0.92		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.26	50.9	31.2	12.2	4.2	1.4	1,693	3	0.93		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	43.5	34.9	14.6	5.3	1.7	1,692	4	0.96		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	51.4	31.0	12.8	3.5	1.2	1,690	6	0.90		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.12	42.6	32.4	20.5	3.3	1.1	1,686	10	0.92		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.42
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	48.7	27.8	15.6	7.2	0.7	1,687	9	0.98		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.08	6.3	6.4	15.4	33.1	38.9	1,687	9	1.17		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.04	18.4	20.2	27.4	14.8	19.2	1,680	16	1.36		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.79	31.4	31.5	25.3	8.2	3.7	1,690	6	1.09		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.00	38.8	33.6	19.1	5.7	2.7	1,687	9	1.02		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.27
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	52.3	29.1	13.6	3.5	1.5	1,649	47	0.93		

Q1-Q19の当区分平均値	4.05
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	人間福祉学専攻
履修者数		1,131
回答者数		

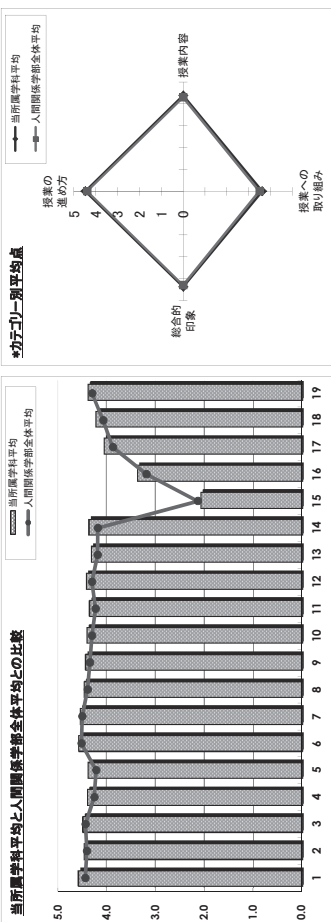
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.48
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.57	69.0	22.8	5.7	1.9	0.7	1,124	7	0.75			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.46	63.7	23.9	8.3	3.0	1.2	1,123	8	0.86			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.48	65.6	21.0	10.2	2.4	0.8	1,123	8	0.83			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.39	59.4	24.7	12.1	2.6	1.2	1,121	10	0.88			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.38	59.6	23.7	12.9	2.6	1.2	1,121	10	0.89			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.57	69.0	21.5	7.3	1.5	0.6	1,120	11	0.75			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	66.1	24.2	7.3	1.8	0.5	1,118	13	0.75			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.39
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.45	62.3	24.6	10.3	1.8	1.0	1,122	9	0.82		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.42	61.6	24.6	9.8	2.4	1.5	1,120	11	0.88		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.40	60.7	24.8	9.8	3.0	1.7	1,119	12	0.91		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.35	57.6	26.0	11.5	3.0	1.8	1,121	10	0.92		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.41	61.9	23.3	10.6	2.8	1.5	1,118	13	0.90		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.31	55.9	24.4	16.2	2.1	1.4	1,110	21	0.91		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.61
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.36	60.1	23.1	10.8	4.6	1.4	1,118	13	0.94			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.08	10.7	4.9	15.1	20.2	49.1	1,116	15	1.34			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.37	32.9	15.9	24.2	9.3	17.8	1,109	22	1.46			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.05	46.1	26.1	18.4	5.6	3.8	1,117	14	1.10			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.22	53.7	23.3	16.6	3.8	2.6	1,114	17	1.02			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.37
No.	教員氏名	平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.37	59.8	23.8	12.1	2.9	1.5	1,076	55	0.91			

Q1-Q19の当区分平均値	4.22
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	人間福祉学専攻
履修者数		1,462
回答者数		

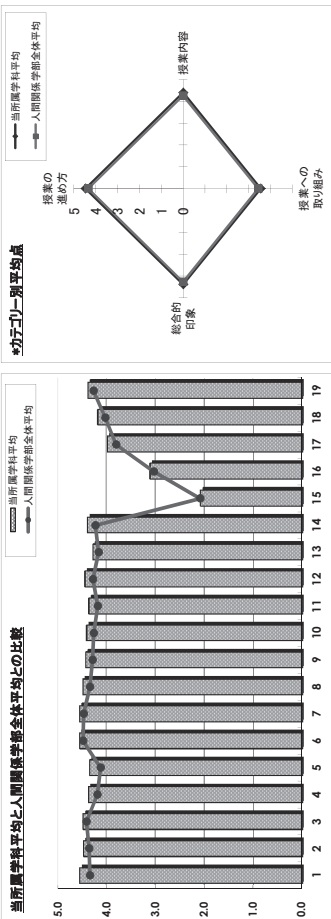
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.47
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞きやすかった	4.54	67.3	22.3	8.4	1.6	0.5	1,454	8	0.75		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.47	64.2	21.9	10.9	2.1	0.8	1,454	8	0.83		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.47	64.4	21.4	12.0	1.7	0.6	1,452	10	0.81		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.36	58.7	24.0	13.2	3.3	0.8	1,453	9	0.89		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.34	58.3	22.7	14.7	3.5	0.8	1,452	10	0.91		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.55	68.0	21.3	8.9	1.1	0.6	1,448	14	0.75		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.55	67.9	21.4	8.9	1.3	0.4	1,446	16	0.74		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.40
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.48	63.7	23.8	10.1	1.6	0.8	1,449	13	0.80		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.42	62.3	22.4	11.4	2.8	1.0	1,446	16	0.88		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.40	61.2	22.4	12.9	2.6	0.9	1,450	12	0.87		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.36	59.3	22.8	13.5	3.5	1.0	1,448	14	0.91		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	63.0	22.2	11.4	2.6	0.8	1,448	14	0.86		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.27	55.8	21.5	18.2	3.1	1.3	1,442	20	0.95		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.55
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	62.8	20.6	10.7	4.2	1.7	1,440	22	0.96		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.08	9.1	6.2	14.4	24.3	46.0	1,447	15	1.29		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.11	26.1	14.3	26.1	11.9	21.6	1,434	28	1.47		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.98	43.2	24.7	22.7	5.8	3.6	1,445	17	1.10		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.18	50.6	24.8	18.2	4.4	2.0	1,442	20	1.01		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.38
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.38	60.2	22.2	13.9	2.6	1.0	1,381	81	0.89		

Q1-Q19の当区分平均値	4.20
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	介護福祉学専攻
履修者数		192
回答者数		

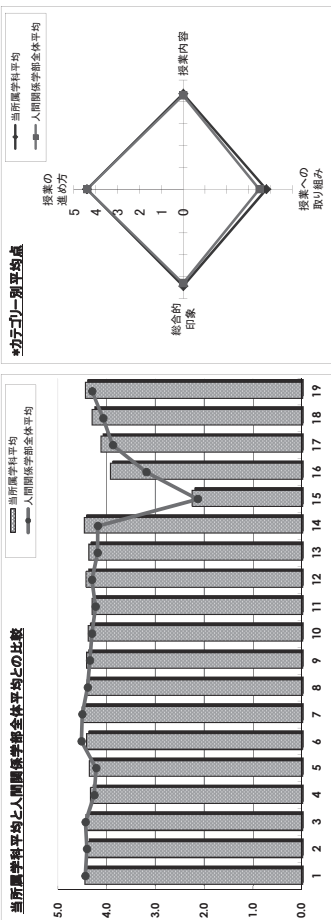
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.41	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.44	51.6	43.8	2.6	1.6	0.5	192	0	0.48				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントとビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	52.1	40.1	4.2	3.1	0.5	192	0	0.76				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	53.6	38.5	4.7	2.6	0.5	192	0	0.75				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.33	50.0	38.5	6.8	3.6	1.0	192	0	0.84				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.36	50.3	39.3	6.8	3.1	0.5	191	1	0.79				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.41	54.2	36.5	6.3	2.6	0.5	192	0	0.77				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	56.3	38.5	4.2	0.5	0.5	192	0	0.66				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.38	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.40	52.9	37.7	6.3	2.6	0.5	191	1	0.77			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.41	52.4	39.3	6.3	1.6	0.5	191	1	0.73			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.38	50.5	39.6	7.8	1.0	1.0	192	0	0.76			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.29	46.9	40.6	8.9	2.1	1.6	192	0	0.84			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.42	52.1	38.5	8.3	1.0	0.0	192	0	0.69			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.37	51.3	38.1	6.9	3.2	0.5	189	3	0.79			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.46	63.4	25.7	5.8	3.7	1.6	191	1	0.88		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.25	5.8	14.7	17.4	23.2	38.9	190	2	1.27		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.92	37.9	35.8	14.2	4.7	7.4	190	2	1.17		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.12	42.7	37.0	14.1	2.1	4.2	192	0	1.01		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.29	49.5	36.5	9.4	3.1	1.6	192	0	0.88		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.43	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.43	56.6	33.9	6.3	2.6	0.5	189	3	0.77			

Q1-Q19の当区分平均値	4.24
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	介護福祉学専攻
履修者数		323
回答者数		

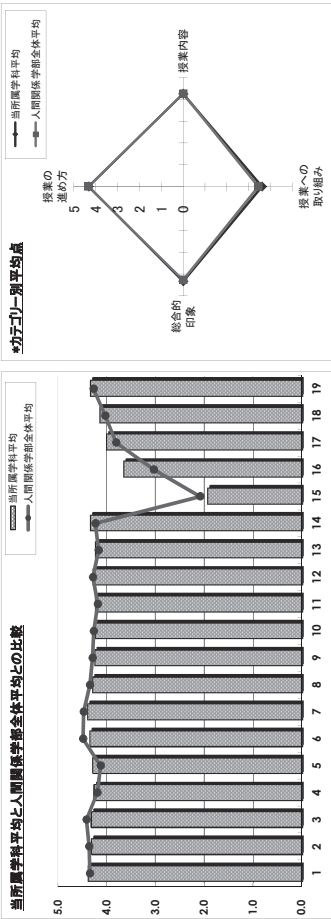
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.32	
No.	説明文		平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
				5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった		4.37	49.2	43.7	3.1	3.1	0.9	323	0	0.77		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント、ビデオ等)は授業の理解に役立った		4.31	44.0	46.4	6.5	2.8	0.3	323	0	0.74		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク		4.31	44.3	44.6	9.3			323	0	0.72		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた		4.26	43.0	44.9	7.1	4.6		323	0	0.81		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した		4.28	44.0	44.6	7.7	3.1	0.6	323	0	0.79		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった		4.34	47.7	41.8	7.4	3.1	0.0	323	0	0.75		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた		4.39	49.5	41.8	6.5	2.2	0.0	323	0	0.71		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.25	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.29	47.4	40.6	7.1	3.7	1.2	323	0	0.85			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.24	44.6	40.9	9.9	3.7	0.9	323	0	0.85			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.24	45.3	40.4	8.4	4.3	1.6	322	1	0.89			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.23	42.1	44.3	9.0	3.7	0.9	323	0	0.83			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	45.2	42.7	7.4	3.4	1.2	323	0	0.84			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.23	41.1	46.1	8.4	3.4	0.9	321	2	0.82			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.61	
No.	設問文	平均点	5	4	回答率 (%)			2	1	有効回答	無効回答	標準偏差	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	60.9	23.3	6.5	6.5	6.5	2.8	322	1	1.04		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.94	4.1	8.4	9.1	34.4	44.1	320	3	1.11			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.65	27.3	37.6	18.5	6.0	10.7	319	4	1.24			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.00	34.9	41.4	15.3	5.9	2.5	321	2	0.98			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.13	38.9	43.3	12.1	3.4	2.2	321	2	0.91			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.33	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.33	47.8	40.8	8.9	2.2	0.3	314	9	0.76			

Q1-Q19の当区分平均値	4.11
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 1年生	履修者数	回答者数	—
		947		

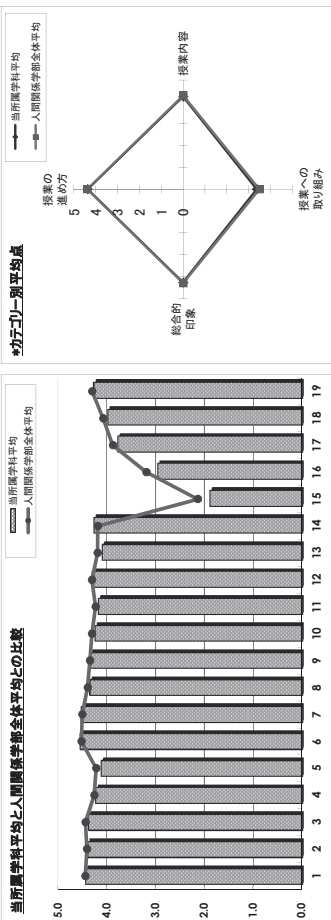
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.37
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.43	59.6	29.3	7.1	2.6	1.4	946	1	0.84			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	57.0	30.5	8.9	1.8	1.8	944	3	0.86			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業内容精悍なる点で注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.37	56.1	29.8	10.4	2.8	1.0	944	3	0.85			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.23	48.5	33.5	12.1	3.9	2.0	944	3	0.95			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.12	45.9	28.8	17.8	5.7	1.7	943	4	1.00			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.54	66.1	24.9	6.7	1.5	0.8	945	2	0.76			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	63.5	28.0	6.4	1.1	1.2	944	3	0.76			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.25	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.35	53.5	32.8	10.1	2.1	1.5	944	3	0.86				
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.33	55.4	29.2	10.6	2.6	2.1	944	3	0.92				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.24	51.5	28.9	13.9	3.6	2.1	945	2	0.96				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.17	48.9	30.6	12.4	5.0	3.1	944	3	1.03				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.30	53.7	28.6	13.6	2.2	1.9	943	4	0.92				
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	40.9	34.0	20.4	2.7	2.0	943	4	0.94				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.38	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答者数	無効回答者数	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.26	54.1	26.1	12.9	5.7	1.2	940	7	0.97				
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.90	4.0	5.6	13.0	30.7	46.7	941	6	1.08				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.96	19.6	18.5	25.1	11.9	24.9	940	7	1.44				
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.78	33.7	28.3	25.2	7.6	5.2	942	5	1.15				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.98	39.2	31.5	20.6	5.6	3.1	943	4	1.05				

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.27	
No.	教員名	平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数					
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	52.7	28.7	13.6	2.7	2.3	915	32	0.95				

Q1-Q19の当区分平均値	4.06
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 1年生	履修者数	回答者数	—
		899		

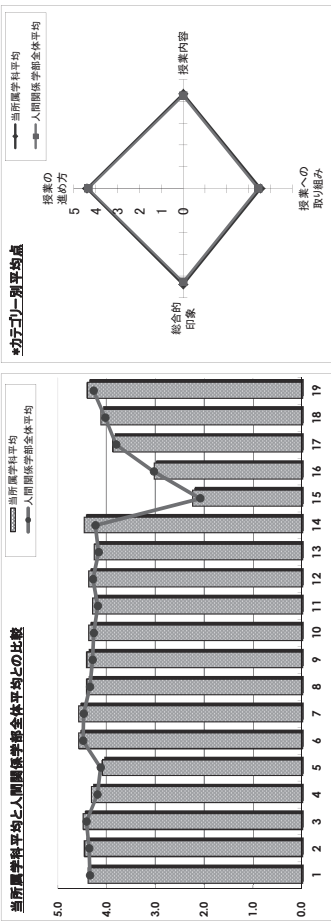
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.41
No.	説明文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.37	57.6	29.1	8.0	3.9	1.4	898	1	0.90		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.45	60.0	28.9	8.7	1.2	1.2	899	0	0.80		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業内容が前での注意を喚びなかった場合は、5をマーク	4.48	60.5	29.0	8.6	1.6	0.3	896	3	0.75		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	51.9	32.5	11.8	2.4	1.3	898	1	0.87		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.08	45.3	27.7	20.1	4.1	2.8	895	4	1.03		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.57	66.8	25.1	6.9	0.8	0.4	898	1	0.70		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.57	66.0	26.9	5.9	0.9	0.3	896	3	0.68		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.34	
No.	設問文	平均点	回答 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.40	57.6	29.5	9.6	2.3	1.0	899	0	0.83			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.40	57.7	30.0	8.7	2.1	1.4	899	0	0.85			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.36	56.1	29.6	10.5	2.1	1.7	898	1	0.88			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.29	51.5	32.6	10.8	3.1	1.9	895	4	0.92			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.36	58.4	26.2	10.7	3.0	1.8	898	1	0.92			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.25	48.3	32.6	15.7	2.3	1.1	894	5	0.88			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.54	
No.	設問文	平均点	5	4	回答率 (%)	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.45	63.9	22.6	9.3	3.6	0.7	894	5	0.85				
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.24	9.0	8.4	16.1	31.1	35.5	897	2	1.27				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.03	20.6	18.7	26.4	11.4	22.9	894	5	1.43				
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.87	36.2	31.2	20.6	7.2	4.7	897	2	1.12				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.11	43.1	35.0	14.8	4.1	2.9	896	3	1.00				

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.39	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	59.2	25.8	11.3	2.2	1.5	875	24	0.88			

Q1-Q19の当区分平均値	4.16
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	1～15名
履修者数	594
回答者数	459

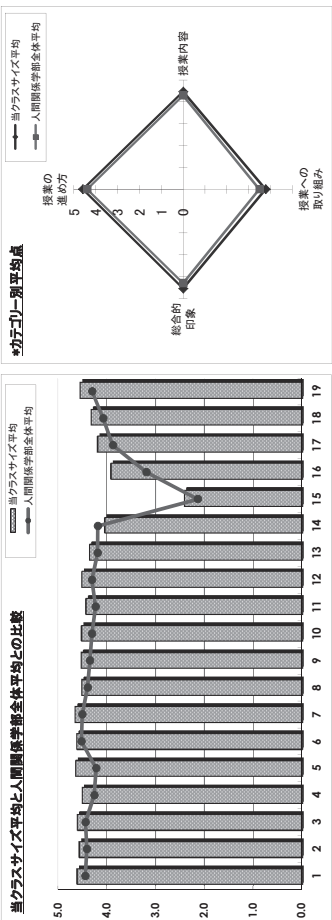
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答 数	無効 回答 数	4.60
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数							
			5	4	3	2	1									
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.61	67.1	28.3	3.1	1.3	0.2	459	0	0.64						
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントとビデオ等)は授業の理解に役立った	4.56	64.6	28.8	4.8	1.5	0.2	458	1	0.68						
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.60	69.9	23.1	5.2	1.1	0.7	458	1	0.70						
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.50	62.4	28.2	7.0	1.7	0.7	458	1	0.76						
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.63	70.0	24.9	3.5	1.3	0.2	457	2	0.64						
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.62	70.1	23.8	4.1	1.5	0.4	458	1	0.68						
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.64	71.2	23.8	3.5	1.3	0.2	458	1	0.64						

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答 数	4.47
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数						
			5	4	3	2	1								
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.51	61.4	31.7	4.4	2.0	0.7	458	1			0.73			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.52	62.4	30.3	5.0	1.5	0.7	458	1			0.72			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.52	62.0	31.0	4.8	1.1	1.1	458	1			0.74			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.43	57.2	31.9	8.1	2.0	0.9	458	1			0.79			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.51	62.1	29.5	5.9	1.8	0.7	457	2			0.74			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.35	55.5	28.9	12.1	2.4	1.1	456	3			0.86			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	無効 回答 数	標準 偏差	3.78
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数								
			5	4	3	2	1									
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.04	43.9	29.7	14.6	10.0	1.7	458	1	1.07						
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.41	8.1	10.7	21.9	32.9	26.3	456	3	1.21						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.92	37.9	31.7	18.9	7.0	4.4	454	5	1.11						
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.19	46.2	33.3	15.8	3.1	1.8	457	2	0.93						
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.32	52.5	31.9	11.9	2.4	1.3	455	4	0.87						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.54	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答					
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.54	65.4	26.3	6.3	1.3	0.7	445	14	0.73				

Q1-Q19の当区分平均値	4.34
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	1～15名
履修者数	782
回答者数	624

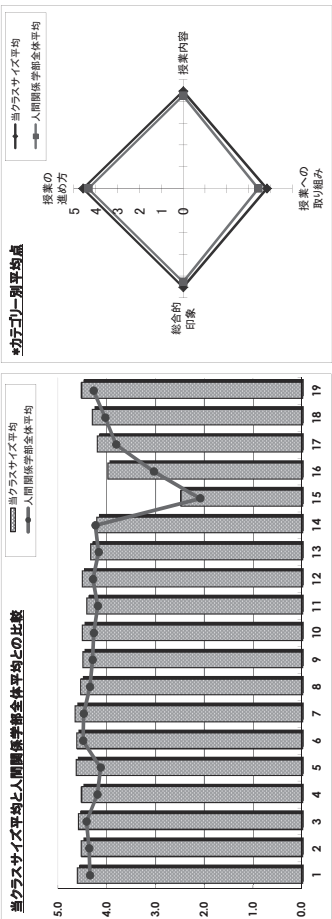
I. 教員のこの授業の進め方について										当該カテゴリー平均点		有効回答数	無効回答数	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数					
			5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.60	69.3	24.4	3.9	1.9	0.5	623	1	0.70				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.52	63.5	27.2	7.6	1.3	0.5	622	2	0.73				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.58	67.5	24.0	7.9	0.6	0.0	622	2	0.66				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.52	63.8	26.8	6.6	2.6	0.2	622	2	0.75				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.63	71.2	21.7	5.8	1.1	0.2	622	2	0.66				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.62	70.2	22.7	5.8	1.1	0.2	621	3	0.66				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.65	71.7	22.5	4.5	1.3	0.0	621	3	0.63				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		有効 無効 割合	標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.53	64.8	26.8	5.8	1.9	0.6	622	2	0.75			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.49	63.3	26.4	7.1	2.6	0.6	622	2	0.79			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.50	62.8	27.9	6.4	2.1	0.8	621	3	0.78			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.41	58.2	29.4	8.8	2.7	0.8	622	2	0.83			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.50	62.6	27.1	8.7	1.1	0.5	621	3	0.74			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.33	54.5	28.3	13.8	2.6	0.8	622	2	0.87			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	3.83
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答							
			5	4	3	2	1									
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.20	52.7	24.6	14.0	7.6	1.1	621	3	1.02						
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.49	11.9	8.2	22.3	31.9	25.6	620	4	1.28						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.98	39.4	30.7	21.6	5.3	2.9	619	5	1.04						
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.19	46.5	31.4	17.9	3.4	0.8	621	3	0.90						
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.29	49.8	33.2	14.2	1.9	0.8	620	4	0.84						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.52
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.52	63.3	27.0	8.1	1.5	0.2	607	17	0.72			

Q1-Q19の当区分平均値	4.35
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	16～49名	履修者数	2,253
		回答者数	1,686

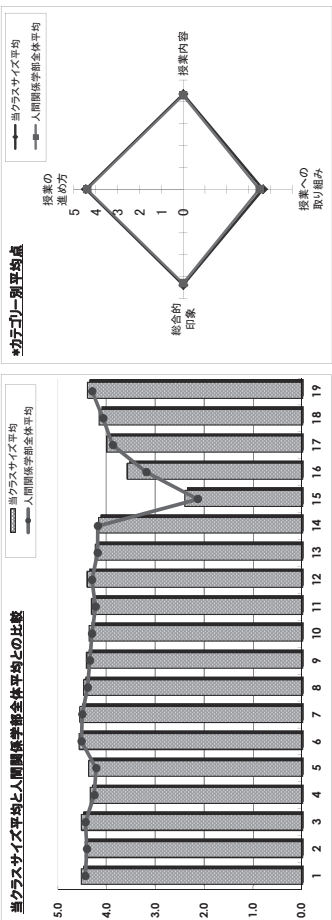
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.46
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.51	64.2	25.8	7.3	2.3	0.4	1,680	6	0.76		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.43	59.7	26.9	10.5	2.1	0.7	1,679	7	0.81		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.51	65.6	22.6	9.7	1.8	0.4	1,678	8	0.77		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.33	54.6	28.9	12.4	3.3	0.8	1,677	9	0.87		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.37	55.8	28.8	12.2	2.4	0.7	1,676	10	0.84		
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.55	66.8	23.9	7.6	1.3	0.5	1,677	9	0.73		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	65.2	25.9	7.3	1.3	0.4	1,672	14	0.72		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.36
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.47	60.7	27.9	9.5	1.7	0.3	1,680	6	0.76		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.41	57.9	28.4	10.8	2.4	0.6	1,673	13	0.82		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.35	55.0	29.9	10.9	3.2	0.9	1,675	11	0.86		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.30	52.7	30.1	12.7	3.5	1.0	1,675	11	0.89		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.39	58.4	26.9	10.9	2.9	0.8	1,674	12	0.85		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.23	49.3	27.8	20.0	2.2	0.7	1,668	18	0.89		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.66
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.16	48.4	28.5	15.4	6.2	1.6	1,674	12	1.00		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.40	11.7	10.0	18.6	26.0	33.6	1,674	12	1.35		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.58	31.2	25.1	25.1	7.3	11.2	1,655	31	1.30		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.99	40.0	30.3	21.4	5.5	2.8	1,676	10	1.04		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.15	46.2	30.8	16.7	4.2	2.2	1,671	15	0.98		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.39
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	58.0	27.5	10.3	3.3	0.8	1,618	48	0.86		

Q1-Q19の当区分平均値	4.21
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	16～49名	履修者数	2,296
		回答者数	1,843

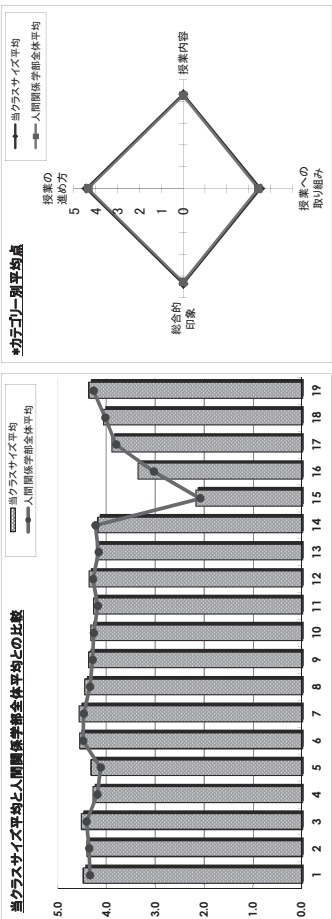
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.44
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.47	62.9	26.0	7.5	2.6	1.1	1,840	3	0.83		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	58.7	27.0	10.7	2.1	1.4	1,839	4	0.87		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.51	66.5	21.1	10.1	1.5	0.8	1,838	5	0.80		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.28	54.0	28.1	11.5	4.6	1.8	1,839	4	0.96		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.32	56.3	25.7	13.1	3.3	1.7	1,836	7	0.94		
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.55	67.8	22.5	7.6	1.2	0.9	1,832	11	0.76		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.55	66.3	24.9	6.9	1.2	0.6	1,833	10	0.73		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.32
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.44	59.3	28.9	9.4	1.7	0.8	1,837	6	0.80		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.36	56.3	28.9	10.6	2.9	1.2	1,835	8	0.87		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.32	53.8	30.1	11.6	2.7	1.7	1,835	8	0.90		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.26	51.4	31.1	11.8	3.8	1.9	1,833	10	0.94		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.36	57.7	26.3	11.6	2.7	1.7	1,835	8	0.91		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.20	48.9	28.4	18.2	3.0	1.5	1,831	12	0.94		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.53
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	49.9	27.6	14.2	6.9	1.4	1,835	8	1.01		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.18	8.1	6.9	16.2	32.1	36.7	1,830	13	1.23		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.35	26.1	23.4	25.3	10.3	14.9	1,812	31	1.36		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.89	35.9	31.6	21.9	6.2	4.3	1,831	12	1.10		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.06	42.3	32.5	17.4	4.8	3.0	1,829	14	1.03		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.36
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	57.4	27.4	10.5	3.0	1.7	1,774	69	0.91		

Q1-Q19の当区分平均値	4.16
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名	履修者数	3,382
		回答者数	2,427

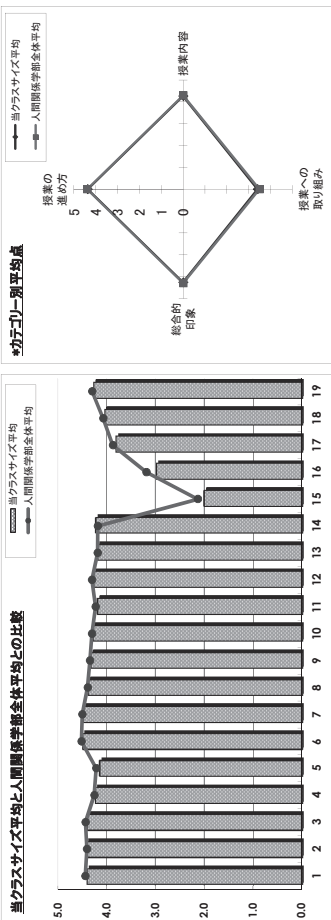
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.37
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.40	58.1	29.3	8.3	3.2	1.1	2,422	5	0.86		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントとビデオ等)は授業の理解に役立った	4.42	57.5	30.9	8.4	2.3	0.9	2,422	5	0.81		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.40	58.8	27.1	11.0	2.3	0.9	2,420	7	0.84		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.23	48.2	32.9	13.8	4.1	1.1	2,419	8	0.91		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	46.8	29.4	17.4	4.3	2.1	2,419	8	0.99		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.49	63.0	25.8	9.3	1.3	0.6	2,417	10	0.77		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	61.3	28.5	8.2	1.2	0.7	2,414	13	0.76		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.27
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	総数	標準偏差		
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.37	55.2	30.7	11.1	2.0	0.9	2,420	7	0.83			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.32	53.7	30.2	11.7	3.1	1.3	2,419	8	0.89			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.28	52.3	29.5	13.3	3.6	1.4	2,419	8	0.92			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.19	46.8	33.0	14.4	4.0	1.9	2,417	10	0.95			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	50.6	31.3	13.5	3.2	1.4	2,412	15	0.91			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.19	46.5	31.1	18.5	2.8	1.1	2,397	30	0.91			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.41
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	総 数	標準 偏差		
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	52.4	26.8	13.0	6.3	1.6	2,407	20	1,00			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.01	7.4	6.5	14.7	22.7	48.7	2,408	19	1.25			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.98	20.2	17.5	26.6	11.5	24.1	2,391	36	1.44			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.81	32.6	31.5	24.2	7.5	4.2	2,404	23	1.10			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.04	41.1	31.8	19.4	4.9	2.8	2,397	30	1.03			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.26
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	51.3	30.1	14.0	3.1	1.5	2,325	102	0.92			

Q1-Q18の当区分平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名	履修者数	3,384
		回答者数	2,598

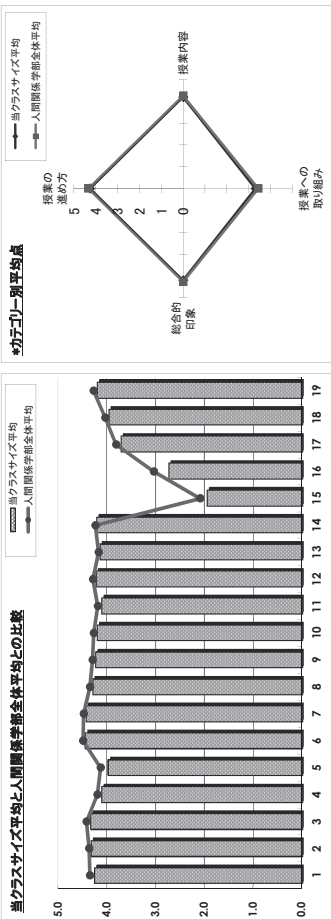
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.26
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数	標準 偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.25	51.2	30.6	11.6	4.9	1.6	2,594	4	0.95		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	52.4	32.6	11.0	3.0	1.0	2,588	10	0.86		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.33	54.4	28.7	13.4	2.5	1.0	2,592	6	0.87		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	44.1	30.8	18.2	5.1	1.8	2,590	8	0.99		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.97	39.2	30.5	21.7	5.6	2.9	2,587	11	1.05		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.44	59.8	27.7	10.3	1.2	1.0	2,587	11	0.80		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	57.5	30.3	9.7	1.6	0.8	2,584	14	0.80		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.20
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	総数		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.29	50.1	33.4	12.4	3.1	0.9	2,590	8	0.86		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.23	48.1	33.2	13.7	3.6	1.4	2,582	16	0.92		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.20	48.3	31.3	14.5	4.1	1.9	2,590	8	0.96		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.10	43.4	33.1	16.0	5.3	2.1	2,585	13	0.99		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	48.6	31.4	15.0	3.4	1.6	2,585	13	0.93		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.14	43.9	32.1	19.7	2.8	1.5	2,569	29	0.93		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.31
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	総数		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.20	52.8	24.7	14.7	6.1	1.8	2,574	24	1,02		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.95	5.7	6.3	13.2	26.8	48.0	2,580	18	1.17		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.73	14.7	15.6	27.3	13.4	29.0	2,570	28	1.40		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.71	31.1	28.9	25.7	8.7	5.7	2,582	16	1.16		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.96	39.3	31.0	19.8	6.3	3.6	2,577	21	1.08		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.20
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	48.1	30.6	16.0	3.5	1.8	2,505	93	0.95		

Q1-Q18の当区分平均値	3.99
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上	履修者数	2,001
		回答者数	1,444

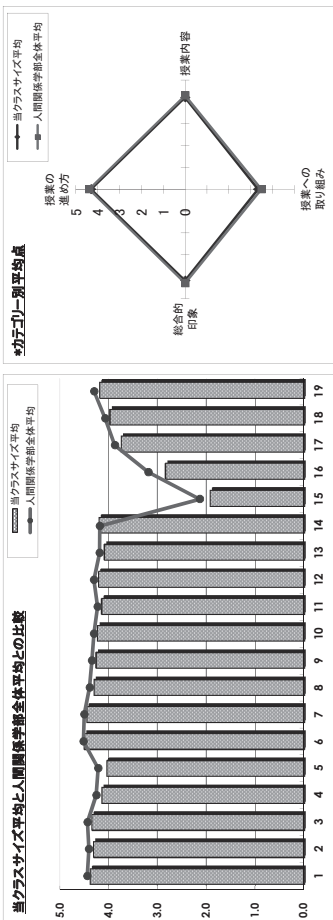
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.31
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.37	54.9	32.3	8.9	3.1	0.8	1,441	3	0.83		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	54.0	30.0	11.0	3.4	1.7	1,440	4	0.92		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.34	54.5	29.8	11.5	3.6	0.6	1,438	6	0.86		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	43.7	34.3	15.6	5.0	1.5	1,439	5	0.95		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.04	41.9	29.9	19.8	6.9	1.5	1,436	8	1.01		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.50	61.6	28.3	8.6	1.1	0.3	1,438	6	0.73		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	58.3	30.9	8.5	1.5	0.7	1,438	6	0.77		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.20
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.30	50.8	33.1	12.1	2.9	1.0	1,437	7	0.87		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.26	51.0	30.5	13.1	3.9	1.5	1,438	6	0.93		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.23	49.4	31.9	12.3	4.7	1.7	1,437	7	0.95		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	45.1	33.4	14.3	5.1	2.1	1,437	7	0.98		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	48.3	31.0	15.1	3.9	1.7	1,436	8	0.95		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	41.6	32.3	20.7	4.1	1.3	1,432	12	0.95		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.34
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.20	51.4	26.7	13.3	7.1	1.5	1,431	13	1.01		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.93	5.5	5.5	13.3	27.8	47.8	1,432	12	1.15		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.84	17.0	16.2	27.9	11.7	27.2	1,431	13	1.42		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.74	31.5	29.8	25.7	7.6	5.4	1,438	6	1.14		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.97	38.0	32.3	21.3	5.8	2.6	1,438	6	1.03		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.18
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	47.9	30.1	16.3	3.8	2.0	1,379	65	0.97		

Q1-Q18の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上	履修者数	2,296
		回答者数	1,713

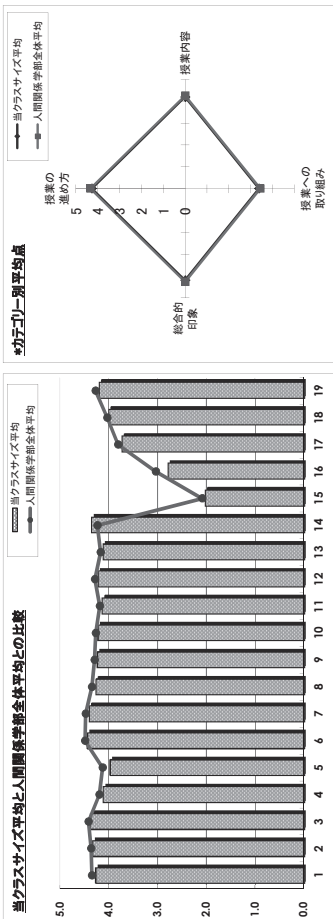
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.27
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.27	51.4	31.7	10.9	4.2	1.7	1,708	5	0.93		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	53.0	31.4	11.9	3.0	0.8	1,709	4	0.86		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.38	55.5	29.9	12.1	2.0	0.5	1,704	9	0.81		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	42.2	33.6	18.6	4.6	1.1	1,708	5	0.93		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	40.0	28.9	22.2	6.3	2.5	1,704	9	1.05		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.44	58.7	29.0	10.2	1.6	0.5	1,703	10	0.78		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	56.5	30.0	11.2	1.9	0.5	1,702	11	0.80		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.20
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.26	49.7	31.8	14.4	3.2	0.9	1,707	6	0.89		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.24	49.6	31.3	13.6	4.1	1.3	1,707	6	0.93		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.22	48.9	30.9	15.0	4.0	1.2	1,705	8	0.93		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	44.1	33.0	16.8	4.5	1.6	1,704	9	0.96		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	48.6	31.3	14.7	4.0	1.4	1,702	11	0.93		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.12	41.8	33.9	19.6	3.7	1.1	1,698	15	0.92		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.38
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	40.1	22.6	11.4	4.2	1.8	1,694	19	0.96		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.03	7.4	6.4	13.4	28.1	44.8	1,700	13	1.22		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.79	15.9	15.4	27.6	14.2	26.9	1,693	20	1.40		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.73	30.6	29.3	26.6	9.1	4.3	1,697	16	1.12		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.00	39.2	32.0	21.1	5.3	2.4	1,693	20	1.02		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.20
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	49.6	27.5	17.5	3.6	1.8	1,649	64	0.97		

Q1-Q18の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義
履修者数	5,863
回答者数	4,170

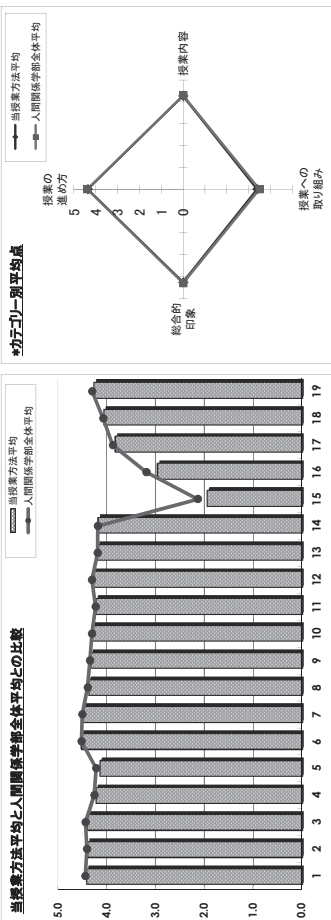
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			無効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答						
			5	4	3	2	1	有効回答数	平均点					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.41	57.8	30.1	8.1	3.1	0.9	4,161	9	0.83				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントとビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	57.1	30.0	9.2	2.7	1.1	4,159	11	0.84				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.40	58.8	27.0	10.8	2.7	0.7	4,155	15	0.84				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.22	47.8	32.9	14.2	4.0	1.1	4,154	16	0.91				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	46.5	29.1	17.7	5.1	1.7	4,150	20	0.99				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	63.8	25.9	8.7	1.2	0.4	4,150	20	0.74				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	61.6	28.2	8.2	1.3	0.6	4,146	24	0.75				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			無効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答						
			5	4	3	2	1	有効回答数	有効回答率					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.36	54.8	30.8	11.2	2.4	0.8	4,154	16	0.84				
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.32	54.3	29.4	11.7	3.3	1.2	4,150	20	0.89				
10	授業の内容は興味深いものだった	4.30	53.4	29.7	11.7	3.8	1.4	4,151	19	0.91				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.22	48.8	32.1	13.5	4.0	1.7	4,151	19	0.94				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	51.6	30.3	13.3	3.4	1.4	4,146	24	0.91				
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.19	46.9	30.6	18.4	3.1	1.1	4,127	43	0.91				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	標準 偏差	3.40
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	有効 回答 率	有効 回答 率					
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	50.2	27.7	13.5	7.0	1.6	4,136	34	1.02					
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.95	6.3	5.5	13.5	26.3	48.4	4,138	32	1.18					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.97	20.1	17.4	26.2	11.4	24.8	4,115	55	1.44					
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.82	33.9	30.7	23.8	7.1	4.5	4,140	30	1.11					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.06	42.1	31.9	18.5	4.9	2.6	4,129	41	1.02					

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.26	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答		無効回答				
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	51.6	29.4	14.0	3.4	1.6	3,981	189	0.93				

Q1-Q19の当区分平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義
履修者数	6,572
回答者数	4,932

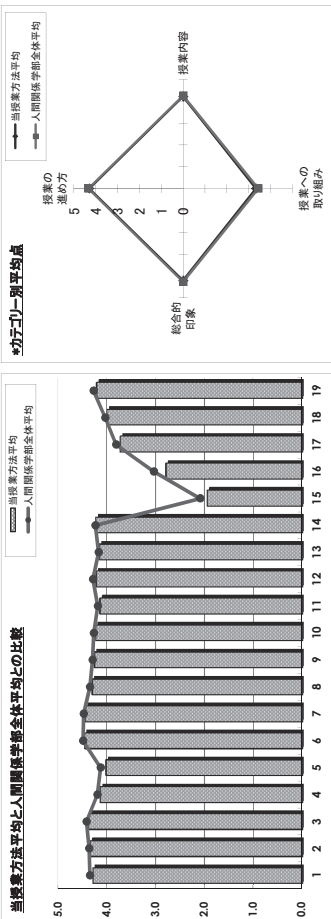
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		有効回答数	標準偏差	4.29
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数						
			5	4	3	2	1	有効回答数	平均点					
1	教員の話し方は明確で聞きやすかった	4.29	53.1	30.3	10.7	4.3	1.6	4,923	9	0.93				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	53.7	31.6	10.9	2.9	1.0	4,915	17	0.86				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.37	56.7	28.0	12.2	2.3	0.8	4,914	18	0.84				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	44.7	31.8	17.4	4.6	1.5	4,917	15	0.96				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	41.7	29.5	20.5	5.6	2.7	4,910	22	1.04				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.46	60.7	27.4	9.8	1.2	0.8	4,907	25	0.79				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	58.8	29.4	9.6	1.6	0.7	4,901	31	0.78				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		無効回答	標準偏差	4.22
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答						
			5	4	3	2	1	有効回答数	有効回答率					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.30	51.4	32.2	12.5	3.0	0.9	4,915	17	0.87				
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.26	50.3	31.5	13.2	3.5	1.4	4,906	26	0.92				
10	授業の内容は興味深いものだった	4.23	49.8	30.7	14.0	3.9	1.6	4,910	22	0.94				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	45.1	32.7	15.7	4.6	1.9	4,906	26	0.97				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	49.5	30.3	14.9	3.6	1.7	4,903	29	0.94				
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	44.3	32.4	18.9	3.2	1.3	4,882	50	0.92				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	標準 偏差	3.34
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数							
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	53.7	24.7	13.9	5.8	1.8	4,885	47	1,01					
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.95	6.0	5.6	13.3	27.9	47.2	4,895	37	1.17					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.79	16.0	15.9	26.9	13.8	27.4	4,872	60	1.41					
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.72	31.3	29.0	25.8	8.6	5.3	4,893	39	1.15					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.00	40.1	31.6	19.5	5.7	3.2	4,882	50	1.05					

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.21	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答		無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	49.5	29.4	15.7	3.6	1.9	4,745	187	0.96				

Q1-Q19の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	演習
履修者数	1,726
回答者数	1,335

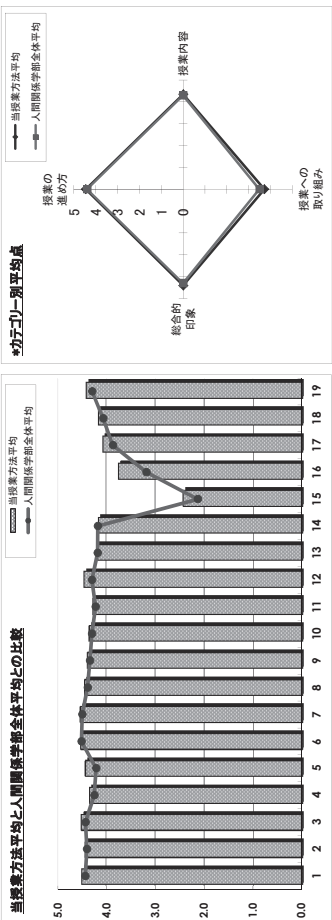
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.46	
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.50	63.3	26.7	7.2	2.3	0.5	1,331	4	0.77				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントとビデオ等)は授業の理解に役立った	4.42	58.6	28.7	9.8	2.2	0.7	1,330	5	0.81				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.51	65.0	23.6	9.0	1.9	0.5	1,329	6	0.78				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.34	55.9	28.3	10.9	3.7	1.1	1,330	5	0.89				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.42	60.0	26.9	9.6	2.4	1.1	1,329	6	0.84				
6	教員の学生に対する話し方は公平だった	4.52	65.5	24.8	7.0	1.7	1.1	1,330	5	0.78				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.53	64.4	26.9	6.6	1.4	0.7	1,328	7	0.74				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.35	
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.44	59.0	29.5	8.9	1.8	0.8	1,330	5	0.79				
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.38	56.0	30.3	10.5	2.3	0.9	1,328	7	0.83				
10	授業の内容は興味深いものだった	4.35	54.9	30.0	11.3	2.6	1.2	1,329	6	0.87				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.27	51.2	31.3	12.7	3.6	1.3	1,328	7	0.91				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	60.8	27.2	9.3	1.9	0.8	1,325	10	0.80				
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.19	47.8	28.4	20.1	2.5	1.1	1,322	13	0.92				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.72	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	50.0	26.7	14.9	6.6	1.7	1,325	10	1.02				
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.43	10.8	10.1	20.5	28.8	29.8	1,324	11	1.30				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.75	34.8	27.5	23.2	7.1	7.4	1,311	24	1.21				
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.07	42.7	31.0	19.3	4.8	2.2	1,326	9	1.00				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.17	47.2	29.6	17.5	4.1	1.7	1,325	10	0.97				

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.41	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.41	58.9	27.2	10.5	2.5	0.9	1,291	44	0.84				

Q1-Q19の当区分平均値	4.23
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	演習
履修者数	1,804
回答者数	1,333

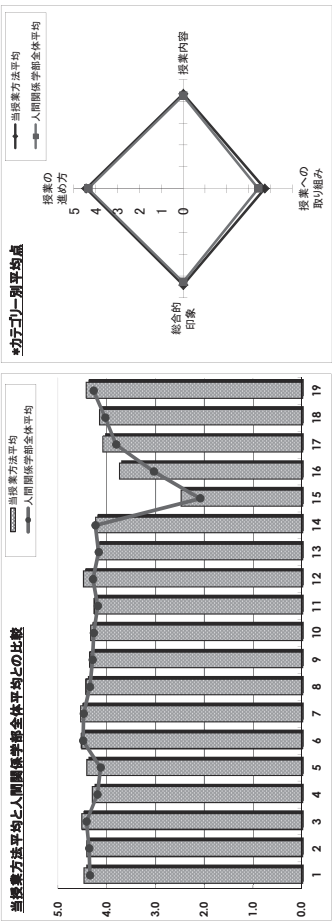
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.45	
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.46	62.4	26.4	7.1	3.1	1.0	1,331	2	0.83			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.41	58.8	27.8	10.3	2.4	0.8	1,331	2	0.83			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.51	65.1	23.1	10.1	1.2	0.5	1,331	2	0.76			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.29	55.2	27.3	10.8	5.0	1.7	1,330	3	0.97			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.41	61.5	23.6	10.8	2.9	1.2	1,330	3	0.88			
6	教員の学生に対する話し方は公平だった	4.52	65.7	23.4	8.4	1.9	0.7	1,327	6	0.78			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.53	65.4	25.2	7.5	1.4	0.5	1,328	5	0.74			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.34	
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.43	58.9	28.7	9.5	2.0	0.9	1,331	2	0.81			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.35	55.8	29.2	10.3	3.6	1.1	1,330	3	0.89			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.33	55.0	29.0	11.7	2.6	1.6	1,329	4	0.90			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.26	51.5	30.7	11.8	4.1	1.9	1,326	7	0.95			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.48	62.2	26.9	8.2	1.8	0.9	1,328	5	0.79			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.19	48.6	28.0	19.2	2.7	1.5	1,327	6	0.94			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.74	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	52.2	26.7	14.0	6.0	1.1	1,328	5	0.97				
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.48	11.5	9.8	20.0	33.2	25.6	1,327	6	1.28				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.74	32.8	29.3	24.5	6.1	7.3	1,316	17	1.19				
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.08	42.0	31.8	19.8	4.4	2.0	1,327	6	0.98				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.15	44.6	33.0	17.3	3.2	1.8	1,326	7	0.94				

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.42	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.42	60.1	25.8	10.7	2.4	1.0	1,290	43	0.85				

Q1-Q19の当区分平均値	4.23
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	実技
履修者数	160
回答者数	111

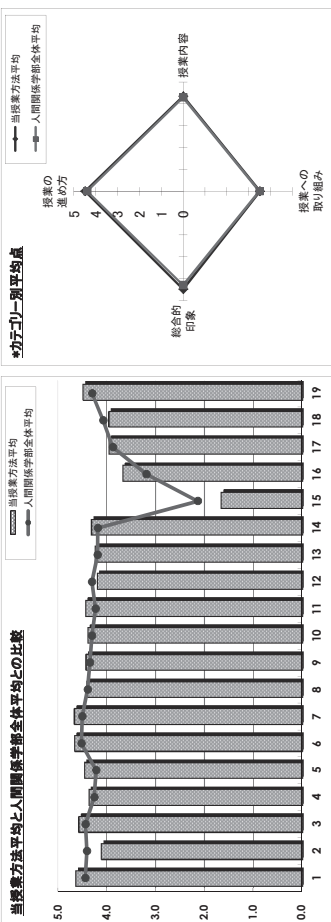
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.50
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答							
			5	4	3	2	1								
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.63	66.7	29.7	3.6	0.0	0.0	111	0	0.55					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.11	47.3	24.5	23.6	0.9	3.6	110	1	1.03					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.58	67.6	25.2	5.4	0.9	0.9	111	0	0.72					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.37	54.1	33.3	9.0	2.7	0.9	111	0	0.83					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.46	57.7	32.4	8.1	1.8	0.0	111	0	0.72					
6	教員の学生に対する話し方は公平だった	4.66	71.2	24.3	3.6	0.9	0.0	111	0	0.60					
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.67	70.3	26.1	3.6	0.0	0.0	111	0	0.54					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.35
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答							
			5	4	3	2	1								
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.41	52.3	38.7	7.2	1.8	0.0	111	0	0.71					
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.43	55.5	33.6	9.1	1.8	0.0	110	1	0.74					
10	授業の内容は興味深いものだった	4.39	52.3	36.0	9.9	1.8	0.0	111	0	0.74					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.43	56.8	31.5	9.9	1.8	0.0	111	0	0.75					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	45.0	34.2	17.1	2.7	0.9	111	0	0.88					
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.25	46.4	33.6	18.2	1.8	0.0	110	1	0.81					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答 数	3.51
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数							
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.31	51.4	31.2	14.7	2.8	0.0	109	2	0.82					
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.66	11.8	3.6	2.7	2.7	79.1	110	1	1.39					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.67	38.2	20.9	24.5	2.7	13.6	110	1	1.37					
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.95	38.7	30.6	22.5	3.6	4.5	111	0	1.08					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.96	36.7	31.5	21.6	3.6	4.5	111	0	1.08					

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.49	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.49	62.2	27.0	8.1	2.7	0.0	111	0	0.76				

Q1-Q19の当区分平均値	4.19
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	実技
履修者数	135
回答者数	117

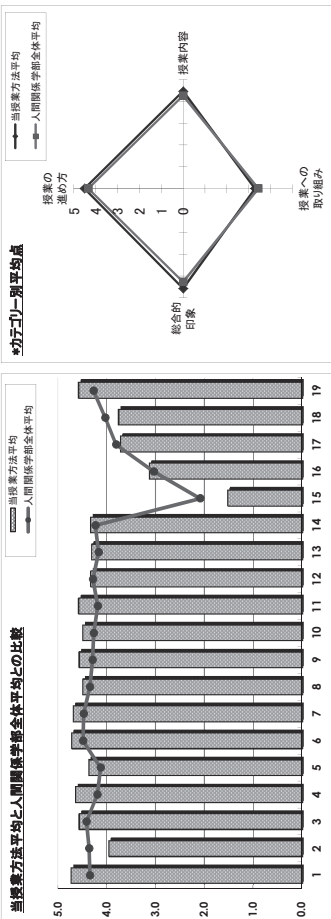
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.52
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答						
			5	4	3	2	1								
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.72	75.0	22.4	2.6	0.0	0.0	116	1	0.50					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	3.96	45.3	23.9	21.4	0.0	9.4	117	0	1.23					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.56	63.8	29.3	6.0	0.9	0.0	116	1	0.65					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.63	68.4	27.4	3.4	0.9	0.0	117	0	0.60					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.37	55.6	28.2	14.5	0.9	0.9	117	0	0.83					
6	教員の学生に対する話し方は公平だった	4.72	75.2	21.4	3.4	0.0	0.0	117	0	0.52					
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.68	72.6	23.9	2.6	0.9	0.0	117	0	0.57					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.46	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.49	59.8	31.6	6.8	0.9	0.9	117	0	0.74			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.56	63.2	29.9	6.8	0.0	0.0	117	0	0.62			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.49	60.7	29.9	6.8	2.6	0.0	117	0	0.74			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.57	61.5	34.2	4.3	0.0	0.0	117	0	0.58			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.32	53.0	31.6	12.0	1.7	1.7	117	0	0.88			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.31	56.4	25.6	11.1	6.0	0.9	117	0	0.95			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		有効 回答 数	標準 偏差	3.29
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数						
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	59.8	18.8	15.4	6.0	0.0	117	0	0.95				
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.53	6.0	6.0	4.3	2.6	81.2	117	0	1.19				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.13	29.1	13.7	23.1	9.4	24.8	117	0	1.55				
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.72	32.5	29.1	23.9	6.8	7.7	117	0	1.21				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.76	36.8	23.9	24.8	7.7	6.8	117	0	1.22				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答				
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.57	67.0	24.3	7.8	0.9	0.0	115	2	0.68		

Q1-Q19の当区分平均値	4.18
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・演習
履修者数	452
回答者数	376

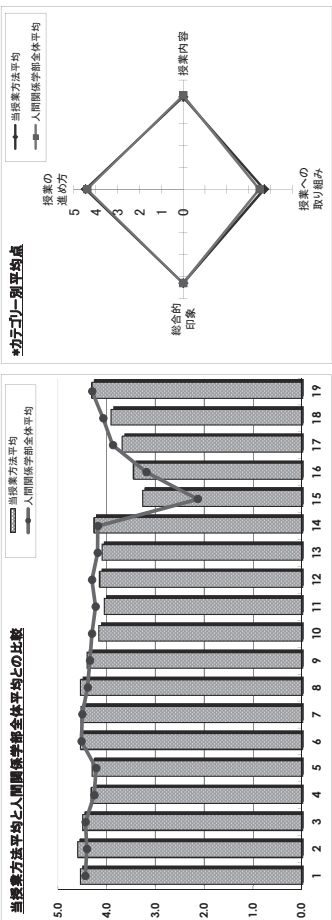
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.47
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.54	65.6	25.1	6.9	2.1	0.3	375	1	0.74		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.59	66.8	26.9	5.1	1.3	0.0	376	0	0.65		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.49	61.9	26.4	10.7	1.1	0.0	375	1	0.73		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.32	51.6	32.1	12.6	3.7	0.0	374	2	0.83		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.30	48.1	35.6	14.4	1.6	0.3	374	2	0.79		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.54	63.2	28.0	8.0	0.0	0.0	375	1	0.68		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.53	62.2	29.5	7.0	1.3	0.0	373	3	0.69		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.23
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.53	62.0	30.1	7.2	0.8	0.0	376	0	0.66		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.40	56.6	30.3	10.1	2.4	0.5	376	0	0.81		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.16	43.6	35.6	14.7	5.1	1.1	374	2	0.93		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.05	38.6	37.8	16.1	5.1	2.4	373	3	0.98		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.14	44.0	34.6	15.0	4.8	1.6	373	3	0.95		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	41.1	32.4	22.2	3.5	0.8	370	6	0.92		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.71
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.26	52.9	26.9	13.8	5.9	0.5	376	0	0.94		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	3.26	19.0	23.5	32.4	15.2	9.9	374	2	1.22		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.45	21.5	28.8	32.3	8.3	9.1	372	4	1.18		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.68	24.9	33.4	29.4	9.4	2.9	374	2	1.04		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.91	33.1	36.0	22.3	5.9	2.7	372	4	1.01		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.30
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.30	50.8	32.9	12.4	3.3	0.6	362	14	0.85		

Q1-Q19の当区分平均値	4.19
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・演習
履修者数	415
回答者数	365

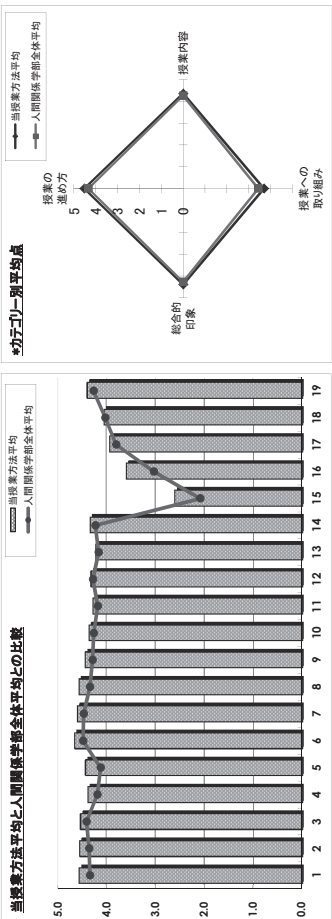
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.53
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.55	66.2	25.3	6.6	1.6	0.3	364	1	0.72		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.54	64.8	25.3	9.3	0.5	0.0	364	1	0.68		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.53	67.9	18.7	12.4	0.8	0.3	364	1	0.76		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.38	59.1	25.5	10.4	4.4	0.5	364	1	0.88		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.43	59.8	25.2	13.3	1.1	0.6	361	4	0.80		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.65	71.5	23.0	4.7	0.0	0.0	361	4	0.61		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.59	68.0	24.2	6.3	1.4	0.0	363	2	0.67		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.36
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.56	64.4	27.6	7.5	0.6	0.0	362	3	0.66		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.43	57.7	30.1	9.4	2.8	0.0	362	3	0.77		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.35	51.4	36.8	8.8	1.9	1.1	364	1	0.81		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.27	50.3	32.7	11.5	4.9	0.5	364	1	0.89		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.31	51.9	31.6	12.9	3.0	0.5	364	1	0.85		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	47.7	30.9	17.9	2.2	1.4	363	2	0.91		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.70
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	60.6	22.3	8.3	7.4	1.4	363	2	1.00		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.61	12.2	9.4	22.2	38.9	17.2	360	5	1.23		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.59	29.0	26.5	26.2	11.7	6.7	359	6	1.21		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.93	33.9	36.6	20.7	6.3	2.5	363	2	1.01		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.05	39.9	34.7	17.6	5.8	1.9	363	2	0.99		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.39
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	55.8	31.3	9.9	2.5	0.6	355	10	0.81		

Q1-Q19の当区分平均値	4.25
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・実習	履修者数	
		29	24
		履修者数	回答者数

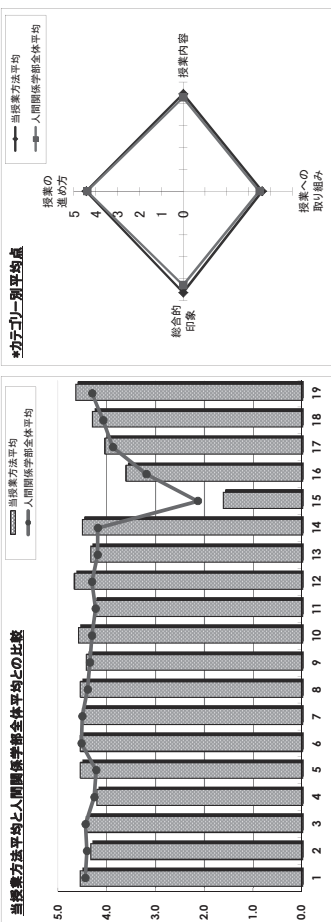
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.44	
No.	教員文	回答率(%)					平均点	有効回答	無効回答	標準偏差	有効回答	無効回答	標準偏差
		5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.54	70.8	20.8	4.2	0.0	4.2	24	0	0.93			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	54.2	29.2	12.5	4.2	0.0	24	0	0.87			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	58.3	25.0	16.7	0.0	0.0	24	0	0.78			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.21	58.3	12.5	25.0	0.0	4.2	24	0	1.10			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.54	70.8	16.7	8.3	4.2	0.0	24	0	0.83			
6	教員の学生に対する話し方は公平だった	4.54	70.8	12.5	16.7	0.0	0.0	24	0	0.78			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	24	0	0.66			

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.47	
No.	教員文	回答率(%)					平均点	有効回答	無効回答	標準偏差	有効回答	無効回答	標準偏差
		5	4	3	2	1							
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.54	66.7	20.8	12.5	0.0	0.0	24	0	0.72			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.42	58.3	33.3	4.2	0.0	4.2	24	0	0.93			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.58	62.5	33.3	4.2	0.0	0.0	24	0	0.58			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.25	58.3	20.8	12.5	4.2	4.2	24	0	1.11			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.67	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0	24	0	0.64			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.33	58.3	25.0	12.5	0.0	4.2	24	0	1.01			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.61	
No.	教員文	回答率(%)					平均点	有効回答	無効回答	標準偏差	有効回答	無効回答	標準偏差
		5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.50	66.7	16.7	16.7	0.0	0.0	24	0	0.78			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.63	12.5	0.0	0.0	12.5	75.0	24	0	1.35			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.61	43.5	13.0	21.7	4.3	17.4	23	1	1.53			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.04	50.0	20.8	20.8	0.0	8.3	24	0	1.23			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.29	50.0	29.2	20.8	0.0	0.0	24	0	0.81			

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.64	
No.	教員文	回答率(%)					平均点	有効回答	無効回答	標準偏差	有効回答	無効回答	標準偏差
		5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.64	68.2	27.3	4.5	0.0	0.0	22	2	0.58			

Q1-Q19の当区分平均値	4.24
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・実習	履修者数	
		32	31
		履修者数	回答者数

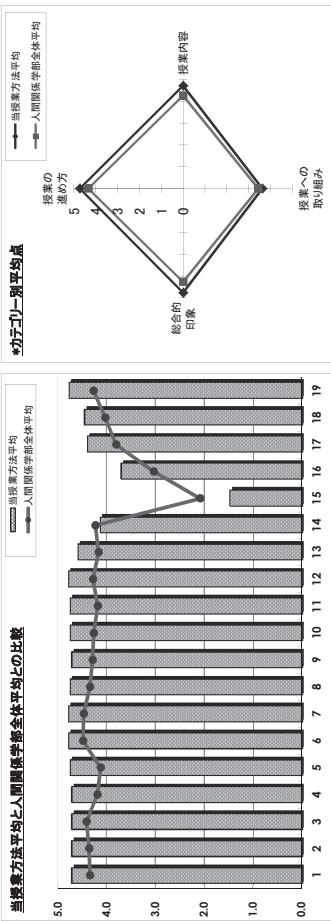
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.73	
No.	教員文	回答率(%)					平均点	有効回答	無効回答	標準偏差	有効回答	無効回答	標準偏差
		5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.71	80.6	12.9	3.2	0.0	3.1	0	0.69				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.71	80.6	12.9	3.2	0.0	3.1	0	0.69				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.71	80.6	12.9	3.2	0.0	3.1	0	0.69				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.71	80.6	12.9	3.2	0.0	3.1	0	0.69				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.74	83.9	9.7	3.2	0.0	3.1	0	0.68				
6	教員の学生に対する話し方は公平だった	4.77	87.1	6.5	3.2	0.0	3.1	0	0.67				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.77	87.1	6.5	3.2	0.0	3.1	0	0.67				

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.72	
No.	教員文	回答率(%)					平均点	有効回答	無効回答	標準偏差	有効回答	無効回答	標準偏差
		5	4	3	2	1							
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.74	83.9	9.7	3.2	0.0	3.1	0	0.68				
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.71	77.4	19.4	0.0	3.2	0.0	3.1	0	0.64			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.74	83.9	9.7	3.2	0.0	3.1	0	0.68				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.74	83.9	9.7	3.2	0.0	3.1	0	0.68				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.77	87.1	6.5	3.2	0.0	3.1	0	0.67				
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.58	74.2	12.9	9.7	3.2	0.0	3.1	0	0.81			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.63	
No.	教員文	回答率(%)					平均点	有効回答	無効回答	標準偏差	有効回答	無効回答	標準偏差
		5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.13	41.9	38.7	12.9	3.2	3.2	31	0	0.99			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習、課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.48	0.0	3.2	9.7	19.4	67.7	31	0	0.81			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.70	46.7	16.7	16.7	0.0	20.0	30	1	1.56			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.39	64.5	22.6	3.2	6.5	3.2	31	0	1.05			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.45	67.7	22.6	0.0	6.5	3.2	31	0	1.03			

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.77	
No.	教員文	回答率(%)					平均点	有効回答	無効回答	標準偏差	有効回答	無効回答	標準偏差
		5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.77	86.7	10.0	0.0	0.0	3.3	30	1	0.77			

Q1-Q19の当区分平均値	4.44
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任	履修者数	3,559
		回答者数	2,613

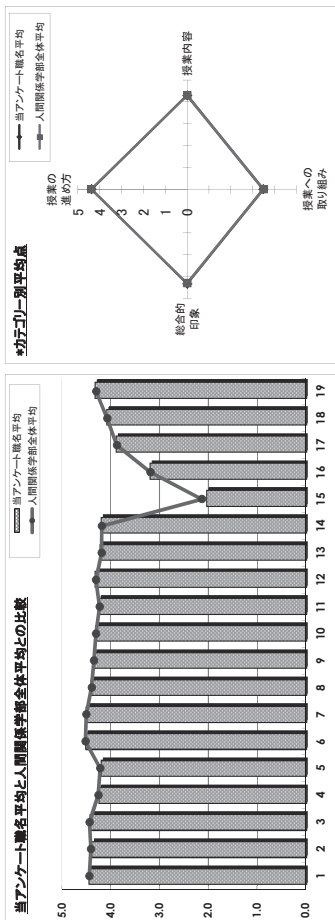
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		有効回答数	無効回答数	総数
No.	設問文	平均点	回答率(%)					5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.44	59.8	28.8	8.3	2.5	0.7	2.604	9	0.80				
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.38	56.7	29.6	9.9	2.8	1.0	2.402	11	0.85				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	60.3	25.3	10.9	2.8	0.7	2.600	13	0.84				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.24	49.5	31.2	14.1	4.0	1.2	2.599	14	0.92				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.20	49.0	28.5	17.0	4.4	1.2	2.597	16	0.95				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	64.0	25.4	8.9	1.3	0.4	2.598	15	0.74				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	61.8	28.5	7.9	1.3	0.5	2.595	18	0.74				

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		有効回答数	無効回答数	総数
No.	設問文	平均点	回答率(%)					5	4	3	2	1		
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.39	56.0	30.7	10.5	2.2	0.6	2.601	12	0.81				
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.34	55.0	29.1	11.8	3.0	1.0	2.596	17	0.88				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.30	53.4	29.5	12.3	3.4	1.4	2.597	16	0.91				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.24	50.8	30.1	13.2	4.3	1.5	2.598	15	0.95				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.32	54.1	29.1	12.7	2.9	1.2	2.597	16	0.89				
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	48.3	29.0	18.9	2.7	1.0	2.583	30	0.91				

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		有効回答数	無効回答数	総数
No.	設問文	平均点	回答率(%)					5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.20	50.7	27.8	13.6	6.5	1.4	2.593	20	0.99				
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.04	7.4	7.0	15.1	23.4	47.1	2.586	27	1.25				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.20	24.8	20.2	25.2	9.9	19.9	2.564	49	1.43				
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.89	36.4	30.6	23.0	6.0	4.0	2.587	26	1.09				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.08	43.7	30.7	18.1	5.0	2.5	2.582	31	1.02				

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		有効回答数	無効回答数	総数
No.	設問文	平均点	回答率(%)					5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.32	54.5	28.8	12.4	2.9	1.4	2.496	117	0.90				

Q1-Q19の当区分平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任	履修者数	4,300
		回答者数	3,282

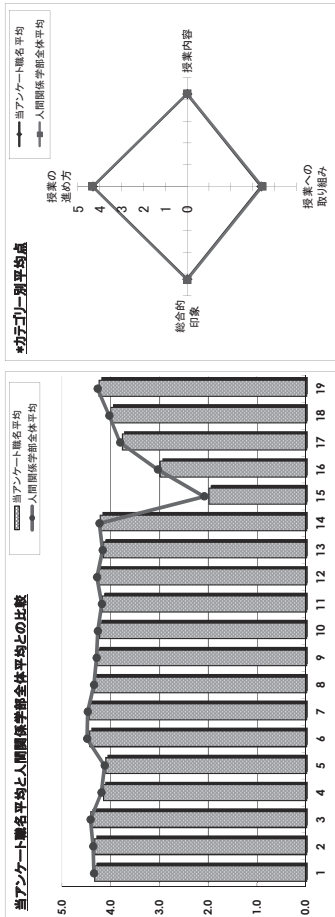
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		有効回答数	無効回答数	総数
No.	設問文	平均点	回答率(%)					5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.33	54.3	30.7	9.8	4.0	1.2	3.277	5	0.90				
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	52.9	32.7	10.6	2.5	1.3	3.271	11	0.86				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.41	59.0	26.7	11.4	2.0	0.8	3.271	11	0.83				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	45.9	32.1	15.4	4.9	1.8	3.270	12	0.97				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.11	44.1	31.2	18.2	4.3	2.2	3.269	13	0.99				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.44	59.9	27.3	10.1	1.7	0.9	3.264	18	0.81				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	59.0	29.5	9.2	1.5	0.8	3.265	17	0.78				

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		有効回答数	無効回答数	総数
No.	設問文	平均点	回答率(%)					5	4	3	2	1		
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.34	52.9	33.3	10.3	2.4	1.1	3.272	10	0.84				
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.27	50.8	32.1	12.2	3.6	1.3	3.265	17	0.91				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.23	49.2	31.9	13.8	3.2	1.8	3.271	11	0.93				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.17	45.3	34.8	13.7	4.2	2.0	3.267	15	0.95				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	50.2	31.2	13.9	2.9	1.7	3.266	16	0.92				
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	44.1	33.1	18.0	3.2	1.6	3.255	27	0.93				

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		有効回答数	無効回答数	総数
No.	設問文	平均点	回答率(%)					5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	52.7	25.2	14.3	6.3	1.5	3.256	26	1.01				
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.00	6.2	6.7	13.7	27.5	45.8	3.259	23	1.19				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.99	18.6	18.9	27.7	12.6	22.2	3.241	41	1.40				
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.77	31.3	31.2	25.0	7.8	4.6	3.255	27	1.11				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.00	39.1	33.1	19.4	5.2	3.1	3.252	30	1.04				

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		有効回答数	無効回答数	総数
No.	設問文	平均点	回答率(%)					5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	50.0	30.7	14.3	3.1	1.9	3.165	117	0.94				

Q1-Q19の当区分平均値	4.05
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	4.1EP	履修者数	411
		回答者数	289

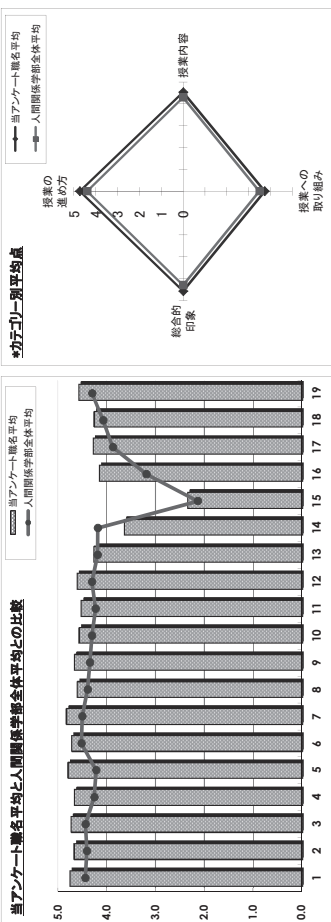
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.73	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	有効回答	無効回答	総数
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.75	78.5	18.7	2.4	0.3	0.0	289	0	0.51			
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.66	72.0	23.2	4.2	0.7	0.0	289	0	0.59			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.73	76.8	19.0	4.2	0.0	0.0	289	0	0.53			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.66	71.6	23.2	4.8	0.0	0.3	289	0	0.60			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.79	81.0	17.3	1.4	0.3	0.0	289	0	0.46			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.72	79.6	15.2	3.8	0.3	1.0	289	0	0.65			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.82	85.1	12.5	2.1	0.3	0.0	288	1	0.46			

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.53	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	有効回答	無効回答	総数
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.60	67.1	26.3	5.9	0.7	0.0	289	0	0.63			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.66	69.9	26.0	4.2	0.0	0.0	289	0	0.56			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.56	66.8	24.6	6.9	1.7	0.0	289	0	0.70			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.52	63.3	24.3	9.3	1.0	0.0	289	0	0.71			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.61	72.0	19.0	6.6	2.4	0.0	289	0	0.72			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.26	52.4	25.0	19.4	2.4	0.7	288	1	0.90			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.74	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	有効回答	無効回答	総数
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.64	21.3	38.3	27.2	9.8	3.5	287	2	1.03			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.35	8.0	6.2	19.7	45.3	20.8	289	0	1.12			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	4.15	45.3	30.5	19.3	3.9	1.1	285	4	0.94			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.28	53.6	26.0	16.3	2.8	1.4	289	0	0.93			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.26	50.9	27.5	18.8	2.1	0.7	287	2	0.88			

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.57	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	有効回答	無効回答	総数
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.57	66.2	21.4	9.6	0.7	0.0	280	9	0.69			

Q1-Q19の当区分平均値	4.40
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	4.1EP	履修者数	397
		回答者数	306

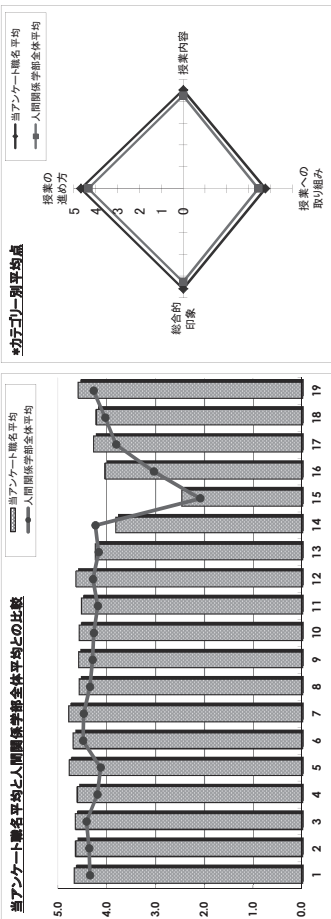
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.49	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	有効回答	無効回答	総数
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.67	72.5	22.5	4.2	0.7	0.0	306	0	0.59			
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.64	70.9	22.5	6.2	0.3	0.0	306	0	0.61			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.65	72.2	20.3	7.5	0.0	0.0	306	0	0.62			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.61	70.6	20.6	7.8	1.0	0.0	306	0	0.67			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.77	81.7	13.7	4.6	0.0	0.0	306	0	0.52			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.69	78.4	13.7	6.5	1.0	0.3	306	0	0.67			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.78	82.7	13.1	4.2	0.0	0.0	306	0	0.50			

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.52	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	有効回答	無効回答	総数
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.57	66.3	25.2	7.8	0.7	0.0	306	0	0.67			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.58	67.6	23.5	8.5	0.3	0.0	306	0	0.66			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.57	66.7	24.2	8.5	0.7	0.0	306	0	0.68			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.52	64.3	24.6	10.5	0.7	0.0	305	1	0.71			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.63	72.5	19.6	6.5	1.0	0.3	306	0	0.68			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.24	52.6	22.9	21.2	2.3	1.0	306	0	0.93			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.77	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	有効回答	無効回答	総数
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.82	26.8	40.5	21.2	10.5	1.0	306	0	0.98			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.48	8.2	8.5	20.6	48.4	14.4	306	0	1.10			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	4.04	38.7	33.8	21.5	4.6	1.3	302	4	0.95			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.27	51.3	28.4	17.0	2.6	0.7	306	0	0.88			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.22	47.2	30.5	20.0	2.0	0.3	305	1	0.86			

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.59	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	有効回答	無効回答	総数
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.59	70.2	19.7	8.4	1.7	0.0	299	7	0.72			

Q1-Q19の当区分平均値	4.39
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	1.専任	履修者数	4,260
		回答者数	3,114

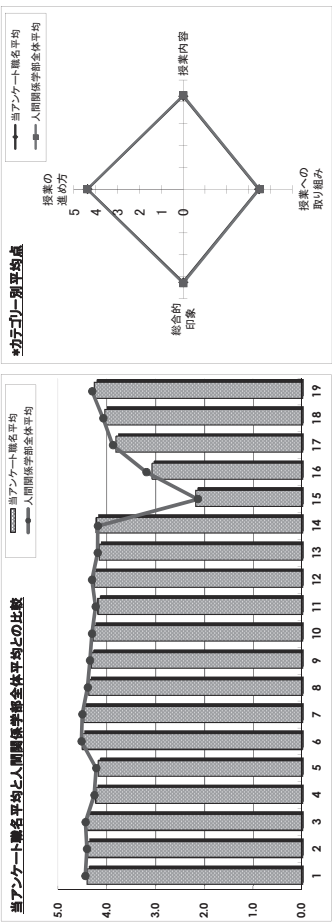
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答 数	4.38
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数							
			5	4	3	2	1								
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.41	57.9	30.1	7.8	3.2	0.9	3,109	5	0.84					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	57.4	29.8	9.3	2.3	1.1	3,108	6	0.83					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	59.2	27.5	10.3	2.3	0.7	3,105	9	0.82					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.23	48.4	32.9	13.4	4.2	1.0	3,105	9	0.91					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	47.8	30.5	15.5	4.4	1.8	3,102	12	0.97					
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	63.1	26.9	8.1	1.3	0.5	3,103	11	0.75					
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	60.9	29.0	8.0	1.4	0.7	3,099	15	0.76					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	無効 回答 数	4.26
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数						
			5	4	3	2	1								
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.37	55.3	30.9	10.7	2.2	1.0	3,105	9	0.83					
9	授業の構成は体系的で把握しやすくてよかった	4.32	53.4	30.7	11.4	3.2	1.3	3,103	11	0.89					
10	授業の内容は興味深いものだった	4.28	51.6	31.5	11.7	3.8	1.3	3,103	11	0.91					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.19	45.9	34.5	13.9	3.9	1.8	3,100	14	0.94					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	50.6	31.5	13.0	3.4	1.5	3,093	21	0.91					
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.16	45.0	31.8	18.9	3.2	1.1	3,082	32	0.92					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	標準 偏差	3.47
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数							
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	52.8	26.2	12.9	6.6	1.5	3,090	24	1.00					
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.19	8.9	8.2	16.4	25.7	40.8	3,095	19	1.29					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.08	21.1	19.7	27.1	10.8	21.4	3,082	32	1.41					
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.82	32.9	31.7	23.8	7.5	4.1	3,099	15	1.10					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.05	41.0	32.8	18.9	4.8	2.6	3,092	22	1.01					

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.26	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	51.2	30.1	13.7	3.6	1.5	2,991	123	0.93			

Q1-Q19の当区分平均値	4.10
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	1.専任	履修者数	4,061
		回答者数	3,190

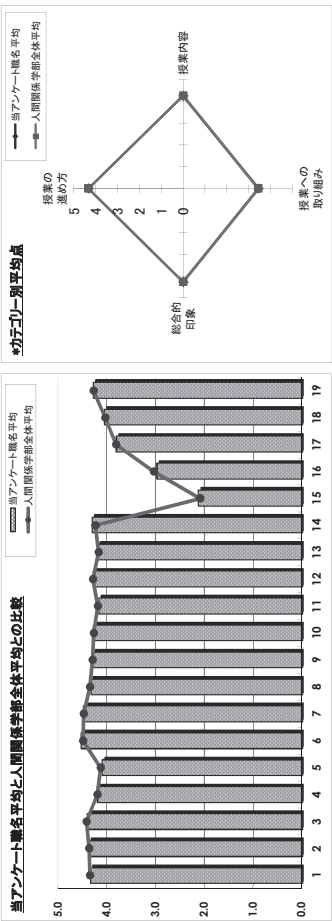
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		有効 回答 数	標準 偏差	4.34
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数						
			5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.33	56.4	28.0	9.9	4.0	1.7	3,182	8	0.93				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	56.2	28.5	11.5	2.9	0.8	3,181	9	0.86				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.40	58.1	26.9	12.3	2.0	0.6	3,179	11	0.83				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.19	48.2	29.7	16.2	4.6	1.3	3,183	7	0.95				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	46.7	26.1	19.1	5.6	2.5	3,174	16	1.05				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.52	63.9	26.1	8.4	1.0	0.6	3,173	17	0.74				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	60.9	28.0	8.9	1.7	0.5	3,169	21	0.77				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.25	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	有効 割合	無効 割合		
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.32	53.7	29.6	13.0	3.1	0.7	3,178	12	0.87			
9	授業の構成は体系的で把握しやすくてよかった	4.28	52.0	30.4	12.7	3.6	1.3	3,175	15	0.91			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.27	51.9	29.8	12.8	4.1	1.4	3,174	16	0.93			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.16	47.4	30.2	15.5	5.1	1.8	3,172	18	0.98			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	52.6	28.9	13.5	3.7	1.3	3,171	19	0.92			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.18	46.6	30.1	19.2	3.0	1.1	3,159	31	0.92			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	3.45
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答						
			5	4	3	2	1		無効 回答	無効 回答	無効 回答				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	57.6	23.2	12.3	5.2	1.8	3,162	28	0.99					
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.13	8.4	6.4	15.6	28.7	40.9	3,165	25	1.25					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.98	20.4	17.8	25.3	12.2	24.3	3,151	39	1.45					
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.80	34.5	28.8	24.0	7.9	4.8	3,170	20	1.14					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.04	42.5	30.7	18.4	5.5	2.9	3,162	28	1.04					

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		有効 回答	標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答					
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	53.2	27.3	14.6	3.5	1.5	3,071	119	0.93			

Q1-Q19の当区分平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	35歳以下	671	479
履修者数			
回答者数			

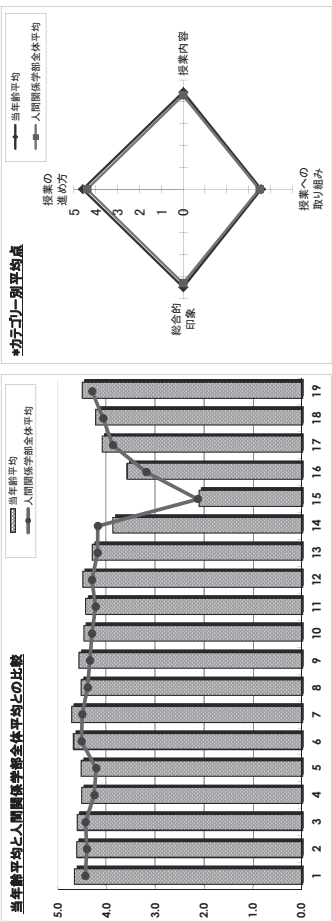
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点			標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.64	72.2	21.1	5.6	0.8	0.2	479	0	0.65	0.66		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.60	68.9	23.6	6.5	1.0	0.0	479	0				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.59	70.6	19.6	8.6	1.3	0.0	479	0	0.70			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.50	63.0	25.7	9.8	1.0	0.4	479	0	0.75			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.51	65.8	22.5	9.0	2.3	0.4	479	0	0.79			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.67	75.1	18.2	5.6	0.4	0.6	478	1	0.66			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.71	76.7	17.6	5.5	0.2	0.0	477	2	0.57			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	無効 回答 数	標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数	標準 偏差					
			5	4	3	2	1								
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.51	61.8	28.4	8.6	1.3	0.0	479	0	0.71	0.69	0.71			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.55	65.3	25.9	7.5	1.3	0.0	478	1						
10	授業の内容は興味深いものだった	4.46	61.5	26.2	9.4	2.5	0.4	478	1	0.80	0.81	0.80			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.42	59.6	25.3	12.6	2.3	0.2	478	1						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.48	64.0	23.2	9.8	2.7	0.2	478	1	0.80	0.89	0.89			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.28	53.5	24.6	18.9	2.5	0.4	475	4						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	3.57
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答						
			5	4	3	2	1								
14	この授業にとどの程度出席しましたか	3.86	31.7	36.3	20.5	9.6	1.9	477	2	1.03					
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.11	6.5	5.9	16.6	34.2	36.9	477	2	1.16					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.58	34.4	24.1	20.3	7.6	13.7	474	5	1.38					
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.08	44.4	28.7	20.1	4.2	2.5	477	2	1.02					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.22	47.9	30.5	17.9	2.9	0.8	476	3	0.90					

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答			
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.49	63.2	24.4	10.7	1.5	0.2	459	20	0.76		

Q1-Q18の当区分平均値	4.28
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	35歳以下	357	261
履修者数			
回答者数			

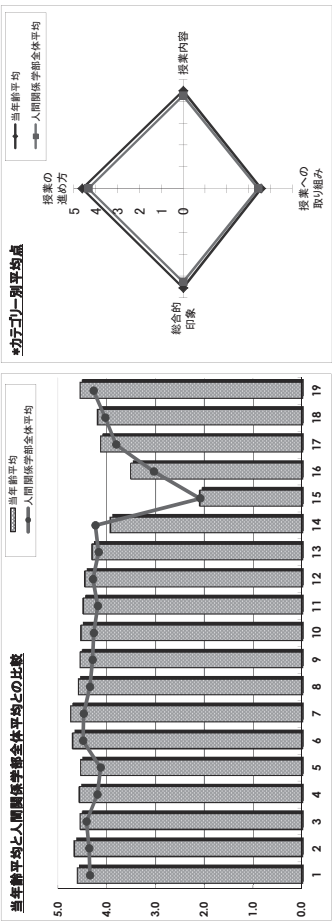
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.61	70.5	21.5	6.1	1.9	0.0	261	0	0.69	0.52		
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	4.67	69.0	28.7	2.3	0.0	0.0	261	0	0.69			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.54	65.1	24.5	10.0	0.4	0.0	261	0	0.69	0.67		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.56	65.5	26.1	7.7	0.8	0.0	261	0	0.79			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.54	67.8	21.1	9.2	0.8	1.1	261	0	0.79	0.55		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.70	74.6	20.8	4.6	0.0	0.0	260	1	0.55			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.74	77.8	18.8	3.1	0.4	0.0	261	0	0.53			

Ⅱ. この授業の内容について										当カゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.48
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答							
			5	4	3	2	1									
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.58	65.5	27.0	5.7	0.8	0.0	261	0	0.64						
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.54	64.4	28.2	6.9	1.5	0.0	261	0	0.69						
10	授業の内容は興味深いものだった	4.53	62.1	29.9	6.9	1.1	0.0	261	0	0.68						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.48	58.6	32.6	7.3	1.5	0.0	261	0	0.70						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	60.9	26.4	10.0	2.3	0.4	261	0	0.80						
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.30	51.0	31.7	15.1	1.2	1.2	259	2	0.85						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準 偏差	3.57
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.93	35.0	33.1	22.7	8.5	0.8	260	1	0.99			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.10	6.5	5.4	15.7	36.8	35.6	261	0	1.14			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.51	31.3	23.2	24.3	7.7	13.5	259	2	1.36			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.13	47.1	28.0	17.6	5.0	2.3	261	0	1.02			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.19	45.8	33.1	16.5	3.5	1.2	260	1	0.91			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答			
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.54	65.0	24.9	9.7	0.4	0.0	257	4	0.68		

Q1-Q18の当区分平均値	4.30
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢 36～40歳

履修者数	1,526
回答者数	1,054

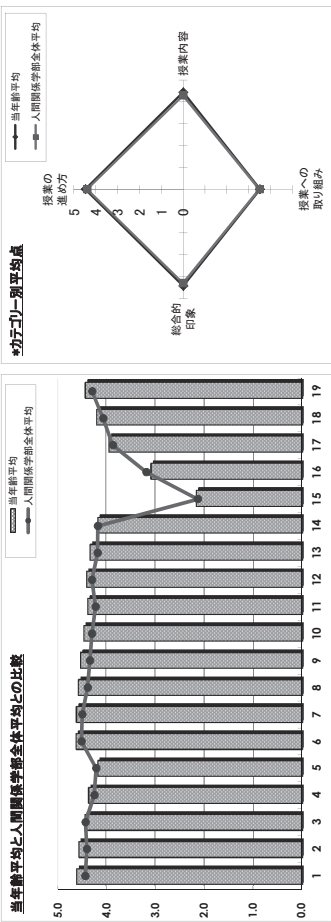
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	標準 偏差	4.48
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数							
			5	4	3	2	1								
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.60	67.0	27.3	4.7	0.9	0.1	1,053	1	0.64					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.56	65.9	26.0	6.7	1.3	0.2	1,052	2	0.69					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.43	60.8	25.7	10.2	2.7	0.7	1,051	3	0.83					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.36	53.1	32.9	10.9	3.0	0.2	1,049	5	0.80					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	47.2	29.1	18.7	3.8	1.1	1,050	4	0.94					
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.61	68.5	24.3	7.0	0.2	0.0	1,049	5	0.62					
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.61	68.0	25.5	5.7	0.6	0.2	1,048	6	0.64					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答						
			5	4	3	2	1	有効 回答 数	有効 回答 率					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.57	64.9	27.5	6.9	0.8	0.0	1,051	3	0.45				
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.52	63.3	27.3	7.9	1.2	0.2	1,050	4	0.71				
10	授業の内容は興味深いものだった	4.46	60.6	28.1	8.7	2.0	0.7	1,050	4	0.79				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.38	54.5	32.3	10.1	2.3	0.8	1,049	5	0.82				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.40	58.0	28.1	10.5	2.7	0.7	1,046	8	0.83				
13	「授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.33	52.5	30.1	15.2	1.8	0.4	1,046	8	0.82				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	標準 偏差	3.51
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数							
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	49.0	28.3	14.8	6.6	1.2	1,046	8	0.99					
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.17	7.2	8.1	18.4	27.2	39.1	1,045	9	1.23					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.09	22.0	19.8	26.1	9.1	22.9	1,044	10	1.44					
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.94	36.9	32.0	22.4	5.5	3.1	1,048	6	1.05					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.20	47.3	31.5	16.3	3.3	1.6	1,046	8	0.94					

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリ平均点		有効 回答 数	標準 偏差
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効 回答					
			5	4	3	2	1	回数	割合				
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.42	57.6	29.8	10.4	1.8	0.4	1,002	52	0.78			

Q1-Q18の当区分平均値	4.21
Q1-Q18の学部全体平均値	4.12
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢 36～40歳

履修者数	1,301
回答者数	1,002

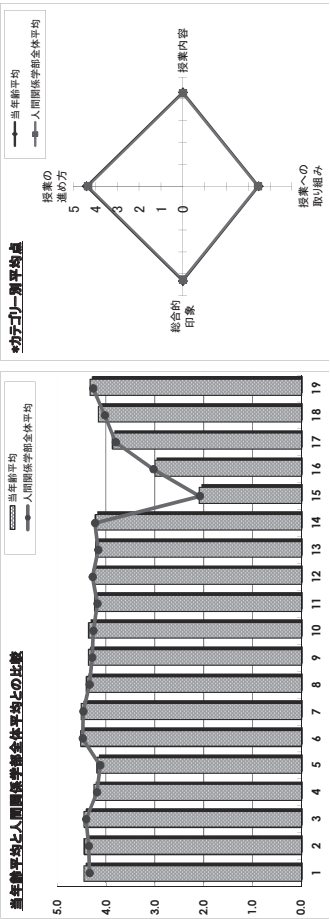
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		有効 回答 数	標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効回答					
			5	4	3	2	1	有効 回答 数	平均点				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.46	59.4	30.6	6.9	2.4	0.7	999	3	0.78			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.45	58.7	30.6	8.6	1.4	0.7	998	4	0.77			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.45	61.1	26.2	10.5	1.5	0.7	997	5	0.80			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.25	49.8	31.3	14.5	3.3	1.1	998	4	0.90			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.19	48.0	30.1	16.8	3.2	1.9	995	7	0.96			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.53	63.5	27.5	7.8	0.6	0.6	994	8	0.72			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	61.5	29.7	7.4	1.0	0.4	993	9	0.71			

Ⅱ. この授業の内容について													当カテゴリー平均点		有効 回答 数	標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数								
			5	4	3	2	1									
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.40	55.3	32.4	10.1	1.8	0.4	998	4	0.77						
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.36	53.7	32.6	11.0	1.9	0.8	997	5	0.81						
10	授業の内容は興味深いものだった	4.36	54.1	32.1	10.5	2.4	0.9	998	4	0.83						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.24	47.8	33.5	14.1	3.4	1.1	999	3	0.89						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	49.6	31.7	14.6	3.1	0.9	997	5	0.88						
13	「授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	46.0	33.0	17.9	2.3	0.8	991	11	0.87						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について													当カテゴリー平均点		有効 回答 数	標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数								
			5	4	3	2	1	有効 回答 数	有効 回答 数	有効 回答 数						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	53.0	24.9	14.5	6.4	1.1	994	8	0.99						
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.10	9.1	6.6	13.1	27.4	43.9	992	10	1.28						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.01	19.0	19.4	27.0	12.7	22.0	992	10	1.40						
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.87	35.0	29.7	25.2	7.4	2.7	993	9	1.06						
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.16	44.6	32.5	18.2	3.2	1.4	990	12	0.93						

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		有効 回答 数	標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効 回答 数					
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.33	52.5	31.4	13.4	2.2	0.5	968	34	0.83			

Q1-Q18の当区分平均値	4.12
Q1-Q18の学部全体平均値	4.07
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	41～45歳
履修者数	848
回答者数	671

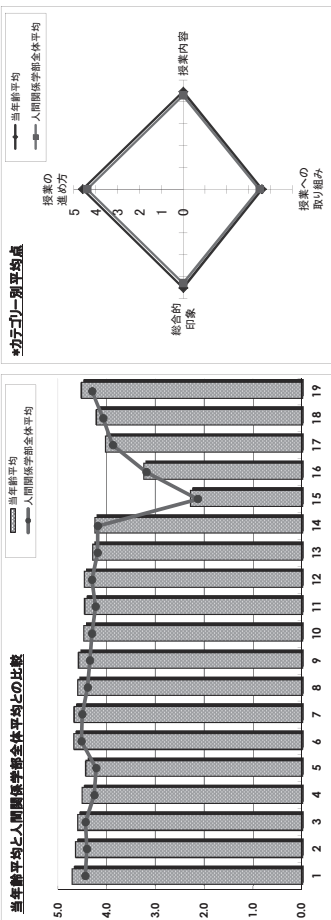
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効 回答	標準 偏差	4.60
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答							
			5	4	3	2	1								
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.70	74.9	21.7	2.7	0.4	0.3	668	3	0.57					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.64	70.0	25.3	3.7	0.3	0.6	667	4	0.63					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.60	69.3	23.2	5.8	1.0	0.6	667	4	0.70					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.50	62.3	28.1	7.5	1.5	0.6	665	6	0.75					
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.43	56.8	30.6	11.1	1.5	0.0	664	7	0.75					
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.67	73.2	21.0	5.5	0.3	0.0	667	4	0.59					
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.67	71.5	24.3	3.6	0.5	0.2	663	8	0.58					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	標準 偏差	4.47
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数							
			5	4	3	2	1								
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.59	45.6	28.7	5.1	0.5	0.2	666	5	0.62					
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.58	66.2	26.9	5.9	0.5	0.6	666	5	0.68					
10	授業の内容は興味深いものだった	4.46	61.1	27.3	9.0	1.8	0.8	666	5	0.79					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.45	58.4	30.9	8.4	1.7	0.6	666	5	0.77					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.46	60.5	27.9	9.2	1.5	0.9	664	7	0.79					
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.29	51.0	30.6	15.7	1.8	0.9	661	10	0.86					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答	標準 偏差	3.60
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	3.60					
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	52.2	28.3	12.1	6.3	1.0	667	4	0.97					
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせて どの程度時間をかけましたか	2.29	10.7	10.2	17.6	20.5	41.1	665	6	1.37					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.25	26.0	20.5	25.1	9.0	19.5	658	13	1.43					
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.03	41.1	29.7	21.9	5.1	2.1	666	5	1.01					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.21	48.7	29.7	16.9	3.2	1.5	663	8	0.94					

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答			
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.52	63.4	27.0	8.0	0.8	0.8	640	31	0.74		

Q1-Q18の当区分平均値	4.29
Q1-Q18の学部全体平均値	4.12
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	41～45歳
履修者数	956
回答者数	735

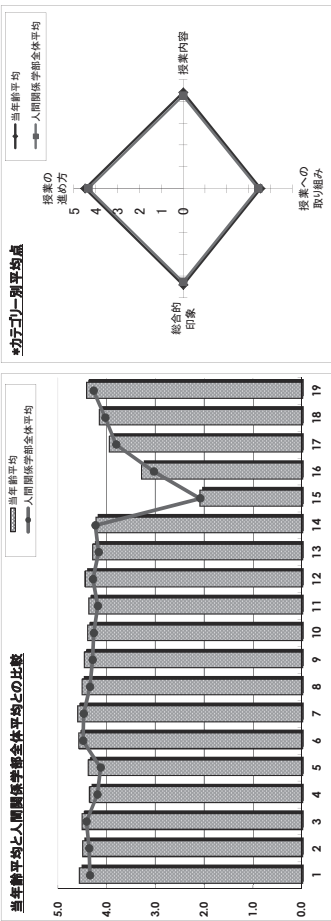
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		有効 回答 数	標準 偏差	4.49
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数						
			5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.55	67.1	23.8	7.2	1.2	0.7	735	0	0.74				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.49	62.2	27.0	9.0	1.4	0.4	733	2	0.75				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.50	65.6	22.0	10.2	1.5	0.7	733	2	0.79				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.35	56.1	27.2	12.7	3.1	0.8	732	3	0.88				
5	質問や意見を引けはし、学生の積極的な参加を促した	4.38	56.5	28.5	12.0	2.2	0.8	731	4	0.84				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.57	67.6	23.5	7.7	0.8	0.4	731	4	0.71				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.59	68.6	23.6	6.8	0.5	0.4	730	5	0.68				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		有効 回答	標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答					
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.50	62.3	27.6	8.6	1.0	0.5	732	3	0.74			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.45	61.5	25.5	10.4	2.1	0.5	730	5	0.80			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.39	57.7	27.6	11.7	2.0	1.0	732	3	0.84			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.37	56.8	27.3	12.5	2.7	0.7	729	6	0.85			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	60.5	26.3	10.3	2.2	0.7	727	8	0.82			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.28	52.8	26.1	18.2	1.9	1.0	727	8	0.89			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	3.54
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答						
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	53.5	25.4	12.1	7.4	1.5	727	8	1.02					
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.09	7.4	5.5	15.0	33.3	38.8	727	8	1.19					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.29	25.8	20.9	25.3	12.2	15.9	724	11	1.39					
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.94	37.9	31.3	22.0	4.7	4.1	726	9	1.08					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.15	46.7	28.9	18.9	3.7	1.8	726	9	0.97					

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答			
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.41	59.6	26.3	10.6	2.4	1.1	708	27	0.86		

Q1-Q18の当区分平均値	4.21
Q1-Q18の学部全体平均値	4.07
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	46～50歳
履修者数	1,274
回答者数	964

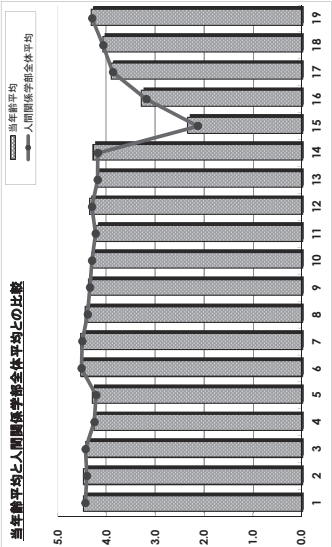
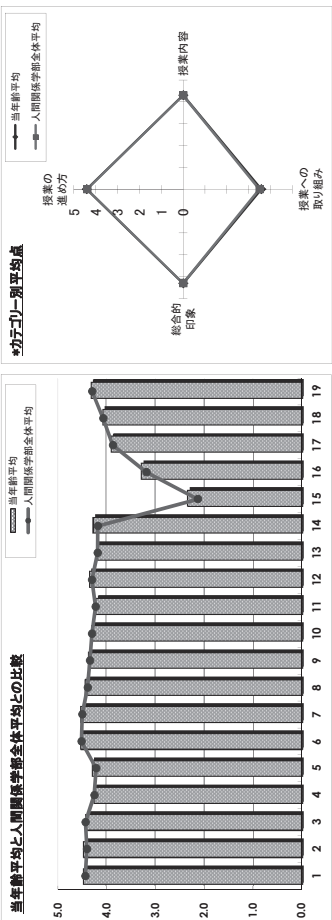
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.42
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.47	61.1	28.5	7.2	2.4	0.8	961	3	0.80		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.46	60.4	29.5	7.0	2.3	0.8	959	5	0.79		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	57.2	30.0	10.4	1.9	0.4	959	5	0.78		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.25	49.4	32.4	13.1	3.8	1.3	959	5	0.91		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.29	52.1	30.4	12.5	4.3	0.7	958	6	0.89		
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.53	63.7	27.3	7.4	1.0	0.5	958	6	0.72		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.52	62.6	29.0	6.6	1.3	0.5	958	6	0.72		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.31
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.43	57.6	31.2	8.9	1.7	0.7	959	5	0.78		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.37	55.7	30.7	9.6	2.7	1.3	957	7	0.86		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.30	53.1	30.5	10.9	4.2	1.4	957	7	0.92		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.21	49.9	31.2	11.5	4.8	2.5	957	7	0.99		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.34	54.1	30.9	11.5	2.3	1.3	959	5	0.86		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.19	45.5	32.4	18.8	2.2	1.0	956	8	0.89		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.57
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	55.0	25.9	11.7	5.7	1.7	957	7	0.99		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.34	11.6	9.0	18.4	24.4	36.6	958	6	1.35		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.29	23.3	23.5	27.5	9.9	15.8	953	11	1.35		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.90	35.6	32.2	22.0	6.7	3.4	957	7	1.07		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.08	42.1	33.2	17.2	4.9	2.5	957	7	1.01		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.31
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	54.3	27.8	14.1	2.5	1.4	932	32	0.90		

Q1-Q19の当区分平均値	4.16
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	46～50歳
履修者数	1,473
回答者数	1,180

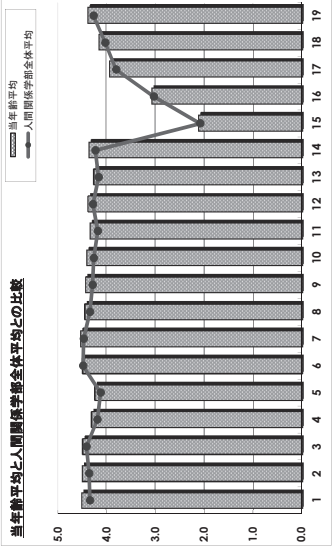
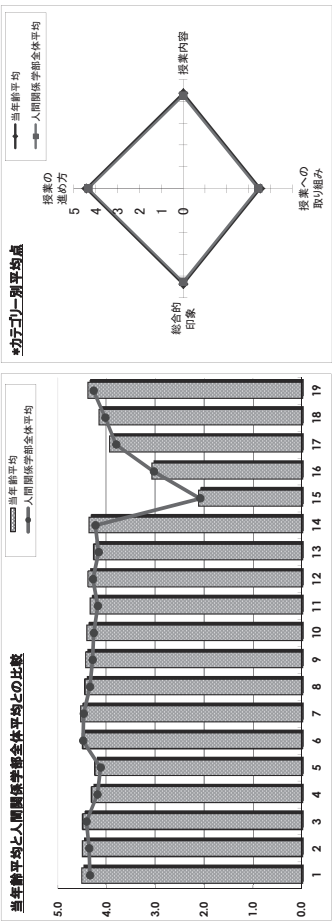
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.43
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.50	63.7	27.2	6.0	2.0	1.1	1,178	2	0.79		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.49	62.9	27.5	6.9	1.4	1.3	1,177	3	0.79		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.48	62.9	25.7	8.9	1.7	0.8	1,174	6	0.79		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.30	52.2	32.3	11.0	2.9	1.7	1,177	3	0.90		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.24	50.0	30.0	13.4	2.7	1.9	1,176	4	0.94		
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.49	63.9	24.4	9.0	1.5	1.1	1,178	2	0.81		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.53	65.2	25.6	7.1	0.9	1.2	1,174	6	0.77		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.37
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.44	60.1	28.2	8.2	2.2	1.3	1,176	4	0.83		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.42	59.4	28.6	8.3	2.1	1.5	1,176	4	0.85		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.40	58.2	28.6	9.9	1.1	2.1	1,177	3	0.87		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.33	53.5	32.2	10.1	2.4	1.8	1,173	7	0.89		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.37	57.2	28.2	11.2	1.4	2.0	1,177	3	0.88		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.25	49.7	32.0	14.4	2.1	1.9	1,176	4	0.91		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.53
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	59.7	23.4	10.4	5.5	1.0	1,169	11	0.94		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.12	7.7	8.4	13.7	28.5	41.7	1,176	4	1.25		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.07	21.8	18.4	26.5	11.8	21.5	1,169	11	1.42		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.94	37.4	32.0	21.2	5.8	3.6	1,172	8	1.07		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.15	44.7	34.1	15.1	3.1	2.9	1,169	11	0.98		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.37
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.37	58.4	26.3	11.4	2.1	1.8	1,136	44	0.90		

Q1-Q19の当区分平均値	4.17
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	51～55歳
履修者数	1,094
回答者数	828

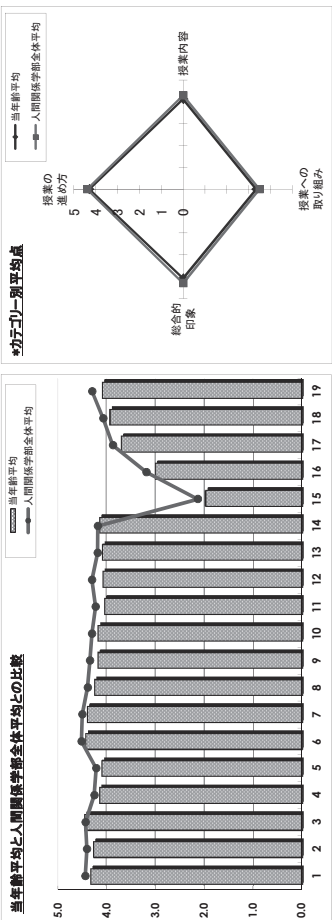
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.29
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.32	54.0	30.5	10.0	4.4	1.1	826	2	0.90		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントとビデオ等)は授業の理解に役立った	4.26	52.4	29.6	12.0	4.1	1.9	827	1	0.96		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.44	61.3	25.8	9.6	2.5	0.7	825	3	0.82		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	45.0	32.8	15.1	5.7	1.5	827	1	0.97		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	45.0	29.7	16.9	5.9	2.4	826	2	1.03		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	58.9	27.3	11.3	1.8	0.7	825	3	0.82		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	55.9	30.9	9.7	2.5	0.8	824	4	0.83		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.13
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.24	49.4	31.6	14.0	3.8	1.2	826	2	0.91			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.17	48.2	29.9	14.9	5.0	2.1	826	2	0.99			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.17	47.0	31.4	14.8	5.2	1.7	826	2	0.98			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.04	40.8	31.9	19.5	5.6	2.2	825	3	1.01			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.08	42.4	32.1	18.1	5.5	1.9	823	5	1.00			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.08	43.5	27.8	23.1	4.4	1.2	817	11	0.97			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.35
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.14	49.1	26.5	14.9	7.9	1.5	818	10	1.04			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.98	8.3	6.6	12.0	21.2	52.0	820	8	1.28			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.00	18.5	19.8	28.3	10.3	23.0	812	16	1.40			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.70	28.4	32.3	25.9	7.5	6.0	818	10	1.14			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.93	36.4	33.0	21.3	5.5	3.7	815	13	1.06			

IV. 総合的印象										当カテゴリー平均点			4.08
No.	質問文	平均値	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.08	43.0	32.7	15.9	6.1	2.3	786	42	1.02			

Q1-Q19の当区分平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	51～55歳
履修者数	985
回答者数	737

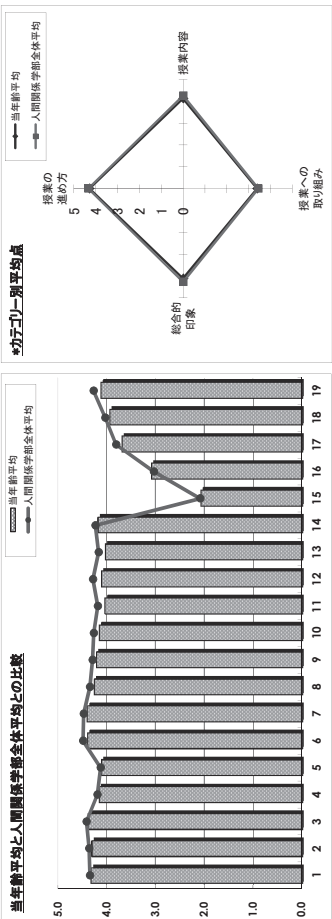
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.29
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞きやすかった	4.32	53.7	30.8	10.1	4.3	1.1	736	1	0.90			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	51.7	32.1	11.9	3.5	0.8	733	4	0.87			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.38	56.5	27.9	12.9	2.3	0.4	735	2	0.83			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	47.2	29.3	16.9	5.0	1.6	735	2	0.98			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.11	46.0	28.8	17.1	6.0	2.0	735	2	1.02			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.39	57.8	27.9	10.7	2.9	0.8	732	5	0.85			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	57.6	28.1	11.1	2.9	0.4	733	4	0.83			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.13
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.25	48.7	33.2	13.7	3.3	1.1	735	2	0.89		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.21	47.1	33.5	13.8	4.1	1.5	734	3	0.93		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.15	46.4	31.6	14.5	5.6	1.9	732	5	0.99		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.03	41.0	33.2	17.0	5.9	3.0	735	2	1.04		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.11	45.6	29.5	17.3	5.2	2.5	733	4	1.02		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.03	40.6	29.9	22.6	5.6	1.2	729	8	0.98		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.39
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	50.5	26.9	14.4	6.4	1.8	729	8	1.02			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.07	7.6	5.4	14.2	32.3	40.5	734	3	1.20			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.08	19.6	21.5	26.0	13.4	19.5	724	13	1.38			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.69	29.3	30.2	25.4	10.1	5.0	733	4	1.14			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.94	37.9	31.1	20.8	7.3	3.0	731	6	1.07			

IV. 総合的印象										当カテゴリー平均点		4.11
No.	題意文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.11	45.8	30.1	16.5	5.0	2.7	705	32	1.03		

Q1-Q19の当区分平均値	3.99
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	56～60歳
履修者数	1,117
回答者数	819

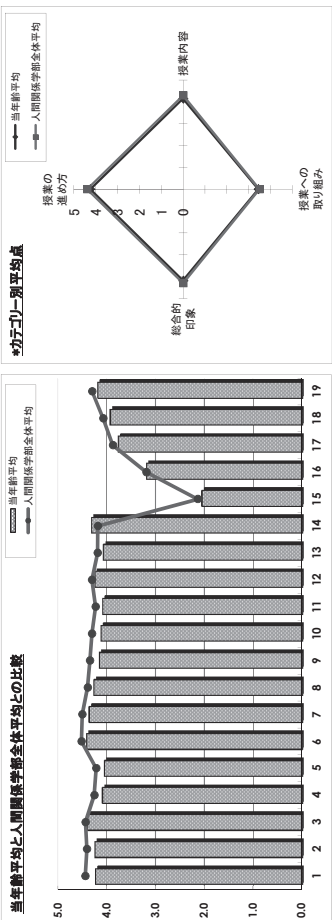
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.25
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.23	50.6	31.2	10.6	6.0	1.7	815	4	0.98		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.24	47.6	34.1	14.5	2.6	1.2	815	4	0.88		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.40	58.9	26.0	11.9	2.3	0.9	815	4	0.85		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	44.3	30.4	16.7	6.9	1.7	815	4	1.02		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.05	44.1	28.8	17.8	6.3	3.1	816	3	1.07		
6	教員の学生に対する話し方は公平だった	4.41	58.1	28.5	10.7	2.0	0.7	814	5	0.81		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.36	53.6	32.3	11.3	2.0	0.9	815	4	0.82		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.15
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.26	50.2	31.6	13.5	3.2	1.5	816	3	0.91		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.15	45.4	32.5	15.4	5.4	1.4	813	6	0.96		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.12	44.8	31.4	16.2	5.4	2.1	814	5	1.00		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	42.9	32.1	17.2	6.1	1.7	814	5	1.00		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	51.3	29.8	12.7	4.4	1.7	811	8	0.96		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.06	41.9	29.9	22.3	4.3	1.5	806	13	0.97		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.45
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.31	58.7	21.9	12.7	5.1	1.6	811	8	0.98		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.06	6.7	6.4	16.3	27.3	43.3	810	9	1.20		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.19	24.7	18.7	27.6	9.0	20.1	802	17	1.43		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.76	33.2	28.9	24.3	8.5	5.2	811	8	1.15		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.93	38.5	29.8	21.1	7.4	3.2	810	9	1.09		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.18
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	49.1	27.9	16.9	4.3	1.8	792	27	0.98		

Q1-Q18の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	56～60歳
履修者数	1,240
回答者数	994

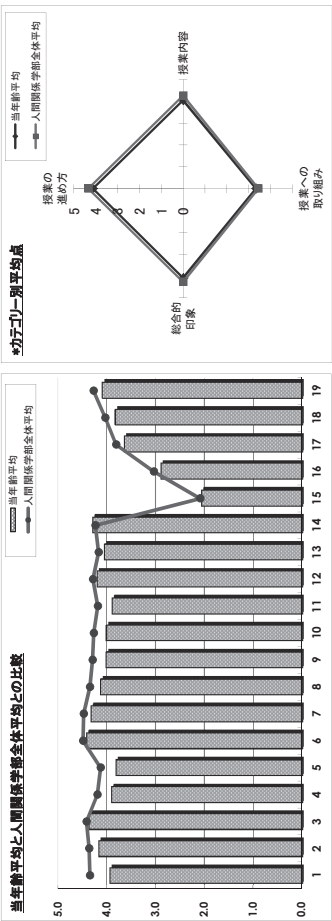
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.13
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	3.94	43.6	26.7	14.5	10.2	5.0	993	1	1.20		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.17	46.6	32.0	14.4	5.2	1.7	991	3	0.97		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.36	57.3	26.9	11.7	3.0	1.1	992	2	0.88		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.90	39.0	28.2	19.8	9.6	3.4	992	2	1.13		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.81	38.9	24.1	22.1	9.4	5.6	998	6	1.21		
6	教員の学生に対する話し方は公平だった	4.41	58.9	27.6	10.2	2.0	1.2	991	3	0.84		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.32	53.1	31.1	11.5	3.2	1.1	991	3	0.88		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.05
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.12	45.3	31.7	14.8	6.4	1.8	990	4	1.00		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.01	42.1	31.2	15.6	7.9	3.2	990	4	1.09		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.01	41.6	31.1	17.4	6.4	3.5	990	4	1.08		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.89	38.6	30.1	17.6	9.0	4.6	986	8	1.15		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	49.2	30.4	13.8	4.5	2.2	988	6	0.98		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.05	40.5	32.3	20.7	4.3	2.2	985	9	0.99		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.34
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	57.5	23.0	12.0	5.5	2.0	988	6	1.01		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.07	7.2	6.3	16.0	27.2	43.3	988	6	1.22		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.89	19.2	18.9	22.9	9.9	29.0	988	6	1.49		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.64	30.6	28.4	23.5	9.6	7.9	990	4	1.23		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.83	36.1	31.0	18.7	8.1	6.2	990	4	1.18		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.09
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.09	46.8	27.7	16.1	6.3	3.0	963	31	1.07		

Q1-Q18の当区分平均値	3.89
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	61～65歳
履修者数	841
回答者数	595

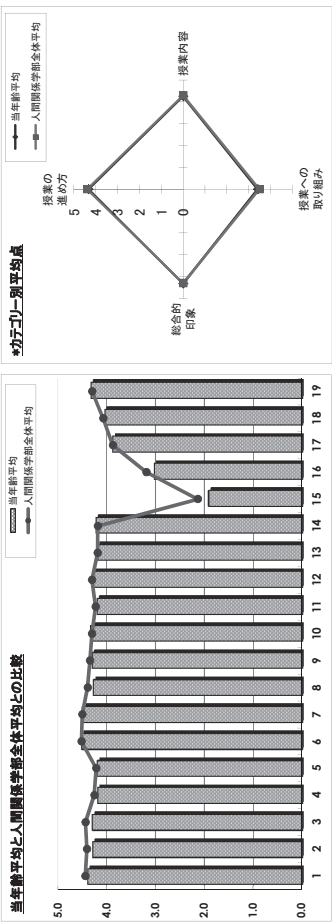
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.34	
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.39	54.5	33.8	8.4	2.7	0.7	595	0	0.81				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	52.9	29.2	13.1	3.0	1.7	595	0	0.92				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	53.0	28.1	14.3	4.2	0.3	594	1	0.89				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.19	45.2	33.6	16.8	3.4	1.0	595	0	0.90				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.19	48.9	27.7	18.2	4.2	1.0	593	2	0.95				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	63.9	26.9	6.4	2.2	0.7	595	0	0.77				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	61.6	28.5	8.4	1.0	0.5	594	1	0.74				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.26	
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.27	50.5	31.1	14.5	2.7	1.2	594	1	0.89				
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.30	52.1	31.1	12.4	3.0	1.3	595	0	0.90				
10	授業の内容は興味深いものだった	4.33	53.0	31.6	11.1	3.5	0.7	594	1	0.86				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	45.4	36.3	12.8	4.0	1.5	595	0	0.92				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.29	51.6	30.3	14.5	2.7	1.0	595	0	0.88				
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.18	45.3	32.1	19.0	2.7	0.8	591	4	0.89				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.42
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	53.4	24.8	14.0	5.7	2.0	592	3	1.02			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.92	7.9	5.7	9.8	23.6	52.9	592	3	1.25			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.03	25.0	14.8	22.6	13.8	23.9	589	6	1.50			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.87	36.9	29.5	21.7	8.1	3.9	594	1	1.12			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.04	42.2	30.1	19.6	5.2	2.9	592	3	1.04			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.32	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.32	55.4	27.2	12.7	3.5	1.2	574	21	0.91				

Q1-Q18の当区分平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	61～65歳
履修者数	1,809
回答者数	1,201

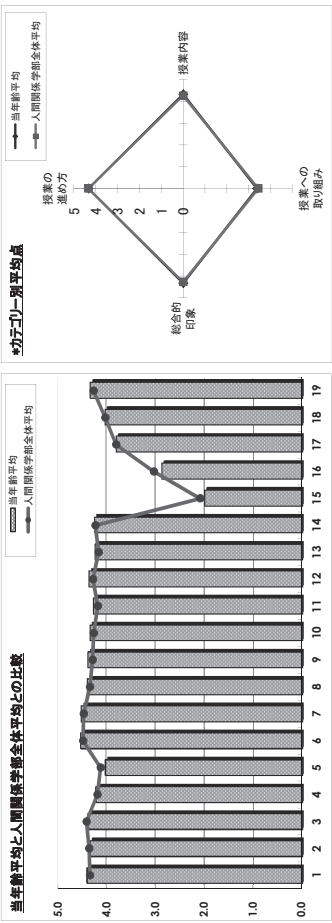
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点			4.34	
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.39	55.1	31.9	10.5	2.3	0.3	1,196	5	0.78				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント、ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	54.6	28.7	13.0	2.6	1.1	1,198	3	0.88				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.38	56.0	28.6	13.1	1.8	0.5	1,197	4	0.82				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.21	47.3	31.4	16.8	3.8	0.7	1,198	3	0.90				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	42.8	26.6	22.5	6.1	2.0	1,197	4	1.04				
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.53	63.9	26.0	9.1	0.7	0.3	1,192	9	0.71				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	62.2	27.7	9.0	1.0	0.1	1,196	5	0.71				

Ⅱ. この授業の内容について										当カゴリー平均点			4.32	
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.39	54.4	32.3	11.1	2.0	0.2	1,197	4	0.77				
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.37	54.4	31.5	11.5	2.1	0.5	1,193	8	0.81				
10	授業の内容は興味深いものだった	4.34	53.5	30.1	13.4	2.8	0.3	1,197	4	0.83				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.26	49.0	32.8	14.3	3.3	0.6	1,195	6	0.86				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.35	55.0	29.0	12.7	2.6	0.7	1,195	6	0.85				
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.23	48.3	30.4	17.8	2.9	0.7	1,188	13	0.89				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.39	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	53.9	25.1	14.1	4.9	1.9	1,190	11	1.00				
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.00	6.2	6.4	14.8	26.6	46.0	1,191	10	1.19				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.87	18.7	15.4	26.5	12.7	26.6	1,179	22	1.44				
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.80	33.2	29.1	25.7	7.9	4.0	1,191	10	1.11				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.02	40.9	30.8	20.3	5.5	2.4	1,190	11	1.03				

IV. 総合的印象										当カテゴリー平均点		4.33	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.33	54.7	27.5	14.6	2.3	0.9	1,160	41	0.87			

Q1-Q18の当区分平均値	4.08
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	66歳以上
履修者数	859
回答者数	606

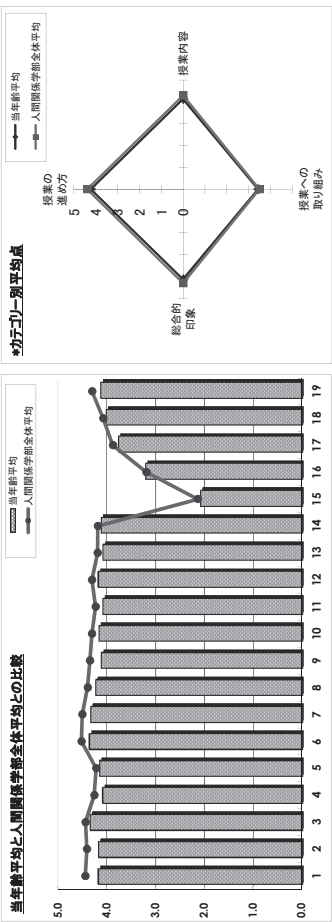
I. 教員のこの授業の進め方について										当該カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答 数	無効 回答 数	4.23
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数							
			5	4	3	2	1									
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.18	43.5	37.4	13.7	4.3	1.2	605	1	0.90						
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.17	43.6	37.9	11.9	5.3	1.3	605	1	0.93						
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.34	56.0	28.1	11.4	3.0	1.5	604	2	0.90						
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	40.7	35.9	16.6	4.8	2.0	604	2	0.97						
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	46.5	30.7	16.6	4.0	2.2	602	4	0.98						
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.36	55.6	29.5	11.3	2.6	1.0	604	2	0.86						
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.33	52.7	32.8	10.6	2.3	1.5	603	3	0.87						

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 無効 割合	標準 偏差	4.14
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答						
			5	4	3	2	1								
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.23	46.7	35.4	13.1	3.5	1.3	604	2	0.90					
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.11	43.0	33.7	16.9	4.5	2.0	603	3	0.97					
10	授業の内容は興味深いものだった	4.16	44.4	35.9	13.9	3.3	2.5	604	2	0.96					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	40.6	37.0	15.4	4.0	3.0	603	3	0.99					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	44.8	35.7	14.3	3.2	2.2	603	3	0.94					
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.08	41.4	33.3	19.1	3.8	2.3	601	5	0.98					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準偏差	有効回答数	無効回答数	3.44
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答							
			5	4	3	2	1									
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.12	45.8	31.9	12.3	8.1	1.8	602	4	1.03						
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.09	5.5	7.6	17.2	29.7	40.0	603	3	1.17						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.21	22.4	22.2	26.0	12.7	16.7	599	7	1.37						
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.77	30.3	32.5	25.7	7.0	4.6	604	2	1.10						
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.02	38.9	34.7	18.6	4.8	3.0	602	4	1.02						

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準偏差	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	割合	割合			
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.12	44.3	34.4	13.6	4.8	2.9	582	24	1.01				

Q1-Q18の当区分平均値	3.99
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	66歳以上
履修者数	837
回答者数	668

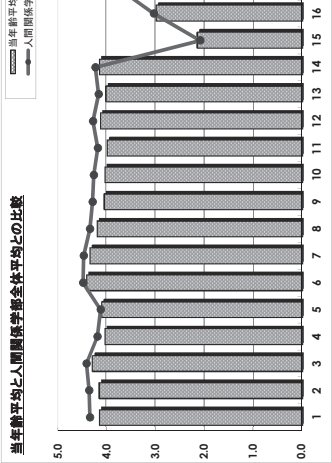
I. 教員のこの授業の進め方について		設問文	平均点
No.			
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった		4.14
2	教材資料提示（板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った		4.15
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク		4.28
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた		4.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した		4.09
6	教員の学生に対する接し方は公平だった		4.40
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた		4.33

Ⅱ. この授業の内容について										設問文		平均点
No.												
8	授業は学習の目標がはっきり示された										4.19	
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった										4.04	
10	授業の内容は興味深いものだった										4.03	
11	授業の内容はよく理解できるものだった										3.98	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う										4.12	
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった										4.01	

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										設問文		平均点
No.												
14	この授業にどの程度出席しましたか										4.14	
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか										2.15	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した										2.98	
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った										3.62	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった										3.85	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文									平均点		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う									4.08		

Q1-Q18の当区分平均値	3.93
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	1年	—
履修者数		2,304
回答者数		

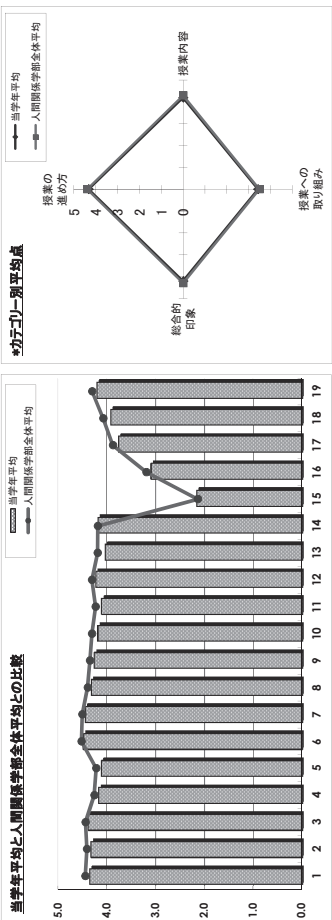
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.35	55.2	30.8	9.3	3.7	1.1	2,302	2	0.87			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントとビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	53.3	31.5	11.1	2.8	1.4	2,300	4	0.88			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	56.6	29.3	10.8	2.7	0.6	2,298	6	0.83			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.17	45.1	34.0	14.9	4.6	1.3	2,299	5	0.94			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.11	44.5	31.0	17.4	5.4	1.7	2,297	7	0.99			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.49	62.0	27.3	8.7	1.3	0.7	2,301	3	0.77			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	58.6	30.5	8.7	1.4	0.7	2,298	6	0.77			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答	無効 回答	標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答						
			5	4	3	2	1								
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.32	51.7	32.9	12.2	2.2	1.0	2,298	6						0.84
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.26	50.1	31.8	13.3	3.4	1.4	2,296	8						0.91
10	授業の内容は興味深いものであった	4.19	47.0	32.6	14.1	4.8	1.4	2,298	6						0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.11	43.2	33.9	15.9	4.8	2.2	2,298	6						0.98
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	49.5	31.0	14.4	3.5	1.6	2,295	9						0.93
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.03	38.1	33.4	23.8	3.3	1.4	2,288	16						0.94

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	無効 回答 数	標準 偏差	3.43
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答							
			5	4	3	2	1									
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.19	50.5	27.0	14.7	6.4	1.4	2,285	19	1,00						
15	この授業のために毎週平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.17	7.5	8.1	16.5	29.4	38.5	2,294	10	1.23						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.10	19.4	21.2	29.3	10.2	19.8	2,279	25	1.37						
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.76	31.1	30.2	26.8	7.8	4.2	2,295	9	1.10						
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.92	35.9	32.3	22.8	6.2	2.8	2,294	10	1.04						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	49.3	29.2	16.1	3.7	1.8	2,213	91	0.96			

Q1-Q19の当区分平均値	4.04
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	1年	—
履修者数		2,315
回答者数		

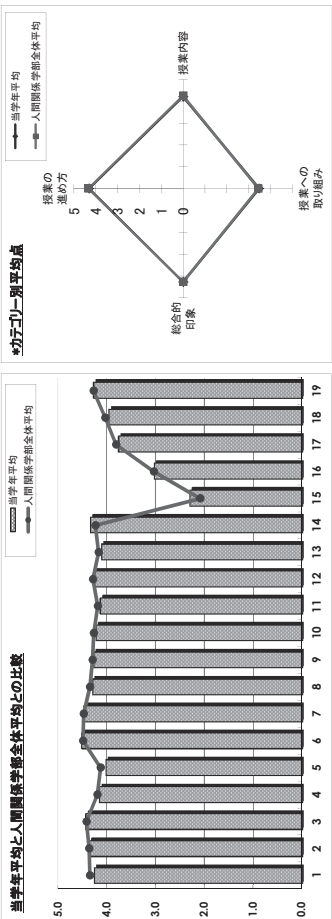
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞きやすかった	4.25	53.3	28.1	11.2	5.3	2.1	2,313	2	0.99			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	55.2	29.5	11.5	2.6	1.1	2,314	1	0.87			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.43	58.9	27.5	11.2	1.9	0.4	2,309	6	0.80			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	46.7	30.1	16.3	5.2	1.7	2,312	3	0.99			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	43.4	26.3	21.7	5.5	3.1	2,304	11	1.07			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	64.7	24.5	8.8	1.5	0.5	2,310	5	0.76			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	60.6	28.0	9.4	1.6	0.5	2,307	8	0.77			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答	無効 回答	標準 偏差	4.21
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答							
			5	4	3	2	1									
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.29	51.5	30.9	13.6	3.1	0.9	2,314	1							
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.26	50.4	31.9	12.7	3.7	1.3	2,312	3							
10	授業の内容は興味深いものであった	4.22	49.4	30.8	13.9	4.1	1.8	2,310	5							
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	45.0	32.4	15.5	5.1	2.0	2,305	10							
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	51.8	29.0	13.9	3.7	1.6	2,305	10							
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.11	42.4	31.8	21.3	3.1	1.4	2,301	14							

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	標準 偏差	3.48
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数						
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	57.4	25.3	11.8	4.2	1.3	2,302	13						0.93
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.31	9.6	8.6	16.9	32.5	32.4	2,307	8						1.27
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.03	19.1	19.8	27.9	11.7	21.5	2,296	19						1.39
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.76	31.9	30.7	23.9	8.5	5.1	2,310	5						1.14
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.95	37.8	32.7	19.8	6.1	3.5	2,303	12						1.06

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			有効 回答	標準 偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答					
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	53.5	26.8	14.5	3.7	1.5	2,252	63	0.94				

Q1-Q19の当区分平均値	4.06
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	2年
履修者数	—
回答者数	1,971

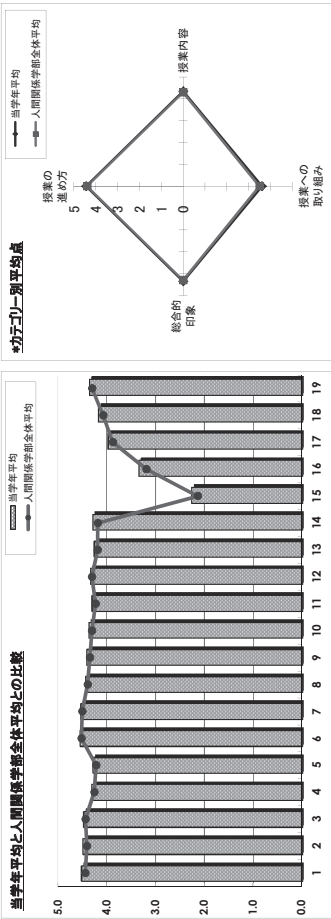
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.45
No.	教則文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.52	63.2	27.9	6.7	1.9	0.3	1,964	7	0.73		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.49	62.3	27.2	7.9	2.0	0.6	1,964	7	0.77		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.47	63.5	23.6	10.3	2.1	0.6	1,960	11	0.81		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	53.1	30.1	12.3	3.9	0.6	1,960	11	0.88		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.28	52.6	28.6	14.3	3.3	1.2	1,959	12	0.91		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.54	65.2	25.4	8.0	1.2	0.2	1,958	13	0.71		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.53	64.0	27.0	7.5	1.2	0.4	1,953	18	0.72		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.35
No.	教則文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.44	58.4	30.1	8.8	2.3	0.5	1,964	7	0.79		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.41	58.4	28.5	9.4	3.0	0.8	1,960	11	0.84		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.37	56.2	29.8	9.5	3.3	1.1	1,957	14	0.87		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.30	52.2	31.8	11.1	3.8	1.0	1,957	14	0.89		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	54.8	29.2	11.3	3.8	0.9	1,955	16	0.89		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.26	50.6	28.7	16.9	3.1	0.6	1,943	28	0.89		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.61
No.	教則文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	55.5	26.0	11.3	5.9	1.2	1,958	13	0.97		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.26	10.0	9.3	17.9	22.7	40.1	1,950	21	1.33		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.34	27.9	21.5	24.0	10.5	16.2	1,935	36	1.40		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.98	38.5	32.2	20.4	5.9	2.9	1,949	22	1.04		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.17	46.0	32.3	16.0	3.9	1.7	1,943	28	0.95		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.35
No.	教則文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.35	55.1	30.1	10.8	3.2	0.8	1,879	92	0.86		

Q1-Q18の当区分平均値	4.19
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	2年
履修者数	—
回答者数	2,153

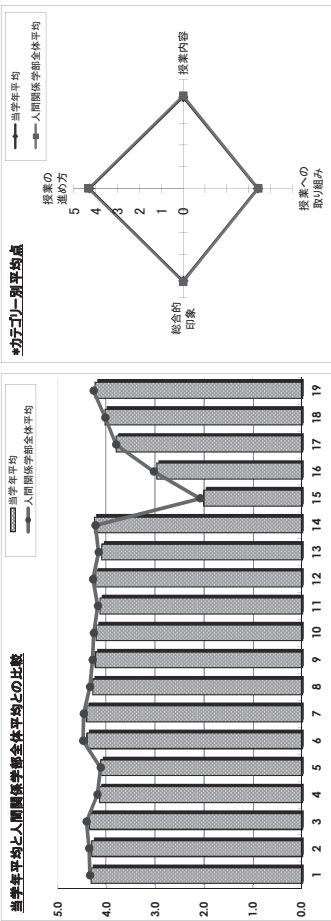
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.28
No.	教則文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.31	52.2	31.6	12.0	3.6	0.7	2,145	8	0.87		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	50.1	33.0	13.7	2.6	0.7	2,141	12	0.84		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.34	54.7	27.7	14.9	2.1	0.5	2,143	10	0.84		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	44.2	31.9	18.3	4.8	0.9	2,142	11	0.94		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.11	44.9	29.6	18.7	5.3	1.4	2,143	10	0.98		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.39	55.7	30.3	12.1	1.6	0.4	2,138	15	0.79		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	56.1	30.9	10.9	1.8	0.3	2,132	21	0.78		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.19
No.	教則文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.27	48.9	32.4	14.0	2.8	0.6	2,141	12	0.85		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.22	47.9	33.4	14.8	4.1	0.8	2,137	16	0.90		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.20	47.3	31.7	15.8	4.3	0.9	2,143	10	0.92		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	43.6	33.4	16.7	5.2	1.2	2,140	13	0.95		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	47.6	32.2	15.4	4.0	0.8	2,139	14	0.91		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	41.1	32.3	21.9	3.7	1.0	2,134	19	0.93		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.41
No.	教則文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.25	56.4	21.5	13.5	7.3	1.3	2,129	24	1.02		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.01	6.3	5.9	14.7	28.6	44.4	2,136	17	1.18		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.97	18.2	18.4	28.2	12.9	22.3	2,127	26	1.39		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.80	32.4	29.7	26.6	7.7	3.6	2,133	20	1.09		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.03	39.3	33.1	20.7	5.2	1.8	2,129	24	0.98		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.23
No.	教則文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	48.2	31.7	15.9	3.0	1.2	2,069	84	0.91		

Q1-Q18の当区分平均値	4.02
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	3年	
履修者数		1,357
回答者数		1,357

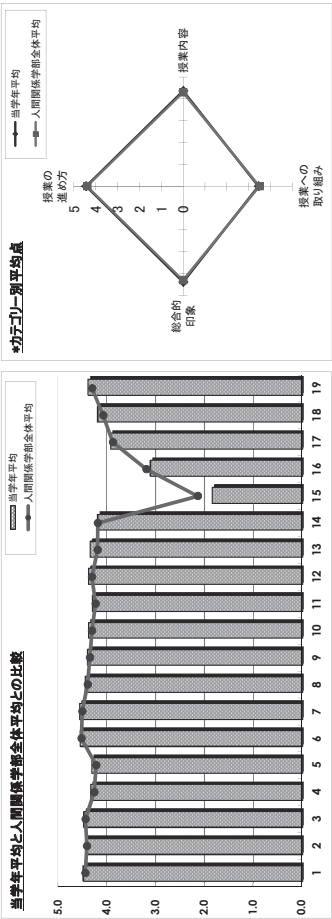
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.45
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.49	61.8	28.8	6.1	2.6	0.7	1,356	1	0.78		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.43	59.2	28.9	8.5	2.7	0.7	1,355	2	0.81		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.47	62.4	25.8	9.0	2.2	0.7	1,355	2	0.80		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.33	53.0	31.6	12.0	2.5	1.0	1,354	3	0.85		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.31	54.2	28.1	13.4	3.3	1.0	1,353	4	0.90		
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.55	66.3	24.5	7.4	1.4	0.4	1,352	5	0.73		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.56	65.8	26.4	6.1	1.3	0.5	1,354	3	0.71		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.37
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.45	59.5	29.0	9.3	1.6	0.7	1,354	3	0.78		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.40	57.6	28.6	10.6	2.2	1.0	1,352	5	0.84		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.38	56.6	28.7	11.7	2.1	1.0	1,354	3	0.84		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.29	52.0	30.9	12.9	2.8	1.3	1,354	3	0.89		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.37	55.3	30.4	11.7	1.7	0.9	1,350	7	0.82		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.34	54.7	28.6	13.9	2.0	0.9	1,348	9	0.85		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.45
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.19	49.2	29.3	13.8	6.3	1.3	1,351	6	0.98		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.85	6.2	3.9	12.2	23.8	53.8	1,348	9	1.16		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.12	25.7	17.5	23.3	10.0	23.6	1,345	12	1.49		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.93	37.8	30.7	21.6	6.0	3.8	1,351	6	1.08		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.19	48.4	30.2	15.4	3.7	2.2	1,347	10	0.98		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.38
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.38	57.5	28.3	10.6	2.5	1.2	1,306	51	0.86		

Q1-Q19の当区分平均値	4.16
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	3年	
履修者数		1,721
回答者数		1,721

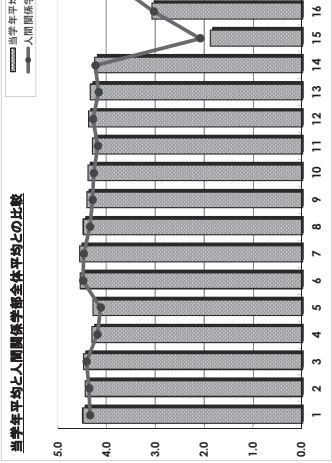
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.43
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.48	62.5	28.4	5.3	2.3	1.5	1,720	1	0.82		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.43	59.9	28.8	7.0	2.7	1.5	1,717	4	0.85		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.47	63.0	24.9	9.1	1.7	1.2	1,719	2	0.83		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.29	53.6	29.5	11.5	3.6	1.9	1,719	2	0.94		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.27	52.9	28.9	13.0	3.1	2.0	1,718	3	0.95		
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.53	66.4	24.3	6.9	0.9	1.5	1,715	6	0.79		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.55	66.6	25.1	6.1	1.2	1.0	1,716	5	0.75		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.37
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.47	60.9	29.5	6.7	1.7	1.2	1,718	3	0.79		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.40	58.3	28.9	9.1	2.0	1.6	1,716	5	0.86		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.38	57.1	29.5	9.6	1.8	2.0	1,717	4	0.88		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.29	52.7	30.7	11.5	2.9	2.2	1,716	5	0.93		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.37	57.0	28.3	11.2	1.6	1.9	1,716	5	0.88		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.33	54.4	29.4	12.4	2.2	1.6	1,708	13	0.89		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.44
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	52.8	27.3	12.9	5.0	2.0	1,712	9	0.99		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.88	5.6	5.3	12.2	25.7	51.2	1,710	11	1.16		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.08	24.3	18.0	22.4	11.6	23.7	1,698	23	1.49		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.88	37.6	28.7	22.4	6.6	4.7	1,710	11	1.13		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.11	46.3	29.2	17.0	4.3	3.2	1,711	10	1.04		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.31
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	55.3	27.6	12.2	2.8	2.1	1,655	66	0.94		

Q1-Q19の当区分平均値	4.15
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	4年		—
履修者数		回答者数	216

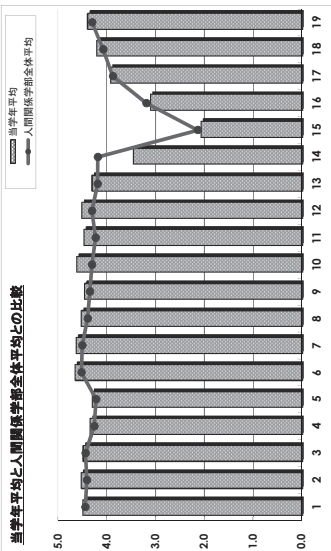
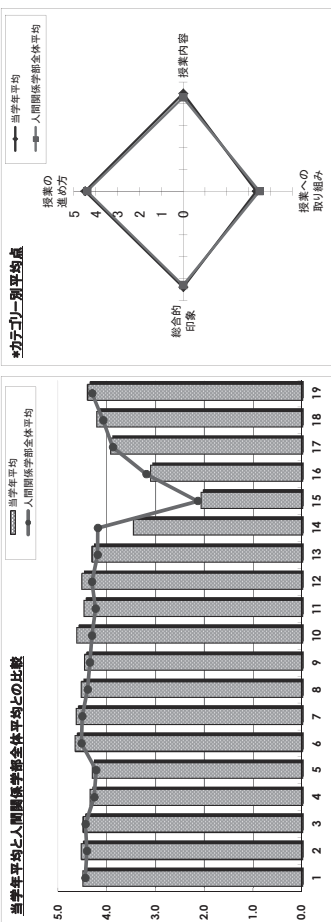
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.49
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.49	64.7	24.2	7.9	2.3	0.9	215	1	0.81		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.52	62.6	29.4	6.1	1.4	0.5	214	2	0.72		
3	※語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.48	66.0	21.4	9.3	1.4	1.9	215	1	0.86		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.34	55.8	29.8	9.3	2.8	2.3	215	1	0.93		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.30	57.7	23.5	12.6	2.8	3.3	215	1	1.01		
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.65	72.6	20.5	6.5	0.0	0.5	215	1	0.65		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.63	70.0	24.4	4.7	0.5	0.5	213	3	0.64		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.48
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.52	66.5	22.3	8.8	1.4	0.9	215	1	0.79		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.46	61.4	27.4	8.4	0.9	1.9	215	1	0.84		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.61	70.2	23.7	4.2	0.9	0.9	215	1	0.70		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.47	61.2	28.5	7.5	1.4	1.4	214	2	0.81		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.51	66.4	22.9	7.5	1.9	1.4	214	2	0.83		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.30	53.8	28.3	13.7	2.8	1.4	212	4	0.91		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.35
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.46	20.8	34.7	21.3	15.7	7.4	216	0	1.20		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.08	7.4	8.8	12.6	26.5	44.7	215	1	1.26		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.11	23.1	22.6	21.7	7.1	25.5	212	4	1.50		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.93	40.7	32.4	14.4	3.7	8.8	216	0	1.22		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.20	48.8	32.9	11.7	2.8	3.8	213	3	1.01		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.39
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	57.1	30.2	9.4	1.4	1.9	212	4	0.86		

Q1-Q19の当区分平均値	4.18
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	4年		—
履修者数		回答者数	384

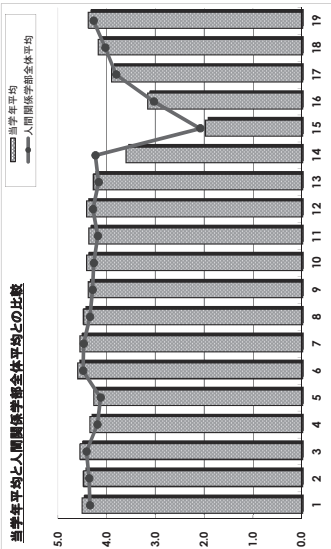
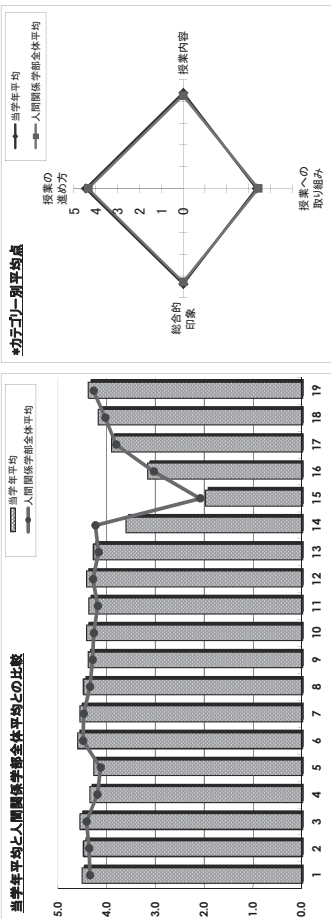
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.47
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.50	64.0	25.8	6.8	2.9	0.5	383	1	0.79		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.47	60.5	29.3	7.1	3.1	0.0	382	2	0.76		
3	※語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.54	67.3	21.7	8.9	2.1	0.0	382	2	0.74		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.34	55.4	28.5	11.7	3.9	0.5	383	1	0.87		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.26	54.5	25.4	13.9	4.7	1.6	382	2	0.97		
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.59	69.2	22.9	6.6	0.8	0.0	380	4	0.70		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.55	65.7	25.7	6.5	2.1	0.0	382	2	0.71		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.38
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.47	63.3	25.2	7.9	2.9	0.8	381	3	0.82		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.38	59.2	25.9	9.7	4.2	1.0	382	2	0.90		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.41	60.2	26.4	8.6	3.4	1.3	382	2	0.88		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.37	57.1	28.8	9.2	3.7	1.3	382	2	0.89		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.41	61.5	24.9	8.9	2.9	1.8	382	2	0.90		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.27	53.4	26.3	15.3	3.7	1.3	380	4	0.94		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.36
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.60	27.7	26.4	28.5	12.8	4.5	382	2	1.15		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.98	7.9	4.7	14.7	23.1	49.6	381	3	1.24		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.16	22.0	22.0	24.4	13.3	18.3	377	7	1.39		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.90	37.1	31.8	18.9	7.9	4.2	380	4	1.12		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.17	47.4	33.1	11.9	4.8	2.9	378	6	1.01		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.37
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.37	57.5	27.4	11.0	2.7	1.3	372	12	0.88		

Q1-Q19の当区分平均値	4.15
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	31人間(教養科目)	履修者数	1,629
		回答者数	1,153

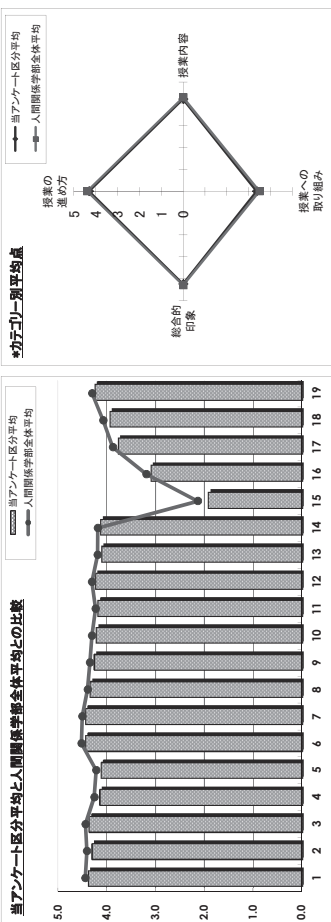
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.31
No.	教員	説明文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	標準偏差
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった		4.38	55.1	31.9	9.6	2.5	0.9	1,153	0	0.83	
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った		4.30	52.0	31.2	13.0	2.4	1.4	1,152	1	0.89	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク		4.36	57.8	25.8	12.0	3.3	1.0	1,153	0	0.89	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた		4.14	45.0	32.2	16.4	5.1	1.3	1,150	3	0.96	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した		4.12	44.6	30.0	19.4	4.6	1.5	1,151	2	0.97	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった		4.43	59.9	26.9	10.5	1.8	0.8	1,151	2	0.81	
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた		4.43	58.2	30.4	9.1	1.5	0.9	1,152	1	0.79	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.22
No.	教員	説明文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された		4.34	51.7	33.7	11.8	2.1	0.7	1,152	1	0.82	
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった		4.26	49.4	31.9	14.7	3.0	1.0	1,149	4	0.89	
10	授業の内容は興味深いものだった		4.21	48.4	31.9	14.2	3.8	1.7	1,151	2	0.94	
11	授業の内容はよく理解できるものであった		4.18	47.6	31.1	14.7	5.0	1.7	1,151	2	0.97	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う		4.23	49.6	30.6	14.8	3.7	1.4	1,152	1	0.93	
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった		4.11	42.5	31.6	21.3	3.2	1.3	1,143	10	0.94	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.37
No.	教員	説明文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか		4.12	47.6	28.0	15.0	7.8	1.6	1,144	9	1.03	
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか		1.93	5.4	6.0	14.6	23.6	50.3	1,147	6	1.17	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した		3.10	19.4	19.7	31.7	9.7	19.5	1,140	13	1.36	
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った		3.77	31.5	29.0	28.4	6.6	4.4	1,148	5	1.10	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった		3.94	37.1	31.5	23.0	5.1	3.3	1,149	4	1.05	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.24
No.	教員	説明文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	標準偏差
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う		4.24	50.6	29.9	14.2	3.8	1.5	1,118	35	0.94	

Q1-Q18の当区分平均値	4.03
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	31人間(教養科目)	履修者数	2,104
		回答者数	1,584

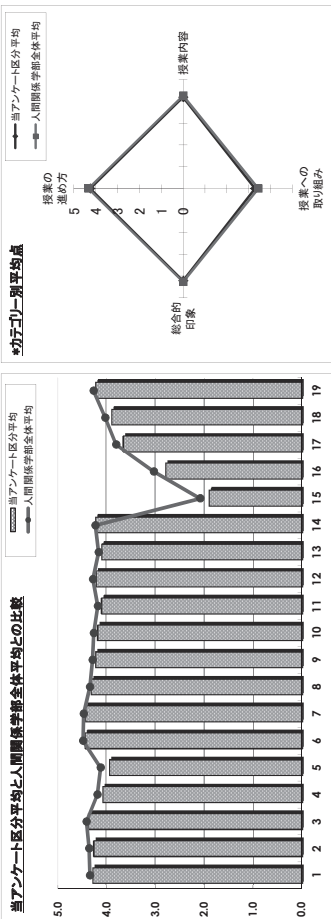
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.25
No.	教員	説明文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	標準偏差
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった		4.28	50.3	33.5	10.6	4.4	1.1	1,581	3	0.90	
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った		4.26	48.9	34.1	12.5	2.8	1.7	1,578	6	0.90	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク		4.37	55.1	29.8	12.4	2.0	0.8	1,577	7	0.83	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた		4.07	41.6	33.8	17.3	4.9	2.3	1,576	8	1.00	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した		3.94	36.8	32.0	22.3	5.8	3.1	1,577	7	1.05	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった		4.43	58.6	29.5	9.3	1.7	1.0	1,575	9	0.80	
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた		4.42	56.3	32.4	8.8	1.8	0.6	1,578	6	0.78	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.18
No.	教員	説明文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	標準偏差
8	授業は学習の目標がはっきり示された		4.31	49.7	35.3	11.9	2.0	1.1	1,581	3	0.84	
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった		4.22	46.2	35.8	13.2	3.4	1.4	1,577	7	0.90	
10	授業の内容は興味深いものだった		4.18	45.2	34.5	15.0	3.5	1.8	1,578	6	0.94	
11	授業の内容はよく理解できるものであった		4.10	41.0	37.2	14.9	4.4	2.5	1,579	5	0.97	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う		4.21	47.6	32.9	14.1	3.7	1.8	1,572	12	0.94	
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった		4.09	40.1	35.2	19.7	3.7	1.3	1,569	15	0.92	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.29
No.	教員	説明文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	標準偏差
14	この授業にどの程度出席しましたか		4.22	51.8	26.8	14.3	5.7	1.5	1,569	15	0.99	
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか		1.90	6.1	5.5	12.5	24.3	51.5	1,570	14	1.18	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した		2.79	14.1	17.8	28.5	12.7	27.0	1,564	20	1.38	
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った		3.65	26.5	31.6	28.1	8.7	5.2	1,572	12	1.11	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった		3.89	34.0	33.8	23.2	4.8	4.1	1,569	15	1.06	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.22
No.	教員	説明文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	標準偏差
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う		4.22	48.6	31.6	14.5	3.1	2.1	1,528	56	0.95	

Q1-Q18の当区分平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	35人間(外国語科目)	履修者数	478	回答者数	327
		履修者数	478	回答者数	327

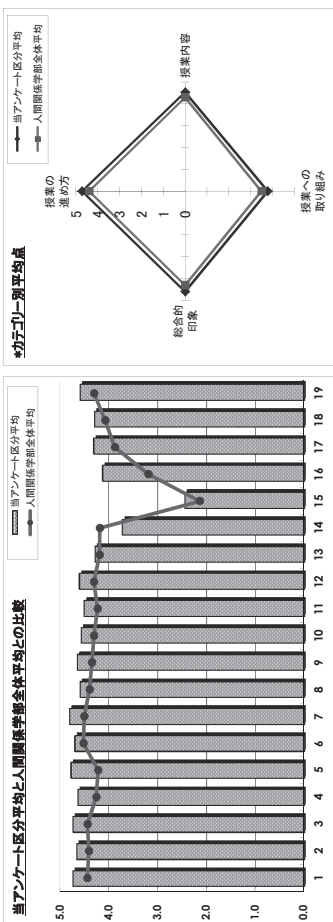
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.72
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.74	77.7	19.0	3.1	0.3	0.0	327	0	0.52		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.66	72.2	22.6	4.6	0.6	0.0	327	0	0.59		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.74	78.0	18.0	4.0	0.0	0.0	327	0	0.52		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.64	70.6	22.9	6.1	0.0	0.3	327	0	0.63		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.78	80.4	17.1	2.1	0.0	0.0	327	0	0.49		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.70	78.3	15.9	4.3	0.6	0.9	327	0	0.67		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.81	83.7	13.5	2.5	0.3	0.0	326	1	0.47		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.54
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.60	67.0	26.3	6.1	0.6	0.0	327	0	0.63		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.65	69.7	25.4	4.9	0.0	0.0	327	0	0.57		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.57	67.3	24.2	7.0	1.5	0.0	327	0	0.69		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.51	62.1	27.8	8.9	1.2	0.0	327	0	0.71		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.61	71.9	19.3	6.7	2.1	0.0	327	0	0.71		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.29	53.4	25.8	17.8	2.5	0.6	326	1	0.89		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.78
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.73	24.9	37.5	25.8	8.6	3.1	325	2	1.03		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.45	8.9	8.3	20.5	44.0	18.3	327	0	1.15		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	4.13	45.7	28.9	19.6	4.7	1.2	322	5	0.97		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.31	55.4	25.4	15.6	2.4	1.2	327	0	0.91		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.30	52.9	27.1	17.5	1.8	0.6	325	2	0.86		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.59
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.59	69.7	20.5	9.1	0.6	0.0	317	10	0.68		

Q1-Q19の当区分平均値	4.41
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	35人間(外国語科目)	履修者数	448	回答者数	344
---------	-------------	------	-----	------	-----

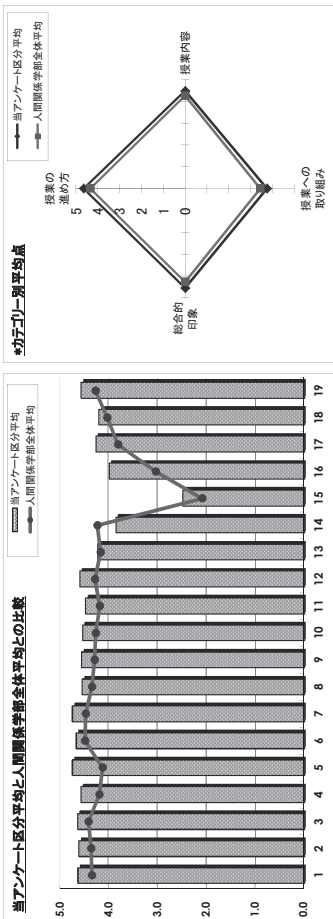
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.65
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.62	69.8	23.8	5.2	1.2	0.0	344	0	0.64		
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.60	68.3	23.8	7.3	0.6	0.0	344	0	0.65		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.63	71.2	20.6	7.8	0.0	0.3	344	0	0.65		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.56	67.7	22.1	8.4	1.5	0.3	344	0	0.73		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.73	79.4	15.1	5.2	0.0	0.3	344	0	0.58		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.65	76.5	15.1	6.4	1.5	0.6	344	0	0.72		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.73	79.1	15.7	4.9	0.0	0.3	344	0	0.57		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.48
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.53	63.7	27.3	7.8	0.9	0.3	344	0	0.70		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.54	64.2	26.7	8.1	0.9	0.0	344	0	0.68		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.52	64.5	25.3	8.7	0.9	0.6	344	0	0.74		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.46	61.2	26.2	10.8	1.2	0.6	343	1	0.78		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.58	69.2	22.1	6.7	1.5	0.6	344	0	0.73		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.22	50.9	25.0	20.6	2.0	1.5	344	0	0.94		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.75
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.84	28.5	39.2	21.2	10.2	0.9	344	0	0.98		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.48	8.1	7.8	21.5	48.8	13.7	344	0	1.08		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.98	36.8	33.5	22.1	6.2	1.5	340	4	0.98		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.25	50.3	29.1	17.2	2.6	0.9	344	0	0.89		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.19	46.4	30.3	20.1	2.6	0.6	343	1	0.89		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.55
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差		
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.55	68.8	20.5	8.3	2.1	0.3	337	7	0.76		

Q1-Q19の当区分平均値	4.35
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部(共通科目)	履修者数	888	回答者数	654
---------	----------------	------	-----	------	-----

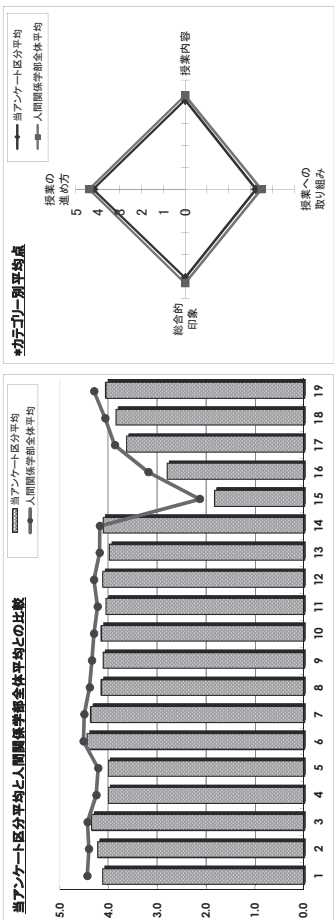
I. 教員のこの授業の進め方について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.12	43.3	35.3	13.3	6.3	1.8	652	2
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.22	47.9	33.7	12.6	4.0	1.8	652	2
3	※授業等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.34	53.2	31.9	11.2	2.9	0.8	652	2
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.00	38.9	33.8	18.1	7.2	2.0	651	3
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.00	41.9	30.4	16.8	8.0	2.9	649	5
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.43	58.8	28.1	10.9	1.5	0.6	651	3
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.36	54.1	31.6	11.5	1.8	0.9	651	3

II. この授業の内容について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.14	45.2	31.6	17.4	4.1	1.7	651	3
9	授業の構成は体系的で把握しやすかったとまっていた	4.11	44.9	30.6	16.8	5.7	2.0	650	4
10	授業の内容は興味深いものであった	4.14	45.8	32.0	14.3	6.3	1.5	650	4
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.04	39.2	35.8	16.9	6.0	2.0	650	4
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.11	43.6	33.0	16.7	4.6	2.1	652	2
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.98	36.6	32.1	25.1	4.8	1.4	645	9

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.11	48.2	27.0	14.4	8.1	2.3	645	9
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.84	4.0	5.7	11.4	28.3	50.7	651	3
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.80	14.9	16.7	28.4	13.6	26.4	645	9
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.63	27.2	30.1	26.7	10.1	5.8	651	3
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.84	33.8	31.8	22.8	7.8	3.7	650	4

IV. 総合的な印象									
No.	教員文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.05	42.8	31.2	17.7	5.5	2.9	622	32

Q1-Q18の当区分平均値	3.91
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部(共通科目)	履修者数	963	回答者数	806
---------	----------------	------	-----	------	-----

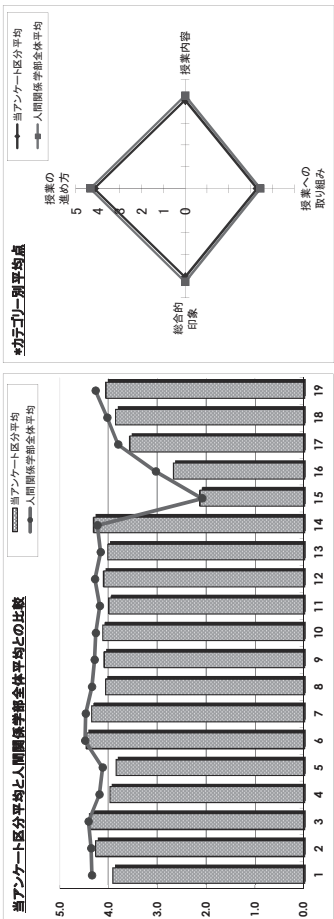
I. 教員のこの授業の進め方について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	3.91	41.3	27.9	15.9	9.9	5.0	806	0
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.26	51.4	29.9	13.0	4.7	1.0	806	0
3	※授業等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	56.3	29.3	11.6	2.6	0.2	803	3
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.97	37.0	34.1	19.7	7.1	2.1	806	0
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.85	38.0	26.5	22.8	7.7	5.0	801	5
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.45	60.2	26.9	11.2	1.4	0.4	804	2
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	53.5	30.6	13.0	2.4	0.5	800	6

II. この授業の内容について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.06	41.2	32.3	18.8	6.5	1.2	805	1
9	授業の構成は体系的で把握しやすかったとまっていた	4.09	44.7	30.6	15.9	6.5	2.4	805	1
10	授業の内容は興味深いものであった	4.11	46.1	29.8	16.1	5.7	2.4	803	3
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.99	39.8	31.8	19.0	6.6	2.9	800	6
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.10	43.5	31.3	18.8	4.2	2.1	802	4
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.01	37.2	33.4	24.0	4.0	1.4	799	7

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	57.1	25.2	10.4	5.4	2.0	801	5
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.14	7.1	7.0	15.5	33.5	36.9	804	2
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.68	13.3	15.0	27.9	13.7	30.0	802	4
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.57	27.3	28.6	25.0	11.5	7.6	803	3
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.85	35.0	32.8	19.1	8.6	4.5	800	6

IV. 総合的な印象									
No.	教員文	平均点	回答率(%)				有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.06	44.0	27.9	19.6	6.5	1.9	779	27

Q1-Q18の当区分平均値	3.90
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学科社会学専攻(専門科目)	履修者数	1,393
		回答者数	994

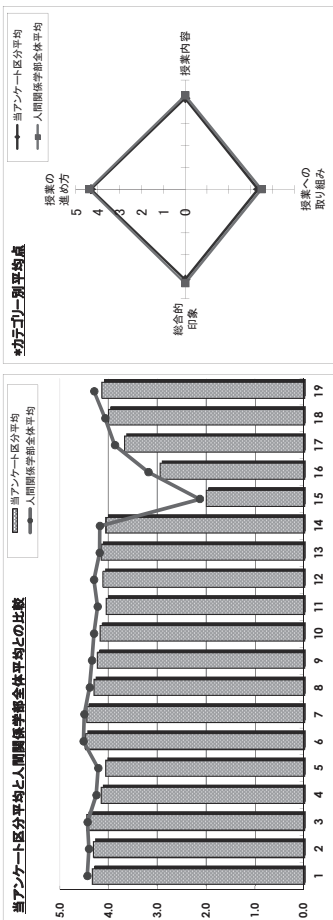
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.32	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.33	53.5	32.0	9.5	4.2	0.8	993	1	0.87			
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	51.9	32.0	12.5	2.6	1.0	992	2	0.86			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.44	59.8	28.0	10.0	1.4	0.8	989	5	0.79			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	42.2	37.6	14.3	5.2	0.7	990	4	0.90			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.06	42.6	31.1	18.7	5.3	2.3	991	3	1.02			
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.47	59.9	28.9	9.8	1.1	0.3	989	5	0.74			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	57.8	31.5	8.6	1.5	0.6	988	6	0.76			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.17	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.30	50.2	34.3	11.6	3.1	0.8	993	1	0.85			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.23	48.0	33.6	12.9	4.4	1.1	992	2	0.91			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.17	44.7	34.7	14.7	4.5	1.2	990	4	0.93			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.05	39.3	35.3	18.2	5.6	1.6	988	6	0.97			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.11	41.4	36.1	16.1	4.8	1.5	985	9	0.94			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	43.8	32.5	19.6	3.5	0.6	986	8	0.90			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.34	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.05	43.4	30.4	15.7	8.6	1.8	992	2	1.05			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.01	7.9	6.6	13.2	23.0	49.2	985	9	1.27			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.95	19.0	19.4	24.6	11.2	25.7	978	16	1.45			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.68	25.6	34.4	26.3	9.1	4.5	987	7	1.09			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.00	37.1	35.9	18.9	6.2	1.8	983	11	0.99			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.14	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.14	42.6	35.5	15.9	4.8	1.2	953	41	0.93			

Q1-Q19の当区分平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学科社会学専攻(専門科目)	履修者数	1,733
		回答者数	1,328

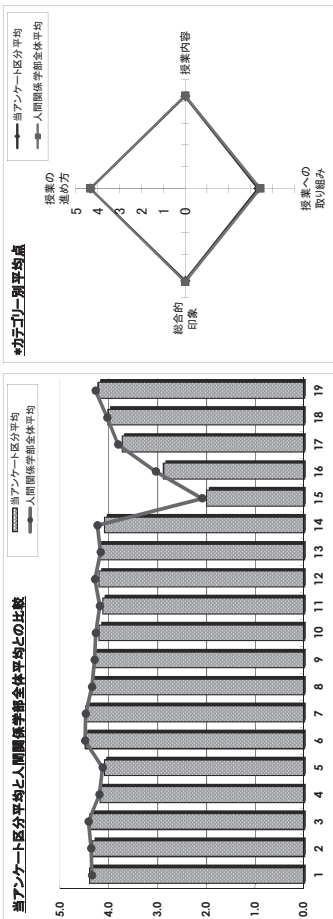
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.34	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.40	56.2	32.0	8.5	2.3	1.1	1,326	2	0.82			
2	教材資料提示(板書・プリント・パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	53.3	32.4	10.7	2.3	1.4	1,323	5	0.86			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.39	59.2	24.9	13.1	1.9	1.0	1,325	3	0.86			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.18	46.8	31.8	16.1	3.8	1.6	1,325	3	0.94			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	45.4	28.1	19.6	4.2	2.7	1,323	5	1.03			
6	教員の学生に対する親し方は公平だった	4.49	63.1	25.7	9.3	0.7	1.3	1,324	4	0.79			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	60.8	28.9	8.6	0.7	1.0	1,320	8	0.76			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.23	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.35	53.2	32.7	11.2	2.2	0.8	1,324	4	0.82			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.30	50.6	33.3	12.3	2.6	1.1	1,323	5	0.87			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.20	47.1	33.7	13.2	4.0	1.9	1,322	6	0.95			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	43.9	34.2	14.8	4.8	2.2	1,322	6	0.98			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	47.3	32.7	15.0	3.2	1.8	1,324	4	0.94			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	45.9	34.0	16.3	2.4	1.4	1,319	9	0.90			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.35	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.09	47.7	25.4	17.5	7.1	2.3	1,321	7	1.07			
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.00	6.4	5.9	14.7	27.6	45.4	1,319	9	1.19			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.89	17.8	17.9	26.0	11.7	26.6	1,310	18	1.44			
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.73	30.7	30.9	24.5	8.5	5.4	1,319	9	1.14			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.02	40.4	33.0	17.8	5.7	3.1	1,316	12	1.04			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.22	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	48.4	32.4	14.3	2.7	2.2	1,288	40	0.94			

Q1-Q19の当区分平均値	4.04
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	57人間福祉学科(専門科目)	履修者数	1,875
		回答者数	1,391

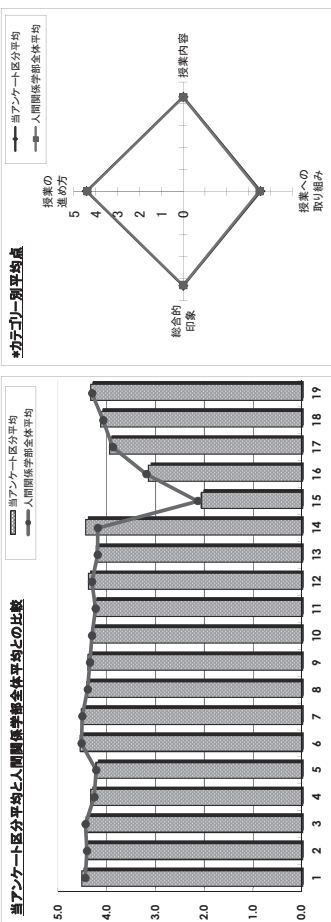
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.43
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	割合	標準偏差
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.51	63.8	27.6	5.7	2.0	0.9	1,382	9	0.77		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.43	60.5	27.8	7.7	2.8	1.2	1,381	10	0.85		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	59.6	26.9	10.1	2.8	0.7	1,378	13	0.83		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.33	54.8	29.6	11.5	2.6	1.5	1,380	11	0.89		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.22	51.0	27.3	16.1	4.2	1.4	1,376	15	0.96		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.54	66.1	24.7	7.0	1.5	0.7	1,376	15	0.75		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.52	63.1	28.3	6.6	1.3	0.7	1,375	16	0.74		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.33
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	割合	標準偏差
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.41	57.9	29.3	9.6	2.2	1.1	1,377	14	0.83		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.38	58.5	27.5	9.7	2.6	1.7	1,375	16	0.89		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.31	55.4	27.8	11.3	3.6	2.0	1,377	14	0.94		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.25	51.7	30.4	11.8	3.8	2.3	1,377	14	0.96		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	58.6	26.7	10.6	2.6	1.6	1,371	20	0.89		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.22	48.4	30.4	17.4	2.3	1.5	1,365	26	0.92		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.54
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	割合	標準偏差
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.43	63.3	22.5	9.1	4.2	1.0	1,370	21	0.89		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.07	8.2	6.2	15.2	25.0	45.4	1,366	25	1.26		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.15	26.6	17.1	23.1	10.9	22.3	1,361	30	1.49		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	3.95	40.2	29.3	19.6	6.4	4.4	1,369	22	1.12		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.13	47.9	27.4	17.2	4.6	2.9	1,367	24	1.04		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.33
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	割合	標準偏差
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.33	56.7	25.9	12.8	2.9	1.7	1,320	71	0.93		

Q1-Q19の当区分平均値	4.16
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	57人間福祉学科(専門科目)	履修者数	1,783
		回答者数	1,346

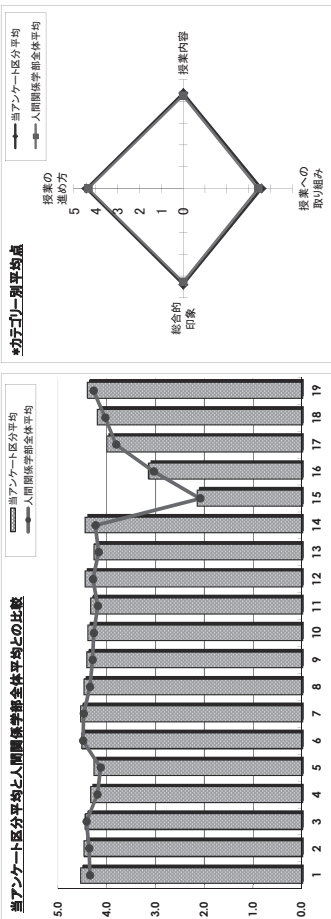
I. 教員のこの授業の進め方について										当カゴリー平均点		4.44
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	割合	標準偏差
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.53	65.0	26.0	7.0	1.5	0.5	1,341	5	0.74		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.46	61.8	26.2	9.3	1.9	0.7	1,341	5	0.80		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.44	60.2	26.6	10.8	1.7	0.7	1,340	6	0.80		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.33	55.3	27.7	12.7	3.2	1.0	1,341	5	0.89		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.26	52.4	27.4	15.2	3.8	1.1	1,339	7	0.93		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	63.8	26.5	7.8	1.3	0.7	1,336	10	0.75		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.53	65.8	24.4	7.8	1.3	0.7	1,335	11	0.75		

II. この授業の内容について										当カゴリー平均点		4.38
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	割合	標準偏差
			5	4	3	2	1					
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.47	61.4	27.4	8.5	1.8	0.9	1,338	8	0.80		
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.41	60.1	25.8	10.2	2.7	1.2	1,335	11	0.87		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.39	58.4	26.5	11.5	2.7	1.0	1,338	8	0.86		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.33	55.3	27.7	12.6	3.2	1.1	1,334	12	0.90		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	61.1	26.4	9.3	2.4	0.8	1,335	11	0.82		
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.26	52.4	27.0	16.1	3.1	1.4	1,326	20	0.93		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カゴリー平均点		3.59
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	割合	標準偏差
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	65.8	19.4	9.6	3.7	1.6	1,328	18	0.92		
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.16	9.3	7.4	15.0	26.3	42.0	1,332	14	1.30		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.15	25.2	17.3	25.4	11.2	20.8	1,326	20	1.45		
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.00	42.2	27.3	22.1	5.4	2.9	1,332	14	1.06		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.19	49.7	27.9	16.5	4.0	2.0	1,332	14	0.98		

IV. 総合的な印象										当カゴリー平均点		4.40
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	割合	標準偏差
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.40	59.7	24.8	12.1	2.3	1.1	1,277	69	0.87		

Q1-Q19の当区分平均値	4.20
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	55人間福祉学科人間福祉学専攻(専門科目)	履修者数	回答者数
		363	255

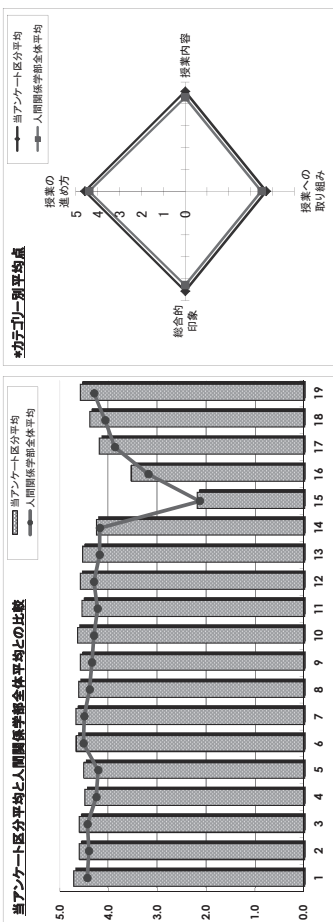
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	無効 回答 数	標準 偏差	4.40
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数	標準 偏差						
			5	4	3	2	1									
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.71	78.4	15.3	5.1	0.8	0.4	255	0	0.64						
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントとビデオ等)は授業の理解に役立った	4.59	71.4	19.6	6.7	1.6	0.8	255	0	0.75						
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.59	73.3	14.9	9.8	1.6	0.4	255	0	0.76						
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.47	65.1	20.8	11.4	2.0	0.8	255	0	0.83						
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.49	65.5	21.2	11.0	2.0	0.4	255	0	0.80						
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.65	74.9	16.5	7.8	0.8	0.0	255	0	0.66						
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.66	74.5	17.6	7.1	0.8	0.0	255	0	0.64						

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.57
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	4.57						
			5	4	3	2	1									
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.60	71.8	18.8	7.8	1.2	0.4	255	0	0.72						
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.57	70.2	20.0	7.1	2.0	0.8	255	0	0.77						
10	授業の内容は興味深いものだった	4.63	72.2	20.8	5.5	0.8	0.8	255	0	0.70						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.53	69.0	19.6	8.6	1.2	1.6	255	0	0.83						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.57	69.8	20.4	7.8	1.2	0.8	255	0	0.75						
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.52	67.7	19.3	11.4	0.8	0.8	254	1	0.79						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	3.70
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	有効 回答	無効 回答	3.70			
			5	4	3	2	1									
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	54.7	24.0	14.6	4.3	2.4	254	1	1.01						
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.19	12.9	5.5	14.9	21.2	45.5	255	0	1.40						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.53	35.6	17.8	24.5	8.3	13.8	253	2	1.40						
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.18	51.2	24.0	18.5	4.3	2.0	254	1	1.01						
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.38	58.9	24.5	13.0	2.4	1.2	253	2	0.88						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		有効 回答	標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.57	69.4	22.4	5.3	1.6	1.2	245	10	0.77			

Q1-Q19の当区分平均値	4.35
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	55人間福祉学科人間福祉学専攻(専門科目)	履修者数	回答者数
		488	384

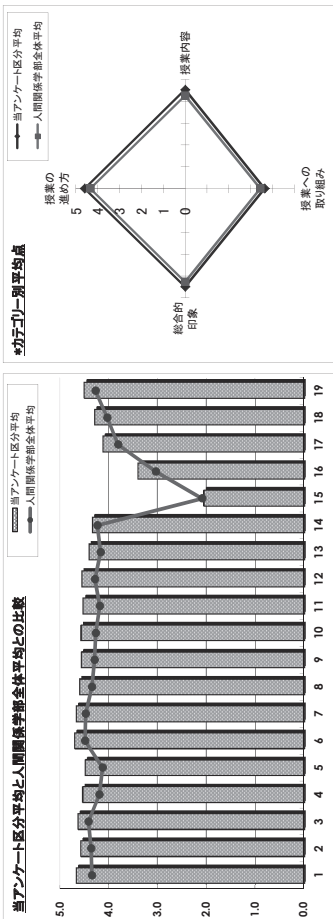
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	5			
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞きやすかった	4.66	73.8	18.6	7.3	0.3	0.0	381	3	0.62			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.57	69.9	18.3	10.5	1.3	0.0	382	2	0.73			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.62	74.0	15.2	10.0	0.8	0.0	381	3	0.69			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.53	67.7	19.2	11.3	1.8	0.0	381	3	0.77			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.48	66.4	17.8	13.1	2.4	0.3	381	3	0.83			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.69	78.1	13.7	7.7	0.5	0.0	379	5	0.63			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.66	75.5	16.1	7.4	1.1	0.0	380	4	0.66			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.53	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.60	71.3	18.4	8.9	1.3	0.0	380	4	0.71			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.56	69.5	18.9	9.5	1.8	0.3	380	4	0.76			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.56	70.3	17.6	10.5	1.3	0.3	381	3	0.75			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.52	67.5	19.7	10.5	2.1	0.3	381	3	0.79			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.55	70.9	15.7	11.3	1.6	0.5	381	3	0.80			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.40	62.3	19.5	15.3	1.8	1.1	379	5	0.89			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		有効 回答	標準 偏差	3.64
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答						
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	58.0	25.1	10.6	4.7	1.6	379	5	0.95				
15	この授業のために毎日平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.06	9.8	4.5	14.0	25.3	46.4	379	5	1.29				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.40	33.2	17.3	21.9	11.4	16.2	370	14	1.45				
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.11	48.3	25.2	18.6	5.6	2.4	377	7	1.05				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.28	54.3	26.1	14.9	3.5	1.3	376	8	0.93				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		有効 回答	標準 偏差	4.49
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答					
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.49	66.6	19.3	11.6	1.9	0.6	362	22	0.82				

Q1-Q19の当区分平均値	4.32
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



2018年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	56人間福祉学科介護福祉学専攻(専門科目)	履修者数	回答者数
		93	76

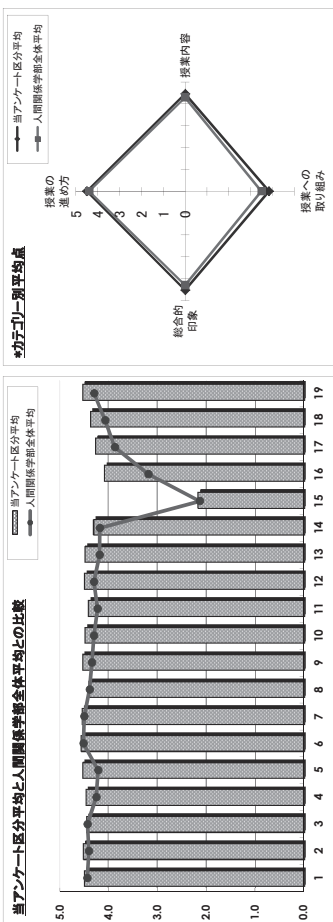
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			4.50	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答数	無効 回答数	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.49	56.6	39.5	0.0	3.9	0.0	76	0	0.70				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.51	56.6	40.8	0.0	2.6	0.0	76	0	0.64				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.45	57.9	35.5	1.3	3.9	1.3	76	0	0.82				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.46	56.6	35.5	5.3	2.6	0.0	76	0	0.72				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.53	57.9	38.2	2.6	1.3	0.0	76	0	0.62				
6	教員の学生に対する話し方は公平だった	4.55	59.2	38.2	1.3	1.3	0.0	76	0	0.60				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	60.5	34.2	3.9	1.3	0.0	76	0	0.64				

Ⅱ. この授業の内容について												当カテゴリ平均点		4.46
No.	設問文	平均値	回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.40	56.0	34.7	4.0	4.0	1.3	75	1	0.85				
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.53	57.9	38.2	2.6	1.3	0.0	76	0	0.62				
10	授業の内容は興味深いものだった	4.47	56.6	36.8	5.3	0.0	1.3	76	0	0.72				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.41	52.6	39.5	5.3	1.3	1.3	76	0	0.77				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.49	55.3	39.5	3.9	1.3	0.0	76	0	0.64				
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.47	59.2	34.2	2.6	2.6	1.3	76	0	0.79				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点				3.84	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差					
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	56.6	27.6	7.9	5.3	2.6	76	0	1.01					
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	2.17	4.0	16.0	17.3	18.7	44.0	75	1	1.27					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	4.08	43.4	34.2	13.2	5.3	3.9	76	0	1.07					
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.26	48.7	38.2	7.9	1.3	3.9	76	0	0.96					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.37	52.6	36.8	6.6	2.6	1.3	76	0	0.83					

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.53	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差				
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.53	59.5	35.1	4.1	1.4	0.0	74	2	0.65				

Q1-Q19の当区分平均値	4.32
Q1-Q19の学部全体平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.48



2018年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	56人間福祉学科介護福祉学専攻(専門科目)	履修者数	回答者数
		210	169

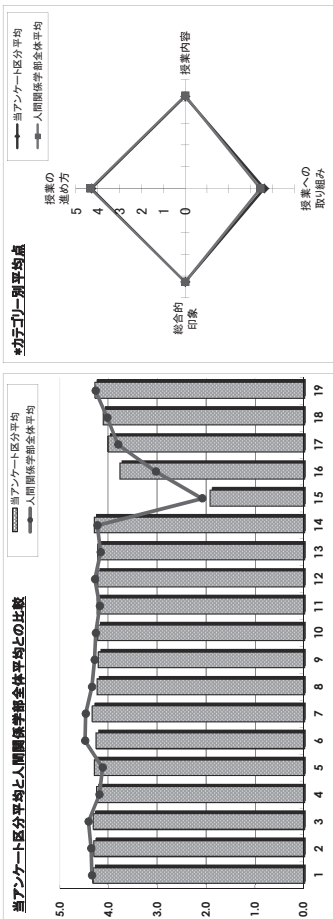
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.29	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明確で聞きやすかった	4.31	50.3	38.5	4.7	5.3	1.2	169	0	0.88			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	46.2	42.0	7.7	3.6	0.6	169	0	0.81			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31	46.2	41.4	9.5	3.0	0.0	169	0	0.76			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.24	43.2	43.8	7.1	5.9	0.0	169	0	0.83			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.28	46.2	40.8	8.3	4.7	0.0	169	0	0.81			
6	教員の学生に対する話し方は公平だった	4.25	46.7	36.7	11.8	4.1	0.6	169	0	0.86			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.33	48.5	38.5	10.1	3.0	0.0	169	0	0.78			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.22	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
8	授業は学習の目標がはっきり示された	4.23	46.2	39.1	8.3	4.7	1.8	169	0	0.92			
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.20	45.0	39.1	8.9	5.3	1.8	169	0	0.94			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	47.3	36.7	8.3	5.3	2.4	169	0	0.97			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.23	43.2	43.2	8.3	4.1	1.2	169	0	0.86			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	46.2	38.5	9.5	3.6	2.4	169	0	0.93			
13	「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	42.0	43.2	10.1	3.6	1.2	169	0	0.85			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.62	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差				
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	59.8	21.9	8.3	7.7	2.4	169	0	1.06				
15	この授業のために毎回平均で予習・復習・課題やレポートを合わせてどの程度時間をかけましたか	1.93	3.0	10.1	7.1	36.7	43.2	169	0	1.08				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.77	30.8	36.7	18.9	5.9	7.7	169	0	1.18				
17	この授業を受けて、さらに勉学的に学びたいと思った	4.01	37.3	39.1	14.2	5.9	3.6	169	0	1.04				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.11	39.9	41.7	10.7	4.8	3.0	168	1	0.98				

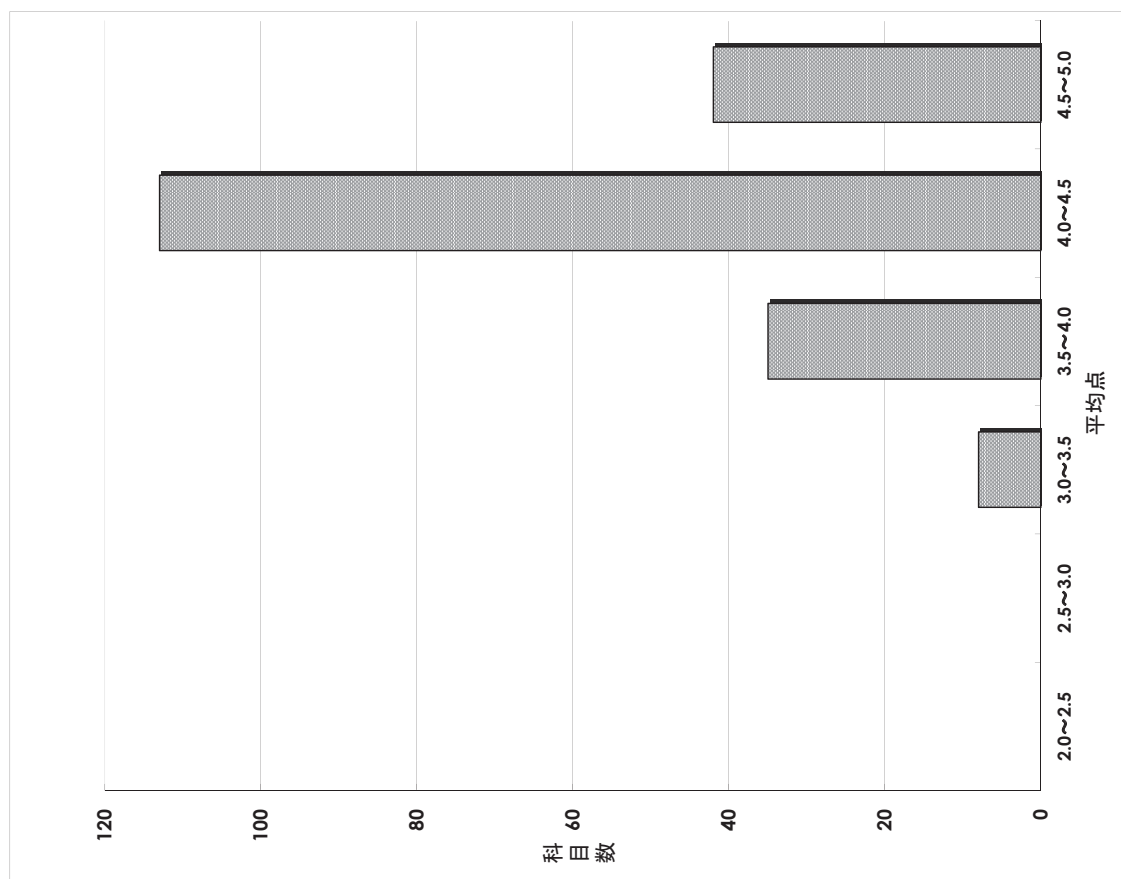
Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.27	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	48.8	34.8	12.2	3.7	0.6	164	5	0.86			

Q1-Q19の当区分平均値	4.09
Q1-Q19の学部全体平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.37



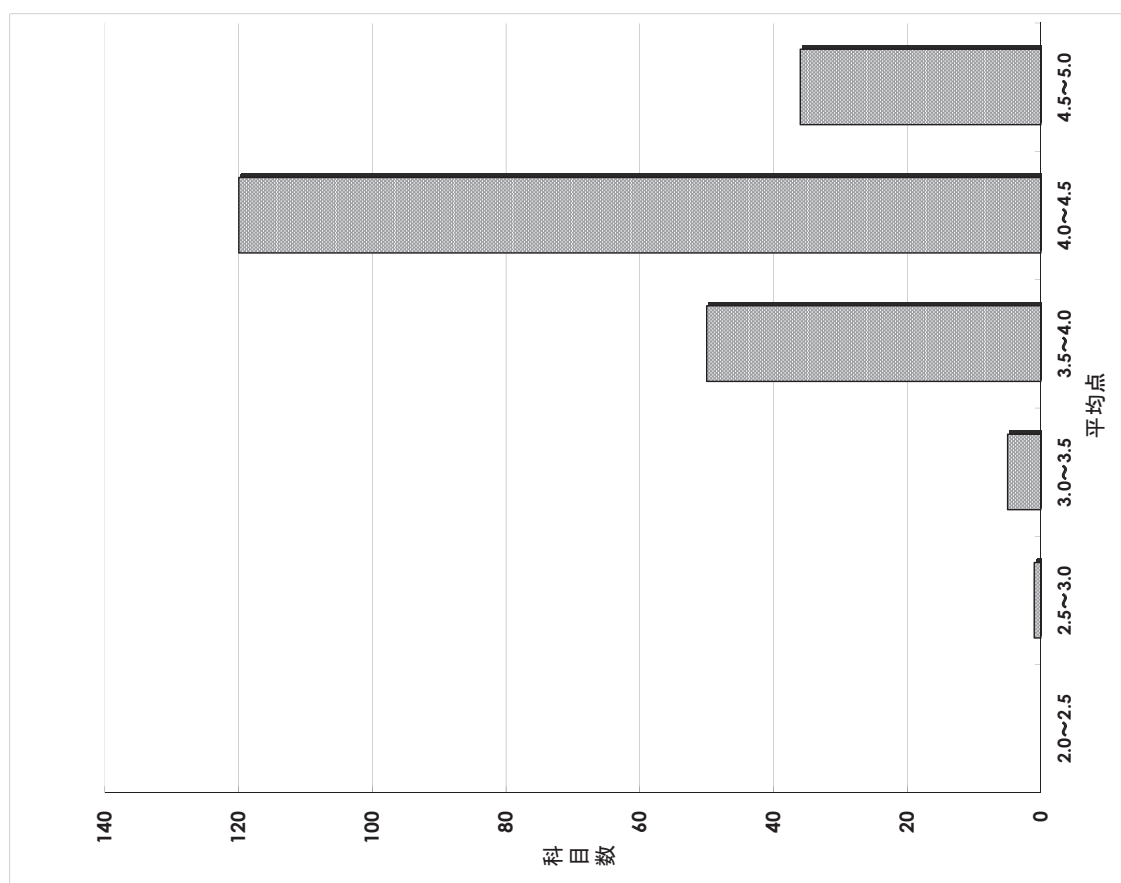
人間関係学部 評定平均点度数分布表

全科目数	198
------	-----



人間関係学部 評定平均点度数分布表

全科目数	212
------	-----



Ⅱ－２ 授業アンケートへの対応

前期・後期と実施した学生に対する授業アンケートに教員自身がどう対応するかを教員に尋ね回答をえた。その結果をここに紹介する。

Ⅱ－２－１ 前期授業アンケートへの教員の主な回答

（１）授業の改善点

① アクティブ・ラーニングの試み

授業の改善点について書かれたなかで、多くの教員が触れていたものの一つがアクティブ・ラーニングへの取り組みについてであった。

「本授業では、ロールプレイなどの演習課題の時間を多くとりました。……雰囲気がよくなるようにと努めましたが、もう少し工夫が必要に感じました」（社会臨床心理非常勤）。

「グループワークを円滑に進められるよう、サポートをしていく」（福祉非常勤）。

「学生参加型の授業になるよう工夫を検討していきたい」（福祉非常勤）。

「毎回リアクション・ペーパーを配り、質問や感想を書いてもらい、その中から良いもの…を翌週のレジュメに掲載し、授業開始 15 分くらいを使って一緒に考えてもらうという時間を設けました」（社会非常勤）。

「グループワークのメンバーがつねに一定になってしまったため、もっと様々な受講生と議論したいという自由記述もあった。来年度はその点を工夫したい」（社会非常勤）。

「講義科目についても、学生が学内では個別やグループでディスカッションをして、自らの主張を根拠を示しながらプレゼンする内容です」（福祉常勤）。

② 予習・復習（自習）を促す工夫

学生に予習・復習を促すような工夫についても、課題を増やす、予習・復習を意識させるなど、さまざまな案が出されていた。

「毎回の復習など家庭学習がほとんど行われていない。……今後は自宅で考えてくる、まとめてくるといった課題を増やしていきたい」（社会非常勤）。

「予習・復習にかけた時間」の点数が低かったですが、毎回何らかの持ち帰り課題があったはずなので、意識的には予習・復習という自覚がないのかもしれませんが。予習・復習という位置づけをきちんと明示し、自覚してもらえようようにしたいと思います」（社会臨床心理常勤）。

「予習・復習を促す必要性が痛感された。学期の途中で理解度の自己チェックのための小テストの導入なども検討する必要があるかもしれない」（福祉常勤）。

「予習・復習を促進するような工夫が必要かもしれないと思いました」（社会臨床心理常勤）。

他方で、予習・復習がすでに十分に行われていると書いた教員もいた。

「特に「予習復習」の評価がかなり高く、学生が熱心に取り組む様子がわかりました」（福祉常勤）。

さらに、予習・復習をさせるため、共通の課題を出しているにもかかわらず、学生間で差異が生じてしまっていることに言及し、それへの改善策を試みようとする教員もいた。

「予習・復習の点数が学生によって差があり、同じ課題を出しているのにもかかわらず、差があることは学習の理解度とも関連しているように感じる。予習・復習の意味を再度確認していきたい」（福祉常勤）。

この最後の点は、以下の「学生の二極化」にも関係してくる。

③ 学生の二極化

受講学生の二極化を指摘し、それにいかに対処するか苦慮していることを記した教員もいた。

「必修科目の学生……と興味があり受講した学生……は大変集中した態度で受けているが、専門科目の選択科目の単位を取得で履修した学生は学年に関係なく、欠席日数も多く二極化していた。……難しかったかもしれません。改善点はまだ見つからない」（福祉常勤）。

「出席率や学生の予習復習への取り組みの程度が二極化していました。学習意欲が高いとは言えない学生をいかにやる気にさせるかはとても難しく、まだ改善点が見出せません」（社会臨床心理常勤）。

④ 授業の難易度

講義内容が難しいとの指摘を受けて、改善案を検討する意見も見られた。

「授業の難易度について授業中に確認したり、リアクション・ペーパーにも率直な意見を求めるようにしていきたい」（社会非常勤）。

「講義の内容が多すぎてスピードが速くなってしまうことがあり、もっとじっくりゆっくり学びたいという意見があったため、授業の内容をもう少し減らし、その分時間をかけて教えるようにしたい」（社会常勤）。

（２）施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望

① 情報機器への要望

施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望については、まず、PCや映像など、情報機器にかんする要望がいくつか寄せられた。

「引き続き一人一台の PC 環境の整った教室で授業が出来ることを望みます」(社会臨床心理常勤)。

「貸出ノート PC (プリンタも含む) の台数増加と、そのためのネットワーク環境の拡充を望みます」(社会臨床心理非常勤)。

「もう少し高性能のピンマイクに変えてほしい」(社会常勤)。

「音楽を資料として用いる場合があるが、音割れが起きることがあるので、この授業に関しては音響設備が整った教室を用いたいです」(社会常勤)。

「教室 (7114) ……スライドを使用する場合に前列の電灯を消すと前方数列が暗く、受講環境が悪くなる」(福祉非常勤)。

「履修登録後にコース分けを行う授業のため、manaba の活用が難しい。開講後のコース別に web 提出やインタラクションが可能な仕組みがほしい」(社会臨床心理常勤)。

② 教室規模

次いで、教室の規模にかんする要望も見られた。

「80～90 人の授業で、ワールドカフェ方式で、席を移動しながらディスカッションする授業を行えたらと考えているため、机や椅子が可動式の、大きい教室があれば使いやすいと思う」(社会常勤)。

③ 教室の椅子や机に対する要望

演習やアクティブ・ラーニングには固定の椅子や机はすぐわないという意見が出された。

「教室については、演習時に机や椅子を動かせるとよかったのですが」(福祉非常勤)。

「ワールドカフェ方式で、席を移動しながらディスカッションする授業を行えたらと考えているため、机や椅子が可動式の、大きい教室があれば使いやすいと思う」(社会常勤)。

④ 学生数

履修学生の数にかんする要望もあった。

「受講者の人数が 100 人を最大として頂けたら幸いです」(全学共通科目非常勤)。

「190 人の授業を担当したが……100 人以内にすることができれば、授業の質が高まるように思う」(社会常勤)。

(3) 学生に望むもの

① きちんと予習・復習を

学生への要望では、予習・復習や宿題をきちんと行うよう求める意見が見られた。

「manaba での課題には毎回きちんと回答してほしい」(社会臨床心理常勤)。

「自分なりの予習・復習スタイルを構築することで、さらに意欲的になり、力も付くと思います」(社会臨床心理常勤)。

「予習・復習(講義ノート)、課題レポートを通じて自己学習してください」(福祉常勤)。

「教科書を読んで予習してほしい」(社会常勤)。

「予習用のプリントは読んできてほしいと思います」(福祉非常勤)。

② 積極的に質問を

積極的に質問をするようにとの要望もあった。

「質問によって、内容の理解が深まるので遠慮せずに発言をして欲しい」(社会臨床心理非常勤)。

「質問の際は挙手をお願いします」(全学共通科目非常勤)。

③ 私語を慎んで

真面目に受講している学生からの苦情も出ているようで、私語を学生自ら慎むようにとの要望もあった。

「私語は他の学生の学ぶ権利を侵害するということをよく認識してもらいたい」(社会非常勤)。

「とにかく私語は慎んでももらいたい」(福祉常勤)。

「私語などで授業の妨げになることは慎んでいただきたい」(社会臨床心理常勤)。

「私語がうるさいと何度も学生から苦情がでた。私語を慎んでほしい」(社会常勤)。

④ もっと出席を

積極的な出席を促す声もあった。

「より積極的に出席してほしい」(社会非常勤)。

「知識を積み重ねる授業なので、履修者はできるだけ出席してほしい」(福祉常勤)。

Ⅱ—2—2 後期授業アンケートへの教員の主な回答

(1) 授業の改善点

① 自習(予習・復習)を促す工夫

自習を促す工夫については、具体的な課題を示す、課題の難易度や量を受講学生の水準に合わせる、課題遂行チェックを行うなどさまざまな試みについて触れられていた。

「予習は毎回出しているのだが、量や難易度があっていない可能性がありその結果、学生の自学習率が低いと思われる。再度、量と難易度を検討する」(福祉非常勤)。

「予習についての改善を検討します。予習については、テキストのページ等で予習範囲を明示するのみで、実際に予習に時間を割いたかについては自己申告にとどめていました。そこで今後は、確認できるような具体的な課題や小テストなどを検討しようと思います」(社会臨床心理常勤)。

「もう少し自宅学習に取り組めるような工夫をしていきたいと思います」(社会臨床心理非常勤)。

「教員だけが話すのではなく、教員は必要に応じて介入する形で学生が自習する環境を確保することが大切であることがわかった。この結果を次年度にも活かしたいと考えている」(社会常勤)。

「学生が予習しやすいよう課題を提供するなど配慮したい」(全学共通科目非常勤)。

「ICI の活用等を通して事前・事後学習の促しを行っていききたい」(全学共通科目非常勤)。

「毎回の授業の最後に「〇〇の部分について、しっかりと復習しておくように」といった具体的な指示を与えていききたいと思う」(福祉常勤)。

「予習復習に関しては授業の中で伝えていたが、レポート等に反映しないとなかなか実践できないようなので、次年度改善したい」(福祉常勤)。

他方、予習や復習を促す工夫がうまくいっていることを報告する教員もいた。なかには、さらなる改善を試みようとする者もいた。

「復習や積極的な参加に対する評価が相対的に高かった。次年度もふりかえりの小テストと復習課題を中心として、より多くの受講生が主体的に学ぶ習慣をつけられるよう改善していきたい」(社会臨床心理常勤)。

「各自、予習メモを作成してきてもらい、それを授業中にペアもしくはグループで教えあう活動にし、授業の後半で補足説明を入れることで授業外での学習時間の増加と知識の定着を図った。その結果、授業外での学習については……大幅に高めることができた」(社会臨床心理常勤)。

「授業開始時に予習・復習の徹底を指示した。その結果、manaba への回答率が向上した」(社会臨床心理常勤)。

「「予習復習」の評価も高く、manaba び活用や学生の自主学習の促しがこの評価につながったと考えます」(福祉常勤)。

② 積極的参加を促す工夫

学生の積極的参加を促す工夫についても検討されていた。

「受講生が積極的に参加できる工夫をし、主体的に学ぶ授業にしていきたいと思う」(社会非常勤)。

「学生主導の学習を増やしたい」(福祉非常勤)。

「授業内ディスカッションを活発にしたい。……来年はより説明時間を減らし、引き出された意見について相互に討論できる工夫を考えていきたい。そのような積極的な授業参加を通して、一見役立たない教養に対する肯定的な態度を涵養したい」(社会臨床心理非常勤)。

③ 私語への対応

前期と同様、私語にいかに対応するかについても触れられていた。

「教員としては気づかない私語であっても、周囲の学生にとって適切な授業環境になりえていない状況も存在することを前提に、授業運営をしていく必要がある」(全学共通科目非常勤)。

④ 学生の理解度に合わせた授業進行

学生の理解度に合わせた授業の進行を工夫するよう書いた教員もいた。

「授業の進め方のスピードについて、例年「早い」という人と「遅い」という人がおり、例年、調整に苦労しているところである。……話す速度は標準的にし、スライドの提示をゆっくりにしたいと考えている」(社会臨床心理常勤)。

「少数ではあるが授業に対する関心度の低い学生への対応が課題である。理解度への配慮が一層必要であると感じる」(全学共通科目非常勤)。

「こちらで用意した教科書の内容が難しすぎるという意見を授業中にもらった。アンケート結果でも、授業内容の理解に関する項目の点が低く、学生のレベルを適切に把握できていなかった点について、次年度から改善していきたい」(社会常勤)。

「理解度を考慮しながら進められた」……最も低くなってしまいました。今年度は毎回の提出物に質問記入欄を設けるなどの措置を取り、質問や意見を引き出し、分からないことについて相談できるよう工夫しましたが、リアクションペーパーの提出を毎回求めるなどの措置を取ることでさらに改善できるのではないかと考えられます」(社会臨床心理非常勤)。

(2) 施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望

① 教室について

受講学生の人数に対して教室の大きさが適切であることを要望する意見があった。また、稼働椅子と机のある教室を希望する意見も見られた。

「100名弱でもアクティブ・ラーニングが実施できるように、できる限り固定式ではなく、可動式の机と椅子のある部屋で授業を行いたい」(社会臨床心理常勤)。

「受講者が少ないため小さめの教室になることはやむを得ないと思いますが、授業の内容が英文の文構造を解説するものであり、長い長文になると黒板が小さいと感じることがありました」(社会臨床心理非常勤)。

「受講者数に合った教室の割り当てが重要だと感じた」(社会臨床心理非常勤)。

「横に広く大きすぎないセミナー系の教室を希望します」(社会常勤)。

「受講者数と教室の大きさのバランスが取れると個々の学生への配慮が可能になるのではないと思われる」(全学共通科目非常勤)。

「ゼミでゼミ室を割り当ててもらえないのをどうにかしていただきたいです。輪読・ディスカッションに特に困難を感じています」(社会常勤)。

② 情報処理機器関連の要望

情報処理機器関連の要望がいくつか見られた。そのなかには、manaba についての新しい機能の要望もあった。

「引き続き一人一台の PC 環境の整った教室で授業ができることを望みます。……学生が気軽に PC を持ち込んで授業が受けられる環境が整うとよいと思います」(社会臨床心理常勤)。

「使用した教室の機材と Mac の相性がよくなかったせいか、パワーポイントを投影することができなかった」(全学共通科目非常勤)。

「教室内のどこでも PC の遠隔操作ができるマウスポインタなどがおいてあるといいと感じました」(社会臨床心理非常勤)。

「PC 使用時に横向きにならざるを得ず、またモニターの位置も見えにくい点が不便だと感じた」(全学共通科目非常勤)。

「明かりをつけたまま教材提示装置が見えるような設備に変更が可能であればお願いしたい」(社会常勤)。

「講義中にパワーポイントのスライドを操作する遠隔マウスなどがあるとよいと思う」(福祉非常勤)。

③ 受講者数の調整

より少ない人数の受講者を希望する声があった。

「受講者数は少ない方が学生とのコミュニケーションが容易となるため望ましい」(社会非常勤)。

(3) 学生に望むもの

① 積極的参加を

学生への要望では、授業への積極的参加を望む意見が見られた。

「受け身の態度ではなく、積極的に授業に参加してもらいたいと思います」(社会臨床心理常勤)。

「グループワークなどでは遠慮しないで議論してほしい」（全学共通科目非常勤）。

「学生の側からも積極的にディスカッションやコメントをしてもらえることを期待している」（社会常勤）。

「興味および関心をもって授業に臨んでほしいと思っている」（全学共通科目非常勤）。

「積極的な姿勢で取り組むことで、得られるものが多くなると思います」（社会臨床心理非常勤）。

② 予習・復習をすること

予習・復習を求める声も見られた。また、予習・復習の具体的方法を示す教員もいた。

「予習を十分に行うこと。また、昼休みなどのすきま時間を利用し、友人と学習グループをつくり復習すると、さらに英語の実力がつくと考えられる」（全学共通科目非常勤）。

「予習・復習に関してはニュースや新聞等を読むことを勧めていることや、わからない言葉など教科書を読むことを各自で行ってほしい」（福祉常勤）。

「相談援助実習でも使う技術のため復習にも時間をかけて頂きたいと思います」（福祉常勤）。

③ 質問をすること

質問についても積極的に行うよう要望が書かれていた。

「わからない点があれば、ぜひ積極的に聞いて早めに解決して欲しいです」（社会臨床心理常勤）。

「わからないことがあれば遠慮なく聞いてほしい」（社会学非常勤）。

「積極的に質問してほしい。……わからない事はそのままにしないでほしい」（社会臨床心理常勤）。

④ 目標・目的をもつこと

積極的学習には、学習の目標や目的を意識化することが肝要だとの意見もあった。

「社会福祉学をなぜ学ぶことにしたのか、自分自身の振り返りをしてほしいと思います」（福祉非常勤）。

「演習形式の授業のため、自ら授業への取り組み方で理解度も変わるので、目的をもって授業に参加してほしい」（福祉常勤）。

⑤ 学習態度やマナーの改善を

受講態度の改善を求める声も見られた。

「私語をつつしむこと」（社会非常勤）。

「講義中は食事をしないこと。スマホをいじくりまわさないこと」（全学共通科目非常勤）。

「他の方が静やかにワークに集中できるよう、ご協力お願いいたします」(社会臨床心理非常勤)。

「遅刻をしないようお願いします」(社会臨床心理非常勤)。

Ⅲ 学科・専攻における平成30年度FD活動への取り組み

1. 人間関係学科

(1) 社会学専攻におけるFD活動に関する取り組み

1) 社会学全体としての取り組み

i 社会学専攻としてはおよそ隔週のペースで専攻会議を開催している。会議の内容で大きな比重を占めているものの一つが問題を抱える学生たちへの対応である。そうした学生たちについての対応の方法を検討している。

ii 問題をかかえる学生のなかには障がいをもった学生も存在する。そういった学生がつつがなく学生生活を送ることができるように、クラス指導主任や障がい学生支援委員ほか各種委員と学生相談センターおよび事務部とで連携をとりながら、さまざまな問題を話し合っている。また、今年度は昨年度に引き続き本人からの要請に応じて支援チームを結成し、専攻会議で情報を共有するなどして解決にあたっている。

iii 教員の方で学生のかかえる困難に気づき、会議で情報を共有し話し合うことも増えてきた。これは、障害をかかえる学生に関する学部主催の研修会の成果の一つかもしれない。

vi 5月末に毎年開催される非常勤講師懇談会においては非常勤の先生方のご意見をいただき、専攻としての取り組むべき改善作業の参考にした。毎年参加してくださる非常勤の先生もおられ、有意義な会となっている。

v 社会学専攻では、基礎セミナーの平準化が他専攻に比べて遅れているとの認識を抱き、平成25年度から「社会学基礎セミナーⅠ」に限って平準化を行うことにした。共通のテキストを指定して、レジュメの作り方、図書館の利用法、テキストの輪読、グループワークの実施など、担当教員が行う授業内容を取り決めた。採点基準については、「社会学基礎セミナーⅠ」、「社会学基礎セミナーⅡ」とも、Sは1割以内、AとSの合計は5割を超えないという評価の分布の基準を設けるとともに、授業での報告を中心とした平常点と期末レポートの比重をそれぞれ50%とし、その合算によって成績評価を決めるということが確認された。この方針は2019年度においても継続される。また、「社会学基礎セミナーⅠ」のテキストは2年ごとに変更している。来年度は変更の年であったが、代わりとなる候補のテキストに本学学生に適したものが見つからなかったため、変更せずに来年度も同じテキストを用いることを確認した。

vi 社会学専攻では、2年次の「社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱ」の授業の一環として学生による報告会を毎年12月上旬に開催している。主たる目的は学生の発表であるが、この会には社会学の教員も原則全員参加しており、そのため他の教員が演習という授業をどのように行っているのかが分かり、次年度からの授業運営の参考になるという意味で、教員のFDにとっても有意義な会となっていると考える。

vii 入学学生の二極化（学力、やる気）が昨今著しく、それにいかに対応すべきかについても専攻会議で話し合われた。

2) 教員個々の取り組み

i 伊藤美登里

①引用・参照理解度小テストの実施

社会学基礎セミナーIIで、引用・参照の仕方をプリント配布し口頭で説明した翌週、試しに、理解度を測る小テストを実施し、マンツーマンでできていないところを指導した。学生には、それぞれ丁寧にお礼を言われ、予想外に好評であった。

②文章の書き方や論文の書き方の指導の工夫

社会学セミナーIにおいて、(英語圏の大学に留学した者を対象としたアカデミックライティングの) 英語のテキストを日本語に翻訳して、アイデアの出し方とまとめ方、一つの段落の書き方、エッセイの書き方などについて指導し、実際に文章を書いてもらいそれを添削して返却するという指導を行った。社会学セミナーIIでは、社会学セミナーIの内容を(復習しつつ)発展させ、学術論文の書き方について、実際に一つの学術論文を精読し、内容を分解して、論文というものがどのような構造で書かれているのかを指導した。そのうえで、学生各自の卒論がどのような章構成になりうるかを個別に指導していった。社会学セミナーIII・IVでは、実際に提出された卒論原稿(未完成)を添削する形の指導を行った。

ii 牛山美穂

①レジュメ、レポートの書き方についての指導

文献購読の際のレジュメの作り方、自分の調査についてのレジュメの作り方、レポートの書き方など、基本的なアカデミック・スキルを習得させるために、こちらでオリジナルの資料を作成したり、インターネット上の資料を用いたりしながら、授業のなかである程度時間を取って教えた。さらにその後、授業時間内に各自PCを使って、文献検索をしたり、レジュメやレポートに取り組んだりする時間を与えることで、作業をしながら出てきた質問に対してその都度教え、またそれをほかの学生とも共有するようにした。(基礎社会セミナーI・II、現代社会論セミナーI・II、社会調査実習及び演習I・II、社会学セミナーI・II)

また、現代社会論セミナーIでは、google ドキュメントを使って、4~5人のグループ毎にひとつのレジュメを共同で作成する方法を教えた。将来、共同で文書を作成するようなことがあるときに、有用なスキルであろうと考えられる。

また、基礎社会セミナーI・II、現代社会論セミナーIIでは、学期末にはひとりひとりに対しレポートの講評をすることで、どういった点を改善していけばよいかを具体的に教えた。こうした講評をすることによって、学生がレポートの構成の仕方や正しい引用の仕方などを早い段階から身に着けてもらうことを意図している。そうすることによって、卒論執筆時にはそうした基礎的な指導に時間を取られず、卒論の内容についてじっくり指導する時間を確保できるようになることを期待している。

②コメントしあう時間の確保

社会調査実習及び演習I・IIでは、ひとりひとつのテーマを設定しエスノグラフィーを執筆させ、全員分の原稿の第一稿を学生全員が目を通して、コメントをしあう機会を設けた。2018年度の社会調査実習及び演習では、そうした機会を設ければきちんと発言ができる学生が多く、

クラスの雰囲気も活性化されたと感じた。

また、原稿第一稿の提出前には、二人一組で、原稿の誤字脱字チェックをさせたが、これも他人のエスノグラフィーをじっくり読むいい機会であると同時に、客観的に誰に原稿を見てもらうことで、自分では気が付かなかったミスを発見することのできるよい機会になったと感じられた。

③manaba の活用

社会調査実習及び演習Ⅰ・Ⅱ、社会学セミナーⅠ・Ⅱでは、各自が書いたレポートを manaba で相互閲覧できるようにし、授業の前にそれらを各自ダウンロードして目を通してから、授業でコメントをしてもらう、という形をとった。

iii 大出春江

①学生に読んでほしい課題資料は pdf 化し manaba のコンテンツとしてアップロードしている。読む資料に加え、講演等の音声ファイルや画像ファイルを用いて、それらを見たり聞いたりした上で、考察したことを提出するという課題も出すようにしている。講義内容とその資料とを組み合わせ所定の日までに課題を提出することになる。

②社会学基礎セミナーⅠ・Ⅱと社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱのグループワークにおいて manaba のプロジェクトをグループワーク用に活用している。機能としては締切に幅をもたせられないことと、複数ファイルを受け付けないという融通のなさが難点であり、この点は掲示板を併用することで補っている。

③学生が課題を読んでまとめ、それに考察を加えるまでの力を身につけるのは簡単ではない。この点は、レポートの提出に対し添削をして返却することを、社会学セミナーにおいておこなっている。本来は1年次の社会学基礎セミナーⅠ・Ⅱからすることが望ましく、これは課題である。

④多摩市を中心とした地域で活動する人々の話を聞く機会を設けている。できるだけさまざまな分野の人との交流を学外、および学内で実現し、身近に現代社会の課題や諸問題を自分の目で確かめ問いを立てる機会とすることを目ざしている。

iv 久保田滋

今年度は、前年度に引き続き、manaba を用いつつ学生教員間、そして学生間のコミュニケーションを活性化することを試みた。特に、グループワークをより充実させ、そのプレゼンテーションへ向けての作業を掲示板等の機能を用いおこなうよう指導をおこなった。学生らには、掲示板での議論を促したが、実際には活発なやり取りに結びつくことは難しい部分があった。一部の学生間において Line 等で連絡し合い、その結果を掲示板に代表者がアップロードするような形となる場合が多かった。

また、初年度教育では、基礎セミナー等において、レジュメの作り方と報告の仕方、論文の書き方などの指導を、前年度より時間をかけておこなった。しかし、個々の既存の授業の中ではそのような指導の時間を十分にとることができないということも、同時に認識するに至った。むしろ、全学共通教育や学部共通教育において、必修のアカデミック・リテラシーの講義・演

習を設置し、大学教育への導入を組織的に充実させる必要があると考える。

v 小谷敏

- ①本年度も社会学合同ゼミナールに参加し、他大学の先生方の指導法から多くを学んだ。
- ②講義科目の授業においては、毎回リアクションペーパーを書かせ、それを次の授業中に読み上げ続ける。ある学生の発言に他の学生が反論をして、「リアクションペーパーバトル」とも呼ぶべき論争が起きるなど、さまざまな知見と教訓が得られた。

vi 齊藤豊

CDP の授業で行うグループワークで、模造紙ではなく、包装用クラフト紙を島形式に集めた机の大きさ（長さ）に合わせてカットして使用する形で、ブレインストーミングを行なった。

4 人以上のグループの場合、模造紙では小さすぎてグループメンバー全員が同時に記入することができずに、グループ内で主導的に作業を行う人のみの意見に偏る傾向がある。これを是正するために島になった机全体を覆える紙を使い、全員が思いついたことを自分の前にある紙に記入する形式したいと考えた。包装用クラフト紙の場合、1200mm の幅（模造紙の長辺より長い）で長さは 3000mm（一人用机 5 個分の横並び）以上でも可能（1 巻 20m 以上の長さ）なので、一人用机 6・10 個をくっつけて島を作って、全員が着席してグループ討論しながら紙に書くことができる。ブレインストーミング時のメモとまとめの両方を 1 枚の紙に書くことができ、グループワーク時に作業をする人としらない人を出さずに全員参加が可能になり、議論を活性化することができた。

また、1 枚の大きな紙にグループ全員がメモ段階から記入していき、まとめるので、教員が各グループのブレインストーミングの進捗の把握が容易になり、各グループがどういう思考をして結論にたどり着いたかがわかり、よりの確なアドバイスが可能になった。

vii 千川剛史

- ①講義形式の数十名以上の授業において、学生の私語を防いで静粛を保つために、同じクラスの学籍番号の近い学生同士が隣り合わないよう工夫して作成した着席表を用いて学生を着席させている。
- ②講義において、PC、パワーポイント、プロジェクターやインターネット、DVD などの視聴覚機器を毎回用いて、また、授業内容に関連した新聞記事をプリントして配付し、できる限り具体的な事例を紹介しながら、学習内容を学生が理解しやすいようにしている。
- ③講義で、毎回、コメントペーパーを学生に配付して記入させ、それを回収し・読むことで、各学生の授業の理解度を把握し、出席状況を確認している。また、回答すべき質問・意見がコメントペーパーに記入されている場合は、次の講義の冒頭で、それに回答している。必要があれば、その質問・意見に関連した資料をプリントして配付したり、プロジェクターで提示したりして、わかりやすく説明している。

viii 牧野智和

①調査演習を用いたレポート執筆のワーク

1年の基礎セミナーなどでもレポートの書き方が扱われることがあるが、それが身に付ききらないままに卒業論文の執筆を迎える学生も少なくない。それが身につかないのは、扱うレポートのテーマと内容が、個々人の関心や生活に深く結びついていないところにあると考え、今年度は2年の調査演習において、1年間かけて学生自らが企画・立案・実行した調査の報告書において、章・節・項の構成などを厳格に指定して執筆を行わせた。また報告書原稿を一度提出させ、全員に赤入れをするかたちでレポートの形式に沿わせ、また考察の質を高める指導を行った。

（２）社会・臨床心理学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

教員個々の特筆すべきFD上の取り組みを“Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会”、“Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト”、“Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み”に分けて記述し、その成果を報告する。

香月菜々子

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1．学部FD研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018年12月7日（金）17:00～19:00

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第1部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第2部「障害学生支援委員会企画」両方に参加した。第1部はシラバス作成への意識を高めると同時に、具体的な注意点が分かり、大変有用であった。また第2部では参加者同士の意見交換が進み、教職員の方々の様々な配慮や具体的な対応など、学べる部分が大きかった。

2．大妻学院110周年記念講演会「これからの心理職の在り方—公認心理師なら知っておくべき脳神経科学と行政法—」

日時：2018年8月19日（日）13:00～17:00

場所：大妻女子大学多摩キャンパス（心理相談センター主催）

内容：第1部「脳神経の構造と機能、感情に関する理論や感覚・知覚の機序」について石田裕昭先生（東京都医学総合研究所主任研究員）にご講演頂き、第2部では「公認心理師に必要な法律と行政法」について野村和彦先生（日本大学法学部准教授）にお話頂いた。筆者は講演会の準備を担当しつつ、両方に参加した。第1部は、普段は学ぶ機会が限られている脳神経科学について基礎的な内容を深く学ぶことができ、また第2部では行政法の中でも心理業務に関わる部分について特化して学習を進めることができたため、大変有意義であった。

【その他】

1．臨床心理士資格試験 一次試験対策試験練習

日時：2018年6月9日（土）10:00～17:00

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：臨床心理士資格認定協会により毎年秋に開催される「臨床心理士資格試験」の準備学習として、今年度受験を控えている本学修了生を対象に「筆記試験練習」を企画し、心理相談センターのスタッフの協力を得て実施された。本番と同様の時間割が組まれており、参加者は過去に出題された問題をもとに作成された試験問題を解き、その場で採点をすることで、各々が不足している学習領域に気づき、具体的な問題点が明確になるため、その後の試験勉強が進めやすくなるなど、参加者に好評であ

った。今年度の受験予定者全員が受講し、有意義な時間となった。

2. 臨床心理士資格試験 二次試験対策試験練習

日時：2018年11月10日・17日（土）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：臨床心理士資格認定協会により毎年秋に開催される「臨床心理士資格試験」の準備学習の一環として、本学修了生で、今年度1次試験合格者の受験を対象に「面接試験練習」を企画し、心理相談センターのスタッフの協力を得て実施を行った。本番と同じスケジュールで、想定される部屋の配置と面接官の人数とで、模擬面接による練習が行われた。面接における受け答えや挨拶、その他注意すべき点等について個別指導を行い、実践的な2次試験対策となった。今年度の1次試験合格者全員が受講し、有意義であった。

3. 公認心理師試験 筆記試験練習

日時：2018年6月23日（土）・30日（土）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：臨床心理学領域において初めての国家試験である、第1回公認心理師国家試験（2018年9月9日実施）対策の一環として、資格取得を目指す本学修了生および在学学生を対象に、「筆記試験練習」を企画し、心理相談センタースタッフの協力を得て実施された。公認心理師試験の実施は今回が初めてであるため、あくまで試験時間に慣れることと、マークシート作業の練習を目的として行われた。なお、問題用紙は、心理学検定・臨床心理士資格試験・精神保健福祉士試験などで過去に出題された設問をもとに作成され、本番と同じスケジュールで実施された。約60名の参加者によれば、試験対策に役立ったとのことで、大変有意義な時間となった。

4. ACTA 第9回 2018年秋の3DAY ライブ・セッションワークショップ「子どもに、私たちはどう対応したらいいのでしょうか？」治療的アセスメントを用いて、思春期の子どもと家族の投影同一化をシフトする

日時：2018年11月2日（金）・3日（土）・4日（日） 9:00～18:00

場所：浅草橋ヒューリックホール&ヒューリックカンファレンス

内容：治療的アセスメントの一連の流れを体験的に学ぶと言うコンセプトで行われた。約50名の参加者が、3名の相談者と2名の専門家の実際のセッションの様子を別室のライブ映像で見ながら、ともにセッションで生じている出来事や心理検査を解釈するという、心理臨床の画期的な教育研修スタイルを導入しており、アクティブラーニングの先を行く実践的で専門的な学びの時間となった。開催者と参加者はともに専門家（心理療法家）であるため、会場が一体となって知恵をしばりながら、事例をどう理解し、得られた見解を相談者にどのように伝え、効果的な介入の在り方やセッションの組み立て方を検討した。さらにはその結果を相談者にライブでフィードバックし、相談者からも応答を得ることで、実際の治療も“今ここで”同時に進んで行くという形式が大変興味深く、学び得るものが多かった。この研修会の発想やエッセンスは、学部および大学院教育に大いに役立てられると考えている。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 授業名「キャンパスライフとメンタルヘルス」における書き込み式レジメの作成

内容：授業のなかで学生たちの主体的な学びを促進するために、重要なポイントを取って空欄とし、学生自らが重要なキーワードをピックアップして書き込むことで授業内容の理解を深めるスタイルのレジメを作成した。

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 全ての授業における教材の改訂

内容：昨年度の授業評価アンケートの結果や、心理臨床領域での新しい知見や研究動向を参考にしつつ、授業で使用する教材全ての改訂を行った。

【その他】

1. 授業名「キャンパスライフとメンタルヘルス」のテキストとして活用できる書籍の執筆

内容：「キャンパスライフとメンタルヘルス」で、学生たちに伝えている内容や学生たちからのフィードバックを参考にしながら、有意義な大学生活を送るために、新入生に必要な心構えや、入学前準備、および入学後のケアに役立ててもらえる自己学習式の書籍を、複数教員で協同執筆している（平成 31 年夏発刊予定）。内容としては、大学についてのガイダンスに始まり、大学生の暮らしにおいて日常的に問題となることや（勧誘、ハラスメント、盗難ほか）心の病について知識、さらには心の健康を保つための対策などが含まれる。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 授業におけるリアクションペーパーの活用

内容：毎回、授業実施後にリアクションペーパーの提出をもとめ、学生たちに授業について理解した内容、疑問に思うことなどをまとめてもらい、次回の授業で教員からフィードバックすることで授業内容の理解に役立てた。また、教室の環境改善についてもコメントをもらうことがあるため、同じように授業内で学生たちにアナウンスし、意見を収集して、実際に改善を図るといった取り組みも行われた。リアクションペーパーの利点は、時として学生たちの筆跡の乱れに健康状態を察知することが可能な点や、授業終了直後に学生たちの意見を收拾することが可能な点にあると思われる。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 著書「キャンパスライフ・サポートブック」の執筆

内容：有意義な大学生活を送るために、新入生に必要な心構えや、入学前準備、および入学後のケアに役立ててもらえる自己学習式の書籍を、複数教員で協同執筆している（平成 31 年夏発刊予定）。内容としては、大学についてのガイダンスに始まり、大学生の暮らしにおいて日常的に問題となることや（クレジットカードの使い方をはじめ、自然災害への対策、勧誘・ハラスメントへの対応、盗難時の対策など、生活上の危機への対策）、心の病についての必要な知識、さらには心の健康を保つため

の対策などが含まれる。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1. 「日本の大学における教育カリキュラムの体系化―心理学分野に着目して―」（研究代表：本田周二）

内容：人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、上記内容の研究に共同研究者として参加した。

田中優

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. H30 年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会主催による講演会

日時：2019 年 1 月 7 日（月）

場所：多摩キャンパス 7 号館 1 階 7114 講義室

内容：私立大学等改革総合支援事業、内部質保証、学修成果の可視化に関する他大学の取り組み、アクティブラーニング

【学会参加】

1. 日本野外教育学会第 21 回大会

日時：2018 年 6 月 22 日（金）～24 日（日）

場所：信州大学

内容：野外教育学における最新の研究内容の発表、シンポジウム等

2. 日本教育心理学会第 60 回総会

日時：2018 年 9 月 15 日（土）～17 日（月）

場所：慶応義塾大学 日吉キャンパス 独立館

内容：教育心理学における最新の研究内容の発表、シンポジウム等

【その他】

1. 2018 年度 ボーイスカウト全国大会 全国スカウト教育会議（テーマ集会）

日時：2018 年 5 月 27 日（日）

場所：長良川国際会議場

内容：「スカウティングを科学する」 学術的なアプローチによるボーイスカウト教育に関する研究成果の発表と意見交換

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. 改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 各種プリント

内容：心理学概論Ⅰ・Ⅱ、ファッションと社会心理学等の授業で、授業内容に即して作成。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み

内容：講義において、manaba等で、学生の意見をできるだけ吸い上げ、授業の中でフィードバックし、それを元に討議する形を取り、学生の考える時間と双方向のコミュニケーションを多くする努力をした。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. ボーイスカウトの夏季キャンプ参加が生きる力、リーダーシップ、および、自尊心に与える影響（人間生活文化研究 28 428-434 2018 年）

内容：スカウト教育法の効果測定の可能性を確認することを主眼とし、ボーイスカウトの年間活動のメインイベントである夏季キャンプについて、11 都県のボーイスカウト 124 名（男子：101 名、女子：23 名）を調査対象として、①生きる力、②リーダーシップ、③自尊感情、それぞれの変化について、キャンプの事前事後での比較を行った。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1. スカウト教育研究プロジェクト（SERP）

内容：ボーイスカウト教育に関する学際的な研究会を主催し、調査研究、定期的な研究会、シンポジウム等をおこなっている。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1. ボーイスカウトの教育効果に関する研究

内容：ボーイスカウトの教育効果について、実証的な研究をおこなっている

【その他】

1. ゼミ合宿

内容：2 月に、卒業予定の 4 年生、3 年生、および、次年度のゼミ生となる 2 年生の 3 学年合同で、3 年生の卒論計画発表会を軸としたゼミ合宿を行っている。各学年の参加については、4 年生は、2 年間のゼミ活動から得た自身の学びを振り返り、ゼミ生同士の関係を強め、また、自身の卒論、ゼミでの活動、就活について、下級生に体験を伝えている。3 年生は、卒論計画発表会を実施することで 3 年次のゼミ活動を中心とした卒論をより具体的に進めることができる。また、3 月からの就活開始にそなえて、ある程度の計画をまとめることで、就活と卒論の両立が見込める。2 年生は、3、4 年生を良きモデルとして、新年度のゼミ活動、卒論、就活に対するイメージを掴むことができている。

西河正行

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 投映法フォーラム

日時：2019 年 2 月 24 日（日）

場所：学習院大学

内容：「強迫性格と強迫防衛」「事例検討」を企画した。

【学会参加】

I. 精神分析学会

日時：2018年11月23日（金）～25日（日）

場所：国立京都国際会館

内容：「精神分析におけるトラウマ」のシンポジウムに出席した。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 精神分析

内容：教科書の内容の各章ごとに要約を manaba に掲載した。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 精神分析

内容：授業内容の理解を促進するために、予習で課題を出し、授業でそれについて解説し、さらに復習で、予習で提出した課題の回答を振り返らせて理解できていなかった点を報告させた。

2. グループワーク B

内容：自己理解、他者理解に加えて、第三者の視点を意識したグループワークを体験させるために、最後に最終発表会のビデオ視聴を行うことを前提にしてグループワークを行った。

福島哲夫

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 新しい心理療法 AEDP の技法とそのスーパーヴィジョンのためのワークショップ参加

日時：2018年4月16日～25日

場所：米国ニューヨーク Federation of Protestant Welfare Agencies 40 Broad Street,

内容：近年、その効果の高さとともに世界中に広がりつつある新しい力動的心理療法である AEDP の技法とその指導（スーパーヴィジョン）の方法について、集中的・体験的ワークショップに参加して、技法を習得して、大学院教育に生かした。

2. コンパッション・フォーカスト・セラピーのワークショップ参加

日時：2018年11月23、24、25日

場所：東京成徳大学

内容：近年注目されている代表的な技法の一つである「コンパッションフォーカスト・アプローチ」について、ワークショップに参加し、技法の確認と大学院生の実験研究のため、こまかな技法を確認・習得した。

3. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第 1 部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第 2 部「障害学生支援委員会企画」両方に参加した。特に第 2 部では障害学生へのサポートについて教職員で意見交換ができ、大変有意義であった。

4. 「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～」

日時：2019 年 1 月 7 日（月）

場所：大妻女子大学千代田キャンパス

内容：学生の学びの質向上のための、近年の方向性とその具体的な取り組みについて触れることができ、大変参考になった。

5. 開業心理臨床セミナー「中断しない心理療法のために」

日時：2019 年 3 月 3 日（日）

場所：大妻女子大学千代田キャンパス

内容：これからの心理臨床のあるべき姿の一つとして、開業臨床の持つ可能性を論じ、とくに「中断事例の少ない取り組み方」について、具体的に論じた。

【学会参加および発表】

1. 日本心理臨床学会第 37 回大会

日時：2018 年 8 月 30 日（木）、9 月 2 日（日）

場所：神戸国際会議場

内容：

- ・口頭発表「愛着トラウマを癒す AEDP（加速化体験力動療法）—SV・GSV を含めた、臨床ビデオを用いた事例研究（2）福島哲夫・上遠文恵・花川ゆう子
- ・ポスター発表「カウンセリング中のカウンセラーの反応が反芻・省察に及ぼす影響—抑うつとの関連を含めて—」藤田歩美・福島哲夫

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. 著書「公認心理師必携テキスト」（学研メディカル秀潤社）

内容：全体（全 629 ページ）を責任編集した。公認心理師を目指す学生のために適宜授業内でテキストとして用いた。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 授業における視聴覚教材の活用

内容：ゼミ（学部 3、4 年、大学院修士課程 1 年）の通い合宿（夏季休暇中）に、心理療法のセッション動画を用いた解説と質的分析演習を行い、学生たちの理解の促進と質的分析の能力向上に役立てた。また、その際のグループワークや、それに続く昼食会、懇親会等を通じて、大学院生を含む学年を超えた交流を促進し、学生たちの学習意欲やキャリア意識の向上に努めた。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1. 教育に関わる講演会の実施

内容：公認心理師の試験に向けた対策のための講演会を 2018 年 8 月 17 日（日）に大妻女子大学で企画・実行した。

古田雅明

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：事務職員や学生相談室のカウンセラーと意見交換ができ貴重な体験となった。

2. 企画した研修会「多摩精神分析セミナー・アセスメントコース」

日時：2018 年 4 月から 2019 年 2 月 年 6 回隔月第一日曜日

内容：本学出身の臨床心理士のフォローアップ研修となり、院生教育に何が必要かを知る機会となった。

3. 企画した研修会「論文抄読 ハンスの会」

日時：2018 年 4 月から 2019 年 3 月 年 12 回毎月第一土曜日

内容：大学院生と大学院修了生、精神科医師と共に精神医学、臨床心理学に関する論文を抄読する会の講師を務めた。現役の大学院生と修了生が交流する場となるとともに、公認心理師の試験準備の機会となった。

【学会参加】

1. 日本学生相談学会第 36 回大会

日時：2018 年 5 月 19 日（土）～21 日（月）

場所：関東学院大学

内容：発達障害などを抱える学生への支援方法について学んだ。

2. 日本心理臨床学会

日時：2018 年 8 月 30 日（木）～9 月 2 日（日）

場所：神戸国際会議場

内容：臨床心理学に関する最新の知見を得るとともに他大学の教員と情報交換をした。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. テキスト「公認心理師必携テキスト」（福島哲夫責任編集 学研メディカル秀潤社）

内容：第 3 章「多職種連携・地域連携」について執筆した。公認心理師を目指す学生のために適宜授業内でテキストとして用いた。

2. テキスト「公認心理師国試必須センテンス」（福島哲夫監修 学研メディカル秀潤社）

内容：「第 3 章「多職種連携・地域連携」について執筆した。公認心理師を受験する大学院生のために適宜授業内でテキストとして用いた。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 「臨床心理学面接特論Ⅱ」における模擬試験

内容：公認心理師国家試験ならびに臨床心理士資格試験の受験対策として、模擬試験問題を独自に作成した。

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 授業名「社会・臨床心理学基礎セミナー」「社会・臨床心理学基礎セミナーⅢ」における資料の作成

内容：学部の基礎セミナーにおける体験学習やグループワークを促進するために、教材や配布資料を作成した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. ゼミにおけるタブレットの活用

内容：3、4年生のゼミの時間にタブレット端末を利用し、時事問題を取り上げたり、新聞記事を読ませたりするなどして、臨床心理学の知識を用いて時事問題をどう理解するかについて講義した。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 論文「日本の女子大学における教育カリキュラムの体系化」（筆頭著者 本田周二 大妻女子大学人間関係学研究、20 巻）

2. 報告書「医療領域における臨床心理実習のルーブリック評価に関する研究」（大妻女子大学人間生活文化研究、28 巻）

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1. 学会発表「精神力動的継起分析における初学者の思考プロセスの特徴」（筆頭発表者：加藤佑昌 日本ロールシャッハ学会第 22 回大会）

内容：他大学の教員と大学院生の投映法教育に関する基礎研究を発表した。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1. 「日本の大学における教育カリキュラムの体系化—心理学分野に着目して—」（研究代表：本田周二）

内容：人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、上記内容の共同研究を行った。

2. 「ロールシャッハテストの力動的継起分析の初期教育に関する研究」（研究代表：加藤佑昌）

内容：精神分析武田こころの健康財団の研究助成を受け、上記内容の共同研究を行った。

堀 洋元

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 人間関係学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）17 時～19 時

場所：多摩キャンパス 7 号館 7217 情報処理教室、7318 教室

内容：第1部では、「教育の質の向上—シラバスの書き方—」と題し、私立大学等改革総合支援事業テーマ1「教育の質の向上」について、関連部署（企画・戦略室、教育・学事支援グループ）からの説明後、2019年度のシラバスを作成した。第2部では、障害学生支援委員会企画として、学部教員、学生相談センター、事務（教育・学事支援グループ）からの話題提供があった。

2. FD講演会「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～」(大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会主催)

日時：2019年1月7日（月）16時30分～18時

場所：多摩キャンパス7号館7114教室

内容：森朋子氏（関西大学教育推進部 教授）を講師として招き、私立大学等改革総合支援事業および一般経費削減の概要、タイプⅠを取っている他大学の取り組み（内部質保証、学修成果の可視化など）、教育の質的転換を実質化するためのアクティブラーニングについて講演が行われた。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 専門教育科目「社会心理学概論」のふりかえりテストの問題および解答と解説の作成

内容：manaba小テスト機能を使用して、授業時間内に実施するふりかえりテストを作成した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. manabaの活用

内容：小テストやリアクションペーパー、授業連絡など、学生の理解度や授業改善の要望を適宜把握するために、多くの担当授業で活用した。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 著書「生きる力を育む生徒指導」第3章：児童生徒理解（福村出版）

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

「日本の大学における教育カリキュラムの体系化－心理学分野に着目して－」(研究代表：本田周二専任講師)

内容：上記テーマについて、人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受けた。

本田周二

Ⅰ. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 学部FD研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018年12月7日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第1部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第2部「障害学生支援委員会企画」

両方に参加した。特に第2部では障害学生へのサポートについて教職員で意見交換ができ、大変有意義であった。

2. 全学FD講演会「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～」

日時：2019年1月7日（月）

場所：大妻女子大学千代田キャンパス

内容：私立大学等改革総合支援事業についての話だけでなく、教育の質的転換に必要なものは何か、アクティブラーニングの本質的な意味はどのようなものかについて文部科学省の意向や他大学の事例をもとに学ぶ事ができ、学生への教育について改めて考えさせられる機会となった。

3. 名古屋大学高等教育センター 第94回客員教授セミナー「台湾における高等教育の質保証制度―大学評価制度の整備と方法改善―」

日時：2019年2月14日（金）

場所：名古屋大学東山キャンパス

内容：台湾における大学評価制度の歴史および教育の質保証の効果等について学ぶ事ができ、大変有意義であった。

【学会参加】

1. 大学教育学会第40回大会

日時：2018年6月9日（土）、6月10日（日）

場所：筑波大学

2. 未来のマナビフェス

日時：2018年8月10日（金）

場所：武蔵野大学有明キャンパス

3. 大学教育学会課題研究集会

日時：2018年12月1日（土）、12月2日（日）

場所：長崎国際大学

【その他】

1. 授業見学

日時：2018年5月7日（月）

場所：創価大学

内容：自身の授業運営の改善を目的として、教授・学習研究の専門家である関田一彦先生の授業に見学に行った。関田先生はLTD（Learning Through Discussion）を用いた授業設計で学生の主体的な学びや時間外学習の促進を促すことを実践されている。授業見学に加えて、その後の意見交換を踏まえ、自身の授業に応用する点について学んだ。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 授業名「社会心理学実験研究法」における小テストおよび回答の作成

内容：予習の理解度をはかるための予習理解度小テストおよび回答を作成した。

2. 授業名「基礎統計学Ⅱ」における自主学習課題の作成

内容：冬休みに自主学習するための学習課題を Excel で作成し、manaba で配布した。

3. 授業名「教育心理学」における予習メモの作成

内容：授業外学習時間を増やし、学生の理解を促進するためのツールとして予習した内容についてまとめるための予習メモを作成した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 授業における manaba の活用

内容：毎回、授業実施後に manaba において学生に授業についてのコメントを書いてもらい、次回の授業で教員からフィードバックすることで授業内容の理解および授業改善に役立てた。

2. 授業における予習メモの活用

内容：毎回、授業前にこちらが指定した教科書の内容について予習メモにまとめてきてもらい、授業中にペアもしくはグループで予習メモをもとに学び合いをさせた。その後、補足の説明をすることで授業時間外の学習の促進及び知識の定着を促した。

3. 3年ゼミでの個別面接

内容：半期ごとに一人に対して 30 程度の個別面談を行い、サポートを行った。

4. 4年ゼミでの個別指導

内容：全体ゼミとは別に個別ゼミを定期的実施することで、一人一人の進度に合わせた指導を行った。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 論文「日本の大学における教育カリキュラムの体系化 2」（大妻女子大学人間関係学研究, 20 巻）

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1. 「日本の大学における教育カリキュラムの体系化（2）—心理学分野に着目して—」（研究代表：本田周二）

内容：人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、上記内容の研究を行った。

八城 薫

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第 1 部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第 2 部「障害学生支援委員会企画」両方に参加した。第 1 部では実際に操作をしながらの時間もあり、大変有意義であった。

【学会参加】

1. 動物介在教育・療学会学術大会

日時：2018年11月10日（土）、11月11日（日）

場所：東京大学 中島董一郎ホール

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. サイエンス社「質問紙調査と心理測定尺度」（増版に伴う改訂）

内容：研究法における質問紙調査の位置づけ、研究倫理を含む質問紙調査研究のための実践的テキスト。授業名「社会心理学調査研究法」のテキストとして使用した。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 授業名「社会心理学調査研究法」における補助資料および演習マニュアル、論文評価ルーブリックの作成

内容：SPSS, Excel を用いた統計的分析、結果の整理、調査票の作成などの詳しい解説資料を作成した。また最終課題を評価する際の論文評価ルーブリックを作成した。

2. 授業名「心理統計学」における SPSS 演習マニュアルおよび演習問題の作成

内容：SPSS を用いた分析から結果の整理・記述のための解説教材を作成した。

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】なし

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. manaba ニュース、アンケート、コンテンツの活用

内容：毎回授業後に、今週の授業への取り組み姿勢、授業内容の理解、質問・意見などを振り返り課題として設け、授業内容についての即時的なフィードバック（改善）に取り組んだ。

2. クラス分けアンケートの実施（「基礎統計学Ⅰ」）

内容：クラス別ガイダンスに web アンケートを実施し、数学および PC 操作技能に関する問題を含む簡単なアンケートを実施し、知識・技能レベルを合わせたクラス編成を行った。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 論文「学生による授業評価に関する研究（1）—授業満足度に影響する要因の検討—」（大妻女子大学人間関係学研究, 19 巻）

2. 論文「日本の大学における教育カリキュラムの体系化—心理学分野に着目して—」（大妻女子大学人間関係学研究, 19 巻）

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1. 「日本の大学における教育カリキュラムの体系化—心理学分野に着目して—」（研究代表：本田周二）

内容：人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受けている、上記内容の共同研究に参加した。

山蔦圭輔

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第 1 部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第 2 部「障害学生支援委員会企画」両方に参加した。

【学会参加】

1. 日本心理臨床学会第 37 回大会

日時：2018 年 9 月 1 日（土）

場所：神戸国際会議場

内容：資格関連委員会・カリキュラム委員会合同企画シンポジウム「公認心理師養成における卒前・卒後教育の課題—5 年後の見直しに向けて」に参加し、公認心理師養成を考える機会とした。

2. 日本臨床心理士養成大学院協議会第 18 回大会

日時：2018 年 9 月 23 日（日）

場所：学士会館

内容：臨床心理士養成に関する包括的内容について議論される場であり、今後の臨床心理士養成教育について考える機会とした。

3. 日本心理学会第 82 回大会

日時：2018 年 9 月 26 日（水）

場所：仙台国際センター

内容：公開シンポジウム「公認心理師・心理学研究者の潜在的フィールド—広がる活躍の場と求められる知識・技術—」に参加し、公認心理師養成教育の在り方について考える機会とした。また、自主シンポジウム「認知特性と抑うつに対する多面的アプローチ」において司会・指定討論を担当し、大学教育場面における教育・支援の在り方について考える機会とした。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. 著書「公認心理師必携テキスト」（学研メディカル秀潤社）

内容：「臨床心理学の成り立ち」「心理的アセスメント」など、公認心理師に求められる内容の執筆を担当した。また、公認心理師を目指す学生のために適宜授業内でテキストとして用いた。

2. 著書「公認心理師必須センテンス」（学研メディカル秀潤社）

内容：公認心理師に求められるキーワードについて、その解説を担当した。また、公認心理師を目指す学生のために適宜授業内でテキストとして用いた。

3. 著書「心理学・臨床心理学概論」（北樹出版）

内容：心理学ならびに臨床心理学の概論的内容を書籍としてまとめたものを改訂した。また、社会・臨床心理学専攻 2 年次必修科目「臨床心理学概論」でテキストとして用いた。

4. 著書「ベーシック健康心理学概論」（ナカニシヤ出版）

内容：健康心理学の概論・応用的内容を書籍としてまとめたものを改訂した。また、臨床心理士や公認心理師を目指す学生のために適宜授業でテキストとして用いた。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 授業名「臨床心理学概論」における教材ならびに小テストの作成

内容：予習の理解度をはかるための予習理解度小テストおよび回答を作成した。

2. 授業名「社会・臨床心理学セミナー」における教材の作成

内容：心理学研究の方法論、カウンセリングの技法などについて十分に理解ができるよう工夫した教材を作成した。

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 全ての授業における教材の改訂ならびに試験問題（含、小テスト）の改訂

内容：昨年度の授業評価アンケートの結果や近年の当該領域の研究動向などを参考にしながら、全ての授業に関して、使用する教材の改訂を行った。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 授業における manaba の活用

内容：「人間関係総論 II」において、授業時間内に manaba を用いたアンケート調査やクイズ形式の授業を行い、内容の理解度を高めることに役立てた。また、同様に manaba を用い、学生に授業内容にコメントの記載を求めることで、授業改善に役立てた。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1. 「認知特性と抑うつに対する多面的アプローチ」（日本心理学会第 82 回大会シンポジウム）

内容：青年期の認知的特性や抑うつをテーマに、大学教育場面における教育ならびに心理的支援の在り方について議論した。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1. 「女子学生を対象とした食行動異常発現・維持の要因分析と予防教育法の開発」（研究代表者：山蔦圭輔）

内容：大学授業における予防教育プログラムを検討し、知識教育と合わせた健康教育の可能性を検討した。

2. 人間福祉学科

1) 福祉実習発表会・福祉実習教育懇談会 【福祉実習委員長 嶋貫 真人】

平成 30 年度の福祉実習発表会（人間関係学会福祉分科会）および福祉実習教育懇談会が平成 30 年 11 月 30 日に開催された。

当日の前半の部では、社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の各課程の実習を行なった学生の中から 9 名が選ばれ、スライドを使って実習中の学びについて報告した。後期の授業の中で実習指導担当教員との打ち合わせを重ねながら発表用の原稿の文章を整え、スライドのレイアウトにも工夫をこらすなど、発表当日に至るまでに多くの時間をこの日のためにあててきたが、そのような努力の成果もあってか、今年も中身の濃い充実した発表を聞くことができた。また例年と同様、実習を行なった施設・機関から多くの指導者の方にご参加いただき、学生の発表に熱心に耳を傾けてくださった。終了後に指導者の方から「実習生のフレッシュな目でとらえた現場の印象とそれに対する考察を聞いていると、こちらの方が逆に“ハッ”と気付かされることが多い」というコメントをいただいた。



〈実習発表会の様子〉



〈企画・運営を行った学生代表からの挨拶〉

後半の部では、障害者施設・病院・高齢者施設といった福祉分野で働いている 3 名と、一般企業で活躍中の 2 名の計 5 名の卒業生を招いて、卒業生講話を開催した。毎年の恒例行事となったこの会も、回を重ねるごとに多彩な分野からゲストスピーカーを招いて話を聞けるようになり、在学生在が将来の進路を考える際の重要なヒントを得る場となりつつあるように思える。特に「最終的にその職場を就職先として選択することになったときの決め手は何か？」という、在在学生にとって最も興味のある問いに対して、身近な先輩の口から率直な答えを聞けることは、これから就職活動に入ろうとする時期の学生にとって非常に貴重な機会であると感じた。質疑応答を聞いていると、今回登壇していただいた先輩たちも、決してすんなりとスムーズに現在のポジションをつかんだわけではなく、さまざまな悩みや紆余曲折を経た末にようやくたどり着いた結論であることがわかり、在在学生にとっても自分自身を信じて着実な歩みを続けていくことの大切さをあらためて実感させられたのではないと思う。

学科創設からちょうど 20 年目という節目の年を迎えた人間福祉学科は、この間に実に幅広い分野に多彩な人材を輩出してきたが、今年の実習発表会と卒業生講話の光景を見ながら、あらためてこの 20 年という歳月の重さと将来に向けた確かな手応えを感じることができたような気がする。



〈卒業生講話〉



〈在校生との質疑応答〉



2) 国家試験対応及び受験対策講座 【国家試験対応委員 松山 博光】

本学科では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の養成を行っており、3つの国家試験に向けて、年間を通して1年生から4年生まで段階的な受験対応を行っている。

受験対策としては、①模擬試験、②対策講座、③国家試験対策科目の設置、④個別学習指導及びグループ指導という4つがある。

また、受験手続きの支援として、4年生に対し受験説明会の開催や事務と連携して書類を作成するだけでなく、受験までの学習の進め方や前日や当日の心構え等について話しをする機会を設けている。

昨年度から介護福祉士国家試験が養成校にも課されたことに伴い、本学科でも本格的に受験対応と対策に取り組んだ。

今年度の受験対応の実施内容について、以下の通り報告する。

①模擬試験の実施

社会福祉士模擬試験については、1年生は年1回、2年生から4年生に対しては年4回実施した。精神保健福祉士模擬試験は、精神保健福祉士履修課程受講者3～4年生を対象として、年間3回実施した。介護福祉士模擬試験は、1・2年生は年1回、3・4年生は年4回実施した。

すべての模擬試験で、受験後の学習を重視しており、各学年に応じた勉強方法と課題を提示し、提出された課題については、クラス担任やゼミ担当教員で分担し、学生個別の学習進捗状況に応じたコメントを付けて1ヶ月以内を目処に返却した。



〈1年生初の介護福祉士模擬試験〉



〈本番前の4年介護福祉士模擬試験〉



〈1年生初の社会福祉士模擬試験〉



〈本番前の4年社会福祉士模擬試験〉



〈先輩から合格するための勉強法の講話〉



〈先生と先輩から国試の必勝アドバイス〉



〈2年3年4年の社会福祉士模擬試験〉



〈3年・4年の精神保健福祉士模擬試験〉

②対策講座の実施

社会福祉士については、4年生を対象に本学科専任教員による社会福祉士主要科目の「受験対策講座」を授業外に実施している。後期の総仕上げの時期に、その学年の模擬試験の結果を分析し、正答率の低い科目、点数が伸びると考えられる科目を選定し、10科目を実施した。本対策講座は学生の自主的な申し込みによるものであり、今年度は4年生の全受験者のうち約9割が受講した。

介護福祉士については、夏季休暇中の集中的な受験対策講座と国家試験前の1月に直前講座を実施し、模擬試験結果で学生の正答率の低い科目を中心に取り組んだ。

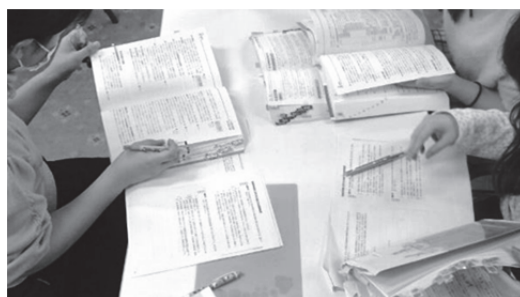
③国家試験対策科目の設置

学科の正規授業の中に、前期・後期ともに社会福祉士・介護福祉士の国家試験対策科目を設置している。

④個別学習指導及びグループ学習支援

ゼミを母体として各教員による個別指導とグループ学習支援を実施した。また、精神保健福祉士コースや介護福祉学専攻では、それぞれ受験対策を行った。

さらに、学期中及び夏、冬、春の長期休暇中に自習室を確保し、学生が各自の勉強スケジュールに合わせて学習できる環境を整えた。また、年末年始も含め、夜遅くまで勉強する学生に対して学科教職員だけでなく、事務や図書館の職員、守衛室の皆様等にもご理解とご協力を賜り、温かい励ましの言葉等もかけて頂いた。



〈グループ学習の様子〉

3) 複数教員で担当している科目における教員間の連携

社会福祉士等の国家試験受験資格取得のための教育課程においては、将来実際に福祉現場に就職した際に直面する多様な問題への対応能力を養うため、1クラス20人以下の少人数で編成される講座を開講している。国家試験指定科目の授業担当者を構成していくためには、専任教員だけでは人数が足りず、必然的に非常勤講師の力に頼ることになる。各講座の教育目標やシラバスの内容、あるいは成績評価の方法等の基本的事項について、全教員が共通認識を持って授業に臨む必要がある。

そこで、学期の開始前に打ち合わせの会を設定し、前期の授業担当者懇談会の機会を利用して意見交換を行う等、科目担当者間の連携を密にするための努力を日頃から心がけている。

①相談援助実習指導、実習事前・事後指導【嶋貫 真人】

社会福祉士受験資格取得課程を希望した学生にとって、同課程のために開講されている多く

の科目の中でも特に重要な位置を占めるのが、多くの者が3年次に履修する「相談援助現場実習」である。

現場での実習に臨むにあたっての準備段階の授業として、まず2年前期に「相談援助実習指導Ⅰ」の授業が開講されている。この授業では、実際に障害者福祉・児童福祉・高齢者福祉等の各福祉現場で相談援助業務に従事しておられる職員の方をゲストスピーカーとしてお招きして、その仕事の魅力や学生に要望したいこと等を伝える機会をもうけている。また、2年生の夏休みを利用して福祉現場でのボランティア活動体験を受講者全員の必須課題として設定しており、サービス利用者とコミュニケーションをとることの楽しさ・難しさを、この機会に知ってもらうことを目指している。そして、このようなプロセスを経て、それまで漠然としたイメージとして描いていただけだった「福祉援助」というものが、徐々に現実的で具体的な目標として見えてくるようになるのである。

2年後期の「相談援助実習指導Ⅱ」では、「相談援助実習指導Ⅰ」の内容をさらに発展させた形で、現場実習において要求される実践的な能力（利用者との面接技法、ケース記録の書き方等）を学ぶことになる。また、この授業の中で実施される実習配属試験において、次年度に実習を行なうために必要な基礎的な知識が身に付いているかどうかの判定を行っている。そして、この試験で一定以上の得点をあげた者だけが、社会福祉士課程の次のステップに進むことができることになる。なお、2年次の秋には、次年度においてどの分野での実習を希望するのかの意思表示をしてもらうため、障害者・児童・高齢者・地域の各福祉分野の実習指導を担当する教員が、それぞれの分野での現場実習の内容を具体的に解説する時間ももうけている。

3年次の「相談援助現場実習」に向けた「事前・事後指導」の授業は、夏実習組と春実習組とでカリキュラムの進行が異なってくるが、いずれも高齢・障害・地域・児童の実習分野ごとに現場で求められる専門知識を身に付けていく。このように実習分野ごとに分かれたクラス編成になることで、授業担当者間で指導内容の統一性が保てなくなる危惧もあるが、そのようなマイナス面は毎月開催される「実習委員会」の場で補うようにしている。また、実際に実習がスタートした後においても、実習指導担当教員や実習担当助教による巡回指導・帰校日指導の内容は、すべてWEB上に登録されて指導に関わるスタッフ全員がこれを閲覧することができるようになっている。そのため実習開始後に何らかの指導上の留意点等が発生した場合においては、随時このWEB情報を確認することで相互の意思統一を図ることができるようになっている。

②相談援助演習【井上 修一】

実践能力の高い社会福祉士になるためには、知識の習得を基礎にしながらも、実習・演習科目のなかで、体験的に理解を深めていく必要がある。

本学においても、厚生労働省のシラバスに沿った内容を踏まえ、よりきめ細かい対応ができるように努めている。そのため、相談援助演習をⅠ～Ⅴに分け、それぞれ段階的に、また共通シラバスをもとに授業を行っている。ちなみに相談援助演習Ⅰ・Ⅱはミクロ、Ⅲはメゾ、Ⅳはマクロ、Ⅴは統合的な位置づけとなっている。今年度の試みとしては、相談援助演習Ⅳにおいて多摩市の10エリアの地域課題とその解決に向けた事前学習とインタビュー調査を実施したことにある。最終的には、調べた情報を解決のための計画づくりに発展させた。この試みをさ

らに深め、多摩市の地域課題の解決に貢献できればと考えている。

本学科では、実習と演習の連動性を意識され、理解の深まりを下支えしている。各演習を取りまとめるのは常勤の教員であり、非常勤講師との情報共有が丁寧になされるだけでなく、それぞれ工夫された教材を持ち寄り、学生にとってわかりやすい授業展開を試みている。

③社会福祉学基礎セミナーⅠ【丹野 真紀子】

本科目は、入学直後の1年前期に開講されている。入学して間もない新入生に、専門科目の授業とは違った視点から多様な福祉実践のあり様を学び、大学での学習に求められる言語表現、文章作成能力、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の基礎を身につけることを目的としている。「社会福祉学基礎セミナーⅠ」は6名の教員が担当し、1クラス20人以下の少人数制をとっていることから、学生が個性を発揮しやすい。

内容としては、3つのテーマを掲げている。1つ目のテーマは、「福祉の世界の扉を開こう」とし、担当教員がそれぞれの専門領域の現場について概説する。次に、「利用者、援助者両者の立場で考察してみよう」をテーマに、車椅子や白杖などを用いた要支援者の体験を行う。3つ目のテーマは「福祉の現場を知り、自分の目で見て学んでこよう」とし、福祉現場の実践者から話を聞くこと、学生自身がハンセン病資料館を見学し、ハンセン病をめぐる福祉問題についてクラス内で発表する、というものである。1年次の前半で、福祉実践の多様性を知り、レポート作成やプレゼンテーションの基礎を学び、文章作成のルールや文献の活用、文章構成など基本的な部分を身に付けられるようにプログラムを構成している。そのため、上記3つのテーマそれぞれに対して「仮説」「検証」「結果」「考察」という点でレポートを書かせ、回を追うごとに文献活用や考察視点を深めていけるよう工夫した。特に、レポートについては、担当教員から翌週の授業時に学生へ返却し、返却時には記述のアドバイスを必ず行い、学生の学習意欲と文章作成力の向上を狙った。

また、進め方においては、複数教員による授業運営のため、教員間の情報共有を重要視した。授業期間開始前、期間中も複数回、また最終評価時にも担当者が打ち合わせの場をもち、クラス間で大きな差が出ないように配慮した。その他、学生が意欲的に授業に臨めるよう、学生が提出したものについては、担当教員がコメントを寄せて返却している。

施設見学やプレゼンテーションは、入学後間もない1年生にとって負担もあったようだが、達成感も見受けられた。少人数制の授業ということで学生間や教員との相互のコミュニケーションが図れ、入学当初以上に福祉のイメージが広がったり、大学生活全体への不安が軽減したり、その後の生活に希望を見出す機会にもなっていると思われる。

④社会福祉学基礎セミナーⅡ【嶋貫 真人】

前期の「セミナーⅠ」で大学での学びに必要な基礎的素養を身に付けたことをふまえ、本授業ではさらにそれを2年次以降の専門科目の学習へと発展させていくための橋渡しの役割を担っている。具体的には、「読む・聴く・書く・話す・考えるの基礎訓練」という共通テーマを掲げて、13～15名程度の少人数クラス(6つ)に分かれ、それぞれの担当教員が作成したシラバスに沿った授業を提供している。上記の共通テーマは、多分に社会福祉士等の現場実習で求められるコミュニケーション能力や実習日誌作成能力等の涵養を意識して設定されているものではあるが、同時に一般企業への就職を目指す学生も想定して、ビジネス現場で役立つ実務能力

の養成も視野に入れている。また、この「基礎セミナーⅡ」で修得した内容は、3・4年次の「社会福祉学セミナー」における主体的学習を支える土台ともなる資質であると考えられる。

このような本講座の趣旨に照らして、本授業では学生自らが主体的に学ぶ過程を特に重視している。具体的には、15回の授業の中の終盤のおおむね5回程度を「グループ研究」の時間にあてており、2～4名程度で構成されたグループのメンバーが話し合っ研究テーマを決め、それについて図書館やインターネットを使って資料を収集した後、グループ内で議論を行なう作業を課している。そして、この小グループによってまずクラス内で研究発表が行なわれ、さらに30年度の場合、14回目の授業時間を使って全クラス合同授業の形で、各クラスから選抜されたグループ1つがスライドを使って研究発表を行った。

30年度の6名の科目担当者の内訳は、「専任教員3名＋非常勤3名」という構成であったが、非常勤講師の方とは開講前の打ち合わせ会議や日常のメール等を利用して頻繁に連絡を取り合い、共通テーマに沿った授業展開を行えるよう工夫している。

⑤介護実習及び介護総合演習【金 美辰】

介護福祉士養成教育の新カリキュラム移行（平成21年）に合わせ、介護実習は「実習施設・事業等（Ⅰ）」と「実習施設・事業等（Ⅱ）」に分類された。前者は、多様な施設で利用者の暮らしを理解することが目的である。後者は、全実習時間である450時間の3割を占め、介護過程の展開を目的としている。介護福祉学専攻では、平成28年度より、既存の「介護実習Ⅰ」から「介護実習Ⅳ」に加え、「介護入門実習」を取り入れて、5段階に分けて介護実習を実施している。「介護実習Ⅰ」は、2年次に介護老人保健施設で12日間実施する。「介護実習Ⅱ」は、3年次に障害児・者施設で12日間、「介護実習Ⅲ」は、3年次に介護老人福祉施設で28日間実施する。「介護実習Ⅳ」は、4年次に居宅介護サービス事業所で5日間を実施する。また、平成28年度より導入された「介護入門実習」は、1年次に「介護実習Ⅲ」で配属される介護老人福祉施設で5日間見学実習として実施し、3年次の「介護実習Ⅲ」（平成28年度入学生からは23日間実施）での学びを深める。介護実習は、1年次から4年次までの間に、計57日間、456時間実施される。本専攻では、各段階の実習目標が達成できるように、実習関連科目の連携を重視した組み立てで授業を展開している。実習の事前及び事後指導科目として、「介護総合演習Ⅰ～Ⅳ」を2年次前期から3年次後期に配当している。「介護総合演習」では、グループ演習を通して、実習施設の法的根拠や目的、人員配置、利用者像、サービス内容などの理解を目指すほか、実習後のフィードバックを行う。介護過程の展開を目的とする「介護実習Ⅲ」の終了後に開講する「介護総合演習Ⅲ」では、実習で展開した介護過程をもとに、ケーススタディを行い、受け持ち利用者の状況や状態に応じた、学問的・科学的根拠に基づく介護のあり方の視点を養う。また、この成果を「介護総合演習Ⅲ」の授業で発表し、ケーススタディ報告書としてまとめることで、情報の共有や介護のあり方についての学びを深める。

⑥介護技術科目【佐藤 富士子】

介護は生活能力が加齢や障害によって低下し、今まで自分で出来ていたことが出来なくなると言う変化が生じることで必要とされる業である。そして、介護学は人の役に立つことを目指した実践学としての学問ともいえる。方法論としてあるのが科目「生活支援技術」や「介護技術」であり、技術は単なる手順として身につけていくものではなく、生活における人の基本動

作を理解し、加齢や障害でその動作が出来なくなった場合どのような支援をしていけばよいのかを具体的に考え、判断する、行動できることである。

2年次後期に、家政学（栄養調理・被服）に関する科目のほか、利用者の「起き上がる」「座る」「立ち上がる」「歩く」といった日常生活の基本動作や介護動作の基本を中心に学ぶことができる。さらに2年次は、移動・更衣・食事・排泄・清潔等に関する生活支援技術を学び、3年次は、心身の状態や生活環境に応じたケアやターミナルケアを中心に学んでいる。技術は一つの技術を単独で身につけるものではなく、Aと言う技術の積み重ねでBがあるというように関連させて身につけていくものである。当科目は複数教員が同時に指導に入るため、授業担当教員間でズレのないように教授内容や方法について事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業の質の向上に努めている。授業では、講義で習った理論に基づく根拠を踏まえ、学生が利用者、介護者、観察者の立場から介護技術を実施・評価し、考えて実践する力を高めている。

さらに、介護福祉士資格を取得しようとしている学生は、1年次から3年次までの配当年次に予定されている介護実習（1年次春、2年次夏季・春季、3年次夏季、4年次）で実践であり、実践には介護の必要な人に対し、Dignity（尊厳的観察）、Risk（リスク回避的観察）、Independence（自立的観察）、Physical（身体的観察）の4つの観察力を持って行っていることを確認することができる。

4）地域連携プロジェクト

①障害者雇用企業との連携によるTボール大会の開催【小川 浩】

平成30年4月29日（日）、大妻女子大学多摩キャンパスにおいて約800人が参加して「働く障害者のためのTボール大会」が開催されました。これは多摩障害者雇用企業連絡会の実行委員会と、大妻女子大学の地域連携プロジェクト「障害者雇用企業との連携によるTボール大会の開催」に参加した学生が連携して、働く障害のある人を対象に、誰もが参加できる野球をベースにしたスポーツであるTボールの大会を開催するものです。本年度は19社25チームが参加し、応援を含めて900人ほどの参加者が大妻多摩キャンパスに参集し、各チームに大妻女子大学の学生ボランティアが加わり大会を盛り上げました。障害者を雇用する企業にとっては、本学の学生が各チームに入り障害のある従業員と交流することで大会が盛り上がるというメリットがあります。また学生にとっては、障害のある人たちとスポーツを楽しみ、チームに溶け込んで応援することを通して、社会福祉士実習等とは異なる自然体での交流機会が得られます。

また、この経験を土台に、10月21日（土）には、大妻学院110周年記念事業として、大妻女子大学主催の110周年記念Tボール交流大会を開催しました。通常、学生はボランティアとしてお手伝いをする立場ですが、110周年記念Tボール交流大会では、主催者側として、実行委員会の開催、審判の依頼、パンフレットの作成等の準備を行い、当日も運営の中心となって頑張りました。また、障害者雇用企業に加えて学生チームも1チーム作って参加し、一層交流が深まる和やかな大会となりました。スポーツを楽しむ、自然に障害のある人と交流する、イベントの企画・運営に携わる。これら3つのポイントで、Tボール大会は通常の授業では得られない社会的経験をする貴重な機会となっています。



②誰もが子どもを見守り隊ー子どもも大人も誰かが不自由だということを知るために、私たちの「伝える」取組みー 【藏野 ともみ】

本プロジェクトは平成 25 年から継続して、児童虐待防止啓発活動と子育て支援について、多様な側面から取り組みを続けてきた。それらの活動を通じて、子育ては地域社会の中で、多様な状況にある人々と共存しながら行っている現状を改めて認識する機会を得ることができ、先輩から後輩へと引き継いできた経緯がある。

今年度は、児童虐待防止啓発活動であるオレンジリボン運動を主軸にしながらも、子育てをする上で不自由な状況は、それ以外の人にとっても不自由に繋がること、また異なる不自由を感じている人もいることをお互いに知るという視点を重視し、「伝える」ことに取り組んだ。具体的には、地域機関と共に活動したり、様々な立場の人たちのお話を伺い、大学祭で体験企画やパネル展示を行った。

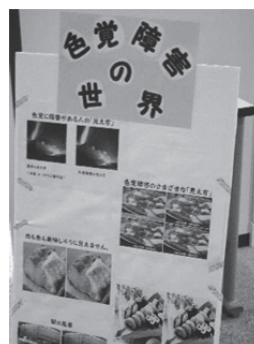
体験企画では、電車とホームの段差を再現し、ベビーカーを押す体験と、同じ状況を車椅子を使うとどの様なことを感じるかという体験企画を実施し、周囲の手助けがどのくらい当事者にとっては必要なことかを考えて頂いた。また、白内障を抱える高齢者と色覚障害を持つ人の体験をしたり、埼玉県作業療法士会の指導を受けて精神疾患等を持つ人の幻聴体験等を行った。

現在子育てをしている人が、高齢者や障害を抱える人の状況を知ってくださったり、高齢者が幻聴体験を通じて、病気を抱える人が日常生活を送る上で不自由な状況にあることを共有し

て頂く機会になった。実際に幻聴体験した人からは、「こんな状況なんですね、ニュース等では聴きますが、本当に混乱します」とか、親子でベビーカー体験をした人からは、「あなたが子どもだった時、私（母親）頑張ったんだよ」と話してくださる等、様々なお話しや感想を伺うことができた。

また、千代田区や警視庁、企業等と一緒に、東京駅八重洲口で行われた児童虐待防止啓発活動に参加し、東京駅利用者にオレンジリボンや自分たちオリジナルのリーフレットを配付した。

どれも自分たちが「伝える」活動として取り組んだが、体験してくださったり、足を止めて話を聴いてくださる方々からお話しを伺うことで、学生自身が自分たちにできることは何か、相手に併せて伝えるためにはどのような工夫をすれば良いか考える機会となった。来年度以降、活動を引き継いでくれる後輩に伝えていきたい。



③里親・ファミリーホームの子ども支援プロジェクト【山本 真知子】

近年、虐待などさまざまな理由で実の家庭で生活できない子どもたちを家庭で養育する里親やファミリーホームが増加している。本プロジェクトは、NPO 法人東京養育家庭の会と東京都八王子児童相談所と連携し、里親やファミリーホームの子どもたちが他の家庭の子どもや学生とのつながりを持つ子どもスペシャルの実施や支部の全体活動での子ども支援を行った。他の里親家庭の子どもとの関係を作り、相互交流を深めることを子ども側の目的とし、学生にとっては社会的養護の理解、子どもの理解、児童相談所や児童福祉施設とのつながりを持つ学習機会を得ることを目的としている。

「子どもスペシャル」は7月21日に高尾において行われた。子どもスペシャル当日は、委託されている子どもの中でも幼児・小学生の保育を中心に活動した。9月8日には全体活動を南大沢で行った。前日から3年生は準備を行い、当日は山本ゼミ3・4年生18名と卒業生8名

が参加し、幼児・小学生の保育に加え、中・高校生の焼きそば作りにも参加した。

本プロジェクトを行うことによって、子どもたちは他の里親家庭との横のつながりができ、18歳で自立をする際に他の家庭の子どもの姿や体験談から学ぶことができる。普段は学校も異なり、住んでいる地域も離れていることで交流することは難しいため、子どもの支援の機会があることは非常に重要だと考えられる。学生にとっては実際に里親家庭の子どもと接することで、それまでの机上だけの学びのイメージを変えることができ、児童相談所や児童養護施設等の社会福祉専門職との出会いから実践を学ぶことができる。今年度は卒業生も参加し、先輩と後輩のつながりを持つことができた。

今後も子どもたちの意見を取り入れ、継続して活動していきたいと考えている。



(1) 人間福祉学科におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは、「参加」した教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた（ただし、助教（実習担当）についてはⅠ・Ⅱのみとした）。

①井上 修一

Ⅰ. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 学部FD研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018年12月7日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第1部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第2部「障害学生支援委員会企画」両方に参加した。シラバスの書き方について非常に参考になった。また、第2部では障害学生へのサポートについて教職員で意見交換ができ、大変有意義であった。

【その他】

1. 老年学入門講座

日時：2018年10月3日（土）

場所：ベルブ永山（多摩市永山公民館主催）

内容：老年学を学び、これからの豊かな老いについて考える。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. 著書『介護福祉士国家試験解説集』（中央法規）

内容：「人間と社会」「社会の理解」を分担執筆した。担当した章では、国家試験の科目である「人間と社会」「社会の理解」を担当した。「社会の理解」では、日本国憲法をはじめとするわが国の法制度の歴史、憲法の中でも生存権の理解、福祉六法の成立過程、障害者自立支援法の成立年、社会福祉法のポイントなどを解説した。また、「人間と社会」では、軽度認知症のある方の事例問題解説、社会福祉士及び介護福祉士法に定める義務規程と、日本介護福祉士会の倫理綱領に基づいた解説を行った。作成した教材は授業等で知識を確認するために活用した。

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 全ての授業における教材の改訂

内容：昨年度の授業評価アンケートの結果や近年の当該領域の研究動向などを参考にしながら

ら、全ての授業に関して、使用する教材の改訂を行った。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 授業におけるコメントカードの活用

内容：毎回、授業実施後にコメントカードを書いてもらい、次回の授業でフィードバックすることで授業内容の理解および授業改善に役立てた。

2. 「成年後見制度」の授業において、多摩市消費者生活センターの相談員を招き、多摩市における消費者被害の実態と対応策について講義してもらった。この取り組みは、今年で4年目に入り、消費生活センターも今後継続して連携することを検討している。学生にとっては、多摩市の消費者被害の実態を知るだけでなく、社会資源を知るうえで意義があった。

3. 「相談援助実習事前指導」の授業において、障害を持った当事者と家族の方を招き、実習生として学ぶべき事柄や関わる姿勢について教えていただいた。当事者・家族から学ぶことは、援助者として重要なことであり、貴重な機会となった。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 論文「日本の大学における教育カリキュラムの体系化—心理学分野に着目して—」（大妻女子大学人間関係学研究, 19 巻）に共著として参加。

内容：大学における心理学に関する教育カリキュラムを、(1) 専門必修科目だけではなく、専門選択による比較、(2) 2017 年度～2019 年度の経年比較という 2 つの軸により検証することにより、女子大学における教育カリキュラムの特徴や改善点を整理した。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1. 「日本の大学における教育カリキュラムの体系化—心理学分野に着目して—」（研究代表：本田周二）

内容：人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受けた研究会に参加した。

②上野 優子

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 平成 30 年度第 1 回コグニサイズ実践者研修会

日時：2018 年 8 月 31 日（金）

場所：国立長寿医療研究センター

内容：超高齢社会の日本において、様々な対策や強化が求められており、わが国でも有数な期間の一つである、当研究センターで開発されている「コグニサイズ」の運動方法について受講した。多摩の地域や学内の学生に指導したいと考えている。

2. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第 1 部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第 2 部「障害学生支援委員会企画」に参加した。シラバスについては、要点や記入のポイントとなる事項について理解できた。第 2 部では、様々な障害のある学生へのサポートについて教職員間で意見交換ができ有意義なものとなった。

3. 全学 FD 講演会「学生の学びの質的向上に向けて」

日時：2019 年 1 月 7 日（月）

場所：大妻女子大学千代田キャンパス

内容：私立大学等改革総合支援事業についての具体的な説明、教育の質的転換に必要なものは何か、アクティブラーニングの本質的な意味について文部科学省の意向や他大学の事例をもとに学ぶ事ができ、今後の学生への教育について検討する必要が改めて確認された。

【その他】

1. 初動負荷運動における合宿参加

日時：2018 年 9 月 10 日（月）～9 月 16 日（日）6 泊 7 日の宿泊型合宿

場所：鳥取県鳥取市「株ワールドウィングエンタープライズ」

内容：最も注目されている運動方法の一つである初動に注目した内容について、講義および実技指導を受けた。イチロー選手が取り入れていることでも有名であるこの運動は、低負荷をかけて関節に働きかけることにより、幅広い年齢層に対してまた色々な身体各部位に問題をかかえている人々に対して機能の改善や向上がみられるというものである。既定の期間を受講したので、第 1 段階における機器の使用と指導が出来ることになる。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 授業名：「スポーツ A～D」「レクリエーション実技」

内容：スポーツテストの実施方法の提案と分析を実施。教材作成。

2. 授業名：「スポーツと健康」救急法の実施導入

内容：国士舘大学救急センターに協力してもらい、AED および緊急時の救急法について指導した。それに伴う教材の作成。

3. スポーツ関連授業全般について

前期の猛暑における熱中症対策について、対応策および簡単な生理食塩水の用い方について、ハンドブックを作成した。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 授業における中間テストの導入

内容：前期・後期の 7 回目～8 回目の授業において、これまでの理解度を確認するために小テスト絵小実施した。その差、祖語の無いように個人個人で欠席太遅刻等の問題が無いかを確認した。後々トラブルと成らないように回避した。

2. 3、4 年生におけるゼミの指導

本ゼミは、フィールドワークが伴うので、学外での活動が圧倒的に多い。そのため、一般的な情報の活用に対する許可の受諾方法や諸官庁への届け方など特に学ぶことが多かった。

3. 3 年生および 4 年生については、個人での面接や対応策を求められた。よって個別での指導を実施する時もあった。

③小川 浩

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～」

日時：2019 年 1 月 7 日（月）

場所：大妻女子大学千代田キャンパス

内容：私立大学改革総合支援事業と関連させながら、学生の学びの質向上について、近年の学生の傾向及び学びの質の向上に関わる具体的な取り組みについて、情報を得ることができ参考になった。

2. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第 1 部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第 2 部「障害学生支援委員会企画」両方に参加した。特に、教育の質の向上に関するものは、事務スタッフから直接ポイントを聞くことができ、実務に直結する学びとなった。

3. 障害者福祉と就労支援に関するタイと日本の交流セミナー

日時：2018 年 9 月 1 日（土）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス 7 号館 7114 教室

内容：タイの Mahidol University, Rachasuda College の Dr.Tavee と大学院生を招き、大妻の教員、学生との交流学習会を企画・開催した。

4. マレーシアとの障害者雇用・就労支援に関する国際交流会議

日時：2018 年 11 月 20 日（火）

場所：大妻女子大学千代田キャンパス F 棟

内容：マレーシアの障害者雇用、就労支援の第一人者である Swee Lan Yeo 氏をお招きして、障害者雇用、就労支援に関する情報交換の機会を持った。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. 福祉心理学（シリーズ心理学と仕事）北大路書房 第 5 章 就労支援と福祉心理学 pp85-108

2. 子ども・大人の発達障害診療ハンドブック（中山書店） 就労の支援 pp121-125

3. 発達障害者の早期発見と支援につなげるアプローチ（金剛出版）

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

すべての授業において、使用するパワーポイントは最新の情報に更新し、また、授業アンケートや学生の反応を見て修正している。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 授業におけるコメントカードの活用

内容：毎回、授業実施後にコメントカードを書いてもらい、次回の授業でフィードバックすることで授業内容の理解および授業改善に役立てた。

2. 「障害者支援と障害者自立支援制度Ⅰ」の授業において、障害者施設で働いている卒業生を2回（計4人）招き、現場の仕事の様子について話をしてもらった。

3. 「障害者支援と障害者自立支援制度Ⅰ」の授業において、マレーシアから来日した Swee Lan Yeo 氏をゲスト講師に招き、マレーシアの障害者福祉事情、障害者雇用の状況について話をしてもらった。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1. 教育に関わる研究会の実施

日本職業リハビリテーション学会

日時：2018年8月24日（金）25日（土）

場所：北星学園大学（札幌市）

内容：研修基礎講座「実践研究の始め方—初めて研究に取り組む方へ（現場の取り組みをどのように研究につなげるか）」の講師を担当し、学生への指導に役立てた。

2. オフィスアワーに関する意見・感想

オフィスアワーに関わらず、学生は随時研究室を訪問し、様々な相談を行っている。こちらの対応としても、オフィスアワーに限定せずに時間の許す限り、学生に対応するように心がけている。

3. クラス指導の状況

現在4年生を担当しているが、事務手続きに関すること以外は、相談に来ることはほとんどない。成績が芳しくない学生は個別に呼び出して指導を行っている。

4. クラス指導を行う際に工夫している点

特になし。

5. クラス指導に関する意見・感想

特になし。

④尾久 裕紀

I.「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- 1) 産継会 クリニカル研修「カウンセラーに必要な臨床の知識」に講師として参加
日時：平成 30 年 6 月 10 日
場所：中野商工会館
- 2) 「公認心理師必携テキスト」の編著者等による集中セミナー 公認心理師になる！ ―公認心理師を目指す方に必要な学びと実践的態度を習得しましょう―に講師として参加
日時：平成 30 年 7 月 22 日
場所：大妻女子大学千代田キャンパス
- 3) あんしん財団・大妻女子大学「AMAROK 経営者健康あんしんアクション」 「健康経営の新たな視点―日仏被殻研究に学ぶオーナー経営者・個人事業主の健康」に講師として参加
日時：平成 30 年 7 月 31 日
場所：関西大学東京センター
- 4) ピアメディエーション学会 シンポジウム「ピアメディエーションは学校・職場を救えるか？」にシンポジストとして参加
日時：平成 30 年 8 月 4 日
場所：大阪教育大学
- 5) 日本産業カウンセリング学会 研修会「今求められるメンタルヘルス対策―職場における心理職の役割を中心に」に講師として参加
日時：平 30 年 8 月 31 日
場所：亜細亜大学
- 6) 日本経済新聞社主催 シンポジウム「中小企業経営者の健康マネジメント～日仏共同研究より～」の企画およびシンポジストとして参加
日時：平成 30 年 11 月 15 日
場所：東京・イイノホール
- 7) 日本経済新聞社主催 シンポジウム「中小企業経営者の健康マネジメント～日仏共同研究より～」の企画およびシンポジストとして参加
日時：平成 30 年 11 月 16 日
場所：大阪・ハービス HALL
- 8) JXTG エネルギー（株）川崎製油所「メンタルヘルスマネジメント（ラインケア）研修」に講師として参加
日時：平成 31 年 2 月 22 日
場所：JXTG エネルギー（株）川崎製油所

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 毎回オリジナルプリントを作成し、配布した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) manaba を活用し、オリジナルのドリルを作成し、実施した。
- 2) 授業の初めに前回範囲の確認テストを実施した。
- 3) 授業の積極的学びを推進するための工夫を試みた。(参考図書、文献の紹介など)

⑤金 美辰

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第 1 部「教育の質の向上—シラバスの書き方」

第 2 部「障害学生支援委員会企画」両方に参加しました。

【学会参加】

1. 介護福祉の思想を改めて問う

日時：2018 年 9 月 1 日（土）：13:00～17:45

9 月 2 日（日）：9:30～16:10

場所：桃山大学

内容：基調講演大会シンポジウム、学会発表に参加しました。

2. 「介護」が拓く人間福祉の未来

日時：2018 年 11 月 17 日（土）：10:30～19:00

11 月 18 日（日）：9:30～17:00

場所：中部学院大学関キャンパス（岐阜県関市桐ヶ丘 2 丁目 1）

内容：基調講演「介護ロボット等を活用した先進的介護について」とシンポジウム「介護未来がここにある」、研究・実践発表と実践報告・交流に参加しました。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. 著書『介護福祉士 介護編』（ミネルヴァ書房）

介護に関する基本的な内容から応用的内容まで、科目「介護の基本」に関する内容で構成されている。介護福祉士を目指す学生のために適宜授業でテキストとして使用しています。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 参加型授業と地域高齢者向けの一泊二日サービスの企画・実施

授業でフィードバックペーパーを活用し、個々の学生の理解度や知識、意識レベルを確認しながら授業に取り組んでいます。介護総合演習Ⅰ・Ⅱの授業では、教員間で教える内容にズレ

がないように、事前に打ち合わせを行い、授業後にも教員間で振り返ることで、連携しながら授業の質向上に努めています。社会福祉学セミナーでは、在日外国人の集住地域で住民と交流するし、多文化共生のあり方について理解を深めました。また、学生と一緒に、一日デイサービスを企画・実施することで、地域の高齢者と交流し、高齢者の現状を把握するほか、企画力や実践力を身につけられるように努めました。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 「小規模ケアにおける介護職員の仕事意識に関する研究」（共著）
「高齢者の居場所に関する研究レビュー」（単著）

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1. 教育に係わる研究会の実施
内容：他大学の教員との教材に関する研究会

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1. 介護予防に関する研究
内容：他大学の教員 3 名と共同研究
2. 海外における介護予防に関する研究
内容：他大学の教員 2 名と共同研究

⑥蔵野 ともみ

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」
日時：2018 年 12 月 7 日（金）
場所：大妻女子大学多摩キャンパス
内容：第 1 部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第 2 部「障害学生支援委員会企画」
両方に参加した。シラバスの書き方については、実務的な話しも参考になり、他の教員のシラバスを見る機会もあり、大いに学ぶ機会となった。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 「精神保健福祉論Ⅰ」「精神保健福祉論Ⅱ」オリジナル小テストの作成・実施・個別指導
内容：オリジナルの小テストはテスト直しを課題とし、提出された翌週には、学生に返却するよう採点し、コメントを付け、個別の課題を設定して指導をしている。

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 担当している全ての科目でオリジナルのレジメ作成
内容：講義・演習・実習等、担当している科目全てにおいて、毎年オリジナルのレジメを改

訂し、第1回目の授業で全部を配布している。また、必要に応じて別途追加プリントを作成・配布した。事前に配布することで、学生が全体を理解した上で学習スケジュールを立てることを促し、復習及びレポート作成の進め方を指示することをねらいとしている。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 毎時間の小テストの実施と学生個別の学習状況に応じた個別課題の提示・個別指導
内容：10名～70名等、全ての授業（講義、演習形式）で、毎時間小テストを作成、テスト直しとコメント付き返却、個別課題の設定と指導を実施している。
2. 実習科目における社会資源集の作成指導
内容：半期かけて学習を積み上げていくポートフォリオ形式の冊子作成と、個別指導を行う。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 論文「スーパービジョン経験が実習指導に与える影響に関する研究」（大妻女子学人間関係学研究、20巻）

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1. 相談援助技術に関わる演習科目の研究会実施
内容：14年前から他大学の教員と教授方法や教材についての研究会を実施している。今年度は2018年7月7日～8日に大正大学で行った。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1. 「認定社会福祉士認定研修検討」認定社会福祉士研修検討委員として参加
内容：認定社会福祉士認定・認証機構主催の認定研修について、内容検討とワークブックを作成し、研修を実施した。

【その他】

1. 精神保健福祉援助実習に関わる実習指導者との連携
内容：学生の配属実習前に、全実習指導者（スーパーバイザー）に対して、実習生の大学での指導状況や学生の課題について、書類及び対面での個別打ち合わせを行った。また、特に個別指導が必要な学生について、本人・保護者と話し合いの場を設け、さらに実習機関との打ち合わせを重ねた。
また、実習先主催の打合会に参加し（5/25：埼玉精神神経センター）、他大学の教員及び学生、施設職員の3者での打ち合わせ・見学を行った。
2. 国家試験受験に向けた勉強会の実施
内容：精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士国家試験受験に向け、それぞれ春・夏休暇期間を活用し、少人数の勉強会を実施した。

⑦佐藤 富士子

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第 1 部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第 2 部「障害学生支援委員会企画」
両方に参加した。

【学会参加】

1. 介護福祉の思想を改めて問う

日時：2018 年 9 月 1・2 日

場所：桃山大学

内容：一日目基調講演大会シンポジウムに参加、二日目の午前自由研究発表で口頭発表、午後学会シンポジウムのコーディネーター

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. 著書「生活援助従事者研修テキスト」共著（中央法規出版）

内容：厚生労働省が示す生活援助従事者研修のカリキュラムに基づいて、生活援助に求められる基礎的な知識と技術を習得できる内容

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 著書「生活援助従事者研修テキスト」共著（中央法規出版）

内容：厚生労働省が示す生活援助従事者研修のカリキュラムに基づいて、生活援助に求められる基礎的な知識と技術を習得できる内容

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1. 教育に係わる研究会の実施

内容：他大学の教員と教授方法や教材についての研究会

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（研究）】

1. 介護記録の ICT 活用に向けた観察項目の標準化

内容：他大学の教員 4 名と共同研究

2. 介護福祉士養成校卒業生による「喀痰吸引等」実施の現状と課題

内容：他大学の教員 7 名と共同研究

⑧嶋貫 真人

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【学部 FD 研修会】

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：「多摩の教育をよりよくするためには」というタイトルで、第 1 部は「教育の質の向上—シラバスの書き方」で講義、第 2 部「障害学生支援委員会企画」のグループ討議

【全学 FD 研修会】

日時：2019 年 1 月 7 日（月）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～」というタイトルで、森朋子 関西大学教育推進部 教授による講義

【学会参加】日本社会保障法学会第 73 回大会

日時：2018 年 5 月 20 日（日）

場所：早稲田大学

内容：「わが国における社会保障法学の展開」というテーマで討議

【研修会・研究会参加】板橋区社会福祉士会学習会

日時：2018 年 9 月 11 日

場所：板橋総合ボランティアセンター

内容：「ひきこもりカフェ」について討議

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・「社会福祉学セミナーⅠ～Ⅳ」では、昨年度に引き続き、社会保障の各領域から題材をとった初学者向け教材の増補・改訂作業を行ないました。このプリントは、当該テーマに関する問題の所在を提示するための資料であると同時に、末尾にいくつかの設問を置いてゼミでの活発な議論を促す効果もねらっています。福祉系学部生のために、法学初学者にわかりやすく、なおかつ学生の興味を引きそうなテーマを用いた教材となるよう心がけているものです。
- ・社会福祉士国家試験を受験する学生のための模擬問題とその解説（低所得・社会保障・福祉行政）について、最新の出題傾向をふまえた改訂を行ない、あわせて受験対策講座の授業を実施しました。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

- ・講義形式の授業においてはほぼ毎回レジュメを配布し、授業の理解を助けるとともに、学生の復習の便宜となるように配慮しました。

- ・manaba を利用して学生からの質問や意見を受け付け、双方向の授業となるよう工夫しました。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み】

- ・「高齢者世代の政策—介護保険・年金をめぐって—」『コンパス 21』第 22 号（論文）
- ・「福祉現場における不正の発見と内部告発者の保護」『人間関係学研究』第 20 号（論文）

⑨丹野 真紀子

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：第 1 部「教育の質の向上—シラバスの書き方」、第 2 部「障害学生支援委員会企画」
両方に参加した。

2. FD 講演会「学生の学びの質的向上を目指して」

日時：2019 年 1 月 7 日（月）

場所：大妻女子大学多摩キャンパス

内容：大学の果たすべき役割が、知識や技能の習得に重点を置いた従来の教育から、卒業後も社会環境に適応し学び働き続けることができるように、自ら課題を設定し解決できる学生を育てることに変化していることから、教職員全員が教育目標を共有することの重要性をあらためて学ぶことが出来た。

【学会参加】

1. タイトル 第 42 回日本死の臨床研究会年次大会

日時：2018 年 12 月 8 日

場所：新潟コンベンションセンター

内容：今年度のテーマは「ひらかれた看取りをすべての人と ～「いのち」と「死」を見つめて～」であった。死の臨床黎明期からの歩みなど、看取り研究の必要性を学ぶことが出来た。

【その他】

1. DV・性暴力被害にかかわる支援者のための研修講座 2018

日時：2018 年 7 月 14 日（土）・7 月 15 日（日）

場所：東京有明医療大学

内容：女性への暴力と社会構造、行政の援助制度の活用方法、外国人女性への支援など、具体的な DV・性暴力被害に関わる支援の実際について学ぶことが出来た。

2. 児童虐待・事例検討会 2018

日時：2019 年 2 月 8 日（金）

場所：東京学院ビル 1 階教室

内容：児童虐待に関する事例検討について母子間の愛着関係から事例をアセスメントする手法について学んだ。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. 著書「相談援助」（建帛社）

内容：第 2 章 3 関連援助技術、第 3 章 5 専門職の倫理と倫理的ジレンマについて執筆した。社会福祉士を目指す学生のために適宜授業内でテキストとして用いた。

【市販されてはいないが授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. 授業で用いるための教材、配布資料を改定した。当該科目は、「社会福祉援助技術論Ⅱ－A」「社会福祉援助技術論Ⅱ－B」「社会福祉援助技術論Ⅲ－A」「保健医療サービス」の 4 科目である。社会福祉援助技術論の科目では、なるべく最近の現状に合った事例を提供するため、新しい事例を加えたり、既存の事例を制度改正に合わせて修正・加筆することを行った。また、「保健医療サービス」では、統計データや法令の改定及び廃止等への対応も行った。

レジメの使用は、教科書だけでは理解できない対人援助の実際をよりリアルに理解できるようにするために効果的であると考えている。

【個別ではなく複数の授業で活用するために作成した教材・テキスト】

1. すべての授業で、毎回フィードバックを書かせている。その用紙に書かれていた質問について次の授業で取り上げ、その質問に対する資料を別に作成し配布している。これを行うことで、前回の授業の復習にもなり、学生自身、自分の苦手分野に気付くようである。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. manaba の活用

学生に課した個別課題に関しては、今年度は manaba の活用を主とした提出を試みた。最初の頃は、manaba を使いこなせない学生もいたが、複数回提出させ、個別指導を行ったことで、多くの学生が時間通りに提出できていた。また、課題については全員にコメントをつけて返却した。それにより、学生自身、できない項目の理由がわかり、再提出の際、かなりの改善が見られた。

2. 授業間の連動を意識した授業プログラムの組み立ての工夫

社会福祉援助技術論と相談援助演習の関係は深い。担当していない相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴの授業進行状況を把握し、学生が演習と理論とを関連して学べるよう意識した。それぞれの担当者から、演習の進み具合や、演習で学生が困っている点などを伺った。そのうえで、講義の中で理論的に説明し、この理論と演習の意味を伝えることで、ソーシャルワークを机上の理論として理解するのではなく、身近に活用する技術として理解することができたと思う。

3. 専任教員と非常勤教員との連携

主担当である相談援助演習Ⅲとサポートに入った相談援助演習Ⅴでは、共通シラバスを作成し、教育内容の共通化、授業展開の共有化を試み、学生がどの教員が担当することになっても一定レベルの教育の質を確保できるよう調整した。

4. 個別指導の充実

相談援助実習事前指導、事後指導においては、学生の個別作業も多く、学生間の格差が見られた。そのため、授業外でも学生が自由に相談できる場を提供し、学生の個別作業がしやすく、また、学生自身の力で乗り越えられるようサポートした。これにより、学生は自分で考えることの重要性、時間はかかってもできるという自信をつけ相談援助実習に臨むことができたと言っていたので教育的効果は高かったと思われる。

5. 履修学生全員参加を意識した授業の組み立て

ソーシャルワークの理論を理解するためには事例による全員参加の学習を目指した。事例の見方、問題点の整理の仕方を学生自身が考え、多くの学生に板書してもらうことを通して、全員参加の事例研究となった。これは、社会福祉現場などの実践で活用することも意識している。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 「ソーシャルワーク探訪記（第8回）宮下有希さん 医療法人社団向日葵会・まつしま病院・ソーシャルワーカー」（ソーシャルワーク実践研究、第8巻）

内容：周産期医療の現場における医療ソーシャルワーカーの支援についてのインタビューをまとめたものである。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1. 「面接技法」

内容：NPO 女性の安全と健康のための支援教育センターから依頼を受け、2018年11月11日に上記内容の研修を行った。

2. 社会福祉実践に関わる研究会の実施

内容：毎月1回、社会福祉実践現場で活躍している相談員らと最新の社会福祉現場の実情、支援の実際についての研究会を主宰した。

⑩松山 博光

I. 企画あるいは参加した教育関連研修会

【研修会】

1) 学部FD研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：平成30年12月7日（金）午後5時00分～午後7時00分

内容：第1部「教育の質の向上—シラバスの書き方」

私立大学等改革総合支援事業テーマ「教育の質の向上」関連部署からの説明

第2部「多様な学生への教育的支援に関する勉強会」障害学生支援委員会企画

2) 学部FD講演会「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～」

講師：森朋子 関西大学教育推進部 教授

日時：平成 31 年 1 月 7 日（月）午後 4 時 30 分～午後 6 時 00 分

内容：1. 私立大学等改革総合支援事業について、および一般経費削減の概要

2. 1. のタイプ I を取っている他大学の取り組み（内部質保証、学修成果の可視化など）

3. 教育の質的転換を実質化するためのアクティブラーニング

【学会参加】

1) 健康生きがい学会第 9 回大会「健康生きがいを支える福祉機器・ICT・ロボットの役割について」

主催：健康生きがい学会（★松山博光：学会理事・大会実行委員長）

日時：平成 30 年 11 月 11 日（日）午前 9 時～午後 5 時 30 分

場所：大妻女子大学千代田キャンパス E 棟・F 棟

内容：午前中は、辻哲夫（学会理事長・元厚生労働省事務次官）の基調講演（「人生 100 年時代を迎えての高齢者の生き方」）の後、星旦二（首都大学東京名誉教授）による特別記念講演（「高齢者の生きがいと健康長寿との因果関係」）があり、午後から医療・福祉機器・生きがい・健康等の 7 分科会に分かれて報告と討議が行われた。

2) 日本ソーシャルワーク学会第 35 回大会 in 岡山「ソーシャルワーク専門職の社会的承認～社会福祉士 30 年、精神保健福祉士 20 年を経て、ソーシャルワークが社会に承認されるために求められていること～」

主催：日本ソーシャルワーク学会

日時：2018 年 7 月 21 日（土）～22 日（日）

場所：川崎医療福祉大学（倉敷市松島 228）

内容：初日の午前中は、イギリス、ボーンマス大学教授の基調講演「イギリスにおけるソーシャルワーク専門職の専門性確立と社会的承認の歴史と現在」の後、午後より大会校企画シンポジウムが実施された。

2 日目の午前中は、大会企画シンポジウム「社会課題解決に有効な実践モデルの開発と、その制度化に向けたソーシャルワークの方法論 ～地域共生社会づくり・社会的インパクト評価/投資の潮流に対応するアプローチを考える～」の後、午後から 29 分科会に分かれた自由研究発表会が行われた。

【研究会参加】

1) 学会研究セミナー「組織間協働のシステム形成によるソーシャルワークの展開」

主催：日本ソーシャルワーク学会

日時：平成 31 年 1 月 27 日（日）午後 1 時 00 分～午後 4 時 30 分

場所：大妻女子大学千代田キャンパス F 棟 332 教室

内容：人々の生活や街づくりを支える民間団体や NPO 活動、市民団体は様々な現代的課題の解決・予防・エンパワメントのために重要な社会資源となっている。これらの活動

は個々の展開のみならず組織間で協働するべくネットワークが構築されてはいるが、必ずしも連携や調整を図りながら様々な活動発展させているとは言い切れない。

そこで、それらのソーシャルワークの機能について3名の実践家を交えて有機的なネットワークの構築と活用について考えた。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

- 1) 共著『高齢者に対する支援と介護保険制度・第6版』を改訂。

内容：第2章 少子高齢社会と高齢者（29頁～51頁）。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

- 1) タイトル：講義ノート

内容：今年度も社会福祉士国家試験の指定（専門）科目では、学生の教室外の事前・事後自己学習として「講義ノート」（講義期間3回提出後、評価し返却）を作成させて理解度を深めさせた。

⑩山本 真知子

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

- ① タイトル「多摩の教育をよりよくするためには」

日時 2018年12月7日 17:00～18:30

場所 大妻女子大学 多摩キャンパス

学内の学部のFD研修会に参加した。第1部「教育の質の向上—シラバスの書き方」では実際にシラバスの執筆を行い、授業でどのようにシラバスを活用していくのか等を理解することができた。第2部「多様な学生への教育的支援に関する勉強会」では、クラスやゼミの学生の中に配慮の必要な学生が増える中で、今後学内での統一の動きに加え多摩キャンパスの中で学生を支援していくことが求められると考えた。

- ② タイトル「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～（関西大学 森朋子先生）」

日時 2019年1月7日 16:30～18:00

場所 大妻女子大学 多摩キャンパス

1/7に行われた、学内のFD研修会に参加した。私立大学等改革総合支援事業についての内容や今後の審査についての見通し、他大学での取り組みについての講演だった。

私立大学等改革総合支援事業について、基本的なことから学ぶことができ、今後の大学運営等の学びとなった。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. タイトル『事例を通して学びを深める 施設実習ガイド』ミネルヴァ書房

本書は保育士養成のなかの社会福祉施設における実習に対するテキストである。筆者は「第5章 第2節 乳児院」を担当した。施設実習において実習生が学ぶべきこと、実習中の流れなどについて執筆した。(pp83-89)

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

着任してからの2年間の反省を生かし、学生の理解度や関心興味を引き出すため、授業や学年によって授業の方法を一部変更した。

相談援助実習指導等の演習形式の授業の中でロールプレイを行ったり、グループ作業を行ったりすることで、授業を展開した。実習指導の授業では講師の先生に対する質問などを学生が主体的に発言できるように、動機付け等の指導を行った。

また、今年度から manaba でのレポート提出をはじめ、リアクションペーパーの質疑に関する丁寧な指導を行った。

⑫石井 千麻

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 日本介護福祉士養成施設協会 平成30年 関東信越ブロック教員研修会

日時 9月13日(木)

場所 聖徳大学

内容 「介護福祉士30年・リーダーとしての新たな旅立ち」

分科会・意見交換会に参加した。

【学会参加】

1. 日本介護福祉教育学会

日時 8月21日(土)・22日(日)

場所 東北福祉大学 仙台東口キャンパス

内容 「介護福祉教育のこれからを考える」

1日目 特別講演「介護人材確保の動向と養成教育の方向性」

基調講演「カリキュラム改正のポイント」

2日目 分科会 第3分科会 実習教育に参加した。

2. 人間福祉学会

日時 11月18日(日)

場所 中部学院大学 関キャンパス

内容 「『介護』が拓く人間福祉の未来」

ポスター発表 「介護福祉士養成テキストにおけるスーパービジョンの捉え方の比較」を行った。

【その他】

1. 神奈川県社会福祉士会 地域包括ケア推進事業部主催

日時 10月27日（土）

場所 ウイリング横浜

内容 県民向け講座「パーソナリティ障害の理解と支援」

講師：白梅学園大学 長谷川俊雄教授

身近にいる、精神障害を抱えた利用者と、家族の対応の理解について、グループワークと事例検討の運営を行なった。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 生活支援技術における演習補助

専任教員の指導・助言のもと、実技演習のための物品準備、演習補助を行う。実習室物品等の管理・点検・補修を行なった。

2. 介護実習事前・事後指導及び巡回指導

介護実習入門～Ⅳに向けた実習目標立案の助言・指導、実習巡回指導、実習施設との連絡調整、実習報告書作成に際しての指導を行なった。

3. 相談援助実習事前・事後指導及び巡回指導

専任教員の指導・助言のもと、相談援助実習に向けた実習目標立案の助言・指導、実習施設との連絡調整、実習報告書作成に際しての指導を行なった。

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（論文や著書）】

1. 論文「介護福祉士養成テキストにおけるスーパービジョンの捉え方の比較と今後の展望—ロールプレイとグループスーパービジョンの提案—」（大妻女子大学人間関係学研究, 20 巻）

【教育内容に関する質の向上に向けた授業外での取り組み（学会や研究会等）】

1. 教育に関わる研究会の実施

内容：2018年9月1日（土）大妻女子大学にて日本職業リハビリテーション学会と、タイの Mahidol University Ratchasuda College の教員と学生でセミナーを共催した。タイの方々との交流を図り、それぞれの国の障害者雇用について考える機会となった。

⑬武山 美子

Ⅰ「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 第25回日本介護福祉教育学会

開催日：平成30年8月23日（木）、8月24日（金）

場 所：東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス

内 容：「介護福祉教育のこれからを考える」～求められる介護福祉士像の実現に向けて～をテーマとして、1日目は介護人材確保の動向と養成教育の方向性および介護福祉士

養成におけるカリキュラム改正のポイントについて、厚生労働省介護福祉専門官からの講演、検討チームによる報告がされた。2日目は各分科会に参加した。

2) 第26回日本介護福祉大会

開催日：平成30年9月1日（土）、9月2日（日）

場 所：1日目・2日目 桃山学院大学

内 容：「介護福祉思想を改めて問う」大会テーマとし、介護福祉の発展のために改めて介護福祉とは何かを問う大会。1日目、2日目大会シンポジウム「生活支援の思想—医療、看護、介護、社会福祉からの視点から—」、2日目各分科会に参加した。

3) 全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会「全国大会」in金沢

開催日：平成30年11月26日（月）、11月27日（火）

場 所：石川県文教会館

内 容：「実践から生まれる小規模多機能型居宅介護が目指す地域包括ケアのあるべき姿」を大会テーマとして、住み慣れた地域で24時間365日を支える地域包括ケアにおける小規模多機能の役割について考える大会。2日目は実践発表による分科会に参加した。

4) 学部FD研修会「多摩の教育をよりよくするために」

開催日：平成30年12月7日（金）

場 所：大妻女子大学多摩キャンパス

内 容：第2部「障害学生支援委員会企画」に参加した。

Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 「相談援助実習事前指導」、相談援助実習（児童・地域分野）における連携と取り組み

事前指導において、担当教員のご指導のもと実習先への提出書類の確認、実習指導者への依頼と調整、実習における指導を行った。

2) 介護実習指導における教員との連携と取り組み

介護福祉学専攻の教員のご指導、助言のもと、実習における指導、実習報告書作成の指導を行った。

⑭平野 貴大

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～」

日時 2019年1月7日（月）

場所 大妻女子大学

【学会参加】

1. 日本コミュニティ心理学会 第21回大会の運営

日時 2018年7月7日・8日

場所 大妻女子大学千代田キャンパス

内容 同大会全体の運営マネジメントに携わった。また、コミュニティへの介入などを含めたアプローチの方法論とその教育方法などについて、心理、福祉その他の専門家・研究者と意見交換を行った。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 相談援助実習における教員と実習助教の連携

社会福祉士の相談援助実習について、実習事前指導から事後指導まで一貫して担当教員とともに学生の状況等の情報共有、各種指導などを行うことにより、学生が実習で多くの学びが得られるような体制を整えた。

⑮古市 孝義

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

【研修会・研究会参加】

1. 学部 FD 研修会「多摩の教育をよりよくするためには」

日時：2018 年 12 月 7 日（金）

場所：大妻女子大学 多摩キャンパス

2. 平成 30 年度 関東信越ブロック教員研修会「介護福祉士 30 周年・リーダーとしての新たな旅立ち」

日時：2018 年 9 月 13 日

場所：聖徳大学

3. 学部 FD 講演会「学生の学びの質的向上に向けて～関西大学を例に～」

日時：2019 年 1 月 7 日

場所：大妻女子大学 多摩キャンパス

4. 日本介護福祉学会 ステップアップセミナー

日時：2019 年 2 月 24 日

場所：大妻女子大学 千代田キャンパス

5. 貧困問題・生活困窮者支援ソーシャルワーク全国実践フォーラム

日時：2019 年 2 月 23 日

場所：日本交通協会

【学会参加】

1. 第 26 回 日本介護福祉学会大会

日時：2018 年 9 月 1 日 2 日

場所：桃山学院大学

2. 日本保健福祉学会 2018 年学術集会

日時：2018 年 9 月 29 日

場所：神奈川県立保健福祉大学

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

【市販されている教材・テキスト】

1. 中央法規 介護福祉士模擬試験問題集 2018

内容：介護福祉士模擬問題として、「人間の尊厳と自立」の小問題の内容構成や、事例問題の作成を行った。頻出問題から、対策を考え、問題を作成した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

【教育内容に関する質の向上に向けた授業内での取り組み】

1. 介護実習事前・事後指導及び巡回指導

内容：介護実習入門～Ⅳに向けた実習目標立案の助言・指導、実習指導巡回、実習施設との連絡調整、実習報告書作成に際しての指導を行った。

IV 保護者懇談会

平成 30 年度も、前期は千代田キャンパスで開催される千鳥会で、後期は多摩キャンパスで開催される大妻多摩祭の 1 日目に保護者懇談会が行われた。総会終了後には、映画字幕翻訳家の戸田奈津子さんの講演会（前期）と、保護者と教員の交流を図ることを目的とした「保護者・教員懇談会」（前・後期）が開催された。

1. 千鳥会での保護者懇談会

平成 30 年 6 月 2 日（土）に、本学学生の福利厚生と教職員の教育研究を支援することを目的に、学生の父母及び保証人と本学教職員で組織される「大妻女子大学千鳥会」の「総会」が千代田キャンパスで行われた。

1. 千鳥会保護者懇談会 人間関係学部学科別保護者出席者数

人間関係学科：42 名

人間福祉学科：26 名

学 部 合 計：68 名

2. 千鳥会保護者懇談会 人間関係学部学科別教職員出席者数

人間関係学科：15 名

人間福祉学科：10 名

学 部 合 計：25 名

3. 人間関係学部保護者アンケート結果

○参加保護者の内訳

父 親：12 名

母 親：54 名

父と母：9 名

その他：0 名

未記入：2 名

○場所について

良 い：75 名

悪 い：1 名

その他：0 名

未記入：1 名

○時間について

適 当：63 名

長 い： 4 名
短 い： 1 名
その他： 0 名
未記入： 1 名

○内容

適 当： 57 名
不適當： 1 名
未記入： 11 名

○保護者の意見

- ・進行がバタバタしていたので、もう少しスムーズな対応をお願いしたい。
- ・他大の問題もあり保護者の運営に対する関心が高い。
- ・役員選出基準の説明がない。
- ・少し寒かったので、温度調節に配慮してほしい。
- ・インターネット採決でも良いと思う。

4. 講演会について

○時間

適 当： 60 名
長 い： 2 名
短 い： 5 名
その他： 2 名
未記入： 4 名

○内容

適 当： 59 名
不適當： 1 名
未記入： 13 名

○保護者の意見

- ・娘にも聴かせたい。
- ・大変興味深かった。
- ・大妻女子大学・短期大学部の卒業生や在校生で社会で活躍されている方々の講演を希望します。
- ・とても素敵でした。大変素晴らしかった。
- ・もう少しお話が聞きたかった。
- ・日本語力 70%が重要。

- ・大変参考になりました。素晴らしい企画ありがとうございます。
- ・以前やった演奏会の様なものの方が肩が凝らず良いかと思いました。
- ・楽しかった。

5. 懇談会について

○時間

適 当：47 名
 長 い：1 名
 短 い：2 名
 その他：0 名
 未記入：1 名

○内容

適 当：44 名
 不適當：1 名
 未記入：6 名

○保護者の意見

- ・他の親御さんの話を聞けて良かった。
- ・学年ごとグループに分かれて就活のお話を聞けて良かったです（4年生なので）。
- ・学校生活において心構えや専門的なことを伺えて良かったです。
- ・毎回、講演会・懇談会が楽しみです。
- ・本会のような会議は他大学ではあまり無いと思います。今後も継続していただきますよう宜しくお願いします。
- ・大変参考になった。
- ・保護者が先生方のお話を伺える機会があります。

Ⅱ. 多摩キャンパスでの保護者懇談会

大妻多摩祭の1日目に、以下のようなプログラムで行われた。

プログラム

平成30年10月20日（土）大妻女子大学多摩キャンパス

①保護者のための就職講演会 11：00～12：30 7127 教室

テーマ

「企業の人事から見た就職活動の最前線と就職活動における保護者の関わり方」

講演者

国分（こくぶ）グループ本社株式会社

取締役執行役員 経営統括本部

副本部長 兼 人事総務部長 小木曾 泰治 氏

内 容

1. 近年の就職（採用）活動の状況
2. 子供世代と親世代の就職活動の違い
3. 今、企業が求める人材像とは
4. 活躍する人材が有する3つの要素
5. 採用選考とはどのような場か
6. 採用選考時に於ける企業の着眼点
7. 就職活動の進め方
8. 就職活動に於ける親の役割（提言）

②保護者懇談会 15：00～ （受付 12：30～）

会場：人間関係学部棟

12：30～ 受付 1階ラウンジ

15：00～ 全体懇談会（学部長挨拶、学科長挨拶）1階 7127 教室

15：30～ 専攻別懇談会（以下の教室に分かれ開催した）

■社会学 2階 7247 教室

■社会・臨床心理学 2階 7214 教室

■人間福祉学1年 3階 7338 教室

■人間福祉学2,3,4年 7318 教室

■介護福祉学 3階 7315 教室

1. 人間関係学部学科別保護者出席者数

保護者懇談会

社会：34名

心理：31名

福祉：59名

介護：8名

学部合計：132名

2. 人間関係学部学科別教職員出席者数

社会：7名

心理：8名

福祉：8名

介護：2名

共同研究室等教職員：10 名

学部合計：35 名

3. 参加者アンケートから

1) 全体懇談会

- ・FD 報告書というのを読ませて頂いた。そもそも FD という言葉の意味が分からない。報告書によると、どの先生も「私語対策」ということを書いている。一体、それほど私語が多いのか。どのような状況なのかを知りたい。⇒（回答）Faculty Development の略語であること、教員側の教えることに関する改善、向上という意味で使用していることを伝えた上で、学期末に授業アンケートを掲載し、それに対し教員が自分の担当授業の教え方や内容について見直したり改善に向けるために役立て、同時にそれを報告書の形にしているという趣旨の内容を話した。
- ・娘は地方から来ておりますが、学生は皆優しいと言っております。先生の熱心さが伝わりました。
- ・大学となるとなかなか学内の事がわかりづらいと思っていましたが、このような機会があり、より、学内のこと、様子などもよくわかり、子どもとの対話のきっかけにもなり、とてもよい会だと思いました。ありがとうございました。
- ・通わせてみると多摩キャンパスの環境は素晴らしいと感じますが、学生たち自身が多摩キャンパスで本当に良かったと思ってほしいです。
- ・学生にアンケートをとり、その意見を少しでもうけとめてくれているので安心しました。
- ・人間関係学部の今後の方向性や、就職率等の説明がわかりやすくよかったと思います。
- ・多摩キャンパスの今後を聞けて安心しました。教職員の皆様が学生に対しての愛情が感じられました。今後共よろしくご指導願います。
- ・キャンパス・学部・学科内容が理解できました。
- ・現状がよく分かり安心しました。
- ・わかりやすい内容でした。来年春卒業してしましますが、母校となる多摩キャンパスの今後について、子供も安心できるものと感じました。是非、OG との関わりもより一層できるよう望みます。
- ・アットホームで良かったです。

2) 専攻別懇談会

- ・英語力に力を入れているというお話、興味深く思いました。卒論の進捗具合の不安が少し減りました。インターンシップのお話も参考になりました。
- ・皆様と情報共有できたこと。先生方のていねいな対応・説明ありがとうございました。
- ・学校の様子を知ることができて良かったです。みんな課題に苦労していることがわかったので早めに取り組んで勉強に頑張ってもらいたい。
- ・とても丁寧にお話くださって、感謝しております。また来年もぜひ参加させて頂きたい。

です。

- ・これから子も親も未知の学び、経験に向かう中、お話を伺い不安も多々ありますが、頼りにさせていただけるのではと少し安心しました。
- ・実習配属試験が既に終わっていると聞いてショックでした。結果はわかりませんが・・・。
- ・本日参加したことによって様々な事がわかりました。ありがとうございました。
- ・資格試験のことなど、とてもわかりやすく説明して下さったので、聞きに来て良かったと思いました。
- ・毎年参加をさせて頂き、先生方、保護者の方々とお会いできます事、とても楽しみにいたしております。身近に先生方とお話ができる事は嬉しく、安心を致します。

3) その他

- ・健康以外の望みはありません。大学は楽しいと言っております。
- ・もっと同じ科のお母様たちとお話しの時間があるとよかったです。
- ・学年別懇談会も教室を専用にして欲しい。
- ・学内もきれいで明るく、安心しました。食堂も初めて利用しましたが、とてもおいしかったです。
- ・既に、無事民間ですが、就職の内定を頂いております。4年間ありがとうございました。
- ・先生方がとても丁寧に対応して頂き娘の様子が聞けたり相談にのって頂けるので助かりました。ありがとうございました。

V オフィスアワー

はじめに

オフィスアワーは、教員が学生の大学生活全般にわたる質問や相談を受けられるように研究室にいる時間である。学生は教員が設定している時間帯であれば、所属学科の教員だけではなく、どの学部、学科、専攻の教員の研究室を一人でもあるいはグループでも訪問してもよく、平成 16 年度から FD 活動の一環として導入し今年度で 13 年目を迎えた。

実施要綱の変更もなく平成 30 年度の実施要綱に表 1 の通りである。

表 1 平成 30 年度オフィスアワー実施要綱

活動目的	オフィスアワーは、学生の大学生活全般にわたる相談を通じて、学生がよりよいキャンパスライフを送れるように支援する組織的な活動である。
相談内容	学生生活全般に関わる事柄であり、特別な制約は設けない。
対象者	本学の学生個人またはグループとする（学部・学科・専攻は問わない）。
担当者	学生は、クラス指導主任やゼミ担当教員に限らず、人間関係学部の全専任教員（助手は除く。）と相談することができる。
相談時間	①月曜日から金曜日までの 1 時限から 5 時限（昼休みを含む）、土曜日の 1 時限から 2 時限（昼休みを含む）のうち、原則として 1 コマ（90 分間）を相談時間に当てる。 ②指定時間外は、事前予約により相談できる。
相談場所	原則として、各専任教員の研究室とする。
実施方法	①教員は、オフィスアワーとして設定した時間内は研究室に在室している。 ②教員は、学生が安心して相談できるように事前説明を行い、特別な事がない限り、他に漏らさないことを説明する。
周知方法	①教員は、毎年、講義開始時にオフィスアワーの利用を学生に伝える。 ②新年度毎に「人間関係学部オフィスアワー・スケジュール一覧表」を作成し、学生への配付及び、学部掲示板（1 階）や各共同研究室掲示板（4 階）に掲示する。 ③学部ホームページに実施要項とスケジュール一覧表を掲載する。
FD 報告	担当教員は、オフィスアワーに関する意見・感想等を当該年度の FD 報告書に掲載するため、報告書（年度末に別途配付）を提出する。

1. オフィスアワーの結果

2018 年度各教員がオフィスアワーを設定している曜日は表 2 の通りである。時間帯をみると、昼休み設定が最も多く、実施要綱では相談時間を原則 90 分となっているが、昼休みは 50 分しかないため、週 2 回に昼休み設定していた。昼休み 1 回のみとなっている教員は、実施要綱の原則 90 分を見落としている、あるいは 90 分は必要ないと判断していることが予想される。

その他の時間帯にはバラつきがあったが、相談時間は 90 分（一コマ）の設定であった。

表 2 オフィスアワーを設定している曜日

◆◆◆ 予約無しで教員の研究室を訪問して相談できる時間帯です。時間を確かめて気軽に活用してください。◆◆◆

2018(H30)年度 人間関係学部オフィスアワー [2018.3.23現在]

月		火		水		木		金		土		日	
1	9:00	伊藤美登里	西河正行	高田知恵子	尾久裕紀	井上修一	香月菜々子	9:00	1	イトウ ミトリ	伊藤 美登里	通年	場所:7号館4F
	10:30												
2	10:40	嶋貴真人	千川剛史	福島哲夫	久保田滋	齊藤豊	山蔦圭輔	10:30	2	イノウエ シュウイチ	井上 修一	通年	74132
	12:10												
3	13:00	佐藤富士子	堀洋元	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	10:40	3	ウエノ ユウコ	上野 優子	前期△	74811
	14:30												
4	16:10	古田雅明	松山博光	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	12:10	4	ウシヤマ ミホ	牛山 美穂	通年	74872
	17:50												
5	18:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	13:00	5	オオタテ ハルエ	大出 春江	通年	74151
	19:50												
6	20:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	14:30	6	オガワ ヒロシ	小川 浩	通年	74152
	21:50												
7	22:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	15:00	7	オギグチ ヒロキ	尾久 裕紀	通年	74842
	23:50												
8	24:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	16:00	8	オカサキ ナナコ	香月 菜々子	通年	74812
	25:50												
9	26:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	17:00	9	オキム ミジン	金 美辰	通年	74581
	27:50												
10	28:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	18:00	10	クボタ シゲル	久保田 滋	通年	74181
	29:50												
11	30:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	19:00	11	クラノ トモミ	蔵野 ともみ	通年	74851
	31:50												
12	32:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	20:00	12	コタニ サトシ	小谷 敏	通年	74142
	33:50												
13	34:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	21:00	13	ササキ トウコ	齊藤 豊	通年	74161
	35:50												
14	36:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	22:00	14	サトウ フジコ	佐藤 富士子	前期△	74871
	37:50												
15	38:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	23:00	15	シズマキ マサト	嶋貴 真人	通年	74822
	39:50												
16	40:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	24:00	16	タカタ チエコ	高田 知恵子	通年	74482
	41:50												
17	42:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	25:00	17	タナカ マサシ	田中 優	前期△	74282
	43:50												
18	44:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	26:00	18	タマイ カズヒロ	玉井 和博	通年	74861
	45:50												
19	46:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	27:00	19	タンノ マキコ	丹野 真紀子	通年	74852
	47:50												
20	48:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	28:00	20	ニシカワ マサユキ	西河 正行	通年	74382
	49:50												
21	50:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	29:00	21	フクシマ テツオ	福島 哲夫	通年	74381
	51:50												
22	52:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	30:00	22	フルタ マサアキ	古田 雅明	通年	74881
	53:50												
23	54:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	31:00	23	ホソカワ ヲヨシ	千川 剛史	通年	74131
	55:50												
24	56:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	32:00	24	ホリ ヒロエト	堀 洋元	前期△	74281
	57:50												
25	58:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	33:00	25	ホンダ シュウジ	本田 周二	通年	74481
	59:50												
26	60:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	34:00	26	マキノ トモカズ	牧野 智和	前期△	74182
	61:50												
27	62:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	35:00	27	マツヤマ ヒロミツ	松山 博光	前期△	74831
	63:50												
28	64:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	36:00	28	ヤシロ カオル	八城 薫	前期△	74882
	65:50												
29	66:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	37:00	29	ヤマツタ ケイスケ	山蔦 圭輔	通年	74862
	67:50												
30	68:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	38:00	30	ヤマモト マチコ	山本 真知子	前期△	74821
	69:50												
31	70:20	山本真知子	八城薫	古田雅明	松山博光	堀洋元	堀洋元	39:00	31	ヤマモト マチコ	山本 真知子	後期▲	74821
	71:50												

＜周知方法＞

- ・ 4月のガイダンスで配付
- ・ 7号館に掲示(1階と4階)
- ・ 学部HPに掲載 <http://www.hum.otsuma.ac.jp/>

- ◆ 指定時間外の相談は教員に直接予約してください。
- ◆ 相談場所は原則、7号館4階の各個人研究室です。
- ◆ 変更が生じた際は、学部HP (<http://www.hum.otsuma.ac.jp/>)及び7号館(1階と4階)に掲示でお知らせします。

【本件に関する問い合わせ先】
2018(H30)年度 人間関係学部FD委員会
小川浩(学部長)、福島哲夫(学科長)、佐藤富士子(学科長)
社会/伊藤美登里、心理/本田周二(委員長)、福祉・介護/上野優子

曜日別にみると表 2 の通りで、通年を通して火・水・木曜日が多く、月曜日は最も少なかった。授業が入っていないことも要因の一つと考えられる。

オフィスアワーの内容を見ると、学生が自ら生活全般について教員の指導を希望してくるものが多く、履修した授業を受けることによって学生が所属する学部、学科、専攻にとらわれず、教員の専門性に関連する相談も多く見られた。また、指導が必要と判断した学生を教員が呼び出し、その時間を当てると言う例もあった。事務的な用事や授業に関する質問といったものを受け付ける時間としてオフィスアワーがあるイメージをもっていたが、実際に訪れる学生は、大学に関することよりももっと広い範囲の話をすることが多い。オフィスアワーは、ある種のセイフティーネットの役割を果たしているようにも感じるという。どちらにしてもオフィスアワーの時間は有効に使われていると思われる。

2. 各教員からの意見や感想について次のような記述があった。

- ・授業に前後する時間帯として昼休みにオフィスアワーを設定し、質問や資料を受け取りやすいよう工夫した。その結果、履修や大学生活に関する相談を受けることもあった。
- ・授業に関する質問等はオフィスアワー以外でも受けていた。
- ・通年金曜日に設定しており、その時間をわかっていて来室する学生もいる一方、十分伝わっていない学生もいた。直接アポイントを取れない学生が、来室する場合の目安として活用されていると感じる。
- ・オフィスアワーの時間だけではなく、学生がいつでも研究室を訪問し、相談しやすいように工夫しました。オフィスアワーの時間に相談内容を聞き、面談の時間を新たに設けることで学生が落ち着いてゆっくり相談できるように工夫しました。
- ・ゼミ生およびクラス指導主任を務める 2 年 B クラスの学生が中心だったが、他学年、他クラスの学生も個人的相談、友人のメンタルに関する相談、進路に関する相談などで適宜来訪があった。
- ・オフィスアワーの利用は、例年同様、引っ越し、病欠等の署名、押印がほとんどであった。
- ・ゼミ生および担任学生（4 年 B クラス）がオフィスアワーの時間に来ることが多かったが、後期は、主に就職活動や卒業後の進路に関する相談（3 年生、4 年生）、卒論に関する質問（他ゼミ 4 年生）が多かった。

また、オフィスアワー以外でもアポイントを取ってから研究室に来る学生に対して対応してきた。

- ・学生には各教員のオフィスアワーを把握し、この機会を上手に利用していただければと思います。
- ・オフィスアワー時に個別の相談のため来室する学生がほとんどいなかった。学生は昼休みに来室することが多く、授業時間に研究室に来ることはほとんどないように感じる。そのため、基本的に研究室のドアに貼ってある在室・不在などの連絡用の紙の表示を必ず正確に示すように心がけ、在室している場合は学生にすぐに対応できるようにしていた。
- ・木曜日 4 限にオフィスアワーを設定しているが、多くの学生はオフィスアワーに関わらず様々な要件で研究室を訪問してくる。今年度は卒業にかかわる内容が多く、その場で対応するの

ではなく、別時間を設定し個別対応することが多かった。今後も、オフィスアワーに限定することなく、学生の個別性に合わせた対応をしていきたいと考えている。

- ・事務的な用事や授業に関する質問といったものを受け付ける時間としてオフィスアワーがあるイメージをもっていたが、実際に訪れる学生は、大学に関することよりももっと広い範囲の話をする人が多い。オフィスアワーは、ある種のセイフティーネットの役割を果たしているようにも感じる。
- ・教務委員ということもあり、1年生の来室も多く受けた。また、なかなか授業に出ることができない学生が、雑談をするために不定期に訪ねてきてくれた。あるいは、ゼミ生が雑談をするためにふらっと寄ることも多く、授業期間中の当該時間は概ね誰かと過ごすことになった。ただし、卒論や就活が活発になる時期には、4年生やゼミ生の先約が多くなり、別日設定をしなければならなくなり、オフィスアワーという予約をしなくても気軽に訪ねられるということから「約束を取って貰わざる得ない」という縛りが出てしまったことは、今後工夫をしていきたい。

また、1年生から「個人研究室のある4階には許可がないと学生が行ってはいけない」とう話しが学年の中で噂で流れた時期もあったようで、4月ガイダンス時期だけで無く、オフィスアワーのことは周知しても良いと考える。

また、複数回、他専攻の教員と相談した方が良い内容について、その教員のオフィスアワーを紹介した。

- ・卒論指導、困難を抱える学生の相談が多かった
- ・オフィスアワーを意識してやって来る学生は、例年同様、ごく少数であったと思われます。
- ・今年もゼミ生および担任学生（4年Aクラス）、大学院生を中心に多くの人がオフィスアワーの時間に来室しました。今年は卒業年次の担任だったため、就活や進学、受験など進路に関する相談が例年より多くありました。また、専攻主任と大学院の教務委員をしているためか、卒論研究や単位取得、留年等にかかる相談も多くありました。オフィスアワーを通年昼休みに設定しており、さらにその前後の2限と3限にゼミがあったのでゼミの延長として来室する人も多かったです。
- ・前期は、頻繁ではないが、学生の来室があった。授業の質問ということで来室するが、本来話したいことが別にあり、結局、授業の質問以外の相談事を話すパターンが多かった。後期は、オフィスアワーの時間に卒論指導を求める学生が多く来室した。

3. 今後の課題

学生は教員が設定している時間帯であれば、所属学科の教員だけではなく、どの学部、学科、専攻の教員の研究室を一人でもあるいはグループでも訪問してもよいのがオフィスアワーである。教員からの意見や感想から、設定されている時間外でも学生が相談に訪問し学生が活用している状況が伺える。具体的な内容の報告は専攻により特徴的なものであったり、共通したキーワード（学業の不良、授業への質問）であったりしている。さらに、他学科、他専攻での教員間の連携の必要なケースがあったりし、学生の抱えている問題の複雑化が示唆され、より専門的な相談内容も含まれていた。

今後さらなる活性化を図るための一つの方法として、実施要綱にあるように 90 分を原則とした場合、昼休みの場合は週 2 回設定をすることで、より学生が相談できる機会を作るという考えもあるが、一方では原則 90 分が必要なのかという考えもある。特に面談方法ではなく、メール送信であったり等相談方法は多岐になっている。今後は実施要綱の見直しも必要と思われる。

VI クラス指導について

本学教育体制の特徴の一つとして、クラス指導主任制度がある。入学時から学生をクラスに分け、いわゆる“クラス担任”が「学習」「学生生活」全般にわたってきめ細かく指導、助言、相談を行う学生支援の仕組みである。

本制度は、全国各地から入学してくる学生が新しい環境に適応し、安心して修学できるよう、きめ細かな指導をする必要性を説いた学祖の意思を継いで設けられている。実際に、新入生は高校から大学へと学習環境が変わるだけではなく、全国各地から親元を離れて入学してくる者も多い。

また、本報告書の元になっている各教員のアンケート結果は、Web 上で教員同士が即時に閲覧できるようにメール配信されており、教員相互の研鑽の元にもなっている。

本稿では各教員の声をまとめ、学生指導の様子を浮き彫りにしたい。

以下、平成 30 年度クラス指導について、「クラス指導の状況」「クラス指導を行う際に工夫している点」「クラス指導に関する意見・感想」の順にまとめた。

1. クラス指導の現状と教員からの意見

(1) 平成30年度のクラス指導の状況

1) 人間関係学科 社会学専攻

- * 困難を抱える学生の相談、成績の芳しくない学生の指導を行った。
- * 今年度は 2B、4B の 2 クラスを担当した。4B については、卒業時に必要な履修単位数の登録・受講に関する注意をクラスガイダンス時に入念に行った。2B については、若干名、授業出席および履修単位数が著しく低下した学生が発生したので、次年度が始まるまでに指導を行う予定である。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- * 4 年 B クラスを担当した。卒業後の進路について真剣に考える学年であるため、キャリアの視点を加えた指導を心掛けた。特に就職活動を行っている学生は、就職活動での疲れやストレスが学業にも影響することが考えられたため、精神的な面でのケアを大切に指導した。
- * GPA による成績指導については、必ず連絡をし、来室するように指導している。連絡をしても、一度で来室する学生は少なく、何度もメールを出して、ようやく半分の学生に指導できるという状態である。
- また、休学中の学生に対して定期的に連絡をし、復学へ向けたサポートをおこなっている。
- * 学生相談センター、専攻教員、共同研助手の方々と連携しながらのサポートができているように感じます。
- * 学部のクラス担当はありません。学内実習施設を中心に、大学院生（臨床心理学専攻）全体の指導を行っており、今年度前半は、ある学年の大学院生間、および一部教員とのコミュニケーションが噛み合わず、対応に苦慮した点が多かったですが、後半は教員側の丁寧な対応と各学生の状況が落ち着いたこともあり、大幅に改善され、実習活動および学習も効果的に

進んでいます。

＊履修指導、身分異動に関する相談、作成書類の承認が主なものであった。

3) 人間福祉学科

＊今年度はクラス担任が3年生であったため、卒業後の進路のこと、および公務員試験・社会福祉士試験の受験勉強に関する相談が多かったと思われます。なお、成績がふるわない学生に対する個別指導についても、例年通り実施しました。

＊2年生47名のクラスを担当した。4月から7月にかけて全学生と15分の面接を行い、国家試験希望の有無と就職希望を中心に話しをした。

また、今年度事務部と一緒に取り組みが始まった、教育上の配慮について該当する学生が複数名いたため、本人、保護者、事務部と話し合いを重ねながら、授業については本人の希望に沿った内容を提案して頂くことができた。今後は、それらの学生に卒論や就職に向けて課題が新たに出てくると考えられるため、クラス指導主任だけでなく、ゼミ担当教員や進路支援委員の先生方にも相談しながら、事務部と協力して支援を行っていききたい。

＊4年生の担当であったので、卒業が心配な学生に関して個別指導を行った。また、社会福祉士国家試験受験者が心理的な不安定さを見せることもあり、ゼミの先生との連携を意識した。

＊3年次の担任としての1年だったが、インフルエンザ等の欠席届や転居届などの担任としての署名捺印などの際に就職活動に向けて聞いたり、日常の困りごとなどについて聞き取りをしていた。3年次担当する授業が一部の学生のための授業となり、授業でクラス全体に向けてのアナウンスが難しかった。クラス全体に対しては4月のオリエンテーションでの周知と前期にクラス懇親会を開いた。

＊個別に相談に来る学生もいたため、そういった際はメールアドレスで連絡を取り、個別に面接時間を設けるようにした。今年度は、就職や成績、奨学金、友人との関係の個別相談があった。保護者面談も必要に応じて行った。

＊1年生のクラス指導主任であるため、履修指導や授業、大学生活に関する相談・指導が主だった。大学生活に慣れずに困っている学生に関しては、定期的に相談ができるように工夫しました。

＊クラスのメンバーの名前を把握しながら、資格取得の相談、奨学金の紹介、インフルエンザ等の欠席後の相談を行ってきた。資格取得の相談において、部活動との両立に悩む学生がおり、出来るだけ学業と両立できるように受験スケジュール等を検討中である。このように、個別指導が少しずつできている。

＊現在4年生を担当しているが、事務手続きに関すること以外は、相談に来ることはほとんどない。成績が芳しくない学生は個別に呼び出して指導を行っている。

＊介護福祉学4年のクラス指導教員として、学生生活等の相談を随時実施した。

(2) クラス指導を行う際に工夫している点

1) 人間関係学科 社会学専攻

＊学生の話なるべく丁寧に聞くように心がけている。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- *これまで同様、まずは当人の話を聞くことに重点を置いた対応をしてきた。また、4年生という事もあり、進路や卒業について悩む学生が一定数いたため、彼女たちに対しては、より丁寧に現状の認識と今後の進め方について考えるように促した。
- *学生の呼び出しについては、学生に不要なプレッシャーを与えないように、メールなどでの文章表現を工夫したり、仲の良い学生を通して伝えてもらうなどの配慮をしている。
- *学生個々の情報を1年次から整理し(施錠管理)、これまでの経緯などを総合しながら指導・相談にのるようにしています。
- *集団に向けての指示が正確に入らない事が多く、誤解を生じることが少なくなかったことからできるだけ個別に対応するよう心がけ、かつ口頭でのアナウンスとメール等でのアナウンスを並行して行う様、工夫しています
- *履修指導の際は、スキル不足の学生が多い印象もあり、履修ガイドや学内掲示などの活用方法を念入りに説明するようにしている。

3) 人間福祉学科

- *例年同様、継続的な指導を要すると思われる案件については、次回以降の面談内容に発展させられるよう、その都度面談内容のメモをとるようにしました。
- *当該学生のゼミ担当教員、実習指導担当教員および同学年の他クラスの担当教員と緊密に連携を取り合いながら、1人の学生の状況をできるだけ多角的に把握するように努めました。
- *担当が1・2年生の間は、必ず全員と個別面接を実施することになっている。3年生以降はゼミ担当教員と役割分担するようにし、学生が教員を選択して相談等ができる体制を保证するように意識している。また、重要な情報については、クラスのメーリングリストで伝えるようにしている。
- *3年次担当ということもあり、個別の指導を行うことが多いため、連絡をとれる状況にしている。メールアドレス等での連絡を行うように工夫している。
また、ゼミの担当の先生と連携をとる必要のある学生は、先生方と協力して学生を支援している。
- *4年次生担当であり、ゼミの先生と相談しつつ、併用して相談に来る学生も多かった。個別に面接時間を取り対応し、じっくりと話を聞くよう心掛けた。国家試験に関しては、学生がモチベーションをあげることが出来るような声掛けを心がけた。
- *学生と小まめに連絡を取りながら、家族とも情報を共有し連携することで、少しでも安心して充実した大学生活ができるように工夫しました。
- *できるだけ早い時期に名前を覚え、教室での様子、学内での友人関係等を把握しながら、個別に対応できるように工夫している。今年度はその成果が少しずつ見られ、ボランティア先での悩み、進路等についても気軽に相談できる雰囲気ができてきた。
- *傾聴すること。個人情報に留意すること。

(3) クラス指導に関する意見・感想

1) 人間関係学科 社会学専攻

- *発達障害等の困難を抱える学生や GPA が低い学生の人数が、これまでのクラス指導主任の経験や他クラスや他学年と比べて担当クラスに多く、それに関して専攻全体で迅速に情報共有し対応するだけでは不十分なので、障害学生支援委員会を含めた人間関係学部全体での対応を検討してほしい。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- *クラス指導を行う中で生じる様々な課題について、適宜、もう片方のクラス担当の教員や専攻会議において共有が出来るため、安心感を持って指導に当たることが出来たと感じる。
- *授業で manaba を使っているが、クラス指導にも使えると思う。ポートフォリオとして、個別のやり取りが残っていると、学生との指導がやりやすいと思う。
- *3・4年生のクラス指導主任になると、最初に相談に行くのがゼミ指導教員ということもあり、より連携してのサポートが可能となります。さまざまな目線で学生を見守ることのできる体制になっているのが理想だと感じます。
- *障害学生も含め、昨今は学生のさまざまなニーズに応えるべく工夫を凝らしているように思います（なかなか大変です）。学生全員に同じだけの益をもたらすことは、学習能力も異なりますし、実際問題不可能ですので、最大公約数を目指したいと考えているところです。そのためには授業を中心とした学びの場面で、核として何を伝えたいか、少なくとも何について抑えていただきたいか、論点を明確化して基礎の基礎をしっかりと伝えることと、さらには本人たちがその後の学習を自発的に行えるよう、働きかける方針で進められれば、と考えております。
- *教職員間および学生、保護者とのコミュニケーションをとって、適切に情報共有していきたい。

3) 人間福祉学科

- *今後、紙ベースでの成績配付等がなくなり、WEB での履修登録等、直接学生と会って指導をする機会は減少し、クラス指導主任だけが学生の成績を把握することになる。自己責任が原則の大学としては当然であり、学生にとっても利便性は上がる。反面、学生が自ら相談してくれなければ、助言をする機会は減るため、そのことを学生に周知する方法の工夫と、学生との関係作りをより意識していきたいと考える。
- *3年・4年次生に関しては、学生の指導は事実上クラス担任ではなく、ゼミ担当教員が中心に行っているため、3・4年のクラス担任にとっては、FD 報告書のこの項目は不要ではないかと思います。
- *学生の悩みは多様であり、メンタルに不安を抱える学生も増えてきている。親元を離れて一人暮らしをしている学生もおり、必要に応じての声かけが大事だと感じた。
- *1年を通して個別の配慮が必要なことが多かった。クラス担任とゼミ担任の連携が非常に重要であると感じた。3・4年次になると学年全体を担当する授業もない場合は、クラス全体

の指導が難しくなるので、UNIPA の学生の情報などをゼミの先生にも公開していった方がより学生を指導しやすいと感じる。

- * クラスの学生指導の際、クラス指導主任だけではなく、学科の教員や授業担当者と連携を取ることで、多角的に学生の状況を把握したうえ、クラス指導を行うことができたと考えます。ただし、年々学生と連絡を取ることが難しくなっています。メールを送っても確認せず、大学の個人研究室から携帯に電話をすると着信拒否されたり、電話に出なかったりなど、連絡を取ることに時間を費やしています。
- * 引き続き適切に行いたい。

2. まとめと課題

一昨年度の報告書では、以下の1～3の項目が今後の課題であるとしてまとめた。1. 必要履修単位数に関する計算ミスをする学生への対応、2. メンタルな問題を抱える学生の増加、3. 学生の二極化傾向から生じる指導の難しさ。

これらが今後においても継続的な課題でありながらも、教員間での密な情報共有やきめ細やかなサポートの提供など、かなり意識的に取り組むことで対応している様子うかがえた。

さらに昨年度は、上記に加えて「学内外も含めた連携の重要性。とくに、クラス指導主任の働きかけだけで解決するのではなく、学科専攻内での情報共有、さらには、父母・保証人や学内の他部署（学生相談センターや事務部など）とも適切に連携を取りながら対応をしていくことが必要」とした。

今年度は、上記の必要性と取り組みがさらに個々の教員から報告されている印象が強い。事務部との連携もここ数年で目覚ましく緊密になり、さらには障害学生支援の活動を含んだ合理的配慮の実施も進んでいる。その反面、一部の学生との連絡手段がますますメールや manaba のみに限られるようになり、電話連絡や面談が持ちにくくなっている現状もうかがわれる。このような現状に対してはやはり個々の教員にゆだねるのではなく、学部全体もしくは全学による取り組みが必要と考えられる。個々の教員に過度な負担がかかりすぎることのないように配慮することで、質の高いクラス指導を学部全体で展開していくことが重要であることに変わりはないであろう。

VII-1 人間関係学部FD研修会について

1. 平成30年度学部FD研修会のテーマ・実施方法決定までの経過

「授業をよりよくする Tips」のテーマで4年間連続して行う旨の基本方針が既に決定されており、今年度は4回目の Tips を実施する予定であった。しかし、総務委員会より、私立大学等総合改革支援事業タイプ1「教育の質的転換」取得を目指し、教育の質的向上に向けた取り組みのうち、「シラバスの書き方」に関するFDを実施して欲しいとの依頼があった。さらに、障害学生支援委員会より、障害学生に関するテーマについて連携して実施できないか打診があった。

- ・これらの依頼について、本委員会で検討し、今年度の研修会について、第1部を「シラバスの書き方」、第2部を「障害学生に関するテーマ」の2部構成とすることとした。第1部では、千代田キャンパスの企画・戦略室に協力を仰ぎ、私立大学等改革総合支援事業テーマ1「教育の質的転換」について説明してもらうこととし、第2部は、障害学生支援委員会に内容を一任した。さらに第1部では、情報処理室で実際にPCを動かしながらシラバス作成を実施するアクティブラーニング形式を取ることにし、そのために、教育・学事支援グループに協力を依頼した。なお、第2部の内容については、障害学生支援委員会に一任したため、ここでは触れないこととする。

2. 日時・場所等

- ・平成30年12月7日（金）教授会終了後17:00～
- ・研修会 17:00～19:00 7号館 7217・7318
- ・参加者数 50名（教員29名、事務職員21名：千代田・多摩含む）

3. 内容

（1）タイムスケジュール

- 17時00分 挨拶、流れの説明 【教室：7217】
- 17時03分 第1部「教育の質の向上—シラバスの書き方」 ※講義+PC作業
内容：私立大学等改革総合支援事業テーマ1「教育の質の向上」
話題提供：須藤 企画・戦略室課長／西田 企画・戦略室課員
- 17時23分 PC作業：講義を踏まえ、2019年度のシラバスを作成する
- 18時00分 教室移動 【教室：7318】
- 18時05分 第2部「障害学生支援委員会企画」
担当：障害学生支援委員会
内容：多摩キャンパスにおける配慮の必要な学生の現状報告と意見交換
話題提供：山賀 学生相談センターカウンセラー
- 18時55分 まとめ
- 19時00分 終了

（２）内容

第１部では、教育の質の向上に関わる「シラバスの書き方」について、アクティブラーニングや ICT、授業時間外学習の重要性について説明いただいた後に、意見交換を行い、シラバスの書き方について理解を深め、その後、各自でシラバス作成を行った。

第２部では、配慮の必要な学生についての現状報告を学生相談センターより情報提供いただいた後に、全体で様々なケースについてどのように対応することが望ましいのかについて意見交換を行った。教職員が個別で試行錯誤していた対応方法について全体で共有することで本テーマに関する理解を深めた。

第１部、第２部ともに非常に活発な意見交換が行われた。そして、今後も継続して関連のテーマについて議論を続けていくことの重要性が確認された。

４．終了後の参加者アンケート結果から

（１）全体的な評価

- ・参考となった。理解できた。(11 名)
- ・書くべきフレーズを TXT ファイルで「フレーズ集の形」で頂けるとありがたい。(1 名)
- ・教職員が同じ命題に向けて情報を共有し相互理解のもと、より良い方向に進めていくことに意義を感じた。(1 名)
- ・アメリカではシラバスの記述内容と講義内容が違う（ずれる）と訴訟の対象になり、しかも敗訴することがよくある。危機意識と学生を「良い商品」として「生産する」業務感がないから、こういうつまらない事態になる。予復習の時間は、皆 1 コマについて考えているが、学生は 1 日に 3 コマとかとるわけだから、それだけで 1 日 24 時間のほとんどが消える。時間にこだわる必要ない。(1 名)
- ・私立大学等改革総合支援事業へのしっかりとしたエビデンスの確保として、全先生方の対応と方向性が確認されたことに重要な意味を持つと思います。(1 名)

（２）今後取り上げて欲しいテーマについて

- ・スマホ時代を迎えて、学生が教養書を全く読まなくなっていることに強い危惧を感じています。そこで、「学区制に本を読ませるための、効果的な図書館活用法」のようなテーマでやってみてはいかがでしょうか。
- ・社会や国から求められている教育に係る改革や改善や大妻としての独自性のある活動など、社会から大妻はこんな素晴らしいことを行っていると称賛されることを検討し、テーマとしたら良いのでは。
- ・今回の第２陣として他大事例を具体的に指示して頂くと参考になります。
- ・manaba（小テスト、レポート）、クリッカー等の使い方について。
- ・定期試験の内容、方法、評価について。学生の事前学習・事後学習に関わる内容、方法、評価について。
- ・manaba の使い方も今回と同じように情報処理室で実際に見ながら（操作しながら）研修するといいかもかもしれませんね。“manaba のレスポンスの使い方”を取り上げて欲しいです。

あるいは、またシラバス作成研修の継続も良いかなと思います。

- ・今回のシラバスの続編をして、実際の例、すなわちシラバスの作成内容、授業の実際の工夫の例など、様々なパターンを学べるとありがたいです。
- ・ゼミ運営→メンテナンスとパフォーマンス（三隅先生みたいなイメージ）のバランス

（３）実施時期について

- ・この時期がちょうど良い（21名）。
- ・秋頃の方が都合が良い（1名）

5. 来年度以降の研修会に関する議論

第9回FD委員会（2月15日開催）、第10回FD委員会（3月11日開催）において、次年度以降の学部FD委員会のあり方について、意見交換がなされた。その結果、今年度実施予定であったTipsについて、次年度継続で検討する必要があること、また、今年度は障害学生支援委員会との共同で実施したが、次年度は共通にするのか、別にするのかについて次年度の早い段階で、障害学生支援委員会と協議することが望ましいのではないかといった意見が出された。

Ⅶ－２ 人間関係学部授業改善FDについて

平成 30 年度人間関係学部授業改善 FD を以下の通り実施した。本 FD は今年度より初めて実施するものであり、今年度は「授業改善に向けた学生の代表者（学友会）との意見交換」を実施した。

1. 日時・場所等

- ・ 2019 年 1 月 11 日（金）12 時 20 分～12 時 55 分 7 号館会議室
- ・ 教員：6 名、学生：6 名（学友会）

2. 内容

最初に、人間関係学部における FD 活動の取り組みについて、本田 FD 委員長より学生に説明した上で、授業に対する学生からの要望について議論を行った。以下、学生から出てきた意見とそれに対する教員の返答は以下の通りであった。

- （1）テストの結果を知りたい。点数ではなく、自分のテストのどこが合っていて、どこが間違っていたのかについて知りたい。
→年度が変わってしまい返すことができないということもある。例えば、常勤の教員のみではあるが、次の学期にでも研究室に来たら返却できるという対応であれば対応可能である。
- （2）交友関係が広くなく、様々な理由によって休みがちが学生も存在するが、授業に参加しないとプリントを渡してもらえず、試験はプリント持ち込み可という授業がある。せめて manaba に資料をアップしてもらいたい。
→manaba での配信は可能。ただ、授業時に穴埋めの資料を配布している場合は授業への参加意欲という観点からも配信もそちらにしたい。
- （3）メールアドレスを書いている先生とそうでない先生がいる。また、manaba に先生とやりとりができる機能があるが、それを非常勤の先生は知っていらないのか。
→manaba の使い方については、配布しているのでおそらく把握はされていると思うが、活用については個人差がある。
- （4）大学に来る学生の動機づけはバラバラであるので、すべてのニーズに大学側が合わせるということも無理があると思っている。高校の授業と比べると教育はしっかりしていると思う。
- （5）試験問題は学生間で出回っているという事実がある。試験問題の作成の仕方について、基礎的な問題と応用問題の配分を工夫することができるのではないかと。
→コピー対策としてマニアックな問題を出すと、点数が下がるということもあり、悩ましい。
- （6）授業評価アンケートに関して、教員が学生に向けたコメントを公表しているというが、場所がわからない。理想としては授業担当者から直接フィードバックして欲しい。

→授業評価アンケートの集計時期などの関係で学期中にフィードバックできないという事情もある。

(7) 授業中に黒板に板書をするけれどもレジュメは配らない先生がいる。必修の授業で人数が多い場合、見えにくいので真ん中の黒板にモニターでうつすなどの工夫をしてほしい。本当はレジュメを配布して欲しい。(スマホで写メをするよりもモニター)

(8) 授業に対する意見について、リアクションペーパーを使用してくれる先生もいるが、個人名を記入する必要があることもあり、評価につながることを懸念して書けないことがある。

→出席とリアクションペーパーを分けて、無記名で記入してもらうような形で対応することが可能かもしれない。

(9) 出席について、学生証をかざして授業に出ない学生に対して不満がある。個人でやっているならよいが、頼まれる(断れない)ことがあり、それが負担。

以上のように、学生と教員の間で授業改善に向けた活発な意見交換が行われた。そして、今後も継続して関連のテーマについて議論を続けていくことの重要性が確認された。

VIII 非常勤講師との教育懇談会

本学では、非常勤講師との教育懇談会を毎年春に開催し、授業の質の充実・向上に向けて率直な意見交換を行っている。人間関係学部においては、例年、学部の全体会を実施した後に、各学科・専攻に分かれて議論が行われている。平成 30 年度の教育懇談会は、5 月 26 日（土）に開催された。

最初に全体会において学部長からの講話があり、その後、学科・専攻に分かれて教育内容に関する意見交換が行われた。最後に、多摩キャンパス全体の合同懇親会が開催された。

1. 学部の全体会の概要

小川学部長より、以下のような講話があった。

- (1) 最初に本学部および人間関係・人間福祉両学科の教育・研究上の目的について説明が行われた。さらに、3 つのポリシーならびにカリキュラムマップについて説明がなされた。
- (2) 大学全体の動きとして、社会情報学部と比較文化学部が千代田キャンパスに移転が完了。人間関係学部の一学部体制となった旨の報告があった。
- (3) 人間福祉学科は、2 専攻制から 1 学科体制となった。それにともない、7 つのカリキュラムモデルを示し、説明があった。
- (4) 社会・臨床心理学専攻は、公認心理士養成に対応していく旨の説明があった。
- (5) 外部の専門機関と提携し、ネイティブスピーカーによる少人数での英語教育は始まった。
- (6) 非常勤講師室が、改に増設された。
- (7) 授業アンケートの実施に関すること、学習支援システム「manaba」、「UNIPA」について説明があった。効果的・効率的な授業運営に活用頂きたい。

2. 各学科および専攻における懇談会の内容

当日出された主な質問・意見等は、以下のとおりである。

【授業の運営方法・学生の指導方法に関すること】

- (1) 授業を休みがちな再履修の学生について、真面目に取り組んでいるが、体調不良等の課題があり出席困難な様子がみてとれる。どのような対応が可能か（社会・臨床心理学専攻）。⇒（対応等）学生の状況にもよるが、合理的配慮が必要な学生もいるので授業に関連するレポート課題を欠席時に課す等の個別対応をする方法もあるので参考にしたい（社会・臨床心理学専攻）。
- (2) UNIPA になったことで出席管理（時間）のカスタマイズができなくなったが、対策・方法はあるか（例えば、打刻可能時間が 5 分前からしかできないため、履修人数の多い科目だと授業開始前に打刻が間に合わなかったり、遅刻は 30 分まで認められるはずだが、出席しか確認できなかったりする）。（社会・臨床心理学専攻）。⇒（対応等）時間設定の変更をご希望の場合には教育・学事支援グループへ申し出てほしい。
- (3) UNIPA になったことで、出席管理システムとキャンパスアベニューが統合されたため、

とても便利である（社会・臨床心理学専攻）。

- （４）相談援助演習やグループワークの成績の付け方はどうしたらよいか。地域に出て行うグループワークの場合、グループ内で活動をしっかりしている学生とそうでない学生がいるが、教員が全て付いていくわけではないので、判断が難しい（人間福祉学科）。⇒（対応等）演習に関しては、専任教員の担当者が成績の基準を設けているので同様にしてほしい。グループ学習に関しては、しっかりと学生にグループワークの説明をし、担当を決めてしまう等教員が指示している場合もある。また、グループでのレポート等の課題とは別に個別課題を出し、その内容を踏まえて評価する方法もある（人間福祉学科）。
- （５）社会問題に対するリアリティ感覚が年々低下しているような気がする。社会学専攻として、どうやってそういうものに対するリアリティを持たせていくかは課題であろう。リアルな社会との接点をどう持たせるかが問題である（社会学専攻）。
- （６）社会学ではコミュニティとはどういう意味か（経済学の先生から）（社会学専攻）。⇒（対応等）共同体と言い換えてもよいと思う。我々の意識が共有された集団のことを指す（社会学専攻）。
- （７）セミナー系の授業で、一人ずつの机が配置してある教室は使いにくい。長机の教室のほうが望ましい。教室変更はできないのか（社会学専攻）。⇒（対応等）前年度に教室タイプの使用の希望を申し出るか、授業開始後に教室変更を教育・学事支援グループに申し出ると、空いていれば変更してもらえる（社会学専攻）。
- （８）NHKのビデオ（例えば震災やLGBT関連のもの）を流す場合に、見たくないものは退出してもよいと指導するよういわれたが、そこまで気を配るべきか（社会学専攻）。⇒（対応等）「気になる人は見なくてもよいです」といった対応がよいと思う（社会学専攻）。
- （９）非常勤講師が行う課外授業で起こった事故の保険やゲスト講師招へい等の整備がもっと進めばよいのだが（社会学専攻）。⇒（対応等）課外授業は専任教員が校外授業届けを提出すると保険もカバーされる。非常勤講師がゲスト講師を呼ぶ場合の謝礼については予算がつかない現状である（社会学専攻）。
- （10）新カリキュラム移行に伴う担当科目の変更はいつごろ決まるのか（社会・臨床心理学専攻）。⇒（対応等）担当科目の移行について説明及び確認時期が検討中だが、早めに進めていきたいと思う（社会・臨床心理学専攻）。
- （11）授業の配慮が必要な学生等はいるか（人間福祉学科）。⇒（対応等）配慮が必要な学生に関しては学生から配慮願が提出されたら非常勤講師にも配慮をお願いすることになる。何か専任教員に伝えておいた方がよいことがあれば相談してほしい（人間福祉学科）。
- （12）一般企業への希望が増えている理由を聞いて、学生のニーズを理解しながら温度差を感じないような授業を展開していきたい（人間福祉学科）。⇒（対応等）相談援助演習や相談援助実習指導は社会福祉士の国家資格を取得しようとする学生のみが受講しているので、講義系や必修の授業とは異なっている。そのため、演習や実習指導に関しては専門職の学びをしっかりとできるようにと考えている（人間福祉学科）。

【学生の言動・授業態度等に関すること】

- (1) セクシュアル・マイノリティの学生が安心してのことのできる場はあるのか。大学として何かサポート等考えているのか。⇒(対応等)入学時に学生が安心して学べる場であることをまず示し、その後「現実はどうですよ」ということも教えていくことが必要ではないかと思われる。また、女子大であることの強みを何らかの形で示したいと考えている。その他、学生相談センターの存在を入学時に教え、ハラスメント相談員が教員及び事務職員にいたることが記載されたパンフレットも学生に配布している(社会学専攻)。
- (2) wedding 論を教えているが、現実を話す必要もあり、どこまでセクシュアル・マイノリティの学生に配慮すべきか悩ましい。⇒(対応等)「ビジネスとしては、現実はどうです」という面を教えていかななくてはいけないだろう。社会が変化していくスピードに合わせて、両方教える必要があると思われる(社会学専攻)。
- (3) 他者に対する想像力が低下している。グローバルな話など関心を示す者もいるが全く示さない者もいる(社会学専攻)。⇒(対応等)教材の示し方で興味を示す可能性もあるかと思われる(社会学専攻)。
- (4) 閉じたコミュニティの中でのコミュニケーション能力は高いが、異質な他者へのコミュニケーション能力は低いという傾向がある。それをどうすべきか(社会学専攻)。⇒(対応等)仲良しグループ同士のディスカッションはできるが、仲がよくないとディスカッションができない、という学生もいる。仲の良し悪しに関係なくディスカッションはすべきであるということ为例示する必要がある。また、キャリアデザインの授業では、4人でのディスカッションをメンバーを変えて、何回も行う。これはコミュニケーション能力の向上に役立っているのではないかと考えている(社会学専攻)。
- (5) 学生の表現力はどうか(人間福祉学科)。⇒(対応等)レポートの書き方で段階を付けていない学生等も見受けられる。大学で文章の書き方から始める必要があるというのは、大学教育ですることではないように思う。よい文章を読み、慣れることが必要であり、小学校から高校までの教育と大学教育で求める基礎学力について考えさせられることがある。また、実際社会に出ると、レポートのような文章ではなく、データ化の関係から簡潔にネット上で記録を書くことも増えているため、伝えたいことが伝わるような文章表現が必要になってくることも考えられる(人間福祉学科)。
- (6) 実習指導において事例検討はできるが、質問や意見が出ないことが多く、授業を展開するのが難しいことがある。受け身ではなく、言語化しコミュニケーションでやり取りができるような授業をしたいと考えている(人間福祉学科)。
- (7) 大人数が受講する全学共通科目の授業評価アンケートで、時折辛辣な自由記述のコメントがあるが、どう対応したらよいか分からないところがある(社会・臨床心理学専攻)。⇒(対応等)授業アンケートの集計の際に、出席率とのクロス集計を行ったり新しい工夫をFD委員会で取り組んでいる。今度、出席率等との対応関係を示したうえで、自由記述のコメントを表示する等の工夫を検討したいと思う(社会・臨床心理学専攻)。

【大学の教育施設等に関すること】

- (1) パソコンが常設されていない教室があるが、全ての教室に置いてもらえないか（社会学専攻）。⇒（対応等）パソコンが常設でない教室でもパソコンを持参すればケーブルがあるので使用できる。非常勤講師室にアクティブ・ラーニング用のタブレットも置いてある。クリッカーも後期には入る予定である。Wifiは全ての教室で使用できる（社会学専攻）。
- (2) 非常勤講師室について、お茶がある部屋にもパソコン、ソファ、電子レンジ、冷蔵庫があった方がよい。⇒（対応等）今後、検討する（社会学専攻）。
- (3) 非常勤講師室の手前の部屋（心理学側）にも文房具ぐらいいは置いてほしい。⇒（対応等）他の先生方からも種々意見があると思われるので、総合的に判断して対応したいと思う（社会・臨床心理学専攻）。
- (4) 双方向の授業のためにアイランド形式の教室があればよいのだが（社会学専攻）。⇒（対応等）今は机を移動させてやっている（社会学専攻）。
- (5) 設備としてピンマイクはないのか（社会学専攻）⇒（対応等）マイクを下げられるものを多摩メディア教育開発グループに注文することも考えている（社会学専攻）。
- (6) 就職状況の説明の中で福祉職7割、一般職3割という報告があったが、一般企業に行く方向性の原因は何か（人間福祉学科）。⇒（対応等）ここ2～3年一般企業志向の学生が増えている。入学時から、社会福祉を教養として身につけたいという学生もいる。また、社会福祉士の受験資格を取得しても国家試験を受けない学生もいる。一般企業の就職状況もよく、福祉を学んでいる学生を一般企業が望んでいることもある。今年度から7つの履修モデルのライフビジネスモデルはそういった福祉の学びを一般企業で活かす学生を対象としている（人間福祉学科）。

【その他】

- (1) 現場でも実習を受け入れる力量が弱くなっていることは多分にある。学生の指導をするにあたっても、受け入れる側も職員のフォローが悪いところもある。実習をしたらそこで働きたいと思える実習ができればと思う（人間福祉学科）。
- (2) 教員側にもセクシュアル・マイノリティの対応ガイドラインのようなものを出してもらえると、目安となりありがたい（社会学専攻）。
- (3) 今年度の学生の自由記述のコメントを見ていて、きちんと文章にできない学生が目立つように思う。小学生からスマホ利用に馴染んでいる世代の特徴だろうか（社会・臨床心理学専攻）。

IX 人間関係学部におけるFD活動の課題

1. まとめ

今年度、多摩キャンパスは人間関係学部のみでの教育・研究活動を行うこととなった。多摩キャンパスに通う学生たちへの質の高い教育を保証するために、これまで以上に教職員一丸となってFD活動に取り組んだ一年であったといえる。あくまでも一つの指標ではあるが、授業評価アンケートの結果として、ほぼすべての項目でここ数年の中で最も高い数値となったことは、本学部のFD活動が着実に教育の質の向上に寄与していることを示唆するものであり、次年度以降のFD活動の励みになると考えている。昨年度の保護者懇談会では、多摩キャンパスが人間関係学部のみになってしまう不安がいくつもあげられていたが、引き続き、教職員が連携しながらFD活動を行っていくことで、保護者の不安を取り除くことができると考えている。

また、今年度は、私立大学等改革総合支援事業の採択を目指し、シラバスに係るFD研修会や、授業改善に向けた学生代表とのFDなど全学と方向性を一致させた活動がいくつも行われた。シラバスに係るFD研修会には50名という非常に多くの教職員の参加があり、教職員のFDに対する意識の高さを感じるとともに、実施後のアンケートを見ると、実施した内容や全学との連動性について好意的な評価がほとんどであり、意義のある活動であったと判断できる。しかしながら、補助金採択が目的となるFDではなく、あくまでも学生への質の高い教育の提供という視点を忘れないように気を付けたい。今後も、全学の方向性を踏まえつつ、学部独自の強みを生かしたFD活動を行っていく必要があるだろう。

2. 課題

課題としては、対話の更なる重視とフィードバックの強化が挙げられる。日頃の学生との関わりに加えて、保護者懇談会、非常勤講師との教育懇談会など、対話の場がいくつも設けられているが、今年度はこれまで教職員間の対話の場として機能していた学部FD研修会で、あまり対話の機会を作り出すことができなかった。また、今年度初めて実施した学生代表との授業改善FDでの学生のコメントや、授業評価アンケートの結果を踏まえた教員のコメントを見ると、まだまだ学生や教職員同士の対話が十分でないと感じる。そして、授業評価アンケートや懇談会など様々な意見表明の場は設けられているが、そこで述べられた(ないし、記述された)意見に対して回答することができていない。例えば、授業評価アンケートで出てきた学生からの意見に対して教員側がどのようにその意見に対して考え、対応したのかについて、学生にはあまり伝わっておらず、「アンケートに答えても意味がない」と考えてしまう学生は少なからず存在するであろう。一方、教員側も改善して欲しい点について学生だけではなく、大学に対する要望として意見表明がなされることがあるが、それに対する反応を受け取ることはあまりなく、教員側も「言われてばかりで自分たちの意見は汲み取ってもらえない」と無気力感に陥ってしまう可能性が高い。FDとして、様々な立場の人から教育・研究に関する意見を集約する機会が多いが、その意見を有益に活用するために、適切な対話の機会とフィードバックの強化が重要となるであろう。しかし、FD活動としてできることはまだまだあるとは言え、それらを闇雲に実施していたのでは、疲弊していくだけである。本学部のFD活動として優先すべき

事項は何かをしっかりと見定めた上で、必要であれば、既存の活動を修正することも含め、実行していくことで持続可能な **FD** 活動をすすめていきたい。

資料編 授業に関するアンケート集計結果に対する教員の回答

2018（H30）前期

- ① 氏名
- ② 科目名
- ③ 授業の改善点
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件等に関する改善点
- ⑤ 受講生への要望

- ①石井三智子
- ②相談援助演習Ⅴ
- ③今年度は、作成の事例ではなく、当事者の声や、記述（ナラティブ）を用いた当事者性に着目し、各学生の関心、興味にもとづいた発表を中心としました。元の形に戻した方が良さそうです。
- ④特にありません。
- ⑤就職活動期のピーク時にあたり、メンバーが固定、揃わぬこともあり、苦慮しました。（毎年ですが）

- ①伊藤美登里
- ②社会学基礎セミナー1、現代社会論セミナー1、社会学史、哲学と思想
- ③セミナー系科目に比べて講義系科目は学生の予習・復習や積極的参加の得点が低い。セミナー系は宿題を出しそれを次回発表させる、意見は毎回述べさせるなどの方法をとった点が高得点になった要因にあったと思われる。講義系は科目の性質上難しい点もあるが、予習・復習の方法を具体的に示すなどの工夫を行ってみたい。
- ④特にありません。
- ⑤特にありません。

- ①井上修一
- ②高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ
- ③概ね良い評価であった。「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」「教材資料提示は授業の役に立った」の得点が高かった。昨年からの改善が実を結んだ結果と思われた。さらに授業内容のレベルアップを図り、わかりやすい授業展開に努めたい。
- ④特になし。
- ⑤特になし。

- ①井上修一
- ②成年後見制度
- ③概ね良い評価であった。「授業は学習の目的がはっきり示された」「授業内容はよく理解できるものだった」の得点が高く、少しほっとしている。難解な内容が多い授業であるため、さらに授業内容のレベルアップを図りつつ、わかりやすい授業展開に努めたい。
- ④特になし。
- ⑤特になし。

- ①井上修一
- ②人間関係総論Ⅲ
- ③概ね良い評価であった。自由記述で、「さらに福祉学に興味がわいた」とのコメントがあった。1年生に対する常勤教員によるオムニバス科目であったが、概ね成功したと思われた。

④特になし。

⑤特になし。

①板倉香子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－B

③受講生一人ひとりに届く丁寧な案内と対応を心がけたいと思います。評価結果から、ある受講生にとっては充足されていても、別の受講生にとっては不足であったということが起きていたと感じます。昨年度の評価と比較して、今年度は主体的に「参加したい」受講生が多かったのではないかと、そしてそのニーズに応えきれなかったのではないかと感じました。来年度は、受講生の参加をどのように促していくかを課題とし、授業の組み立てを工夫して「参加した」と実感できる機会を増やしたいと思います。

④受講者数が多すぎるということはありませんが、教室（7114 教室）が縦長であり、とくに後方ブロック（後方入り口より後ろの数列で構成されるブロック）に目が行き届きにくい状況にあります。例年、後方ブロックに着席する受講生は、私語や内職が散見されます。今回の評価を受け、後方ブロックの使用をやめ、前方に着席してもらい、教室が一体となって受講する雰囲気づくりをする必要を感じました。しかし、スライドを使用する場合に前列の電灯を消すと前方数列が暗く、受講環境が悪くなるため、その点を悩んでいます。

⑤予習用のプリントは事前に読んできて欲しいと思います。また、授業内で行うワークも前向きに取り組んで欲しいと思います。

①今井信治

②現代における宗教

③自由記述にて「ピ抜けがひどい」とのご指摘がありました。察するに「授業前にカードリーダーで出席のみ確定させて講義を聞かない人を見受けられる」ことを指すのかと思います。改善策としては、授業前に退出しようとする学生への口頭注意、もしくは授業の半ばに抜き打ちで出席を採り、それを出欠システムと照合して不正をたずことなどが挙げられますでしょうか。検討いたします。

④設備などに要望はありません。今年の受講人数は少なく感じましたが、当該テーマに興味を持たずに受講することはお勧めできませんので、当方から多寡について述べることはございません。

⑤宗教学の基礎および現代的トピックを取り扱っておりますので、分からないことがあったら尋ねることはもちろん、ご自身の関心に照らした場合はどのように考えられるのかについて思考を巡らせていただければと思います。

①牛山美穂

②文化表象分析入門、ポピュラーカルチャーの世界、現代社会論セミナーⅠ、社会学基礎セミナーⅠ、社会調査及び実習Ⅰ

③講義の内容が多すぎてスピードが速くなってしまうことがあり、もっとじっくりゆっくり学

びたいという意見があったため、授業の内容をもう少し減らし、その分時間をかけて教えるようにしたい。また学生同士の意見交換の時間がほしいという要望もあったため、学生同士のディスカッションの時間をもっととるようにしたい。

- ④80～90 人の授業で、ワールドカフェ方式で、席を移動しながらディスカッションする授業を行えたらと考えているため、机や椅子が可動式の、大きい教室があれば使いやすいと思う。190 人の授業を担当したが（ポピュラーカルチャーの世界）、後ろの席の学生は寝ていたり私語をしていたりして授業にきちんと参加していないように感じた。100 人以内にすることができれば、授業の質が高まるように思う。
- ⑤大教室で 190 人の講義の際に、後ろの席の学生の私語がうるさいと何度も学生から苦情が出た。私語を謹んでほしい。また、授業内でマイクをもって学生の意見を聞きに回る時間があるのだが、恥ずかしがらずにがんばって発言してもらえるとうれしい。

①浦尾和江

②介護技術

- ③シラバスの授業内容を学生が見た時に、具体的な授業がイメージできるように明記する。入浴の介護は、浴室を使用し実技を行う授業であるが、グループ編成と教員の配置を見直す。レポート課題にコメントをつけ、フィードバックは、次の授業で行う。
- ④演習・実技科目のため、助教の方との授業の事前打ち合わせ、必要物品の準備・後片づけ等の時間調整が必要。
- ⑤実技の体験レポートの提出期日を守ること。

①大久保暢俊

②社会・臨床心理学研究法（木 1）

- ③アンケート結果より、予習復習等の課外学習に改善の余地があると愚考します。この改善のため、座学で得た知識との関連を問う課題を考えております。このような「授業内で完結させない」課題の設定は、同時に授業外での学習の機会と関連すると考えます。
- ④研究の全過程を実習してもらうため、ある一定期間、集中的に PC を使う必要があります。もし可能であれば、貸出ノート PC（プリンタも含む）の台数増加と、そのためのネットワーク環境の拡充を望みます。
- ⑤特にございません。

①大出春江

②社会調査講義 I

- ③専攻全員の必修の講義科目であるため、私語対策が近年の課題だった。2018 年度前期にはじめて席順指定方式を採用した。また学期末試験とは別に出していた課題を昨年より 1 つ減らした。これらはいずれも昨年の授業アンケートを踏まえた変更である。それにより、自由回答には良い点、悪い点のいずれにも何も記載されない結果となった。学生の要望に安易に応じたくはないが、課題が多いことへの不満は年々大きくなっている印象を受ける。

来年度は今年度の方法を踏襲する予定である。

④特になし

⑤特になし

①大出春江

②社会学基礎セミナーⅠ、社会調査及び演習Ⅰ

③セミナー系科目は 2 つとも学部平均を上回った。この点は例年通りの傾向である。受講する学生サイズが小さくなると授業への参加態度は積極的になり、併せて満足度も高くなる。社会学基礎セミナーⅠでは予習・復習の項目が学部平均を 1 ポイント上回る結果となり、授業中の質問や積極的参加について、社会調査及び演習Ⅰも含め両科目ともおよそ 1 ポイント上回っている。いずれのセミナークラスも学生の参加態度はとてもよかった。

④特になし

⑤特になし

①大出春江

②現代家族論

③大教室の講義科目としては、学部全体の平均とのずれは許容の範囲だという印象である。ただし、上記セミナー系科目と大きく異なるのは「16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加」という項目の回答が低い点である。この点はどのように改善できるかが課題である。自由回答には試験の方式とか板書の際に、その都度電気をつけてほしいといったことが書かれていた。正直なところ、授業の時に直接言って欲しいと思う。2018 年度後期はこの教訓を生かし、学生にも声をかけ、わたし自身もスライド提示の消灯、板書の点灯を可能な限り意識している。

④特になし

⑤授業中の（照明などの）改善については、その都度、声をあげ教員に伝えてください。

①大西典子

②介護の基本 D、リハビリテーション

③リハビリテーションの概要が抑えられるように授業を計画した。今回は、予習・復習の課題は特に設定しなかった。今後は、保険外の事業としての、利用者の可能性を見つけ社会に活かすというリハビリテーションの考えが重要になってきていることなど、社会の動きにも関心をもてる課題を提示していきたい。

④特になし

⑤それぞれが、積極的に学習に望んでいた。特になし。

①片山昭義

②スポーツ C

③アンケートで評価が低かった「予習、復習について」ですが、基本的に実技科目の為、必要

ない項目かと思います。今年の夏は特に猛暑の為、屋外での授業は熱中症などが出ないか細心の注意を払いました。特に体調を崩す者もおらず良かったと思います。

④授業会場の手配や準備は教務助手の吉田さんが大変丁寧に対応していただき、特に問題ありませんでした。

⑤貴学はスポーツが苦手な学生さんが多いようにお見受けします。その中でも熱心に受講してくれたことは、嬉しかったです。雨天の為に急な会場変更や、猛暑の中の実技など負担も多かったと思いますが、最終的には楽しく体験してくれたようで良かったです。

①片山昭義

②福祉レクリエーション論

③アンケートで評価が低かった「予習、復習について」ですが、特に宿題や課題は出していませんでした。試験についても試験範囲や問題の形式などを明確に伝えていたので、あまり負担なく受講してくれたものと思います。私としては、今後課題や予習・復習が必要な授業への変更は考えていませんが、大学からの要望として必要でしたら検討したいと考えております。授業の中で当てた対象として「高齢者と障害者」を挙げました。これは社会福祉サービスの中で大きな割合を占める対象であり、レクリエーションサービスもこれらの対象に対して行うことが多いからです。幅広い対象に対しての授業を望む声がありましたが、それらについては私が別に担当している「レクリエーション論」の中で触れていますので、そちらの受講も薦めたいです。

④授業会場の手配や準備は教務助手の吉田さんが大変丁寧に対応していただき、特に問題ありませんでした。教室については、演習時に机や椅子を動かせると良かったのですが、事前に承知していましたので、特にやりにくさはありませんでした。

⑤演習を行う際、学生同士でコミュニケーションを取るのが上手な学生がいる一方、苦手とする学生も一部に見受けられます。恥ずかしかったり苦手意識もあると思いますが、授業の一端と割り切って、積極的に参加してほしいと思います。

①片山昭義

②レクリエーション論

③アンケートで評価が低かった「予習、復習について」ですが、特に宿題や課題は出していませんでした。試験についても試験範囲や問題の形式などを明確に伝えていたので、あまり負担なく受講してくれたものと思います。私としては、今後課題や予習・復習が必要な授業への変更は考えていませんが、大学からの要望として必要でしたら検討したいと考えております。要望として挙がっていた「教室の室温」については、注意していましたし、学生に常に聞いていたつもりですが、不足していたようでした。今後も注意して授業に臨みたいと思います。

④授業会場の手配や準備は教務助手の吉田さんが大変丁寧に対応していただき、特に問題ありませんでした。教室については、演習時に机や椅子を動かせると良かったのですが、事前に承知していましたので、特にやりにくさはありませんでした。

⑤演習を行う際、学生同士でコミュニケーションを取るのが上手な学生がいる一方、苦手とする学生も一部に見受けられます。恥ずかしかったり苦手意識もあると思いますが、授業の一環と割り切って、積極的に参加してほしいと思います。今回履修してくれた学生は 87 名と多く、大教室で実施しましたが、熱心に受講する学生がいる一方、特に後ろに座っている学生は集中力が低かったように思います。私の授業の方法や注意を促すなど工夫が必要だとは思いますが、学生自身にも意欲を持って受講するよう期待します。

①加藤浩治

②コンピュータ基礎 A

③コンピュータ基礎 A の進行に関して、各々の学生が取り組んで成果を上げることのできる進め方が必要だと考えます。そのために、授業 15 回の目標を示したのち、時間ごとに取り組む課題の目標を明快に説明します。また、時間内に課題が終了しない学生の状況を確認しながら進めることにします。

④教室の設備・管理はよく行き届いています。

⑤質問の際は挙手をお願いします。

①門林道子

②老いと死の社会学

③全体的な評価は、人間関係学部全体平均とほぼ同じであった。昨年度までに学生から改善点として指摘があった、パワーポイントのスライドをよりわかりやすくするよう心がけたこと、できるだけ早口にならないよう、また学生が理解しているかどうかの確認をしながらスライドや授業を進めるようにした。「話し方は明瞭で聞き取りやすい」、また「教材資料は授業の役に立った」、「授業は教員の十分な授業の準備と熱意をもって行われた」、がとくに評価が高く、これをふまえて今後一層の努力を続けていきたいと考えている。授業の内容についても、「授業の目的がはっきり示された」、や「自分の将来にとって意味があると思う」、の評価が高く、「老い」や「生と死」に関する学生の関心の高まりを認識している。今後学生にとって、さらに関心があったり学ぶ意義を感じたりする授業を工夫していきたい。他の科目でも同じことがいえるが、毎回の復習など家庭学習がほとんど行われていない。授業中の質問をしない。ふだんからレポート課題を出したり、指定の本を読みこんでくるなり、家庭学習にも配慮しているつもりであるが、今後は自宅で考えてくる、まとめてくるといった課題を増やしていきたい。また、授業中に学生に問いかけるなどの機会をさらに増やしていきたい。

④とくに座席を指定したわけではないが、今年度は学生の私語もなく、授業に真摯に取り組む学生が多く、受講者数もちょうどよかったように考える。設備等については十分である。教材が使いやすく感謝している。

⑤さまざまな面で「老い」や「死」への学生の関心も高くなっているようなので、ふだんからメディアの報道等にも関心を持ち、益々積極的主体的に授業に臨むことを期待している。

①藏野ともみ

②精神保健福祉論Ⅱ、精神保健福祉援助実習事前指導、精神保健福祉援助実習指導、精神保健福祉援助演習（基礎）

③演習、実習科目だけでなく、講義科目についても、学生が学内では個別やグループでディスカッションをして、自らの主張を根拠を示しながらプレゼンする内容です。さらに学外の実習機関等と交渉をしなければならない内容となっています。授業時間内だけでなく、個別指導や個々人に即した課題の提示等が必要となり、学生自身も主体的に学ばなければならず、それが直接自分に返ってくることになります。また、教員も一人一人の進捗状況に併せた判断や配慮が必要になります。今回のアンケート結果を参考に、個別指導をより一層意識をした取組みと、学生が主体的に学ぶ環境をどの様に作るのかを考えたいと思います。

④特にありません。

⑤暗記するだけの学びではない分、各自が「考え」「調べ」「伝える」作業をした上で、ディスカッションを通じて他者の意見を聴くことで、より「疑問が増えたり」、「他の可能性」を知ることになります。答えが1つではないことを考えて欲しいと思います。

①佐藤富士子

②認知症の理解

③カテゴリー別平均点は人間関係学部全体平均とほぼ同線であったが、カテゴリーの詳細項目は1・5・17・18以外は学部平均より下を示していた。必修科目の学生（介護福祉学専攻学生）と興味があり受講した学生（社会学専攻の学生1名とPSWの資格取得を目指す学生）は大変集中した態度で受けているが、専門科目の選択科目で単位を取得で履修した学生は学年に関係なく、欠席日数も多く2極化していた。授業内容は回数ごとに単発ではなく、知識を積み重ねて理解する科目なので、難しかったのかもしれませんが、改善点はまだ見つからない。

④特になし

⑤認知症は高齢者だけではなく若年者にも発症し、地域におけるサポートも求められています。知識を積み重ねる授業展開なので、履修者はできるだけ出席して欲しい。

①佐藤富士子

②介護総合演習Ⅲ

③全ての項目が平均より高い数値を示していた。改正カリキュラムになり初めて担当した科目であったが、複数にテーマを提供し興味あるものを選択する方法をとったこと、文献検索を徹底したこと、参考文献の活用方法を指示したこと、中間面接を取り入れたこと、抄録を書きPPでプレゼンをしたことが学生の学習意欲と波長が会ったのではないと思う。

④特になし

⑤特に無し

①澤田唯人

②身体とファッションの社会学

③初めての担当科目で、初めての女子大学ということもあり、緊張と不安でいっぱいでしたが、アンケート結果をみる限りですが学部平均に学生のみなさんからの評価が達していたこともあり、少しほっとしています。この授業では毎回リアクションペーパーを配り、質問や感想を書いてもらい、その中から良いもの——授業内容の理解を深めるもの——を翌週のレジュメに掲載し、授業開始 15 分くらいを使って一緒に考えてもらうという時間を設けました。ただ、10 回目あたりから、授業の進度を考えると、その時間がとれなくなってしまったのが反省点です。レジュメを通じての教員とのコミュニケーションを楽しみにしている学生さんもいたようでしたので、今後は最終授業まで交流を継続できるようにペース配分をしていきたいと思います。また、予習・復習については教員が無自覚だったので、何か簡単な「問い」を投げかけて、次回までに 100~150 字くらいで自分なりに「仮説」を考えてきてもらい、何人かに発表してもらうなどの機会を設けたいと思います。そして、学生のみなさんが自分の経験にひきつけて考えられる具体的な事例を多く扱い、社会学の知識や理論も踏まえ、でもそこに残る「謎」をみつけられる（いい意味で）終わりのない授業をつくっていかれたと思います。

④大妻女子大学での担当初年度ということもあり、「manaba」などをうまく利用できないまま講義期間を終えてしまった。他の先生の効果的な利用法などを学び、私も活用したい。

⑤受講生のみなさん、半期でしたが、一生懸命に授業をうけてくださり、ありがとうございます。毎回のリアクションペーパーだけでなく、素晴らしいレポートを書ってくれた学生さんも多くいて、私の一生の宝物です。皆さんへの要望があるとすれば（これは私自身に向けた要望でもあるのですが）、自分の言葉に何かをたくすことを恐れないこと、です。学問をするということは、過去の研究者が考えたことを学び、利用して、自分も考えるということから出発しますが、一方で「あなた」にしか語れないこともあると思います。学問的に言われていることと、「あなた」にしか語れないこと（それはどんなにささやかなことでもいいです）、この二つのあいだの緊張を生きること、大学での学びは深まっていきます。どちらもおろそかにしないでください。それは他者と自分を尊重して生きる練習だからです。

①嶋貫真人

②社会保障 I

③全体の平均値を下回ったのは、質問 15（予習・復習のために時間をかけたか）の 1 項目のみであり、おおむね好評であったと思われる。受講者の予習を促すために、次週の内容を予告する必要があると思われる。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①嶋貫真人

②低所得者に対する支援と生活保護制度

③ほとんどの質問項目の評価で全体の平均値を下回っており、猛省を要する結果となった。例年になく低い評価に終わった原因としては、①終盤になって授業の遅れを取り戻すために進行の速度を上げてしまったこと、②上記①とも関連して、授業中に学生が自分の頭で考える時間を十分に与えられなかったこと、等が考えられる。次年度以降は、余裕をもった進行計画で臨みたいと思う。

④特になし

⑤とにかく私語は慎んでもらいたい。

①嶋貫真人

②社会福祉現場実習事前指導

③学生の出席状況は比較的良好で、主体的・積極的に取り組んでくれたと思う。全体の平均値を下回ったのは、質問 15（予習・復習のために時間をかけたか）の 1 項目のみであり、おおむね好評であったと思われる。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①嶋貫真人

②福祉行財政と福祉計画 A

③全体の平均値を下回ったのは、質問 15～18 の 4 項目であり、とりわけ予習・復習を促す必要性が痛感された。学期の途中で理解度の自己チェックのための小テストの導入なども検討する必要があるかもしれない。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①鈴木孝子

②文学の世界（全学共通科目）

③この度、自分自身を省みる貴重な機会を頂き、本当にありがとうございました。久しぶりに少人数のクラスを担当し、学生からの問いかけ、要望に対する細やかなフィードバック、コミュニケーションの工夫が必要だったと痛感しております。改めて思うに、今年は上級生にとって変化の多い学期だったと思います。今後とも受講者のニーズに応えられるよう、授業内容の工夫を重ねる所存であります。及ばずながら、教員として万全のフォローが出来るよう、努力を重ねて参りたいと思います。

④施設等で特に申し上げる事はございません。受講者の人数が 100 人を最大として頂けたら幸いです。一つ提案がございます。在校生が出身高校や近隣の高校を訪問し、人間関係学部での学び、やりがい、学生生活、入学して良かった点を話す機会を設けられたらどうでしょうか。在校生からのアドバイスは、受験生にとって何よりの励ましになると思います。既に実施されているならば、これ以上申し上げる事はございません。今後何かありましたら改めて報告を致します。

⑤今年度も、モチベーションと目的意識の高い学生を担当出来て本当に感謝です。今後、福祉介護の現場は一層グローバル化と多様化が進み、職場の同僚、ケアを受ける高齢者の家族が外国籍というケースが増えると思います。どうか、「世界の中の日本」という視点で物事を考える訓練を重ねて下さい。そして現場で「かけがえのない」不可欠な人材になって下さい。及ばずながら、私もみんなの学びのサポートをして参りたいと思います。

①高橋努

②相談援助演習 5

③学生が自ら学習し、知識や技術をわかりやすく学べるよう、工夫を凝らしていく。

④特にありません

⑤特にありません

①高橋努

②相談援助演習 3

③グループワークを円滑に進められるよう、サポートをしていく

④特にありません

⑤特にありません

①田中究

②家族心理学

③学生の私語についてはより厳格に対応する。

④なし。

⑤授業への意欲的な参加を希望する

①田中康雄

②A：「社会福祉概論Ⅰ」、B：「社会福祉学概論Ⅱ」

③Aについて：福祉専攻の学生ということもあり、福祉について関心度が高い印象を受けた。

授業対象は、1年生ということもあり、全体を通して、もっと福祉を学びたいという知的好奇心を喚起するよう取り組んできたが、結果的もっと突っ込んだ福祉学に関する内容を提供する必要があった。今後は、受講者の関心度に合わせて対応していきたい。Bについて：福祉系の学科でない受講生に、どうすれば理解が進むか、どうすれば関心が高まるかなどについて、授業に取り組んできたが、回によっては関心度を高められず、退屈な受講態度の状況も散見された。今後は、受講者の状況をその都度、確認しながら取り上げる事例等に変化をつけられるよう授業に取り組んでいきたい。

④特にありません。

⑤（要望はございません）

①玉井和博

②職業とコミュニティ特論・Ⅰ※観光系専門授業も 2 年目に入ったが、本講座は 3 年生対象で、昨年 2 年時に私のキャリアデザイン・Ⅱを履修していれば本講座の基礎になる部分は理解できていると思うが、本講座が観光産業に対し初めてとなると、専門用語等苦勞したと思われる。(なるべく概要等の説明をし理解できるよう努めた。)

③④⑤【改善した方が良いと思う点】

1. 改善要望を改善しようとししない点を、改善すべき！→できる限り対応したが、出来ることと出来ないことがあり、出来ないことはその都度説明したが、納得されなかった点があった事は、遺憾と感ずる。(授業時間がギリギリまでとなった事は反省？。)
2. レジュメに説明が欲しかった！→スクリーンのパワポ資料を配布し、回次によってはメモ欄付とし、講義内容の要点を自身で書き込める様に対応した。資料に全てを書き込むことは、授業方針ではない。
3. 声がききとりづらい。マイクを使ったらどうか！→時に声が擦れ聴き難い事もあったと思う点は反省。教室の大きさからはマイクの必要性はないと判断。なるべく前に座る様、指示したが・・・。
4. 左側のモニターのみでは席によっては見えづらいため、プロジェクターを使うなどした方が良いかもしれない！→この点も左側に座った生徒に見難い場合は席を異動するよう、確認しながら授業を進めた。当該教室でプロジェクター使用が可能か確認する必要があったとすれば反省する。

①玉井和博

②キャリアデザイン・Ⅱ※授業ステップに関しては、「職業とコミュニティ特論・Ⅰ」と同様の問題を抱えた。特にキャリアデザインは全学統一シラバスで紹介されているが、私の講座は、上記シラバスとなり、最初のオリエンテーションで説明はしたが、履修生の中には、不磨を持った学生もいたことと思う。全く興味を示さない学生の対応には、真剣に受講する学生の邪魔にならないようにと、注意しながら進めたが・・・対応に苦慮した。

③④⑤【改善した方が良いと思う点】

1. 早口なところ、声が聞き取れない、レジュメが分かりにくい、分量が多く授業時間内に終わらない、理解している前提で話をすすめる！3. 時間配分を考えた方が良いと思う！& ③その他の意見や要望など・・・の 1. と併せ。→早口、声が・・・は反省。レジュメ、分量の件は、他にその様な意見が多ければ反省するが、学ぶ姿勢の問題もあろう。授業時間&配分は反省。(ただ回数は 1. 2 回、時間 1~2 分程度) 理解云々は、前述のとおり。
2. 学生からの要望を無視・・・ゲスト講師の件では、学生達を馬鹿にした様な紹介や発言で思いやりにほど遠い言葉、大変不愉快、自分の発言に責任を持ってほしい！→中々厳しいご指摘……。学生からの要望は先に書いたとおり、反省もする。が、ゲスト講師の件は、当該授業での受講態度が余りに？である学生が(居眠り、私語等)少数ではあるがいたので、ゲスト講師をお呼びする意味や、その際の注意事項を社会常識を含め注意した。その仕方をこの様にとらえられたなら、反省せねばと思う。ただ少数の学生の態度であっても、私の授

業時はともかく、ゲストの場合はそれが大学全体のイメージになってしまう事もあるので、その点はしっかり注意したつもりである。退出させることは簡単だが、少しでも多くの学生に企業トップの話を聞いてもらい、観光産業に興味を持ってもらうことが、特任教授の意味と思っているが・・・。

【その他の意見や要望など】

*当欄 1. に関しては上記にて回答。2. レジュメのパワーポイントの隣のメモ欄（1P－3PPW 印刷の場合）があるがすぐページをめくらなくてはいけなくなるので、少し大きいと感じた。このサイズであれば、メモ欄は余白で十分だと思う。→この指摘も、回次ごとに印刷スタイルを変更して対応したが、メモ欄があった方が良いという意見も多くあり、参考意見として拝聴するにとどめる。

3. キャリアの授業だから仕方ないが、時々ホテルの紹介をしてくれたら気分転換になるかもしれない。→確かにキャリアデザインという事で、企業や経済の話を中心した。観光のDVDを流したりしたが、中途半端になってしまったかもしれない。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－A

③相談援助の基本となる科目なのでしっかり授業をしたいと思います。命を支えることの難しさを伝えることも多く、学生にとっては、支援の厳しさを感じてしまう方もいるようです。前回よりも評価点が下がりました。社会福祉士の受験資格を望まない学生に対しても興味を持ってもらえる授業を工夫したいと思います。

④特になし

⑤この授業は、社会福祉援助者としての基本的な視座を学ぶ授業です。今までの思考とは別の考え方も学ぶため、理解に時間がかかる授業でもあります。復習に時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助演習Ⅲ

③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。「授業への取り組み」「授業への積極的参加」の評価が高く、学生が熱心に取り組む様子がわかります。

④特になし

⑤相談援助演習は、学生が前向きな思いで参加することで、技術が身につく授業となりますので、積極的な参加を望みます。

①丹野真紀子

②相談援助実習事前指導

③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。特に「予習復習」の評価がかなり高く、学生が熱心に取り組む様子がわかりました。

④特になし

⑤この授業は、実習に行く前の準備を行う時間です。ここでの学びは、実習で活きますので、しっかり自分の学びたいことを考えていきましょう。

①丹野真紀子

②社会福祉学基礎セミナーⅠ

③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。特に、授業中の積極的参加の項目は学部平均より高く、学生の意識の高さがうかがえます。

④特になし

⑤特になし

①丹野真紀子

②保健医療サービス

③制度改正も落ち着き、丁寧な授業を意識した結果、学部平均よりもほとんどの科目が上の評価となりました。制度改正があり、新版の教科書を使用しましたが、旧版よりページ数も30ページほど増え、かなり詰め込んだ内容となりました。視覚教材を昨年より多く利用したことも理解のしやすさにつながったと考えます。これは今後も続けたいと思います。

④特になし

⑤特になし

①土野瑞穂

②ジェンダーと社会生活、女性史

③「ジェンダーと社会生活」においては、「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」の平均値が低かったため、今後は授業の難易度について授業中に確認したり、リアクションペーパーにも率直な意見を求めるようにしていきたい。また両科目とも「この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った」の平均値が他の項目よりも低かった。学生たちの知的好奇心を喚起すべく、なるべく身近なテーマを選び、また現在や今後の生活に生かせるような内容にしていきたいと思う。

④特にございません。

⑤私語は他の学生の学ぶ権利を侵害するということをよく認識してもらいたい。

①寺島拓幸

②文化とメディア特論Ⅱ

③昨年度に引き続き、視覚教材やアクティブラーニングを取り入れたことは概ね好評だったようだ。ただしグループワークのメンバーがつねに一定になってしまったため、もっと様々な受講生と議論したいという自由記述もあった。来年度はその点を工夫したい。

④改善点は特になし。

⑤設問 14（出席）がやや低評価だったので、より積極的に出席してほしい。

①中田香織

②カウンセリング A（傾聴技法）

③本授業では、ロールプレイ等の演習課題の時間を多くとりました。ロールプレイを円滑に進めるためにアイスブレイキングなどのワークを取り入れ、雰囲気が良くなるようにと努めました。もう少し工夫が必要に感じました。

④特にございせん

⑤リアクションペーパーでは、大事な質問を書いてくれるのですが質疑応答の時間をとって、発言が難しいようです。質問によって、内容の理解が深まるので遠慮せずに発言をして欲しいと感じました。

①奈良環

②在宅介護論

③予習・復習やレポート課題について課題があると思う。今回はなるべく自主的な学びをとアクティブラーニングを心がけ、課題を出したつもりであったが、身近なテーマのため、調べずに書いてしまう物が多くなってしまった。負担感でやる気をなくさない程度の分量での課題など、工夫して行きたい。

④受講人数が多くないが、かなりの大教室を使っている。受講人数が確定した段階でグループワーク等もできる教室変更なども検討して行きたい。

⑤社会人間近の 4 年生もいる。一般的な受講マナーを守れるようにして頂きたい。

①西谷内博美

②環境社会学

③授業内のワークについて、設定目標が伝わっていない場合があるようなので、達成目標とその道筋をより丁寧に提示していくよう見直しをします。なお、発言等の参加点の評価について、正誤ではなく、積極性・参加姿勢に重きを置いています。その方針を共有できていないように思います。期待値の齟齬を避けるべく、初回授業において授業方針の共有に注力いたします。

④特になし

⑤アクティブラーニング形式の授業です。積極的な授業参加が要求されます。

①西河正行

②ループワーク A

③manaba での振り返りを毎回課題としているが、回答にばらつきがある。

毎回きちんと振り返らせるために、その回に行ったことを解説して考えさせるようにしている。

しかし、それだけでは不十分なので、テキスト一つ決めてそれを読ませて考えさせることを

試みようと思う。

④特になし

⑤出席、課題提出、授業態度を総合して成績評価を行っている。選択科目なので、総合的評価で不足があれば不合格になる。

manaba での課題には毎回きちんと回答してほしい。

①西河正行

②グループワーク B

③manaba での振り返りを毎回課題としているが、回答にばらつきがある。毎回きちんと振り返らせるために、その回に行ったことを解説して考えさせるようにしている。来年度からは演習の意義を理解させるために、その解説をもう少し詳しく行おうと考えている。

④特になし

⑤出席、課題提出、授業態度を総合して成績評価を行っている。選択科目なので、総合的評価で不足があれば不合格になる。manaba での課題には毎回きちんと回答してほしい。

①福島哲夫

②社会・臨床心理学研究法

③昨年度、全項目にわたって非常に高得点だったためか、少し安心してしまい、Q7「教員の熱意」、Q9「体系的で把握しやすい」、Q11「内容がよく理解できる」の 3 項目が学部平均を下回ってしまった。グループ研究の実習科目であるためこれらの 3 項目は仕方ないところでもあり、さらには、このアンケートを実施した後の発表会では最優秀賞の評価も得たので、これだけをうのみにすることはできないが、慢心しないように気を付けたい。

④とくになし

⑤とくになし

①古田雅明

②社会・臨床心理学研究法

③概ね評価は良好でしたが、出席率や学生の予習復習への取り組みの程度が 2 極化していました。学習意欲が高いとは言えない学生をいかにやる気にさせるかはとても難しく、まだ改善点が見出せません。

④ゼミ単位の必修科目であり、5 人程度のグループ学習がメインであるためゼミ生の人数による影響が大きいと考えています。今年は 10 名だったので 5 名×2 グループで適正規模でした。ちなみに昨年までは 14 名だったので指導が行き届かない面がありました。ゼミの人数を調整するなど、専攻内での取り組みが必要と思います。

⑤プレ卒論研究に相当する授業ですので、失敗したり試行錯誤しながら学ぶことで、卒論に活かしてください。

①干川剛史

②社会学概論Ⅰ（火1）・（木1）、社会調査及び演習Ⅰ、社会学基礎セミナーⅠ

③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅰ（火1）（96人）／社会学概論Ⅰ（木1）（146人））については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低い、特に、「16.授業中に質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」の項目の平均点が低いのは、多人数に講義形式の授業であるため授業中に質疑応答を行うのは時間的・物理的に困難である。それを補うために、毎回リアクションペーパーと manaba を使って受講者全員に授業内容の要点と見解を記載させ提出してもらい、それを授業終了後すぐに読んで、回答すべき見解については、次の授業の冒頭で回答している。また、自由回答を読むと、マイクを通した話し声が聞きづらいなど、改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、学生の扱いが公平である、授業に関連した新聞記事のコピーがほぼ毎回配付され、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。他方で、マイクの使い方を工夫するなど話し方に改善が必要であり、また、授業内容のプリントを見やすくするなど、多くの学生に満足のいくような講義にする工夫が必要である。なお、社会調査及び演習Ⅰ（23人）と社会学基礎セミナーⅠ（17人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。

④講義形式の授業は、96人と146人と多人数であり、マイクを通さないと声が届かないため、また、聞き取りにくいというクレームもあるので、もう少し高性能のピンマイクに変えてほしい。

⑤講義科目もセミナー科目も、教科書を読んで予習してほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①本田周二

②社会・臨床心理学研究法

③昨年度の結果と比較して、全体の平均値は少し下がってしまったのが、改善点だと思います。一方、昨年度2点台と低かった、予習・復習の部分が、4点まで上昇したことは安心しました。また、出席も3点台から4点台に上がりましたので、これを今後も維持していきたいと思います。

④特にありません。

⑤グループの中で自分がどんな役割で貢献できるかを、常に意識しながら授業でのグループ活動に望んでください。

①本田周二

②キャリア心理学セミナー

③昨年度の結果と比較して、全体の平均値が上がったことに、安心しました。昨年度よりも人

数が少なかったため、よりきめ細やかなサポートができたからかもしれません。また、昨年度 2 点台と低かった、予習・復習の部分が、4 点まで上昇したことは安心しました。これを今後も維持していきたいと思います。

④特にありません。

⑤特にありません。

①牧野智和

②日常生活論

③安保闘争や今日の政治的保守化など、硬いテーマも扱ったが総合的な満足度がかつてなく高く、このような内容を扱っても学生の関心は得られることが分かりました。ただ、一部にはテーマの難解さを否定的にみる学生もあり、教材の工夫等によって対応していければと思います。

④音楽を資料として用いる場合があるが、音割れが起きることがあるので、この授業に関しては音響設備が整った教室を用いたいです。

⑤特にありません。

①松山博光

②相談援助実習事後指導、地域福祉の理論と方法Ⅰ、社会福祉学基礎セミナーⅠ、家族福祉論

③全体的に「Ⅰ．授業の進め方やⅡ．授業内容」については、評価が高いものの、「Ⅲ．授業への取り組みと成果」は低く、予習・復習や課題レポートの項目が目立つ。これまで以上に学生自身が学びを通して「知る」から「出来る」講義を試してみたい。

④特記事項無し。

⑤講義・演習・実習に出席をすれば、科目（単位）が修得できるような学習態度では成果は得られません。予習・復習（講義ノート）、課題レポートを通じて自己学習してください。

①馬淵聖二

②心理検査学

③心理検査に関する資料（解釈法など）を文字情報にして配布する。特にロールシャッハテスト。バウムテストについては解釈により時間を多く用意する。提出物は必ずコピーを提出するよう周知する。授業中に発言できる機会を増やす。例えばグループワークを増やすなど。

④特になし

⑤特になし

①馬淵聖二

②心理学特別セミナーA

③受講生の取り組みが不十分だった時に、それが分かるように講師がフィードバックを適宜行うようにする。英語の文献にあたるモチベーションを与えたい。本人の個人的な興味について、英語で調べる方法を教えるなど工夫をしたい。

④特になし

⑤翻訳された資料、翻訳ソフト、翻訳サービスを使わずに、自力で和訳作業に取り組んでほしい。

①森功次

②美術の世界、哲学と思想

③他の大学でやってきた授業とそんなに内容もやり方は変えていないし、むしろ今年は説明を丁寧にやったつもりだったのだが、思ったより点数が低かったので正直なところやや驚いている。「理解」についての点数が低いので、学生たちには若干難しかったのかもしれない。もうすこし内容を限定すべきなのかもしれないが、これ以上内容を減らすとかなり密度の薄い授業になってしまいそうなので迷っている。とりわけ「哲学と思想」の授業では自由記入欄でのコメントで好意的なものが多く、どちらの授業でも改善点の指摘はなかったので、改善の方向性が難しい。好意的に受け止めてくれた学生たちにはいい刺激を与えることができていたようなので、下手に改悪してその刺激をなくさないようにはしたい。読書課題などをもう少し出してもいいかもしれない。

④クロスの集計を出してくれるのはありがたいのだが、出席状況とのクロスをどうあつかっているのか正直わからない。それよりは、理解度と総合印象のクロスを出してほしい。来年度はもっと簡単にすべきなのか、内容を増やすべきなのか、その方向性を決めるのに役立つと思う。最後に、この項目に書くべきことはわからないが一応書いておく。今回レポートで「参考文献リストにコピペ元の **web 記事 url** を挙げ、そこから長文の（多いときは数段落）コピペをする」というやり方でレポートを書いてくる学生が一定数いた。はじめは「1年生でレポートの書き方がまだわかっていないのかな」とも思ったが、そういうレポートを書いてきた学生たちの学年は全員すでに2年時で、問いただすと何人かの学生は「これまでもそのやり方で単位をとってきたし、何がダメなのかもよくわからない」という。この回答には正直驚いてしまった（ちなみにこのスタイルでレポートを書いてきた学生のほとんどは社会学専攻の学生だった）。大学全体のカリキュラムにもかかわることだが、初年次教育のやり方をすこし検討してもいいかもしれない。

⑤特になし。ただ、全体的に専門外のことについての知識・教養がやはり少なそうに見受けられたので、もうすこしふだんの読書量を増やしてほしいなと思う。ただ学習意欲が旺盛な学生はそれなりにいる（授業への反応もレポートの質も良い）。そうした学生には、ぜひその意欲を維持してほしいと思う。

①森山拓也

②精神科リハビリテーション学Ⅰ、精神保健福祉論Ⅲ

③両科目とも質問 15「この授業のために毎回予習復習併せてどの程度自習しましたか」質問 16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」についての平均点が低かった。毎回の授業の中で次回内容の予告や課題の提示し、その課題について授業内で学生とのやり取りを増やしたなど、学生参加型の授業になるよう工夫を検討していきたい。

④特になしです。

⑤特になしです。

①八城薫

②基礎統計学Ⅰ、キャリア心理学セミナー

③どちらの科目も「予習・復習にかけた時間」の点数が低かったですが、毎回何らかの持ち帰り課題があったはずなので、意識的には予習・復習という自覚がないのかもしれませんが。予習と復習という位置づけをきちんと明示し、自覚してもらえるようにしたいと思います。キャリア心理学セミナーは「積極的な参加」といった自主的な取り組みに対する評価が高かったのですが、基礎統計学Ⅰではその低さが目立つ結果でしたので、自主性を促すような発展課題などを用意することを検討したいと思います。キャリア心理学セミナーでは、学生から「後期開講」を望む声がありましたので検討したいと思います。

④基礎統計学Ⅰは、PC 操作の経験と数学への苦手意識でプレイスメントを行い、少人数制クラスにしているので、理解度に合わせた授業が実施出来ていると思います。引き続き一人 1 台の PC 環境の整った教室で授業が出来ることを望みます。

⑤自分なりの予習・復習スタイルを構築することで、さらに意欲的になり、力も付くと思います。

①山蔦圭輔

②臨床心理学概論

③評価結果を見ると、予習復習にかける時間について不足と 自己評価している学生が多く、予習復習を促進するような工夫が必要かも知れないと思いました。

④100 名程度の履修者であるため少なからず真剣みに欠ける学生が存在していました。クラスサイズの大きい授業の特徴かと思います。一方で、大規模であるが故のライブ感も、概論という授業でこそ重要であるとも思います。

⑤モチベーションを高めることも教員の重要な任務ですが、それでもモチベーションを持つことができない場合、私語などで授業の妨げになることは謹んでいただきたい。脱帽の徹底は促したものの改善しなかったのが残念でした。

①山本真知子

②相談援助実習指導Ⅰ

③学生にリアクションペーパーなどで要望を聞きながら、わからない点などをフォローできるように授業を展開した。その結果、昨年同様理解度に関して配慮できたと感じる。細かい指示をする部分と学生に考えて行動してもらう部分と考えながら次年度も授業を展開していきたい。

④特にありません。

⑤テストの範囲の中で学習することに慣れる授業でもあると思うので、国家試験を意識しながら受講してほしい。

①山本真知子

②相談援助実習事後指導

③演習形式の科目だったので、個別の学生に応じた授業を展開していきたい。受講生の理解度に関きがある授業だったと考えられるので、どの学生にもわかりやすく効果的な授業を展開していきたい。同時に、予習・復習の点数が学生によって差があり、同じ課題を出しているのにもかかわらず、差があることは学習の理解度とも関連しているように感じる。予習・復習の意味を再度確認していきたい。

④特になし

⑤演習形式の授業のため、自らの授業への取り組み方で理解度も変わると思う。そのため、実習後の指導も予習・復習を踏まえてしっかりと受講してほしい。

①山本真知子

②相談援助実習事前指導

③ロールプレイや事例検討など実習に行った際につながる授業展開を心がけたため、理解度や内容に関してはうまく展開できたと感じる。しかし、予習・復習に関してはもう少し具体的に指示をして課題など組み合わせていきたいと感じる。また、春実習の学生に対してのフォローもしっかり行っていきたい。

④特になし

⑤演習形式の授業のため、自らの授業への取り組み方で理解度も変わると思う。そのため、実習後の指導も予習・復習を踏まえてしっかりと受講してほしい。

①山本真知子

②社会福祉基礎セミナーⅠ

③演習形式の科目だったので、個別の学生に応じた授業を展開していきたい。特に初年度教育であるので、丁寧に学生に対応していきたい。また、学生によって発言や予習復習に差があるため、その点の改善を検討していきたい。

④前に使用している授業で机やイスが移動したままであると前回指摘させていただき、その後、掲示をしていただいた。掲示後は改善していたので、来年度も同じようにイスや机の移動に関して掲示や連絡等していただければと思います。

⑤特になし

①吉方りえ

②人体の構造と機能及び疾病Ⅰ

③シラバスと授業内容がかみ合わない点が多かったため、シラバスの変更を検討したい。

④受講者数が10名以下の場合は、今回のようにゼミ室への変更をご検討いただきたい。

⑤特になし

資料編 授業に関するアンケート集計結果に対する教員の回答

2018（H30）後期

- ① 氏名
- ② 科目名
- ③ 授業の改善点
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件等に関する改善点
- ⑤ 受講生への要望

①足立英彦

②心理学特別セミナーB

③「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」というアンケート項目の平均評定値が 4.42 であり、授業の進め方に関する項目の中で最も低くなっていました。今年度は毎回の提出物に質問記入欄を設けるなどの措置をとり、質問や意見を引き出し、分からないことについて相談できるよう工夫しましたが、リアクションペーパーの提出を毎回求めるなどの措置をとることでさらに改善することができるのではないかと考えられます。

④まだ暑い時期に暖房しか使えなかったり、逆に暖房が使えず寒いと感じたりする日がありました。受講生数が少ないので小さめの教室になることはやむを得ないと思いますが、授業の内容が英文の文構造を解説するものであり、長い英文になると黒板が小さいと感じることがありました。配布物など活用することで補うようにしましたが、ご検討いただければと思います。

⑤分からないことについては遠慮せず講師に質問するなど積極的な姿勢で取り組むことで、得られるものが増えると思います。

①池見正剛

②環境の社会心理学

③授業内ディスカッションを活発にしたい。消極的な学生が多いので毎年苦勞しているが、今年は manaba の掲示板機能を利用し多くの意見を引き出した。来年はより説明時間を減らし、引き出された意見について相互に討論できる工夫を考えていきたい。そのような積極的な授業参加を通して、一見役に立たない教養に対する肯定的な態度を涵養したい。

④特にございません。

⑤遅刻をしないようお願いします。

①伊藤美登里

②社会学概論 2、恋愛と結婚の社会学、社会学セミナー2、現代社会論セミナー2

③講義系の科目で、板書が分かりにくく、(要点を記した)プリント配布を希望する意見があった。居眠り防止のために板書している面もあるのだが、最近は板書を筆記せずにスマホで撮影する学生もあり、プリント配布(＋穴埋め)に改善した方がよいかもしれない。検討してみたい。セミナー系の授業は毎回必ず全員意見を述べてもらっているので「15」の得点は高い。講義系でも(全員は無理だがグループの話し合いののち意見を述べるなどの形で)取り入れてみたい。セミナー系授業で、ネット情報をそのまま個人の意見として述べている学生がいるが、そのチェックはしているのかという指摘があった。対策は難しいが、ほかの先生方とも相談しながら対策を考えたい。

④教材提示装置の使用と板書との相互使用で、照明を消したりつけたりという行為に対して学生から苦情がでた。明かりをつけたまま教材提示装置が見えるような設備に変更が可能であればお願いしたい。

⑤特になし

①井上修一

②社会福祉学概論Ⅱ

③概ね良い評価であった。「教材は授業の理解に役立った」の得点が高かった。さらに教材、内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①井上修一

②社会福祉学セミナーⅡ

③概ね良い評価であった。「教員の学生に対する接し方は公平だった」「教員の話し方が明瞭で聞き取りやすかった」の得点が高かった。留学生に配慮した進捗が評価されたと思われる。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①上野奈初美

②スポーツ A、スポーツ B、レクリエーション実技

③いずれもスポーツ関連の科目であるが、受講者数が大幅に異なるため、実施に際しては（特に人数が少ない科目）、学生の要望も取り入れ、学生が意欲を持てるような授業を心がけた。その結果、満足度は高いと思われる。一方、教材や資料の提示が少ないとの評価が見られることから、ICT の活用等を通して事前・事後学習の促しを行っていききたい。

④なし

⑤なし

①牛山美穂

②医療社会学、現代社会論セミナーⅡ、社会学基礎セミナーⅡ、社会調査及び実習Ⅱ

③1年生向けの社会学基礎セミナーにおいて、こちらで用意した教科書の内容が難しすぎるという意見を授業中にもらった。アンケートの結果でも、授業内容の理解に関する項目の点が低く、学生のレベルを適切に把握できていなかった点について、次年度から改善していきたい。また、講義科目において、話をするときに少し間をあけてほしいという意見があった。内容が多すぎると考えられるため、内容を少し減らして、学生が十分に理解できるように努めていきたい。

④特になし

⑤授業の中で、こちらから話をするだけでなく、学生の側からも積極的にディスカッションやコメントをしてもらえることを期待している。

①大西典子

②生活支援技術 E

- ③単元が「死にゆく人へのケア（看取り）」という、非常にデリケートな内容を取り扱っていること。現代社会の医療や福祉に係る課題を多く含むものであり、多様性が求められること。以上から、事例を用意しできるだけ「死」を第三者的に考えさせるようにした。特に、情緒的な反応に終わる危険があるため、自分や家族にあまり深く触れないようにした。しかし、後半で現代の死の現状に関する自由なテーマで模擬授業を行わせると、死を身近な問題とした課題を提供したり、実習で「看取り」を体験している学生もいた。むしろ、学生自身で「死」についてきちんと考える大切さに気付けたため、学生主導の学習を増やしたいと思っている。
- ④授業内容によって、講義室と介護実習室とを使い分けられたのでよかった。また、エンゼルケアの内容も進んできており、特に介護福祉士が知っておいてほしいエンゼルメイクなどについても、不足している教材をすぐに準備していただけた点は良かった。
- ⑤素直な意見を言える雰囲気が、受講生全体にあったのが良かった。

①片山昭義

②福祉レクリエーション援助論

- ③アンケートで評価が低かった「予習、復習について」ですが、特に宿題や自宅での課題は出していませんでした。試験についても試験範囲や問題の形式などを明確に伝えていたので、特に負担なく受講してくれたものと思います。私としては、今後授業外での課題や予習・復習が必要な授業への変更は考えていませんが、大学からの要望として必要でしたら検討したいと考えております。
- ④授業会場の手配や準備は教務助手の吉田さんが大変丁寧に対応していただき、特に問題ありませんでした。教室については、演習時に机や椅子を動かせると良かったのですが、事前に承知していましたので、特にやりにくさはありませんでした。
- ⑤授業中に必ず振り返りシートを書いてもらうのですが、授業の前半から後半にかけて、学生さんのレクリエーションに対する理解が徐々に深まってくことを実感しています。どうしても“遊び”と解釈されがちなレクリエーションですが、その本質である“楽しさ”を活用して社会福祉サービスの対象者に支援するということが伝わり、大変うれしく思っております。この授業の成果が、普段の生活の中や、今後の実習の体験などの中で活用する機会があることを望みます。

①片山昭義

②福祉レクリエーション援助技術（本務の関係で来年度担当することができませんが、可能な限り回答させていただきます。）

- ③アンケートで評価が低かった「予習、復習について」ですが、特に宿題や自宅での課題は出していませんでした。試験についても試験範囲や問題の形式などを明確に伝えていたので、特に負担なく受講してくれたものと思います。私としては、今後授業外での課題や予習・復習が必要な授業への変更は考えていませんが、大学からの要望として必要でしたら検討したいと考えております。

- ④授業会場の手配や準備は教務助手の吉田さんが大変丁寧に対応していただき、特に問題ありませんでした。特に本授業は、実技的な内容として障がい者スポーツの体験や、レク・プログラムの企画演習など机上の授業ではありませんでしたので、その意味では、学生さんの連絡や会場の確保など、大変なご負担をおかけしたと思っております。
- ⑤障がい者スポーツの種目を紹介する授業で感じたことですが、実技的な授業内容に対して、学生さんは非常に積極的に参加してくれました。このことは、授業の目的をある意味で達成していると思うのですが、できればスポーツを通した障がい者との交流を体験することにより、本当の意味の障がい者スポーツの意義が理解できると思います。非常勤講師の立場では難しいのですが、学生さんは是非、障がい者とともに楽しむ障がい者スポーツの体験をしてもらいたいと思います。

①片山昭義

②レクリエーション論

- ③アンケートで評価が低かった「予習、復習について」ですが、特に宿題や課題は出していませんでした。試験についても試験範囲や問題の形式などを明確に伝えていたので、あまり負担なく受講してくれたものと思います。私としては、今後課題や予習・復習が必要な授業への変更は考えていませんが、大学からの要望として必要でしたら検討したいと考えております。
- ④授業会場の手配や準備は教務助手の吉田さんが大変丁寧に対応していただき、特に問題ありませんでした。教室については、演習時に机や椅子を動かせると良かったのですが、事前に承知していましたので、特にやりにくさはありませんでした。
- ⑤私の授業は、講義ばかりでなく必ず演習を含めるようにしています。演習を行う際、学生同士でコミュニケーションを取るのが上手な学生がいる一方、苦手とする学生も一部に見受けられます。恥ずかしかったり苦手意識もあると思いますが、授業の一環と割り切って、積極的に参加してほしいと思います。今回履修してくれた学生は 42 名でしたが、大教室で実施しましたので、熱心に受講する学生がいる一方、一部の学生は集中力が低かったように思います。私の授業の方法や注意を促すなど工夫が必要だとは思いますが、学生自身にも意欲を持って受講するよう期待します。

①香月菜々子

②キャンパスライフとメンタルヘルス

- ③授業の進め方のスピードについて、例年「早い」という人と「遅い」という人がおり、例年、調整に苦労しているところである。100 名規模のレクチャーということもあり、全員の要望を満たすことは難しいため、話す速度は標準的にし、スライドの提示をゆっくりにしたいと考えている（必要最低限の内容を、コンパクトにスライドにまとめておく）。今年度は対応が必要な学生も何人かいたため、これからも、その都度可能な範囲で個々のニーズにこたえられたらと思っている。そのほか、リアクションペーパーを書くための時間の確保に努めたい。

- ④昨年度は教室が受講者に対して狭く、体調不良の学生が出たために途中で移動などがあったが、今年度は始めから大きな教室をあてがわれていたので、空間的にもゆとりがあり、ワークも含めてのびのび学習ができた印象を受けている。途中、空調の効きが悪くさむかったが、エネセンの方にご対応いただいたり、カーテンを閉めるなどして保温につとめたため、無事終了となった。そのほか今年度は PC 等の設備については不具合はなく、PC の立ち上がりも早く、ありがたかった（ありがとうございます）
- ⑤ 5 限という時間割の授業にもかかわらず、実生活に役立つ内容ということもあり、みな積極的に学んでくれている印象を受けている。毎回授業の復習もかねて、リアクションペーパーを書いていただいているが、ごく一部だが極端に短い人もいたので、じっくり考える機会にさせていただきたいと思う。今後も引き続き、リアクションペーパーを通じて、学生と講師との双方向のやりとりを可能にしたい。

①加藤浩治

②コンピュータ基礎 B、コンピュータ応用

- ③コンピュータ基礎 B に関して、前回の課題であった「挙手による質問」を呼び掛けたところ一定の効果があったと思います。しかしながら、Excel の応用的利用において実力差が大きく、様々な注意をしたものの十分ではなかったことがわかりました。今後は能動的な学修技法の要素を採り入れるなどして改善を図りたいと考えます。コンピュータ応用に関しては、課題の調査方法などにグループ学習を採り入れたところ一定の成果があったものと思われ、今後もシラバスの範囲内で試行したいと考えます。
- ④教室内 PC はじめコンソール機器も高い水準で管理されていて、ありがたいと思います。
- ⑤質問の際は手を挙げてください。

①金成陽一

②地域と文化

- ③騒いでも、何度注意してもスマホを辞めない（典型的な依存症）学生がいても、叱らないことにします。
- ④アンケート結果を教師に送るなら全て送るべきでしょう。どなたがどのような基準で 2 つだけ送って下さるのか？講義の平均値。教科も人数も違うのに、平均値にどのような意味があるのか。平均を下回った教員は能力が低いのですか？前から申し上げているように、アンケートは実名にすべきでは？
- ⑤講義中は食事をしないこと。スマホをいじくりまわさないこと。一部の愚かな学生に振り回されるのは、熱心に聞いてくれる多くの学生に迷惑です。

①亀山晶子

②自己過程の心理学

- ③アンケート結果から、予習や復習、授業中の積極的な参加が少なかったため、授業内で学生が考えを整理する時間を取り質問を促すような工夫をしていこうと思います。

- ④今年度は昨年度から教室が変更となり、受講者人数に対して教室がかなり広く、教員席と学生の着席位置がだいぶ離れていました。教室によって学生側の様子を把握したり声掛けをしたりなどしにくいときがあるので、受講者数に合った教室の割り当てが重要だと感じました。
- ⑤教室が広くなると後ろのほうに座る学生が増えるのですが、できるだけ前のほうから座っていただけるとありがたいです。

①亀山晶子

②社会的認知の心理学

- ③アンケート結果から、予習や復習などの項目が低かったので、学生が負担のない範囲でもう少し自宅学習に取り組めるような工夫をしていきたいと思います。
- ④機材の位置で話すとモニタが見えない教室もあるので、教室内のどこでも PC の遠隔操作ができるマウスポインタなどがおいてあるといいと感じました。
- ⑤ワークやアンケートが早く終わった人たちのざわつきが大きいときがあります。他の方が静かにワークに集中できるよう、ご協力お願いいたします。

①木本ゆう、二場美由紀

②女性と自立支援

- ③学習目標をより明確に提示し、授業が体系的で把握しやすいものとなるように努める。
- ④受講者数は少ない方が学生とのコミュニケーションが容易となるため望ましい。
- ⑤私語をつつしむこと

①蔵野ともみ

②精神保健福祉論Ⅰ、精神保健福祉援助演習Ⅱ

- ③4年生の少人数の演習授業と、2年生の70名規模の講義授業でアンケートを実施することができました。講義科目においても、ロールプレイを導入し、授業で教授した知識を実践的に活用することで、理解促進と教員からだけでなく学生同士の学び合いの機会を持つよう試みています。この試みは8年くらい前から始め、当該科目だけでなく、他の科目で修得している内容も活用できていることをフィードバックするようにしています。今後専門的学びが益々深まる2年次後期に、目の前のことだけでなく、他との関連も俯瞰して福祉学全体を見渡す必要性について共有できればと思っています。4年次生に対する数少ない科目については、演習形式を通じて、講義・実習・演習で繰り返してきた学びを、再確認し自らの学びの課題や国家資格というライセンス取得に向けた総まとめと捉えています。各学生の発表、グループワーク、個人での知識を深める過程等、多様な形式を踏まえながら展開するように心がけています。4年次の後期であり、卒論や就活、国家試験勉強等、学生自身もライフイベント上大きな出来事を抱えている中で、どの程度授業外の学びを効果的に展開し、個別指導していくかと悩む点も多いです。今回のアンケート結果の学生自身の積極的参加や授業外の学びの時間等の内容を参考に、より一層意識をした取組みと、学生が主体的に学ぶ環境をどの様に作るのかを工夫していきたいと思っています。

④特にありません。

⑤暗記ではなく理解することに重点を置いた授業です。自ら学ぶ基礎を身につけてもらいたいと思っています。間違えることで他の方法や学びが深まります。一緒に学ぶことを楽しんでいきましょう。

①佐藤富士子

②介護総合演習Ⅳ

③この科目は実習日数 28 日の 4 単位と関連した科目である。実習で受け持った利用者への実践してきたケアについて、科学的根拠にそって検証していく作業である。6000 字～8000 字内で文章構成しケーススタディとして冊子にまとめ、最後はパワーポイントを使って全体発表するという授業形態をとっている。学生コメントに「休講と振り返りが多い」とあったが、全項目が平均より高いことから学生は積極的に参加できたが、時間が足りなかったという思いがあるようだった。休講はしていないが実習の帰校日の振り替え日が数日入っていた、この授業の計画について把握できるような指導が必要だ。

④指定されている教室でパワーポイントが使えず、最終発表日（2 回あり）に教室変更手続きが必要。できればパワーポイントの使える教室を希望したい。

⑤特になし

①佐藤富士子

②医療的ケアⅠ

③イメージのつかない技術についての知識を押さえる科目で、専門用語や扱ったこともない物品の名称が多く、全体的の評価が低くなっている。医療的ケアⅡ・Ⅲにつなげる科目なので、その役割ができればよいと考えている。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会保障Ⅱ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「この授業のために毎回予習・復習をどの程度したか（質問項目No.15）」と「授業への積極的参加（同No.16）」の 2 項目であった。No.15 に関して。本授業に関しては、予習よりも復習の方に自己学習のウェイトを置いていただきたい。したがって、来年度以降は、毎回の授業の最後に「〇〇の部分について、しっかりと復習しておくように」といった具体的な指示を与えていきたいと思う。No.16 に関して。複雑な制度の解説に終始することが多い授業であるため、授業中に受講生に自分の頭で考えさせる時間を持つことは難しいが、それでも価値観が鋭く対立するような問題については、極力「このことについて、皆さんはどう思いますか？」といった問いかけをするように心がけている。来年度以降もこのような方針で授業に臨みたいと思う。

④特になし

⑤疑問点については、積極的に質問して欲しい。

①嶋貫真人

②更生保護制度

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「学生の理解度を考慮しながら授業を進めた（質問項目No.4）」、「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（同No.5）」、「この授業のために毎回予習・復習をどの程度したか（同No.15）」、および「授業への積極的参加（同No.16）」の4項目であった。No.4に関して。福祉系の学生にとってはなじみの薄い法律概念がたくさん登場する授業であるため、重要な用語・概念については、繰り返し解説していくことが重要であると自覚した。No.5 およびNo.16に関して。上記のとおり、本講座は学生にとってなじみの薄い領域ではあるが、反面で素朴な正義感に訴えながら各自に考えさせることもできる科目であるため、これまで以上に教師から学生に対する授業中の問題提起の時間を多く設けていきたいと思う。No.15に関しては、上記「社会保障Ⅱ」で述べた「No.15に関する改善策」が、本科目にもおおむねあてはまると思われる。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉援助技術現場実習事後指導

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は「この授業のために毎回予習・復習をどの程度したか（質問項目No.15）」の1項目であった。しかし、本授業は夏休み中に行った福祉現場実習を振り返りつつ、受講生同士が意見を行なう時間が中心となるから、予習・復習といった自己学習に委ねられる部分は多くない。したがって、今後も現在の授業スタイルを維持するしかないと思われる。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉学基礎セミナーⅡ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目はなく、おおむね授業の内容は良好であったのではないかとと思われる。

④特になし

⑤特になし

①末松恵

②1) 相談援助演習Ⅳ、2) 相談援助実習指導Ⅱ

③1) 相談援助演習Ⅳ：まじめに課題に向き合う学生が多いクラスで、その取り組み姿勢に影響

響されて、クラス全体の学習度も高まっていったという印象がある。当該授業科目の目的と15回のそれぞれの授業内容が明確に設定されており、ゴールを見据えながら各回を取り組むことができた。反省すべきことは、「地域福祉」に関する講義とフィールドワーク上の技術的なアドバイス（インタビューの内容や段取り等）が入り混じって進行してしまったことである。また後半部分では、パワーポイントの作成上の注意やプレゼン評価の基準などに関する説明が多くを占めるようになり、その点で地域福祉というテーマが希薄になってしまった。来期は「地域福祉」に関する講義とその他の技術的な指導を区別して行うようにしたいと考える。学生から指摘のあったことに関して、「フィールドワークが先方の都合に依り、授業時間以外に設定された」という件に関しては、科目教員での話し合いの場に提起したい。また、「パワーポイント作成中に先生がやることがなさそう」という件に関しては、学生の自主性に委ねて、授業終わりを自由解散と指示したことに因るものと考え、次期からは教員は常に教室に待機して質問を受け付けていることを伝えるとともに、「授業の終わりにその日の成果を班ごとに報告しに来ること」に変更したいと考える。2) 相談援助実習指導Ⅱ：課題にまじめに取り組む学生とやや中途半端な気持ちで受講する学生に分かれる中で、実習の前段階としての授業という緊張した空気をさいごまで作れなかった。（私語など「やる気」の見えない状態、グループ活動における議論の不活発など）その原因は、技術的な方策に多くを困っているのではないかと考察した。来期からは「グループ討議」の成立と定着化に向けて、授業方法を工夫していきたい。1)（体の向きだけを変えるのではなく）互いに椅子の向きから変え、きちんと対面して座る。2) 年間を通してグループごとに固定した班・座席とする。3) グループ討議の結果を書く用紙は個人用とは別に準備し、班の総意として記入することを明確化する。4) 班発表は全班報告ではなく、順番制とし、他の班からは発表班とは異なった意見を引きだすように工夫する。

④とくになし

⑤とくになし

①関田誠

②社会福祉基礎セミナーⅡ

③予習は毎回出しているのだが、量や難易度が合っていない可能性がありその結果、学生が自学習率が低いと思われる。再度、量と難易度を検討する。また、発展的な学びへの誘導として、授業で学習したことを生かした実際の身近にある興味を引く研究を紹介してもいいかもしれない。

④特になし

⑤特になし

①田中 優

②ファッションの社会心理学

③授業の改善点

「Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について」および「Ⅱ. 授業内容について」への回答は、ど

の質問項目についても、4 点以上であったので、さらに良い授業を心がけたい。

「Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について」は、授業への予習・復習等にかかる時間が低いので、改善を検討したい。

④施設・教室の設備や受講者数、教育条件等に関する改善点

特になし

⑤受講生への要望

授業中であっても、わからない事は、積極的に質問してもらいたい。

manaba などを使っても構わないので、わからない事はそのままにしないでほしい。

manaba での質問、感想を求めているが、特定の学生しか反応がないので、積極的に活用して欲しい。

①田中優

②心理学概論Ⅱ

③「Ⅰ．教員のこの授業の進め方について」および「Ⅱ．授業内容について」への回答は、どの質問項目についても、4 点以上であったが、さらに良い授業を心がけたい。自由記述の「①良かったと思う点」「②改善した方が良いと思う点」で、manaba での質問に対する返答が丁寧であるという一方で、返答が「きつい」等の意見もあった。学生のやる気を高める言葉遣いを心がけたい。「Ⅲ．この授業への取り組みとその成果について」は、授業への予習・復習等にかかる時間が低いので、改善を検討したい。

④特になし

⑤授業中であっても、わからない事は、積極的に質問してもらいたい。manaba などを使っても構わないので、わからない事はそのままにしないでほしい。manaba での質問、感想を求めているが、特定の学生しか反応がないので、積極的に活用して欲しい。

①田中優

②心理学基礎実験

③ほぼすべての項目において、学部全体平均よりよい回答であったが、さらに良い授業を心がけたい。13 のシラバスについての項目において、学部全体より低い得点であったので、よりわかりやすい記述を心がけたい。15、16 については、授業への予習・復習等にかかる時間が低いので、改善を検討したい。

④特になし

⑤授業中であっても、わからない事は、積極的に質問してもらいたい。manaba などを使っても構わないので、わからない事はそのままにしないでほしい。manaba での質問、感想を求めているが、特定の学生しか反応がないので、積極的に活用して欲しい。

①田中康雄

②A：「社会福祉基礎セミナーⅡ」、B：「社会福祉学概論Ⅱ」

③A について：ゼミ形式の授業形式であり、18 名の受講者の意識や様子を踏まえた上で、社

会福祉への関心をより高められるような具体的な工夫を取り入れた授業運営ができるよう自己研鑽していきたい。Bについて：福祉系の学科でない受講生に、社会福祉を学問としてどのようにわかりやすく伝えるかについて、説明・考える・動画を通した事例をいかに、受講学生の関心を引き付けるかを常に念頭に置き、授業展開していきたい。

④特にありません。

⑤（要望はございません）

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－B

③学部平均とほぼ同じであった。これからもしっかりした授業を続けて行きたいと思います。

④特になし

⑤この授業は、面接の基礎と、グループワークの学びが中心の授業です。相談援助実習でも使う技術のため復習にも時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助実習事後指導

③学生からの評価は高く、これから学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。「予習復習」の評価も高く、manabaの活用や学生の自主学習への促しがこの評価につながったと考えます。

④特になし

⑤この授業は、実習後の振り返りを中心に行う時間です。ここでの学びは、その後の様々な授業に活かすことが出来るので、しっかりと自分の言葉で学びを表現できるようにしましょう。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－A

③学生からの評価も高く、これから学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。多くの事例を扱い、学生自身が考える授業形態にしたところ、5・12・15の評価が高かったため、今後も続けたいと思います。

④特になし

⑤特になし

①土野瑞穂

②グローバル化とジェンダー、ジェンダーと社会生活

③「グローバル化とジェンダー」：受講者数が多かったということもあり、教員による一方的な講義となってしまったが、もう少し受講生が積極的に参加できる工夫をし、主体的に学ぶ授業にしていきたいと思う。アンケートに「レポートの課題が難しい」というコメントがあったが、質問や不安な点を遠慮なく教員に聞くことのできる雰囲気や姿勢をみせるようにしたい。「ジェンダーと社会生活」：この科目においても一方的な講義となってしまったため、

受講生の人数に関係なく、できる限り受講生が積極的に参加できる工夫をしていきたい。

「新しいものの見方ができるようになった」というスコアが全体の中で低めだったので、受講生の生活に役立つような知を意識して授業を行っていききたい。

④特にありません。

⑤わからないことがあれば遠慮なく聞いてほしい。

①西河正行

②精神分析

③授業開始時に予習・復習の徹底を指示した。その結果、manaba への回答率が向上した。

④特にない。

⑤教科書を購入して、予習・復習、manaba への回答の際に繰り返し読むことを強く求める。

①原葉子

②女性史

③少数ではあるが授業に対する関心度の低い学生への対応が課題である。理解度への配慮が一层必要であると感じる。

④PC が完備され便利であったが、PC 使用時に横向きにならざるを得ず、またモニターの位置も見にくい点が不便だと感じた。

⑤グループワークなどでは遠慮しないで議論してほしい。

①平川八尋

②英語 IIIB

③授業内容の理解が不十分である学生が何名かあったので、理解を援助する方法に来年度は工夫をこらす

④書画カメラ等をうまく使い、構文構造の説明に利用したい

⑤予習を十分に行うこと。また、昼休み等のすきま時間を利用し、友人と学習 G をつくり復習すると、さらに英語の実力がつくと考えられる。

①保坂克洋

②子どもの世界

③自由記述回答に、教室の後ろなどで私語が多い時があり、指示が聞き取れないことがたまにあったというコメントがあった。本授業は、大きい教室で行っていたこともあり、教室の前で授業を進める教員としては気づかない私語であっても、周囲の学生にとって適切な授業環境になりえていない状況も存在することを前提に、授業運営をしていく必要がある。もちろん、私語をしている学生を注意するなどして、教室の秩序維持をはかることも時には必要だと思うが、それだけでなく、学生の私語が出ないような授業内容、方法を考えつつ、授業を行っていく必要がある。例えば、学生の私語が多くなる状況として、授業内容が学生にとって興味関心を引きつけるものとなっていないときや、一方的な講義形式の授業となっている

ことが考えられる。そのため、学生の興味関心を惹きつけられるような教材等を積極的に用いることや、一方的に内容を教えるのではなく、授業内容に関する問いを学生に投げかけ、学生が主体的に考えられるような双方向的な授業を行っていく。

- ④授業開始当初、自分の所持している Mac のノートパソコンを用いて、プロジェクターにパワーポイントを投影しながら授業を行うことを考えていたが、使用した教室の機材と Mac の相性がよくなかったせいか、パワーポイントを投影することができなかった。
- ⑤半期間、ありがとうございました。授業内容に関して、常に主体的に疑問や関心を持ちながら、授業中に教員から投げられた質問等があった場合は、積極的に応答していただきたいと思います。

①干川剛史

②社会学概論Ⅱ、社会調査及び演習Ⅱ、社会学基礎セミナーⅡ、情報社会論

- ③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅰ（火 1）（99 人）／情報社会論（木 1）（84 人）については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低い、特に、社会学概論Ⅰは、社会学専攻必修の授業で、選択の余地なく強制的に受講せざるを得ない不満があるので評定平均が低めになると考えられ、また、自由回答を読むと、話し方が聞き取りづらい等、改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、学生の扱いが公平であるという点での評価が高い。他方で、社会調査及び演習Ⅱ（23 人）と社会学基礎セミナーⅠ（16 人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。
- ④講義形式の授業は、100 人前後になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。
- ⑤講義科目もセミナー科目も、教科書を読んで予習してほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①堀洋元

②社会心理学概論

- ③授業展開の特徴とも言えるが、復習や積極的な参加に対する評価が相対的に高かった。次年度もふりかえりの小テストと復習課題を中心として、より多くの受講生が主体的に学ぶ習慣を身につけられるよう改善していきたい。
- ④授業時間内での学生からの質問を吸い上げられるよう、スマートフォンやタブレットなどの機器を積極的に活用したい。収容人数の大きい教室で座席指定すると学生から不評のため、受講者人数に見合った教室に変更することも検討したい。
- ⑤専門用語（概念）とその意味（定義）を理解した上で人に説明できるよう、学んだ知識を自分なりに整理して身につけていってほしいと思います。1 年生のうちに、粘り強くコツコツ

学んでいくことの楽しさも学んでいきましょう。

①堀洋元

②心理学基礎実験

③アンケートの結果から、「ハードルが高く、ついていくのが大変な授業」と学生から受け止められていることが認識できた。学生たちの理解度を確認しながら授業を進めていく工夫を検討していきたい。

④とくになし

⑤はじめて研究レポートを書く授業のため、形式や文体を含めて書くスキルを身につけるのに苦勞したと思います。しかし一方で「もっと学んでみたい」という意欲を持った人もいます。「あきらめないで納得いくまで粘り強く頑張る」ことを継続していくと、きっと自分のステージが上がります。ひとりで卒論を書き上げることを目標に今後も取り組んでいってください。

①堀洋元

②人間の成長と心理

③全学共通科目のひとつであるため、学科・専攻を超えて学生が授業していることを意識して授業を展開している。そのひとつとして、リアクションペーパーの回答コメントを紹介したり、授業時間内にコメントを求めている。自分以外の人が授業テーマについてどのように受け止めていたかを理解する機会とたるため、さらに共有できるよう工夫したい。

④今年度は座席自由としたため、相対的に後方に座る学生が多かった。奥行きのある教室のため、後方で私の私語は把握しづらい状況であった。受講者数に余裕がある教室のため、最後方の座席ブロックを使用不可にするなど、改善する必要がある。

⑤自分自身や対人関係、自分のライフコースについて興味を持って取り組んでほしいと思います。

①本田周二

②対人関係

③昨年度とあまり変わらない数値であった。授業への取り組みに関して、3年間の数値を見ると、少しずつではあるが上がっているなので、次年度もこの点に着目して授業改善を行ってきたい。

④100名弱でもアクティブラーニングが実施できるように、出来る限り固定式ではなく、可動式の机といすのある部屋で授業を行いたいと考えています。

⑤対人関係は自身の経験と結びつけやすい科目だと思います。その分、誤解が生まれやすい科目でもあります。自身の経験だけで考えるのではなく、理論や考え方をしっかり学ぶことを意識してもらいたいです。

①本田周二

②教育心理学

③今年度より大幅に授業の内容を変更した。具体的には、講義＋ディスカッション形式だったものを、各自、予習メモを作成してきてもらい、それを授業中にペアもしくはグループで教え合う活動にし、授業の後半で補足説明を入れることで授業外での学習時間の増加と知識の定着を図った。その結果、授業外での学習については、昨年度「2.11」から今年度「3.45」と大幅に高めることが出来た点は良かったと考えている。一方、授業の進め方、授業の内容、総合的な印象について、昨年度はどれも「4.6」台であったのが、「4.4」台に低下してしまった。これが授業内容の変更によるものであるかは、まだ判断できないため、次年度も今年度と同様の形式で実施した上で、授業内容の変更について考えていきたい。

④ペアやグループでの教え合いの際に、固定式ではなく、出来る限り、可動式の机といすのある部屋で授業を行いたいと考えています。

⑤本授業では、半期で 1 冊の教科書を自分でまとめ、他者に伝えることで理解を深めていきます。受け身の態度ではなく、積極的に授業に参加してもらいたいと思います。

①本田周二

②基礎統計学Ⅱ

③昨年度と比べ、教員のこの授業の進め方について「4.36→4.64」と向上したことが特に良かった点だと考えている。自由記述での回答でも「理解しやすかった」「分かりやすかった」という声が例年より多く、安心した。毎回 **manaba** で授業に対する理解度や要望についてたずね、その結果に応じて次の授業の組み立てを変えながら授業を実施したことが本結果につながったと考えている。次年度以降も継続していきたい。また、授業外での学習について、昨年度（1.72）から、今年度（2.62）と 1 ポイント近く上がったことは良かった。これは冬休みに各自で出来る課題を例年より多く作成し、**manaba** で配信したことによる結果だと考えられる。しかし、まだまだ数値が低いので、次年度はこの点を改善していきたい。

④特にありません。

⑤統計は、繰り返し課題を解いていくことで身についていきます。授業中だけでなく、授業外での自習を大切にしてください。そして分からない点があれば、ぜひ積極的に聞いて早めに解決して欲しいです。統計は分かるようになると楽しいですよ。

①牧野智和

②基礎統計学Ⅱ

③質問 15（予習復習）について、この項目について何をどうすると上がるのかまいち掴み兼ねていたのですが、他の科目（1 点台～2 点台前半）に比べてこの科目は 3.28 となっていて、これくらい（レポート 2、試験、それに各回に小課題）行くとこの程度の評価点になることが分かりました。以後、他の授業での課題に活かしていきたいと思います。

④これ以外の授業ですが、3 年ゼミ（社会学セミナーⅠ・Ⅱ）でゼミ室を割り当ててもらえないのをどうかしていただきたいです。輪読・ディスカッションに特に困難を感じています。

⑤特になし

①馬淵聖二

②心理検査法セミナー

③出席率を上げるための工夫が必要であることが分かった。授業の課題の中に、自分自身の心理検査データを含めていることから、学生自身の関与の度合いが高い授業内容になっているため、最初のオリエンテーションをしっかりと行う必要がある。また、つらくなった時の対応についても事前に伝えておくことが有用であると考えられる。

④特になし

⑤特になし

①森功次

②言語と文化、ポピュラーカルチャーの世界

③前期の反省をふまえて、今学期は「引用の仕方」「参考文献の使い方」などを授業中に教えるようにした（なおそのさい、2、3年生からも「初めて知りました、教わってよかったです」などのコメントがいくつか来ました。初年次教育のところで、レポートの書き方に関する指導をもう少ししっかりやったほうがいいのかもしれない）。それでもまだレポートの質にはかなりばらつきがある。模範レポート案をつくるなど、もうすこし工夫したい。質問環境を整えたら、少しだけ授業後の質問が増えた。ここももうすこし改善したいと思う。アンケートやリアクションペーパーのコメントを見るかぎり、一部の生徒にはとても響いている感触がある。もう少しその打率を高めたいのだが、来年度は専門的すぎる部分を思い切って削るかどうか、迷っている。

④7号館1階の大教室のプロジェクターが2つ使える環境は、もうすこし活用したいなとも考えている。（slido.comのページを授業中表示しながら授業したいので）できれば中規模教室でもモニター2つ使いたいのだが、それはないものねだりかもしれない。授業中にスマホ・PCを積極的に使用するよう指示しているのだが、PC持参の生徒はまだ少ない。大学全体で、もっと電子機器を活用する空気を作っていく必要があると思う。

⑤読書量が決定的に少なそうな学生が何人か見られる。ちょっとどうにかしたいが、なかなか難しい。読みやすくテーマもキャッチーな本を根気強く紹介していくしかないかな、というところ。

①森山拓也

②精神科リハビリテーション学Ⅱ、精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

③学生が授業中に質問や、自身の考えをより積極的に発言できるような授業展開の工夫を検討したい。

④次年度もマイクの使用をお願いしたい。

⑤特になし

①八城薫

②社会心理学調査研究法、心理統計学

- ③アンケートからは積極的に授業に参加してくれているようすがうかがえました。今後は授業外の取り組みも積極的に行ってもらうために、これまでややあいまいな指示であった予習についての改善を検討します。予習については、テキストのページ等で予習範囲を明示するのみで、実際に予習に時間を割いたかについては自己申告にとどめていました。そこで今後は、確認出来るような具体的な課題や小テストなどを検討しようと思います。
- ④引き続き一人 1 台の PC 環境の整った教室で授業が出来ることを望みます。全教室無線 LAN も整備されたので、学生が気軽に PC を持ち込んで授業が受けられる環境が整うと良いかと思います。
- ⑤両科目とも社会調査士資格の科目であり、課題も多く出しますので学生も教員もお互いに大変でしたが、例年通り「一緒に頑張ったな」と感じられる授業でした。今後も積極的な授業参加と、自分なりの学習スタイルを構築して取り組むことで、さらに力が付くと思います。

①山本真知子

②ソーシャルワーク論Ⅰ－A

- ③学生にリアクションペーパーなどで要望を聞きながら、わからない点などをフォローできるように授業を展開した。1 年目の同授業よりもわかりやすく授業を行うように心がけた。社会福祉士の国家資格を受験しない学生が増える中で、社会のさまざまな点で福祉を学ぶ意味等を伝えていけるようにしていきたい。予習復習に関しては授業の中で伝えていたが、レポート等に反映しないとなかなか実践できないようなので、次年度改善したい。今年度から manaba でのレポート提出を行ったが、manaba 提出が難しい学生への配慮なども含め考えていきたい。
- ④出席管理システムが時々うまく反応しないことがあるようなので、設備も含めて学生への周知も行うことが必要に感じた。
- ⑤予習・復習に関してはニュースや新聞等を読むことを勧めていることや、わからない言葉など教科書を読むことを各自で行ってほしい。

①山本真知子

②児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ

- ③学生にリアクションペーパーなどで要望を聞きながら、わからない点などをフォローできるように授業を展開した。また、実際に児童福祉の現場を見ることができない場合が多く想像が難しいので、DVD などの視聴覚教材を使用して理解できるように努めた。予習復習に関しては授業の中で伝えていたが、例年通り数値が低いので次年度改善したい。
- ④特になし
- ⑤予習・復習に関してはニュースや新聞等を読むことを勧めていることや、わからない言葉など教科書を読むことを各自で行ってほしい。

①山本真知子

②相談援助演習Ⅱ

③ロールプレイや事例検討など実際に学生が気づき、実践できるような授業展開を心がけたため、理解度や内容に関してはうまく展開できたと感じる。2 時間続きの授業のため、学生の様子や理解度に合わせた授業展開を行っていききたい。

④特になし

⑤演習形式の授業のため、自らの授業への取り組み方で理解度も変わると思うので、目的をもって授業に参加してほしい。

①吉方りえ

②女性と健康

③授業の進め方が一方向になる傾向があるため、双方向の授業が進められるようにしたい。学生が予習しやすいよう課題を提供するなど配慮したい。

④受講者数と教室の大きさのバランスが取れると個々の学生への配慮が可能になるのではないかとと思われる。

⑤興味および関心をもって授業に臨んでほしいと思っている。

①渡辺芳

②社会理論と社会システム

③講義の進行について、時間にゆとりをもって進めることにしたい。テキスト内容を絞り込んで教える必要がある。

④受講者が 100 名を超えるため、理解度に相当なばらつきがある。アクティブ・ラーニングのツール（manaba）を使いこなすことで、理解をすすめる取り組みをしていきたい。講義教室の後ろに着席する学生は、スマートフォン操作や私語が大変目立つので、次年度は教室を歩きながら講義をしたいと考えている。そのため、講義中にパワーポイントのスライドを操作する遠隔マウスなどがあるとよいと思う。

⑤社会福祉の仕事をする、社会福祉士の資格を取る、という気持ちが、学習のためになによりもまず必要なので、社会福祉学をなぜ学ぶことにしたのか、自分自身の振り返りをしてほしいと思います。

平成30(2018)年度人間関係学部FD委員会

委員長 本田 周二 (人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、専任講師)
委員 小川 浩 (人間関係学部長、人間福祉学科、教授)
福島 哲夫 (人間関係学科長、人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、教授)
佐藤 富士子 (人間福祉学科長、人間福祉学科、教授)
伊藤 美登里 (人間関係学科、社会学専攻、教授)
上野 優子 (人間福祉学科、教授)

平成30(2018)年度 人間関係学部 F D 活動報告書

2019(令和元)年5月発行

発行 大妻女子大学人間関係学部
〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1

著作・編集 大妻女子大学人間関係学部 F D 委員会
ningenfd@ml.otsuma.ac.jp

印刷・製本 株式会社相模プリント
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17
TEL 042-772-1275
FAX 042-774-1913

